



# 子どもの社会的スキル横浜プログラム

指導プログラム集

三訂版



平成24年3月

横浜市教育委員会

## 本書の活用にあたって

本書は、平成19年7月にいじめ対策緊急支援事業として策定された「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の三訂版となります。

今回は、現場の先生方により広くお使いいただけるように「指導プログラム」をリーフ形式として作成しました。そのため、横浜プログラムの基本概念や実施上の留意点、Y-P アセスメント等は、理論編として別冊としました。

本プログラムは、子どもの年齢相応の社会的スキルを身につけさせることと、学級や集団にあたたかな風土（文化）を醸成することを目標としたグループアプローチです。また、アセスメントと指導プログラムが関連して作成されていることも、大きな特徴です。

本プログラムの特徴を最大限に活かすために、次の二つを明確にする必要があります。

- ①「自由で安心・安全な場のための手立て」を理解して実践すること
  - 3つの明確化（めあて・流れ・ルールを明確にする）
  - 3基本ルール（暴力NO、パスOK、持ち出し禁止）
  - 子どもの安全の確保のための指導者の役割
  
- ②プログラム実施のためのねらいを明確にして実践すること
  - アセスメントにより、3つのアプローチ・6つの観点・18のスキルのどの育成をねらうかを明確にして、プログラム選択を行う  
(次ページ、簡易版学級風土チェックシートを活用して、簡単なアセスメントを実施することができます)

上記の二点については、別冊の理論編の中に詳しく解説してあります。プログラムの実施においては、参加者が自分自身をふり返ったり他者との感情交流をしたりする中で、心理的外傷を負う危険性があります。特に、初めてプログラムを実践する方は、①について、必ず理論編を読んでから実施するようにしてくださいようお願いします。



## 学級風土チェックシート簡易版

年 月 日 ( ) 実施      学年 組 作成者：

- ①学級（集団）について、6つの観点の中から最も優れている点に+、最も向上させたい点に-をつけます  
 ②-をつけた観点のスキルの中から、最も向上させたいスキルに-をつけます（いずれも複数でも可）  
 ③次ページのプログラム一覧で、上の表で-をつけたスキル番号に◎や○がついているプログラムの中から学級や集団に適したものを選択して実施します
- ※ 本シートについては、複数の教師で話し合いながら行うことが効果的です

	+・-	6つの観点とその具体	+・-	18のスキル
自分づくり	公正	よいことはよい、悪いことは悪いと言える雰囲気がある 場の雰囲気や人の意見に流されず、自分の意見や感じ方を表明できる		①自分の意見をもつ
				②自分なりの見方や考え方をもつ
	寛容	失敗や意見の違いを温かく認め、包み込んでいこうとする雰囲気がある 互いのよさや違いを認め、尊重していこうとする		③自他のよさを見いだす
				④自他のちがいを認める
仲間づくり	自己表現	率直かつ適切な意志の伝達や感情交流がある 友達との明快なコミュニケーションがとれる		⑤はっきり伝える
				⑥上手に質問をする
				⑦きっぱり断る
				⑧仲間に加わる
				⑨仲間に誘う
				⑩さわやかにあいさつする
		⑪自己紹介をする		
	配慮	思いやりのある言動・行動が自然に現れる 友達の気持ちを推しはかって行動ができる		⑫やさしく頼む
			⑬気持ちに共感する	
			⑭あたたかい言葉をかける	
			⑮しっかり話を聴く	
		⑯きちんと謝る		
集団づくり	課題遂行	グループの目的や課題解決に意欲をもつ 集団の課題・目標を達成するために話し合いを進めている		⑰問題や課題の解決策をみんなで考える
	合意形成	意見や感情の違いを認めながら、集団の意見をまとめようとする みんなの意見を上手に取り入れて話し合いの調整をしている		⑱互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする



アイス ブレー キング	内容	実施時期	活動 場所	所要 時間	対象 学年	活動 場面
	なりたい自分になるために、やるべきことを明確にして自己選択をする経験をし、自信をもつ	学年初め、自信をなくしているとき	教室	45分	小中～ 高校	特活 総合
	4月に1年後の自分を思い描いて自分宛に手紙を書き、1年後に読み返し自己の成長を感じとる	入学進級時(4月)と学年末(3月)	教室	25～50分	中1～ 中3	道徳、特 活、総合
	「合い言葉」によって目標を意識させて、目当てやルールを守りながら友だちと一緒に遊ぶ体験をする	クラス立ち上げ時期から継続的に実施	ホール等	45分	小低	特活 音楽
	自分が集めたものに対する自分の思いを大切にし、自分なりの表現で伝える	通年	教室	45分	小中	図工 (鑑賞)
	腹式呼吸を身につけ、ストレスを感じたときに、自分で感情のコントロールができるようにする	通年	教室	10分	小低～ 高校	特活等
	静かに目を閉じて横たわり、周りの空気に身をゆだねる体験をする。五感を十分に働かせ、身体感覚をとぎすます	通年(リラックスが必要なとき)	屋外	45分	小高～ 高校	特活等
	設定された場面で、自分が落ち着き冷静になるための方法を考え、感情をコントロールする方法を身につける	通年 トラブルが続いたとき	教室	20～50分	小高～ 高校	特活 道徳
	知らない人から声をかけられたロールプレイングを通して、危険回避能力を身につける	新年度の早い時期	教室 ホール	30分	小低・小中・ (小高) 小中個別	特活
	地域で声をかけられた場面のロールプレイングを通して、危険回避の能力を身につける	新年度の早い時期 (4月～5月)	教室 ホール等	45分	小中～ 小高	特活(健康・ 安全)総合
	フィールドワークによる安全マップづくりを通じて、危険回避の能力を体験的に身につける	新年度の早い時期 (4月～5月)	教室、近 隣地域等	45分×3	小低・ 小中	特活(健康・ 安全)総合
	犯罪被害防止について、個人でできることや住民の協力が必要なことを書き出し、話し合う	新年度の早い時期 (4月～5月)	教室	45分	中1～ 高校	特活(健康・ 安全)総合
	一人一本のトーンチャイムをもち、言葉を使わず、響き合いを楽しみながら鳴らし、自他のよさを感じ取る	通年	音楽室	20～45分	小低～ 小高	音楽
★	自分が演奏した簡単なリコーダーの演奏に、全員が同じように従って演奏する活動を通して、自信を深める	通年	教室	5～10分	小低～ 中1	朝の会 音楽
	小中交流クラブ活動に取り組むことを通して、自己有用感を体験する	8～12月(小中間で調整)	出身小学 校	90分× (4回)	小中～ 中2	総合 クラブ活動
	心に浮かんだことを整理することで、心に引っかかっていることに気づき、自罰傾向を減らし、情緒的安定を図る	通年	教室	20分	小・中個 別・中・高	帰りの 会、特活
	体の一部分がくっついたと言う想定で、相手といっしょに動く。身体接触で親近感をもつ	通年	広い場所	5～15分	小低～ 高校	体育 集会
	自分が好きな詩を選びその理由を話し合うことで、自分の感じ方と他人の感じ方の違いを尊重できるようにする	通年	教室	45分	小中～ 高校	国語(読書ア ニメーション) 総合
	輪になって手をつないだまま知恵の輪を作り、相手チームがほどく。仲間と気持ちを合わせるよさを実感する	通年	広い場所	5～15分	小低～ 小中	体育 集会
	相手の状況を想像し、思いやったりすることができるような建設的な考え方ができるようにする	5年保健学習「心の健康」の中で	教室	45分	小高	保健
	自己理解を進めるために感情を表す言葉を増やす。自分の気分を表す表情カードを選びその理由をスピーチする	通年	教室	45分	小中～ 中1	国語 保健
	自分の気分を表す表情カードを選びその理由をスピーチする。自己理解を進めるために感情を表す言葉を増やす経験をさせる	通年	教室	5～15分	小低～ 小高 中個別	朝の会 帰りの会 等
	互いの将来の夢を英語で伝え合うことによって、相互理解を深めるとともに、自分の将来を見つめる	年度末 (2～3月頃)	多目的室 等	45分×2	小高	外国語 活動



アイス ブレー キング	内容	実施時期	活動 場所	所要 時間	対象 学年	活動 場面
	自分の中においてきた相手責める感情を、自分を主語にして言い換えてみることによって、感情をコントロールする	通年	教室	10～50分	中1～ 中3	道徳 総合
★	2～3人組で背中合わせで長座し、気持ちを合わせて立つ活動を通して、支え合う関係に気づく	学年の初めころ	体育館	10分	小中～	体育
	友達のよいところ、自分のよいところのカルタを作りゲームをする。互いの良さを認め合う雰囲気を楽しむ	友達のことが分か ってきた頃	教室	20分 (事前 2時間)	小低	国語
	くじ引きで自分が1日サポーターになる人を決めて親切にする。最後に誰がサポーターであったかをあてる	人間関係ができて から	教室	1日	小中～ 中3	1日中
	お世話になった人とかかわりをふり返り、自分が多くの人とかかわりによって生きていることを意識する	4月、9月 1月、3月	教室 保健室 相談室	45分	小中～ 高校	道徳、特 活、総合
	自分がもらったものをジェスチャーで伝える体験を通して、人とすすんでかかわろうとする態度を養う	人間関係ができて から	教室	10分	中学生 以上	集会 特活
★	みんな楽しく英語で答えとあたたかい感想を言うジェスチャーゲームを行い、グループの中で自由に表現できる人間関係を育てる	クラスづくりの時 期	教室	45分	小低	外国語活 動
	自分の後ろの人のひざの上に腰かけ、全員が座った大きな円陣になる。人を支え人に支えられていることを実感する	集団の凝集力を高 めたいとき	体育館	20分	小中 小高	集会 体育、縦 割り活動
	リコーダーで、互いの音が響き合うように気持ちを合わせて演奏する。音色が響きあう体験から、人とかかわりのよさを実感する	リコーダー学習初 期	教室	5～10分	小低～ 小高	音楽
	漢字テスト場面で、努力すれば満点をとれるという達成感を感じ取る	4月を中心に通年	教室	10分	小低～ 小高	国語(帯単 元として継 続する)
	友達の良いところをカードに書き、交換することで、自分のよさを認め、自信がもてるようになる	クラスの友達がわ かり始めた頃	教室	45分	小低 小中	特活
	友達の良いところを発表するとビー玉がびんにたまっていく。互いのよさを伝えあい自己肯定感を育てる	新学期、仲間同士 の関係を作り始め る段階から	教室	5分程度	小低	帰りの会
	友達のよいところを見つけてシートの項目に○を付けていく。最後に自分のところに戻ってきたカードを見て、自他のよさを知る	総合的な学習のま とめの時期、行事 後	教室	30分	小中 小高	総合(グ ループ学 習)、特活
	行事でかかわった友達に感謝の言葉のカードを渡す。もらったカードを台紙に貼り、自己効力感・自尊感情を高める	宿泊体験学習や大 きな行事で	教室 ホール等	20分・45 分	小中 小高	道徳 総合
	ペアになって音読を聞き合い、相手の評価を書き込んだり感想を書いたりしながら、互いに認め合う経験をもつ	通年	教室	10～20分	小低～ 小高	国語
★	アイデアを出し合い、誰のどんな意見でも肯定的に受け止める雰囲気を経験し、学級集団への安心感を醸成する	行事や計画立案の 前、学級開き	教室等	15～30分	小中～ 高校	特活 総合
★	2人組で風船を渡すリレーを行う。相手の動きにあわせて動くことによって、自分と他者とかかわりを感じ取る	席替えや班編成を したとき	教室・ど こでも	20分	小中個 別・小～ 高・大人	朝の会 特活 集会
	修学旅行での体験を英語で分かりやすく伝えたり、聴き手が話し手に質問したりすることによって、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を養う	修学旅行実施後 (5～7月頃)	教室 多目的室	50分 ×3	中3	外国語科
	4年生とのお茶会で、家庭科学習の楽しさを作品や写真などを使ってはっきりと伝えることで、自己効力感を高める	学年末	家庭科室	45分×2	小4 小5	家庭科
	ついたての向こう側で絵が見えない友達に、自分の手元の絵を言葉で伝えてリレーで描いていくゲーム	人間関係ができて から	教室	30分	小高～	特活
	不確かな部分を伝えたり聞いたりしながら、リレー形式で元の絵と同じ絵を完成させる	友達に慣れてきた ころ	教室	15分	小低～ 小高	特活
★	ジェスチャーゲームをして、相手に正しく伝えたり、相手の伝えたいことをくみ取ったりしようとする	通年	教室など	20分	個別 小低～中2	学校行事 学活など

番号	タイトル	ページ	自分づくり				仲間づくり										集団づくり		
			公正		寛容		自己表現					配慮					合意形成	課題遂行	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
45	自分も相手も大切に伝える方 パート1 (役割演技で身につける)	112		○			◎										○		
46	自分も相手も大切に伝える方 パート2 (役割演技で身につける)	115		○			◎										○		
47	ステップアップスピーチ (目標をもってスピーチする)	118					◎										○		
48	サイコロペアトーク (自分を語る)	120					◎										○		
49	彼・彼女の好きなこと (英語で紹介する)	122				○		◎											
50	それはなんででしょう？ (質問ゲーム)	124						◎									○		
51	上手な断り方 (役割演技で断り方を身につける)	126	○				○		◎										
52	はっきり断る (役割演技で断り方を身につける)	130	○				○		◎										
53	手拍子チームワーク	132								◎									
54	どうぶつ うた合戦	134								◎									
55	フープ回しリレー (集団遊び)	136		○					◎										
56	円陣手つなぎ風船ラリー	138				○			◎	○									
57	漢字トランプをしよう (ゲームの中で伝える)	140					○		◎										
58	パチパチリレー	143							◎	○									
59	みんなで協力 なかまをみつ けよう(仲間探し)	144							◎	○									
60	小中交流体験授業	145							◎		○						○		
61	木の中のリス	147							○	◎									
62	リズム九九あそび (一体感を感じる)	149							○	◎									
63	手つなぎ鬼 (簡単なルールの鬼ごっこ)	151							◎	○									
64	リズムでつなごうみんなの輪 (一体感を感じる)	152							○	◎	○								
65	リズムでセッション (即興でたのしくやりとりする)	153							○	◎									
66	みんな元気！健康観察	155					○					◎							

アイス ブレー キング	内容	実施時期	活動 場所	所要 時間	対象 学年	活動 場面
	3つの伝え方を体験する中で、さわやかな伝え方があることを感じ、日頃の自分や友達の接し方に気づく	ある程度人間関係が深まってから	教室	45分	小中～ 小高	国語 特活
	パート1の3つの伝え方体験を生かし、自分も相手も大切に伝える伝え方を使えるようになる	ある程度人間関係が深まってから	教室	45分	小高	国語 特活
	朝の会で、目標を意識しながらスピーチをする経験を通して、相手にはっきりと伝える力を身につける	通年	教室	5～10分	小低～ 中1	朝の会 国語
★	少人数でサイコロの目によって話題を決めて話をする経験を通じて、話したり聞いたりする楽しさを感じる	4月を中心に通年	教室	5分	小低～ 中1	朝の会 国語
	英語で第三者に友達を紹介する活動を通して、三人称単数の意味を確認しながら、人との関係づくりを進める	夏休み後（三人称単数導入時）	教室	50分	中1	外国語科
	質問してそれに答えをもらうことで、対象がなんであるか当てるゲームをする	通年	教室	15分	小低～ 小高	集会等
	ロールプレイングを通して、相手から誘われた時にしっかりと自分の意見を述べ、上手に断ることができるようにする	通年	教室	45～50分	小高～ 中3	特活、道徳、総合
	ロールプレイングを通して、相手からいけないことや犯罪行為に誘われたとき、きっぱりと断ることができるようにする	通年	教室	45～50分	小高～ 中3	特活、道徳、総合、体育(保健)
★	学級全員でリズムを合わせて手拍子をするにより、学級のみんで心を一つにする楽しさを体験する	通年	教室	5分	小低～ 小高	朝の会
★	よく知っている歌を、動物の鳴き声でグループ対抗で歌う。声を合わせて歌うことの楽しさを味わう	友達の名前を覚えた頃、グループ替えをした後	教室	10分	小低	特活
	手を放さないようにして輪くぐりをするので、協力することのよさやメンバーの一体感を感じる	通年	校庭 体育館	5～15分	小低～ 小中	体育 集会
	8～10人で手をつなぎ円陣になり、風船を落とさないようになるべく長い時間つく。仲間存在に気づかせ互いを認め受容する雰囲気づくりをする	4・5月、学級開きの頃	体育館	20分	小高 中1	体育
	同じ部首やつくりをもつ漢字カードを使ってゲームをしながら、積極的に仲間に加わる態度を身に付ける	同じ部分をもつ漢字の学習終了後	教室	20分	小低～ 小高	国語
★	全員で拍手をリレーすることで、仲間意識をもったり、身体を使ったコミュニケーションの重要性に気づいたりする	人間関係を作りたいとき	広い場所	5分	小低以上	集会等 出会いの場
★	黙って自分と同じカードをもつ友達を見つけ、自分と共通することを見つけた喜びを味わったり、ルールに従って集団で遊ぶ楽しさを体験する	友達がわかり始めた頃	教室	20分	小低	特活
	小6が中学に行き、中1と交流しながら授業を行い、安心して入学できるようにさわやかな出会いを経験する	12月上旬	中学校 各授業場所	90分	小高～ 中1	総合
★	オオカミ、木こり、嵐の3つの言葉で、動くゲームをして多くの友達とかかわりをもてるようにする	友達になれてきた頃	体育館	30分	小低～ 小高	特活
	4拍子で隣の子の名前を呼んで九九の問題を唱え、呼ばれた子は答えを言い、同じ要領で次の子につなげて一体感を高める	九九を覚えてから	教室	10分	小低 小中	算数、朝の会等
	手をつなぎながら鬼ごっこをすることで、より多くの友達と信頼体験をする	学級編成や班編成後	体育館等	5～15分	小低 小中	体育 集会
★	リズムうち（2拍子・3拍子・4拍子）の後につなぎたい人の名前を呼び、全員につなげるゲームで、仲間意識を高める	友だちの名前が解り始めたころ	音楽室 教室等	10分	小低～ 小高	特活、音楽、縦割り活動
	リズムうちに合わせて名前を呼ばれる経験を通して仲間意識を深め、誰とでも気軽に声を掛け合える雰囲気を楽しむ	友だちの名前が解り始めたころ	音楽室 教室等	20分	小中以上	音楽
★	朝の健康観察で、友達から名前を呼ばれ自分の元気を伝える活動。友達の様子を知ることで人への関心を高める	毎朝	教室	3分	小低	朝の会





アイス プレー キング	内容	実施時期	活動 場所	所要 時間	対象 学年	活動 場面
	英語での自己紹介を通して、先生や友達とのコミュニケーションを楽しみ、相互理解を深める	学級開きの頃	多目的室 等広い場 所	45分	小中	外国語活 動
	簡単な遊びを通して、人の話を聞いたり、友達のことをお互いに知り合ったりしながら、関係づくりのきっかけとする	グループを新しく つくる時	教室等	20分	小高～ 中3	特活
	あらかじめ作った好きなものカードを使って自己紹介をしあい友達への関心を高める	学級編成後間もな く	教室 体育館	45分	小低	朝の会 帰りの会 特活
★	出会ったとき互いに片手を出しあい、同じ手がでたら握手するゲームを通して、友達とふれあう喜びを感じる	学級初期段階	教室	5分	小低 小中 小中個別	集会 朝の会
	自己紹介のための名刺カードを作り、名刺交換ゲームをすることで多くの人と関わる	学年初め、縦割活 動の顔合せ	教室 校庭	15分	小中・小 高～中3 1	特活
★	すごろくをしながら、自分を理解してもらい伝え方、人の話を聞く態度を養い、集団の中での自己表現の練習をする	学級開きや班編成 後、保健室登校生 徒間の交流時	教室 保健室	20分	小高～中 3 1・中 2・中3	特活
	人に気持ち良く引き受けてもらえるような頼みごとのしかたを、ロールプレイングを通して考える	通年	教室	45分	小中 小高	特活 道徳
	新聞紙等の上に一人ずつ乗っていき、全員が落ちないように乗ることで、仲間への信頼感や達成感を感じる	クラスの友達がわ かり始めてから	体育館	20分	小中 小高	特活 体育等
★	立てた棒を倒さないように相手と場所を入れ替わる。仲間とタイミングを合わせる心地よさを感じる	通年	運動場 体育館	5～15分	小低～ 小高	体育 集会等
★	先頭になった子の動きに合わせてメンバーが同じ動きをまねしながら行進し、仲間意識を高める	通年	体育館等	5～15分	幼・小低 ～小高	体育 集会等
★	2人組で新聞紙の上に乗せた丸めた新聞紙を投げ上げることを通して、互いへの信頼感を育んだり、仲間意識を高める	仲間づくりが必要 なとき	広い室内	10分	小中以上	集会等
	グーはチョキを、チョキはパーを、パーはグーを捕まえる鬼ごっこ。作戦をたてて捕まった仲間を助けたり守ったりし、仲間意識を高める	学級の友達が分か り始めてから (通年)	校庭 体育館	15～45分	小中 小高	体育 特活
	班対抗のじゃんけん城くずしゲームをしながら、他のチームに勝つための方法を考え、グループの一体感を高める	通年	教室 ホール 体育館	15～30分	小中 小高	特活
	鬼に触られたら凍り、仲間に触られると溶ける鬼ごっこ。体の触れ合いで遊び、多くの友達との信頼感を高める	学級編成、班編成 後	校庭	5～15分	小低 小中	体育 集会
	友達が知らない自分のエピソードをクイズに出し、互いが知り合うことで気持ちが通じ合う関係作りを行う	友達関係が落ち着 いてきた時期	教室	5分	小高 中1	朝の会 帰りの会
	友達に「勝てパワー」を送り、グループ対抗でじゃんけんをすることを通して、みんなで遊ぶ楽しさや友達のあたたかさを感じる	さらに関係性を深 めたい時	体育館、 校庭	20分	小低～ 小高	特活
	友達の悩みに共感し、温かい回答を書くことで、人間関係を促進する	クラスの間関係が 決まった時	教室	45分	小中～ 中1	特活
	同じ色の上を渡ってゴールするゲームで、助けを求めたり進んで助けたりすることを通し、仲間との信頼感を高める	通年	体育館	25分	小個別・小 低・小中・ 中個別	体育 特活
	気持ちが温かくなったり辛くなったりした言葉を出し合い、その感情に気づき、温かい言葉を使う気持ちを育む	周囲から思いやり の言葉が聞こえる ようになった頃	教室	15分	小低 小中	帰りの会 特活 道徳
	欠点も見方を変えて長所ととらえることにより、友だちや自分のよさに気づく	学級内の関係性が 深まってから	教室	30～45分	小高～ 中3 高校	特活
	成長期の体の変化に悩む友達が安心するアドバイスを考える。個人差男女差を知り、思いやりを育む	心身の変化が現れ 始める頃、10歳を 祝う会と関連して	教室	45分	小中	体育 (保健)
	簡単なシュートゲームを通して、仲間との助け合うことのよさを体感する	友達に慣れてきた 頃	体育館 小ホール	20分	幼・小個別 小低・小中 中個別	特活

番号	タイトル	ページ	自分づくり		仲間づくり												集団づくり				
			公正		寛容		自己表現						配慮						合意形成	課題遂行	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16			17
89	「ありがとう」の一言 (役割演技で考える)	202													○	◎					
90	聴き方じょうずになれるかな (話すこと・聴くこと体験)	204																	◎		
91	身体と心はつながっている!? (話すこと・聴くこと体験)	206		○															◎		
92	なにが好き? (共通する話題で集まる)	208				○				◎											
93	友だちをみつけよう (ヒントで回答する)	210					○												◎		
94	何の音かな? (よく聞く・よく見る)	213					○												◎		
95	私の秘密・正解はだれだ!? (質問ゲーム)	214						○											◎		
96	先生を知るイエス・ノークイズ	216						○											◎		
97	「ごめん」の一言 (役割演技で考える)	218													○				◎		
98	ホームレスについて考えよう (連想マップでまとめる)	220																		◎	○
99	イライラや不安・悩み解消法 を見つけよう(ストレス解消)	224	○																	◎	
100	一番大切なのは・・・ (互いの考え方を知ってまとめる)	228		○																◎	
101	最高!わくわくプランニング (話し合いをまとめる)	232				○														◎	
102	日本脱出!? (話し合いをまとめる)	234					○													◎	
103	フルーツポンチを作ろう! (意見を調整する)	238					○													◎	
104	あきまつりのおみせをもっと 楽しくしよう(意見を調整する)	242					○													◎	
105	いじめについて考えよう (解決策を話し合う)	244																			◎
106	自分にもできる 応急手当を 知ろう(解決策を話し合う)	246	○																		◎
107	あなたならどうする? (解決策を話し合う)	250																			◎
108	成功させよう体育祭(ブレイク ストーミングから話し合う)	254	○																	○	◎
109	合唱エール交換(合唱コンク ールに向けてやる気を高めよう)	256			○																◎
110	魔法のじゅうたんレース (作戦を話し合う)	258									○										◎

アイス ブレー キング	内容	実施時期	活動 場所	所要 時間	対象 学年	活動 場面
	感謝する必要がある場面のロールプレイングを通して、ありがとうという言葉の大切さを感じる	通年	教室	45分	小中 小高	特活 道徳
	話の聴き方の違いで話し手の心地よさが違うことをロールプレイングで体験し、よい関係で会話ができるようにする	人間関係をさらに深めたいとき	教室	30分	小中～ 大人	国語 特活
	積極的でない聴き方、積極的な聴き方の役割演技をする。言葉よりも態度の方が相手に対する影響が大きいことを知る	人間関係が深まってから	教室	20分	高校生 以上	国語 特活
★	好きなものが同じもの同士集まって、わけを尋ねあう。友達の話をしっかり聞きながら友達理解を深める	友達の名前を覚えた頃	教室	25分	小低～ 小高	集会
	友達の特徴を注意して聞き、誰のことかあてるゲームを行う中で、聞く力を養う	通年	教室	20分	小低	国語
	聞こえてくる音を集中して聞き、何の音か当てることで、聞くことに対する集中力を高める	通年	教室	20分	幼 小個別 小低～	朝の会 集会等
	協力して質問ゲームに勝利しようとすることで友達への関心を高める	人間関係ができてから	教室	50分	中1～ 中3	特活
	先生に関するクイズを行い、子どもとの関係作りを行う	学級開きの時期	教室	20分	小低	朝の会
	謝る必要がある場面のロールプレイングを通して、自分が悪かった時に謝ることの大切さを感じる	通年	教室	45分	小低～ 高校	道徳
	ホームレスに対する自分の認識の仕方を見直し、自己の人権意識にふり返る	通年・長期休業の前	教室	50分	中1～中 3 高校生	道徳 総合
	不安やいらいらの解消法を出し合うことで、自分に合った解消法を見つけ、実践しようとする	思春期初期 保健 学習「心の健康」と関連	教室	45分	小高～ 中2	体育 (保健)
	大切なものは何か、個人の考えの違いを認めながらグループでまとめる話し合いを体験する	通年・お互いの思いを話せるようになった頃	教室	45分	小高～ 中3	特活 道徳
	参加者全員が楽しめるようなたてわり集会等の計画を話し合うことを通して、意見の違いを認めながらまとめる力を高める	クラスの人間関係ができてきた頃	教室	45分～	小高～ 中3	特活 総合
	一つの課題に対して合意形成をする過程で、自他の考え方のよさを認め合う	ある程度人間関係が形成された頃	教室	45分	小高～ 高校	特活
	フルーツポンチに何を入れるかを話し合い、多くの意見を調整しようとする力を身につける	クラスの人間関係を更に深めたい時	教室	30～45分	小中・ 小高	特活 総合
	生活科のお店をお互いに見て、自分たちのお店に取り入れる工夫を話し合うことを通して、自分と違う考えを聞きながらグループで話し合う体験をする	10月～11月	教室など	45分	1年	生活科
	いじめを予防する方法についてグループで話し合うことを通して、いじめを予防する気持ちを高め、協力して解決策を考える体験をする	入学、進級時 (4月)	教室	45分	小高～ 中3	特活 道徳
	けがの手当の仕方を協力して考えるとともに、正しい手当の方法を知り、宿泊体験学習の不安を取り除いたり、実生活で生かしたりする	宿泊体験学習の前 4年「けがの予防」	教室	45分	小中・ 小高	保健
	ネット上のコミュニケーションの特徴を知り、適切なコミュニケーションの手段をみんなで話し合っておく	通年 情報モラル、マナー 教育との関連から	教室他	45分	小高～ 中3	道徳 特活 社会
	ブレインストーミングで出したアイデアを整理して、体育祭を成功させるアイデアを考える	体育祭等の 計画時期	教室等	45分	小中以上・ 小グループ (5～6人) から	特活
	他のクラスと合唱を発表をしようということで、他のクラスへの思いやりと自分のクラスへの所属感を体感する	9月～10月 (合唱コンクール を目指して)	教室 音楽室	10～15分	小高～ 中3	総合 特活
	乗った子がジャンプしている間に残りの子が新聞紙を動かすレースの作戦を考え、協力する体験をする	通年 (協力しよう関係が 生まれ始めた頃)	教室 体育館	20分	小中・ 小高	特活

番号	タイトル	ページ	自分づくり		仲間づくり												集団づくり			
			公正		寛容		自己表現						配慮						合意形成	課題遂行
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
111	みんなで一緒！きょうりょく リレー（作戦を話し合う）	260			○														◎	
112	じっくり考えよう （想像演習）	262			○														◎	
113	みんなそろってサイン送り じゃんけん（作戦を話し合う）	266			○														◎	
114	なかよく楽しむスペシャルじゃん けん城くずし（作戦を話し合う）	268							○										◎	
115	つながったね、みんなの心 （長縄飛び 解決策を話し合う）	270												○					◎	
116	なんて言うかな？ （様々な考え方を聞いて考える）	273															○		◎	
117	どうしよう （論理的に考えてみんなで解決する）	276															○		◎	
118	学級のテーマソングを作ろう （話し合って解決する）	278																○	◎	
119	クラスをパワーアップやれば 出来る！（考えを整理する）	280	○															○	◎	

## 資料

アイスブレーキング集	282
表情シート	285
職業カード	286
果物カード	287
動物カード	288
ふりかえりシート（低学年用）	289
ふりかえりシート（高学年用）	290

アイス ブレー キング	内容	実施時期	活動 場所	所要 時間	対象 学年	活動 場面
	みんなで手をつないで協力するリレーの作戦を話し合ったり協力してリレーに取り組んだりし、集団への所属感を高める	通年 (年度始め以外)	校庭	20分	小中・ 小高	体育 特活
	学級でトラブルが発生した場面を想定した課題文を読み、解決策をグループで考えることを通して、課題解決能力を高める	通年	教室	45分	小中・ (小高～ 中3)	国語 特活
	グループで話し合っってサインを決めたり、サインを使ってジャンケンをしたりすることを通して、仲間と一緒に活動する楽しさやよさを味わう	通年 (年度始め以外)	教室など	15分	小低・ 小中	特活
	じゃんけん城くずしのルールに仲良くなるためのルールを加える話し合いを通して、課題について話し合っって解決できたという経験をする	4月、5月 交流活動計画時	教室 ホール 体育館	45分	小中・ 小高	特活 交流集会
	長縄とびを楽しく長く続けるために必要な言葉かけや態度を話し合い、記録更新に役立てる	学級の団結力を高めたいとき	体育館 運動場	30分	小中以上	体育 特活
	問題場面での答えを友達と話し合うことにより、トラブルの解決策を考えたり謝り方を身につける	通年 (社会規範を考えさせたいとき)	教室	45分	小中～ 中2	道徳 特活
	日常のトラブルの解決方法と取り組みを話し合い、事実を客観的にとらえて論理的に解決する力を養う	学級内の人間関係ができた頃	教室	20分	中2、3	特活
	学級のテーマソングの歌詞を作ることを通して、学級への愛着や所属感を高める	5月 (学級目標設定後)	教室	45分	小低～小 小高	特活
	クラスの課題に対して、目標とやるべきことを明らかにする合意形成を図り、一体感とやる気を起こす	行事の前	教室	45分	小中～ 高校	総合 特活

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>1 自分をパワーアップ やればできる！ (考えを整理する)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」①自分の意見をもつ		<b>背 景</b>	失敗を繰り返す子どもは、無力感から脱することが難しい	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今やるべきことを明確にし自己選択する行動目録法を経験することで、新たな自分づくりを行う</li> <li>・自らの目標を明確化・具体化・序列化し、今できることを積み重ねることが目標達成への途であることに気づき、自信をもつ</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高・中1・中2・中3・高校		<b>実施時期</b>	学年初め、自信をなくしているとき	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動・総合
<b>準 備</b>	・付箋紙(2色) ・画用紙(4切り) ・フェルトペン ・ワークシート(ふり返しシート)				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動目録法の手順は、分かりやすく掲示する</li> <li>・小見出しは違う色の付箋紙にすると分かりやすい</li> <li>・付箋紙を分野別(学習、趣味、友達等)にグルーピングさせる</li> <li>・必要性の順位付けにはあまり深くこだわらせない</li> <li>・上位3枚の付箋紙を手がかりとして具体的な目標や計画を立てるよう指示する</li> <li>・発表できるものだけでよい</li> <li>・投げやりになりそうな子がいないか、十分に観察し、支援する</li> </ul>		①自分の意見をもつ
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           になりたい自分になるために、今できることを考えよう         </div>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目標や計画を立てられたことを評価する</li> </ul>		パスOK  持ち出し禁止
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">行動目録法</p> <p>①今、自分がやらなければならないと思っていることを付箋紙に書き出す</p> <p>②付箋紙を分野別に集め、小見出しをつける</p> <p>③小見出しを必要度の高い順に並べ替える</p> <p>④画用紙に、横列に小見出しの付箋紙を必要度の高い順に並べ、縦列にそれぞれの付箋紙を必要性が高い順に並べ糊付けする</p> <p>⑤全部の付箋紙の中から、自分にとって重要なものを3つ選び、三大目標として書き出す</p> <p>⑥3つの目標の具体的な計画を書き出す</p> <p>⑦グループ中で、自分の具体的な計画を発表する</p> </div>				
	○約束を知る				
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				
	○ふり返る				
		○ふり返る			
		・ふり返りシートを書く			
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室登校等、極度に自信をなくしている子どもには、相談室等で、教師と1対1で話し合いながら作成させるとよい</li> <li>・グループ内で互いの目標を尊重する態度を賞賛するとよい</li> </ul>			

## 自分をパワーアップ やればできる！ 活動例

<b>三大目標</b>	1	部活でレギュラーになる
	2	母の日のプレゼントにブローチを贈る
	3	友達みんなとなかよくする
<b>小見出し（分野）</b>		勉強                      友達                      部活                      家族
<b>必</b>	1	社会のレポート                      ハマ太に謝る                      レギュラー獲得                      母の日プレゼント
<b>要</b>	2	英語のテスト                      みらいちゃんとデート                      先輩にかつ
<b>度</b>	3	逆上がり                      ヨコ男とつり
<b>具体的な計画案 1</b>	<b>具体的な計画案 2</b>	<b>具体的な計画案 3</b>
毎日、朝、ランニングをする	犬の散歩でアルバイトをする マンガを買わない	みらいちゃんとのデートをあきらめて、みんなで出かける

子どもたちは、様々な不安を抱え生きている。

受験、友達や家族との関係等、迫ってくる問題に対してどう対処し、乗り越えていくか。解決方法を容易に見つけることができなかつたり、うまくいかなかつたりするとき、子どもは、投げやりになったり、逃避行為に走ったりする。また、自分にのしかかるものの正体ははっきりしないとき、子どもは過大な不安に押しつぶされそうになり混乱する。

本プログラムでは、①目標（ゴール）を明確にする ②ゴールに至る方法を明らかにする ③現実の自分との折り合いをつけ、今できることを選択する という3つのステップで自分自身を元気づけること、目標達成のためのエンパワメントを経験する。

混乱を整理し、途を明らかにするという「行動目録法」を経験することは、子ども達にとって、様々な場面での問題解決の方法を身に付けることにつながるのである。



自分をパワーアップ! やればできる!

行動目録表

三大目標 1  
2  
3

分野別→ ( ) ( ) ( ) ( ) ( )  

--	--	--	--	--

<b>必</b>	<b>1</b>					
<b>要</b>	<b>2</b>					
<b>度</b>	<b>3</b>					
<b>↓</b>	<b>4</b>					
	<b>5</b>					

具体的な計画案

目標1	目標2	目標3

ふり返りをしよう

☆今日の活動は、

4 よくできた	3 まあまあ	2 あまりできなかった	1 できなかった
1 楽しく活動できた	4 - 3 - 2 - 1		
2 自分のやるべきことが分かった	4 - 3 - 2 - 1		
3 目標が分かり自信をもつことができた	4 - 3 - 2 - 1		

☆活動をして感じたことを書こう



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>2 未来予想図 (1年後の自分に手紙を書く)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」①自分の意見をもつ ③自分のよさを見出す	<b>背 景</b>	自分で何かをやり遂げようとする自立心に欠ける傾向が見られる		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の成長を確認し、自己肯定感を高める</li> <li>・新しい1年間の生活に目標を見つけ、希望をもって臨む</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	中1・中2・中3	<b>実施時期</b>	入学、進級時(4月)と学年末(3月)		
<b>所要時間</b>	25～50分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	道徳・特別活動・総合
<b>準備</b>	・「未来予想図」シート ・筆記用具				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る 1年後の自分に宛てて手紙を書こう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(内容・やり方)を知る ①手紙を受け取る1年後の自分をイメージし、ワークシート(未来予想図I)に手紙を書く ②1年後に自分の書いた手紙を読む ○約束を知る ・素直な気持ちで書く ○手紙を書く		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活が始まった今の気持ちを大切にとどめておくためのものであること、他人に見せるものではないので1年後の自分に向けて素直の気持ちを書くことを伝える</li> <li>・書けない子どもは、教師が対話しながら進めるようにする</li> <li>・書いた手紙は、教師が預かり、学年末に読み直す事を伝える</li> </ul>		①自分の意見をもつ パス OK
<b>ふ り 返 り</b>	○まとめる ・今の気持ちをもち続け、1年間を送ろう				安全の配慮
<b>主 活 動</b>	<1年後(学年末)> 自分からの手紙を受け取り読んでみよう				
<b>ふ り 返 り</b>	○1年前の自分からの手紙を読む ・1年間をふり返り、自分の成長を感じ取る ○手紙を書く ・再び、1年後の自分に手紙を書く ○まとめる ・自分の成長を感じ、新しい希望をもつことの大切さを知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年・2年の最後のふり返りでは、自分の成長を感じるとともに4月からの新生活に希望がもてるよう助言する</li> </ul>		③自他のよさを見出す ①自分の意見をもつ
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短い言葉でも自分の思いや感じていることを書くようにするが文章を書くのが苦手な生徒にはイラストや単語でも許可するなど負担にならないようにする(入学・進学時)</li> <li>・自分の環境、ものの見方や感じ方が大きく変化した子どもには十分配慮し、1年前に手紙を書いたときの自分自身を大切に受け止められるようにする(学年末)</li> <li>・作成した未来予想図は保管しておき、卒業時に3年間をふり返る材料とすると効果的である。その際は、それらを読んだ上で、卒業1週間前に、「1週間後の自分への手紙」を書くと、思い出深いものとなる。</li> </ul>				

# 1年後の自分への手紙

入学おめでとう。

今、あなたには、中学校生活にピッカピカの夢や希望があることでしょう。

中学校で過ごす時間はたった3年間。大切に過ごしていきましょう。

☆新しい生活が始まった今の気持ちは…

---

---

---

☆こんな中学生になりたい！こんな学校生活をおくりたい！という夢、希望は…

---

---

---

**未来予想図** 今のあなたから1年後の自分に手紙を書いてください。

うまく書けない人は、1年後の自分はこんな中学生になっているんじゃないかなあと、想像した様子を書いてください。

---

---

---

---

---

---

---

---

年 月 日 1年前の \_\_\_\_\_ より

# 1年後の自分への手紙

入学から1年が過ぎた今のあなたはどんな毎日を送っていますか？  
入学した頃の不安や心配、夢や希望はどうなりましたか？  
1年後のあなたに“今のあなた”を知らせる手紙を書いてください。

○こんな1年間だったよ！

○こんな中学生になったよ！こんなことを頑張っている（楽しんでいる）よ！

---

---

---

---

○こんな先輩になりたい！

---

---

---

---

---

---

---

---

年 月 日 1年前の \_\_\_\_\_ より

# 1年後の自分への手紙

いよいよ中学校生活最後の年を迎えます。最後の1年を充実して過ごしましょう  
卒業を目前にひかえた1年後のあなたに、“今のあなた”を知らせる手紙を書いてください

こんな1年間だったよ！

---

---

---

---

こんな最上級生になろう！ こんな学校にしよう！

---

---

---

---

3年生になる自分自身へ応援メッセージを送ろう

---

---

---

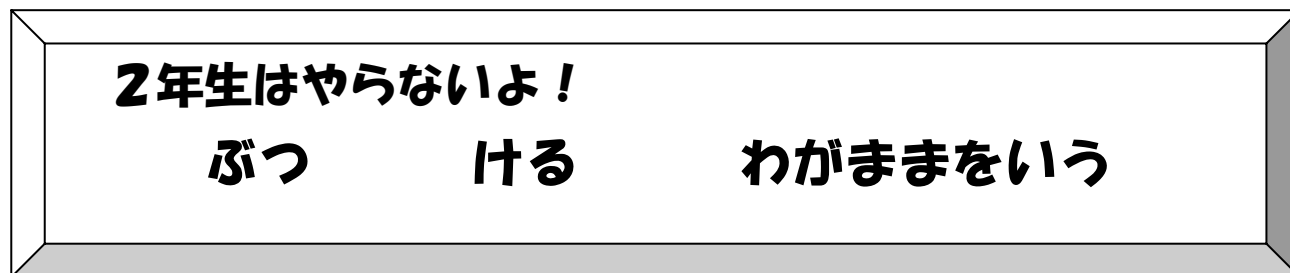
---

1年前の \_\_\_\_\_ より

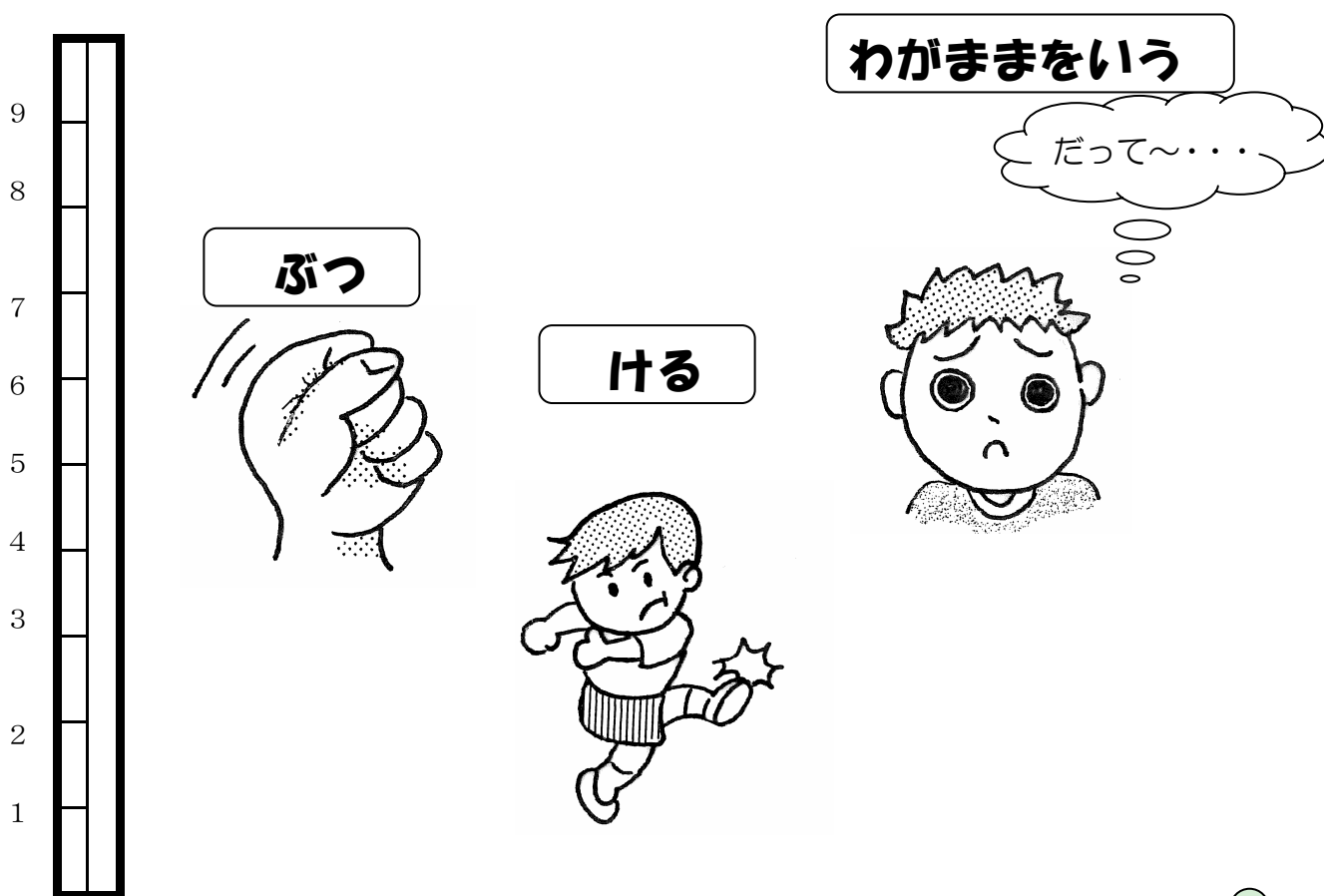


<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>3 みんなで言おう「合い言葉」</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」①自分の意見をもつ 「仲間づくり」⑧仲間に加わる		<b>背景</b>	がまん体験が希薄なことにより集団の ルールの意味合いが理解できない	
<b>活動のねらい</b>	・手遊びを通してルールを学びながら友だちとの関わりを楽しみ、「合い言葉」になっている 学年の目標やルールを意識する				
<b>対象学年</b>	小低		<b>実施時期</b>	クラス立ち上げ時期から 継続的に実施	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	ホール等	<b>活動場面</b>	特別活動・音楽
<b>準備</b>	・オルガンまたは音楽 CD ・タンバリン ・「合い言葉」やルール確認等の掲示物				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る ・「合い言葉」になっている学年の目標やルールについ てふり返り、活動のねらいを知る				
	仲良く手遊びをして、みんなで合い言葉を言おう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①音楽とタンバリンに合わせて歩き、合図で近くの子 と二人組になりすわる ②手遊びをして、終わったところで合い言葉を言う ・おてらのおしょうさん ・ごんべえさんのあかちゃん ・ちゃちゃつぼ など ③再び、音楽とタンバリンに合わせて、ペア変えをす る		・活動時間に合わせて①～③を繰り返す  ・二人組になれない児童への支援をする ・「合言葉」でみんなの気持ちを合わせるように教師がリードする		① 自 分 の 意 見 を も つ  ⑧ 仲 間 に 加 わ る  暴 力 N O パ ス O K
	○約束を知る ・二人組を変える時には音楽のリズムに合わせて歩く ・なるべくいろいろな子と二人組になる ・手遊びのときは、相手の子と気持ちをあわせる				
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				
	○ふり返る ・友だちと一緒に活動した楽しさや感じたことを話し合う				
<b>配慮事項</b>	・ゲームへの参加については無理なく参加できる雰囲気づくりに努め、強制しない ・生活のふり返りとめあての確認を日常的に行うことが効果的である				

みんなの合言葉（例） （学年目標や生活のきまりなど）



みんながまもれるようになったら、下げていくよ！



みんなをうれしくする魔法のことば  
『ありがとう』『ごめんなさい』『だいじょうぶ？』

教室等の壁に掲示して、達成できた目標のイラストの位置を上下させ、学級全体での評価に活用する  
「みんなの合言葉」は全員で声を合わせて繰り返し、約束を守ろうとする意識を育てる合言葉をイメージ化するためのイラスト

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>4 すてきなもの、いっぱい (様々な感じ方を分かち合う)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ④自他のちがいを認める		<b>背 景</b>	画一的な価値観にとらわれ、自 分の感じ方を大事にできない	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人とは違う、自分なりの感じ方を大切にする</li> <li>・自分が集めたものを生かして、自分らしさを表現できるようにする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	4 5分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	図工 (鑑賞)
<b>準 備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から図工の作品制作のために準備した自分が気に入って集めている身の回りの物 (小枝、貝殻、石、ビーズ、ビー玉、箱、布、千代紙、ひも等)</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           自分が集めたもののすてきなところを紹介し合おう         </div>		
	○活動の流れ (やり方・内容) を知る ①グループで自分の持ってきた「もの」を紹介し 合う ②自分が集めたすてきなものを使って、小さな 箱や台紙に自分の思いを表す ③互いに自分の持ってきた物を貼りつけた箱 や台紙を提示しながら、自分の持ってきた「も の」のよさについて紹介し合う ④その子の思いを大切にしながら聞いたり、質 問したりするようにする  ○約束を知る ・友達の発表を、うなづきながら聞く  ○活動する				
<b>主 活 動</b>	○ふり返る ・ふり返りシートに、活動して気づいたこと、友達の 感じ方とのちがい等、感じたことを記入する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介をきくときはその子の思いを大切にしながら聞いたり、質問をしたりするようにする</li> <li>・人それぞれの感じ方のよさを認められるよ うなふり返りを賞賛する</li> </ul>		② 自 分の 見 方 や 感 じ 方 を も つ           ④ 自 他 の ち が い を 認 め る 暴 力 NO パ ス OK
<b>ふ り 返 り</b>					
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材等を集めて持ってくるできない子に対しては、教師が日々の学習活動等の中で、示唆したり、提供したりする配慮を行う</li> </ul>				



# すてきなもの いっぱい ワークシート

月 日 ( )

年 組 なまえ

1 あなたがあつめたすてきなものをかいてみましょう。

2 あなたがあつめたものの、気に入っているところをかきましょう。



3 きょうのがくしゅうをふりかえりましょう。

① たのしく<sup>あんしん</sup>安心してかつどうができましたか。(色をぬるか○をつける)

よくできた      まあまあできた      あまりできなかった      できなかった



② 自分<sup>じぶん</sup>やともだちのあつめたもの<sup>もの</sup>のよさやちがいがわかりましたか。

よくわかった      まあまあわかった      あまりわからなかった      わからなかった



③ 自分<sup>じぶん</sup>があつめたものをいかして、すきなさくひんをつくることができましたか。

よくできた      まあまあできた      あまりできなかった      できなかった



④ 友だちのはなしを、しっかりきくことができましたか

よくできた      まあまあできた      あまりできなかった      できなかった



⑤ このかつどうをして、気づいたこと・感じたことを書きましょう。

---

---

---

---

---

---

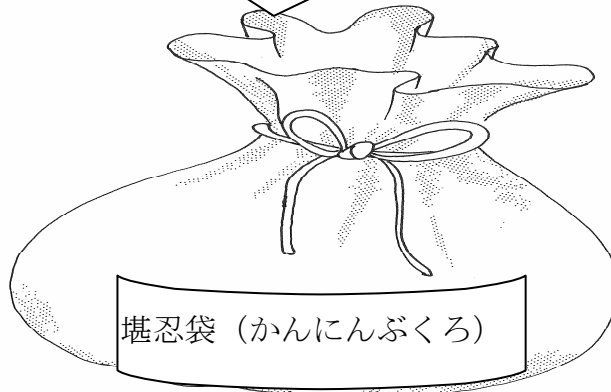
<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>5 堪忍袋 (感情のコントロール法を身に付ける)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ		<b>背景</b>	ストレスの中で自分を見失い、衝動的な言動を示すことが多い	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの見方や感じ方を見失わないように感情をコントロールできる</li> <li>・ストレスを冷静に受け止める方法を知る</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低～高校		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	10分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動等
<b>準備</b>	・ワークシート				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	<p>お腹の中の堪忍袋を大きくして、嫌なことや不安なことを しばらくの間ためておくことができるようにしよう</p>				
<b>主 活動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①呼吸法を練習する ・静かに目を閉じて、手をお腹にあてる ・大きく鼻から息を吸う(1・2・3) ・息を止める(1・2) ・口からゆっくり長く吐く(1～5) ②嫌なこと、不安なことを思い浮かべ、ワークシートの堪忍袋に記入する ③呼吸法をして気持ちをしずめる  ○約束を知る ・活動中は、絶対に声や音を立てない ・友達のシートをのぞかない  ○活動する ・呼吸法は、最低3回は繰り返す		・腹式になっているか、お腹に手をあてて確かめる(低学年では床に寝て行くと、腹式呼吸がつかみやすく効果的である) ・口から息を吐くときには、「ふう～」と小さく音が出るような感じで行う(声は出さない) ・教師が静かな落ち着いた声で全体に向けてゆっくりカウントをし、一斉に行うようにする ・呼吸法ができるようになってから、ワークシートにとりかかる ・怒りや不安などは絵で表現してもよいし、書かなくともよい ・低学年では床に寝て行くと、腹式呼吸がつかみやすく効果的である		暴力 NO (人の嫌がることをしない) パス OK
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・活動を終えて、静かに目を開けたときの身体の感じをつかむ		・怒りや不安をコントロールして「他人に嫌な思いをさせない」という気持ちをもつことができるように支援する ・堪忍袋ワークシートは回収する		②自分なりの見方や感じ方をもつ
<b>配慮事項</b>	・怒りの感情が非常に強い子どもがいる場合には、個別で行う ・ワークシートに書かれた怒りや不安について、必要があれば後で時間をとって丁寧に話を聞く				

かんじんぶくろ  
**〈堪忍袋〉ワークシート**

なまえ ( )

- <sup>かんじんぶくろ</sup>堪忍袋にいやなことや<sup>ふあん</sup>不安なことをしましょう！

わたしにとっていやなこと、<sup>ふあん</sup>不安なことは



**心がおちつく こきゅうの仕方 (数回くりかえす)**

- ① 静かに目を閉じて、手をお腹にあてる
- ② 大きく鼻から息を吸う (1・2・3)
- ③ 息を止める (1・2)
- ④ 口からゆっくり長く吐く (1～5)

☆今日の活動は、

	4	3	2	1
よくできた	3	2	1	
まあまあ				
あまりできなかった				
できなかった				
1 安心して活動できた	4	3	2	1
2 心の中の心ばいごとをみつけることができた	4	3	2	1
3 心がおちつく呼吸の方ほうができた	4	3	2	1

☆活動をして感じたことを書きましょう (先生にそうだんしたいことがある人は書いてください)

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>6 静かに目を閉じて (自分を感じる)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ		<b>背 景</b>	ストレスの中で、自分の身体の 声に気づかなくなっている	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リラックスして、自分の身体が様々なことを感じていることに気づく</li> <li>・五感をいきいきと働かせる体験をする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高～高校		<b>実施時期</b>	通年 (リラックスが必要なとき)	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	屋外	<b>活動場面</b>	特別活動等
<b>準備</b>	・ワークシート				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る  目を閉じて、静かに横になって、世界を感じてみよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ (やり方・内容) を知る ・静かに目を閉じて横たわり腹式呼吸をして落ち着く(体育館・公園の芝生の上、砂浜等の広い場所) ・一定時間(15～20分)そのまま何も考えないでリラックスして過ごし、その後静かに目をあける ・どんな感じがしたか、感じたことを共有しあう  ○約束を知る ・時間になるまで、音をたてないで静かに指示に従う  ○活動する		・腹式呼吸の練習をしてから行う ・腹式呼吸の仕方は、「10 堪忍袋」を参照のこと  ・呼吸を整え、静かさの中で何も考えずに、鳥のさえずり、遠くで車が走り去る音、風のそよぎ等を感じる ・自分意識から離れて、自分をとりまく世界の中に身を投じる経験をし、身体が(五感が)生き生きと働く感じをつかませる		②自分なりの見方や感じ方をもつ  パスOK 暴力NO 持ち出し禁止
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・体験のふり返りを書く		・ふり返りを書く時間をゆったりととる		
<b>配慮事項</b>	・緊張の強い子どもや、発達に偏りのある子どもは、一定時間をリラックスして過ごすことができない場合もある。そのような場合は、ゆっくりとしたストレッチを教師とともに行って、リラクスの仕方を学ぶ時間としてもよい				



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>7 怒りの気持ちをどう乗り切る？</b> (感情のコントロール法を考える)			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ①自分の意思をもつ	<b>背 景</b>	怒りをコントロールできず、トラブル になることが多い		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の状態や動きを客観的に見つめ、情動に対応する方法を知る</li> <li>・仲間とのかかわりや、日常のトラブルの解決策を考える</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高・中1・中2・中3・高	<b>実施時期</b>	通年・トラブルが続いたとき		
<b>所要時間</b>	20～50分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動・道徳
<b>準備</b>	・ワークシート ・筆記用具 ・事前にグループづくり ・ふり返しシート				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・怒りを感じたときどうするか、班ごとに出し合う ①怒りがおさまらない時ってどんなとき？ ②怒りが爆発した時どんな行動をとってしまう？ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">怒りがおさまらない時どうしたらよいかを考え、体験してみよう</div>		・事前にグループを作り、活動ができるよう机を組み合わせしておく		持ち出し 禁止
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①ワークシートを読み、自分の“こころ”のコントロール方法を知る ②ワークシートの場面で、気持ちを落ち着かせよるような自分への語りかけを考える ③グループで自分への語りかけについて出し合い、自分に合ったコントロール法を選ぶ ④二人一組となり、場面ワークシートの自分が選んだ「自分をコントロールする方法」でロールプレイングする  ○約束を知る ・感情のコントロール法は各自に選択を任せる  ○活動する		・段階を踏んで説明しながら、記入させる  ・時間を50分とれるようであれば、④を行う		②自分なりの見方や感じ方をもつ ①自分の意思をもつ  暴力 NO (友達の選んだ方法を批判しない)
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・ふり返しシートに記入する		・自分自身へ落ち着いて語りかけができたことを評価する		
<b>配慮事項</b>	・地域や学年などの実態に応じて、怒りの場面の設定を変え、子どもがより積極的に参加できるよう工夫するとよい ・ストレスにさらされたとき、自分なりの感情のコントロール方法を身に付けている子どもは、自己統制ができる。つまりキレにくい子なのである。感情のコントロールに関連するプログラムは「5 堪忍袋」「19 考え方を広げよう」「20 いろんな気持ちを表現してみよう」「21 今日の気分は？」「23 わたし言葉で会話しよう」「99 イライラや不安・悩み解消法を見つけよう」等がある。それらを活用して年齢相応のコントロール方法を具体的に身に付けさせていきたい。 ふり返し項目：自分なりのコントロール法が見つかりましたか				

## <怒りの気持ちをどう乗り切る？>ワークシート

年 組( )

自分の“こころ”をコントロールする方法を知ろう。

### 自分の“こころ”をコントロールする方法

- ①自分に語りかける。  
「ここで怒ったら終わりだ」「ガマン！ガマン！」
- ②間をおく（深呼吸し、ゆっくり10数える）。
- ③感じたことを「あなた」から「わたし」に言い換える。  
「君が悪い」⇒「わたしは君の言い方が悪いと思う」
- ④相手の良い点や楽しかったことなどを思い浮かべる。
- ⑤楽しい歌を心の中で歌う。
- ⑥時間をおく（ひと晩、1週間など）。



次の場面で、怒りの気持ちをどう乗り切るのか考えよう。

わたしとA君は友達だが、なぜだか今朝からA君の態度がおかしい。わたしに何か怒っているようだ。そして、体育で、わざとわたしにパスを回さなかった。授業後…

私：「ちょっと！」「なんで僕にパスを回さないんだ？」

A：「べつに」

私：「べつになって、何だよ？おい！」

☆ 怒っている「わたし」になったつもりで、次のステップで考えてみよう。

(1)わたしは  ということに対して怒っている。

(2)ここで私の怒りが爆発したらどうなる？

(3)自分自身を落ち着かせるような言葉を考えよう。

A君のことを怒っている自分の心に向かって何と語りかける？

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>8 知らない人に出会ったら</b> (犯罪から身を守る方法を知る)			<b>基本</b>	がまん
<b>育てる力</b> <b>関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ①自分の意見をもつ	<b>背</b>	危険を察知したり回避したりする 力が未熟である	<b>体験</b>	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険を察知する力や回避する力をロールプレイを通して体験的に身に付ける</li> <li>・身近な場所で知らない人に出会ったときの対応の仕方を身に付ける</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小中(個別支援級)	<b>実施時期</b>	新学期の早い時期		
<b>所要時間</b>	30分	<b>活動場所</b>	教室・ホール	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助指導員(保護者や地域の安全指導員などに依頼)</li> <li>・ロールプレイングの場面とセリフを表示した模造紙 ・ふり返しシート</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導</b> <b>入</b>	○活動のねらいを知る ・子どもが危険にあった事件を聞く		知らない人に声をかけられたとき、どうしたらよいか考え、正しく行動できるようにしよう		
	<b>主</b> <b>活</b> <b>動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ・自分だったらどうするかを考えて、一人ひとりが声かけ役の補助指導員とロールプレイングをする(答えは掲示資料から選択する)			
○約束を知る ・友達がやっているときにじゃましない ・言いたいことがあったら、友達の活動が終わってから手を挙げて言う		<ul style="list-style-type: none"> <li>・過度に恐怖を感じていないかどうかを確認する</li> <li>・無理強いしない</li> </ul>	暴力NO (人が傷つくことを言わない)		
○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手との距離をおくことや危険な目にあつたとき「助けて!」と大声を上げたり防犯ブザーを鳴らしたりして周囲に知らせること、上手な断り方や危ない断り方があること、一人で留守番しているときには、インターフォンやチェーンをしたまま戸を開けないで対応する等を知り、今後の自分の行動に生かすようにする</li> </ul>	安全の配慮 安全の確認 パスOK		
○まとめる ・知らない人に出会ったときの対応の仕方についてまとめる			②自分なりの見方や感じ方をもつ		
<b>ふ</b> <b>り</b> <b>返</b> <b>り</b>	○ふり返る ・ふり返しシートに記入し、今日の学習をふり返る				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけ役は、必要以上に恐怖を与える演技をしないようにする</li> <li>・防犯標語の「おだこポリス4つのおやくそく」「いかのおすし」等でまとめてもよい</li> <li>・ロールプレイングの中で、言葉での対応とともに、危険を予知して身を守る行動を経験させたい。</li> </ul>				



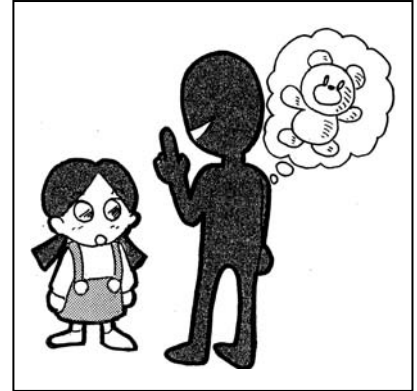
## 「知らない人に出会ったら」掲示資料

### ☆みちかな所で知らない人に会ったときはどうこたえる？

#### (1) 道でこえをかけられたとき

##### ① 「〇〇へ行くにはどうしたらいいの？」

- ア (よく知っている) おとなの人にきいてください。
- イ そのかどを右にまがってまっすぐです。
- ウ しりません。
- エ ちかくまでいっしょに行つてあげます。



##### ② 「くまのぬいぐるみをあげるよ」

- ア しらない人からもらってはおかあさんにしかられます。
- イ かわいい! さわらせて
- ウ わたし(ぼく)は、ほしくはありません。
- エ ありがとう。ほんとうにもらつていいの？



#### (2) 車からこえをかけられたとき

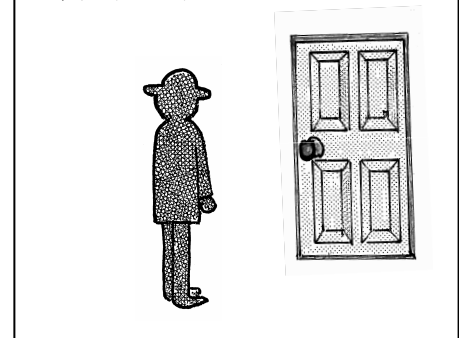
##### いえの人がにゅういんしたから車でおくつてあげるよ

- ア しらない人の車にのつてはいけないといわれています。
- イ びょういんはどこ? だれがにゅういんしたの?
- ウ すぐにつれて行つてください。
- エ じぶんでたしかめてみるので、だいじょうぶです。

#### (3) ひとりでいえにいるとき、人がきたら

- ア いえの人はいつかえるかわかりません。
- イ わたし(ぼく)一人なので、わかりません。
- ウ いえの中でまっつていてください。
- エ 〇〇さんがきたことをつたえます。

玄関に人が来たイラスト



# 知らない人にであったら ～ふりかえりをしよう～

年 組 なまえ

## 1 「知らない人にであったら」をがくしゅうしてどうでしたか？

・こわいおもいをしないように、知らない人にであったときはどうしたらよいか、よくわかったところに◎、だいたいできたところに○をつけましょう。

- ( ) しらない人にこえをかけられたときのこたえかた
- ( ) しらない人とのあいだ(きより)のとりかた
- ( ) いえにしらない人がきたときのこたえかた
- ( ) たすけをよぶときのこえのだしかた

## 2 「知らない人にであったら」のがくしゅうで、みちかなところで知らない人にであったときのやりかたをみにつけることができましたか

よくできた

まあまあできた

あまりできなかった

ぜんぜんできなかった



## 3 きょうのがくしゅうで、きづいたことやうれしかったこと、たのしかったことなどをじゅうにかいてください。

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>9 犯罪から自分の身を守ろう (役割演技で身につける)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や考え方をもつ ①自分の意見をもつ		<b>背 景</b>	群れ合い体験などの社会体験不足から 危険を感じ、回避する力が未成熟	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校や遊びに出かけたときの危機回避の方法や考え方を身に付ける</li> <li>・ロールプレイの体験を通して危険を感じ回避する力など、安全を見極め危機を回避する能力を身に付ける</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高		<b>実施時期</b>	新年度の早い時期(4月～5月)	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室・ホールなど	<b>活動場面</b>	特活(健康・安全) 総合
<b>準 備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・似顔絵(ロールプレイで使用するもの)</li> <li>・ワークシート……ロールの設定場面や台詞(せりふ)、学習内容を整理するもの</li> <li>・ふり返しシート</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		危険から身を守る方法や考え方を身に付けよう		
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人の似顔絵を提示しながら、ねらいと活動の流れをイメージしやすくする。</li> <li>※(1)～(3)の場面を一人ずつ体験できるようにアドバイスするが、強制的に役割を割り振ることがないように配慮する</li> <li>・不審者役は交替で行うよう指示をする</li> <li>・全体でロールを行う場合は教師が不審者役を行う</li> <li>・危険だと思ふ理由を引き出し、子どもの持っている先入観の危険性に気づくようにする</li> <li>・自分がその場面でどう対応するかを考えて記入するようにする</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>①自分の意見をもつ</li> <li>②自分なりの見方や考え方をもつ</li> <li>暴力NO</li> <li>パスOK</li> <li>持ち出し禁止</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人の似顔絵を見て、危険だと思ふ人物を挙げ、その理由を考える</li> <li>＜学校帰りに出会った人物＞</li> <li>(1)サングラスの若い男性</li> <li>(2)やさしそうな女性</li> <li>(3)犬を連れた年配の男性</li> <li>①ワークシートに(1)～(3)に出会った場面での言葉や行動について記入する</li> <li>②三人一組でロールプレイングを行う</li> <li>③何組か全体の前でロールプレイングを行い、見ている児童は気づいたことをワークシートに記入する</li> </ul>				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべくみんながいろいろな役をする。</li> </ul>				
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ふり返る</li> <li>・まとめる</li> <li>・ワークシートで「いか・の・お・す・し」を整理し、危険を見きわめ、回避する方法や考え方についてまとめる</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人の特徴や人相だけで人を判断することは、危険なことを押さえておく</li> <li>・児童一人ひとりの感じ方や気づきを大切に、必要以上に恐怖心を与えない</li> </ul>			

資料 危険（きけん）を感じ取って、犯罪（はんざい）から自分の身を守るために ワークシート  
・・・3人組でシナリオを作ってげきをしよう。・・・

(選んだ番号に○をつけよう)

### (1) サングラスの男の人

Aさんが学校帰りに一人で道を歩いていると、サングラスをかけた知らない男の人が、Aさんのすぐ横に車を止めました。窓をあけるとAさんにむすっとした声で話しかけてきました。

男の人：おい、このあたりにコンビニがあるだろう。どこだ。

Aさん：

男の人：にげるなよ。知ってるんだろ。車に乗れよ。  
(車からおりてAさんに近づこうとする)

Aさん：



### (2) やさしそうな女性

Bさんが学校帰りに一人で道を歩いていると、やさしそうな見たことのない女の人が、車からおりてBさんのそばにやってきました。

女の人：Aちゃん。お母さんにおむかえをたのまれたのよ。  
大変よ。お父さんがじこでね。びょういんにはこぼれたの。  
すぐに行きましょう。

Bさん：

女の人：おばさんのことおぼえているでしょ。Aちゃんがようちえんの時、  
いっしょにお母さんとりょこうしたでしょ。さあ、早くしないと、  
お母さんも妹を連れてびょういんでもっているから。

(Aさんのうしろに回ってせなかに手を回す)

Bさん：



### (3) 犬を連れてしらがの男の人

Cさんが学校の帰りに一人でちかみちの公園を歩いて帰ろうとしたら、犬をつれたしらがの男の人がしゃがみこんでいるのに気がつきました。Cさんは何かあったと思いちかよりました。

男の人：いてててて！。足をくじいて歩けなくてね。すまないが、  
この犬のつなをもってくれないかね。つえがないと歩けないんだ。

Cさん：

男の人：動物は好きかい？ うちにはもらい手をさがしている子犬や  
ハムスターがいるんだけど、いっしょに見に来ないか？

Cさん：



**犯罪(はんざい)から、自分の身(み)を守ろう  
ふり返りをしよう**

年 組( )

**1. 友達のげきを見て、気づいたことをメモしましょう。**

**2** 危ない目にあいそうなとき、どうしたらよいでしょう。

いか…  
の…  
お…  
す…  
し…

**3 危険(きけん)をかんじとって、犯罪(はんざい)から自分の身を守るために必要(ひつよう)なことについて、今日の学習で身に付けることができましたか**

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	ぜんぜんできなかった
4	3	2	1
└──────────┬──────────┬──────────┬──────────┘			

**4 「犯罪から自分の身を守ろう」の学習を通して、気づいたことやうれしかったこと、楽しかったことなどを自由に書いてください。**

タイトル (活動概要)	10 身近な道路の安全マップをつくろう			基本 体験	がまん
育てる力 関連スキル	「自分づくり」②自分なりの見方や考え方をもつ ①自分の意見をもつ		背景	群れ合い体験などの社会体験不足から危険を感じ、回避する力が未成熟	
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークの調査を通して危険を感じ、回避する力など安全を見極める能力を体験的に身に付ける</li> <li>・登下校や遊びに出かけたときの安全確認の方法や考え方を身に付ける</li> </ul>				
対象学年	小低・中		実施時期	新年度の早い時期(4月～5月)	
所要時間	45分×3	活動場所	教室・近隣地域等	活動場面	特活(健康・安全)・総合
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助指導員(保護者やくらし安全指導員などに依頼)</li> <li>・安全マップ……学区内の略地図に主な道路や目印となる建造物等を記入したもの</li> <li>・ふり返しシート</li> </ul>				
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導 入	<p>○活動のねらいを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">       身近な道路を歩いて、どんなところがあぶないか、たしかめましょう     </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが危険に巻き込まれた事件に触れて、身近にある危険箇所について意識を高める。</li> </ul>		
主 活 動	<p>○活動の流れ(やり方・内容)を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域の中での危険箇所や注意が必要な場所について、通学路等の生活道路を歩いて調べ、安全マップに記入する</li> </ul> <p>&lt;フィールドワーク&gt;</p> <p>(1)危険箇所等の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①人通りのすくないところ</li> <li>②見通しが悪いところ</li> <li>③入りやすく、見えにくい場所 など</li> </ul> <p>(2)助けを求めるところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①交番や消防署</li> <li>②こども110番の家</li> <li>③お店や知り合いのお家 など</li> </ul> <p>&lt;安全マップづくり&gt;</p> <p>(1)フィールドワークで調べたことを記入</p> <p>(2)写真などの資料もマップに添付</p> <p>○約束を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人に出会ったら、あいさつをする。</li> <li>・あぶないと思うところを見つけたら覚えてくる。</li> </ul>		<p>&lt;フィールドワーク前&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなところが危険箇所かをフィールドワークに行く前に整理する</li> <li>・子どもなりに危険を想定させ、様々な危険箇所に気付くようにする</li> <li>・自分が怖い思いをした経験をふり返る</li> </ul> <p>&lt;フィールドワーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・方面別に補助指導員を配置する</li> <li>・事前に整理した危険箇所を実際に確認させる</li> <li>・時間帯によって人通りの少ない道路もあることを確認する</li> <li>・遠回りでも安全な道路の確認をする</li> </ul> <p>&lt;安全マップづくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全に関する情報も安全マップに記入教師が整理する</li> <li>・危険箇所の見きわめ方についてまとめる</li> <li>・家の人との安全に関する約束ごとなども引き出す</li> </ul>		<p>①自分の意見をもつ</p> <p>②自分なりの見方や考え方をもつ</p> <p>暴力NO パスOK 持ち出し禁止</p>
ふ り 返 り	<p>○活動する</p> <p>○ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返しシートに記入する</li> </ul>				
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の危ないと思った体験を大切に、危険を見きわめる力を引き出す</li> <li>・安全を守る地域の方への感謝の気持ちを培い、必要以上に恐怖心を与えない</li> </ul>				

# 資料 安全マップをつくらう！

みんなを守ってくれる家や近くの交番などがあります。実際に通学路を歩いて被害にあいやすい場所や「いざ」というときにつうがくる知り合いの家や店などがどこにあるかをたしかめておきましょう！

- 子ども110番の家
- きけんな（声をかけられやすい）場所
- 交番、消防署、郵便局
- 暗くて見通しの悪いところ
- かけこめる知り合いの家
- かけこめる近くの店

## ※保護者様

安全マップをご参考にして、地域の安全確認のため、お子様と防犯に関する話合いをしてください。

(学校から家までの通学路や普段つかう道を赤い線で書きましよう)

# 身近な道路の安全マップをつくろう

～ふりかえりをしよう～

年 組 なまえ

## 1 「安全マップづくり」の学習を通してどうできたか？

○ 身近な地域ちいきでこわい思いをしないように、安全な生活を送るための見方や考え方について、良く理解できたところに◎、だいたいできたところに○を書きましょう。

- ( ) 地域ちいきの危険きけんなところの見きわめ方
- ( ) 安全に通行できる道路たしの確かめ方
- ( ) ふだんから地域ちいき社会で生活する心がけ

## 2 「安全マップづくり」の学習で、地域社会ちいきでの安全な過ごし方について、身に付けることができましたか

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	ぜんぜんできなかった
4	3	2	1

## 3 「安全マップづくり」の学習を通して、気づいたことやうれしかったこと、楽しかったことなどを自由に書いてください。



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>11 自助・共助の精神 (安心・安全な地域づくりのために)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や考え方をもつ ①自分の意見をもつ 「集団づくり」⑱問題や課題の解決策をみんなで考 える	<b>背 景</b>	群れ合い体験などの社会体験不足から 危険を感じ、回避する力が未成熟		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に潜む様々な危険を予測し、危機を回避し安全な行動がとれるようにする</li> <li>・犯罪から自分を守るためには、自分の力だけでなく、助け合うことが必要なことを知る</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	中1・中2・中3・高		<b>実施時期</b>	新年度の早い時期 (4月～5月)	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特活(健康・安全)、総合学習
<b>準 備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料「防犯のポイント」(神奈川県警生活安全総務課)</li> <li>・ワークシート①、②……ロールの設定場面や台詞(せりふ)、学習内容を整理するもの</li> <li>・ふり返しシート</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが危険に巻き込まれた事件を話し、身近な地域社会の中で、様々な犯罪被害に会う可能性があることについて意識を高める</li> </ul>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           犯罪被害防止について、個人でできること、協力が必要なことはなんだろう         </div>				
<b>主 活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る				①自分の意見をもつ ②自分なりの見方や考え方をもつ  ⑱問題や課題の解決策をみんなで考 える
	①資料(ワークシート「安心・安全な地域づくりのために」)を読み、危険だと思う場所と理由を整理し、犯罪被害防止のために個人でできること、協力が必要なことをワークシートにまとめる ②ワークシートに不審者に会った場面での対応について記入する ③3人一組でロールプレイングを行う ④何組か全体の前でロールプレイングを行い、見ている生徒は気づいたことをワークシートに記入する ⑤ワークシートに記入したことをもとに、個人でできること、協力してできることについてグループで話し合い、発表する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が怖い思いをした経験を振り返る</li> <li>・資料から、どんなところでどんな犯罪が発生しているかを引き出す</li> <li>・自分がその場面でどう対応するかを考えさせる</li> <li>・不審者役は交替で行うよう指示をする</li> <li>※一人の場合と二人の場面を一人ずつ体験できるようにアドバイスする</li> <li>・全体でロールを行う場合は教師が不審者役を行う</li> </ul>		
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				パスOK 暴力NO  持ち出し禁 止
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ、いろいろな役を交替で経験する</li> <li>・ロールプレイ終了後、持ち出し禁止のルールを必ず守る</li> </ul>				
	○活動する				
	○ふり返る・まとめる				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイで体験した感想を整理し、危険を見きわめ、回避する方法や考え方についてまとめる</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪被害防止の視点から、危険を予測し回避する見きわめ方を引き出す</li> <li>・ロールの役割については強制的に行わないようによく注意する</li> <li>・一人ひとりの感じ方や気づきを大切に、必要以上に恐怖心を与えない</li> </ul>				

# 資料 ～ 安心・安全な地域づくりのために ～ ワークシート①

( ) 年 ( ) 組 氏名 ( )

## 地域ぐるみで防犯を！

「防犯のポイント」(神奈川県警生活安全総務課)より

**地域の皆さん方、一人一人が結束し、犯罪者を近づけない環境を作っていくことが大切です。**

### ○ 声をかけあう！

犯罪者は声を掛けられることを嫌います。

ご近所同士のあいさつ、また、見知らぬ人にもあいさつなどで声を掛けましょう。

### ○ 公共場所をきれいに！

犯罪者は、掲示板の掲示物が剥がれていたり、ゴミ集積所が汚れているなど街のルールが守られていない街を狙っています。ルールが守られていない街は、防犯体制も手薄であると考えられます。

### ○ 環境の改善を！

地域で知恵を出し合い、人通りが少ない暗い道を明るくするなど、犯罪を誘発する要因の改善に努めましょう。

## ① 上の資料を読んで、危険だと思う場所を挙げ、未然防止のための対策を考えましょう

日常生活に潜む様々な危険(犯罪被害)に対して		
犯罪が起こりやすい場所 (想定される犯罪)	個人としての予防策と対応	地域・友人等と協力した 予防策と対応

## ② 3人組でロールプレイングをしましょう

### ○ ロールプレイのシナリオ

場面； 車に乗ったサングラスの男の人に突然声をかけられたら あなたはどう対応しますか？

Aさんが学校帰りに一人(またはBさんと二人)で道を歩いていると、サングラスをかけた知らない男の人が、Aさんのすぐ横に車を止め、Aさんに向かってドスのきいた声で話しかけてきました。

男の人：おい、このあたりにコンビニがあるだろう。どこだ。

Aさん：

(Bさん)：

男の人：逃げるなよ。知ってるんだろ。車に乗れよ。

(車からおりてAさんに近づこうとする)

Aさん：

(Bさん)：

**自助・共助の精神 ワークシート②**  
～ 安心・安全な地域社会づくりを目指して ～  
ふり返りをしよう

年 組( )

**1. 日常生活に潜む様々な危険（犯罪被害）に対して**

わたしは次のように対応します  
個人として

友人や地域と協力して

**2 ロールプレイを見て、気づいたことをまとめましょう。**

**3 危険を感じ取って、犯罪から自分の身を守るために必要なことについて、今日の学習で身に付けることができましたか**

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	ぜんぜんできなかった
4	3	2	1
----- ----- ----- -----			

**4 「犯罪から自分の身を守ろう」の学習を通して、気づいたことやうれしかったこと、楽しかったことなどを自由に書いてください。**

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>12 響くよ心 トーンチャイムで友達と(相手と合わせて楽しむ)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や考え方をもつ ③自他のよさを見出す		<b>背景</b>	群れ合い体験の不足から、集団の中で自分を表現することに抵抗を感じる子どもがいる	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよさを認め、安心して音を出すと同時に、友だちの音を聴いて重なり合ったり響きあったりすることの心地よさを知る</li> <li>・自分の音を聴いてもらうことで学級への帰属感を高められる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	20分～45分	<b>活動場所</b>	音楽室	<b>活動場面</b>	音楽
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トーンチャイム(クラスの数分)、ワークシート(中高学年はA、低学年はB)</li> <li>・音楽室など広く、自由に歩ける場所</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る トーンチャイムの響きを友だちと重ねてもっと美しい音色にしよう				
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る			
①基本の方法で響き合いを楽しむ ・一本ずつトーンチャイムを持ち、輪になって一回ずつ順番に鳴らし、響き合いを聴く ②輪のまま、様々なバリエーションの響き合いを楽しむ ・2回ずつ鳴らす ・次の人が入るタイミングは自由 ・残響を聴きながら次の人が入ってよいタイミングを自分が目の合図で教える ・並び順をシャッフルする ……など ③輪を崩し、しゃべらないで自由に出会った人とトーンチャイムで会話し、響き合いを楽しむ ・最後は1回同時にならすことを握手のかわりにする					
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				②自分なりの見方や考え方をもつ  ③自他のよさを見出す  暴力NO  パスOK  持ち出し禁止
	○活動する				
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが安心して扱える楽器なので、児童への負担が少ない</li> <li>・扱い方には友だちにぶつかったりすることのないように事前指導が必要</li> <li>・クラス集団がしっかりとルールを守る状態であることが必要</li> </ul>			

## 響くよ心～トーンチャイムで友だちと～

年 組 名前 (                      )

自分が選んだ音は                      です。

この音は                      な感じだから好きです。

① 活動が始まる前の自分の心の色を書きましょう。

私の心の色は                      です。

② 輪になってトーンチャイムをならしたときは、どんな気持ちでしたか？

③ 出会った人とならして、音が重なったときは、どんなきもちでしたか？

④活動がおわったあとの自分の心の色を書きましょう。

私の心の色は                      です。

自由に感じたことを書いてください。





# 響くよ心～トーンチャイムで友だちと～

年 組 名 前 ( )

わたしがえらんだ音は  です。

この音は

だからすきです。

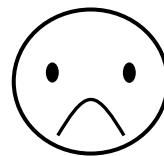
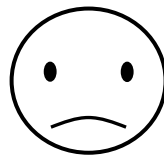
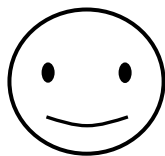
1. この <sup>じゅぎょう</sup>授 業 は、<sup>たの</sup>楽しかったですか。

すごく<sup>たの</sup>楽しかった

まあまあ <sup>たの</sup>楽しかった

あまり<sup>たの</sup>楽しくなかった

<sup>たの</sup>楽しくなかった



( )

( )

( )

( )

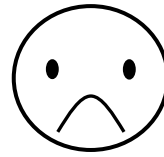
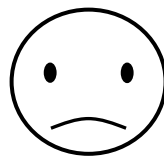
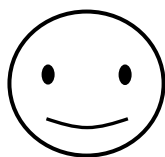
2. <sup>きも</sup>ともだちと気持ちよく音を重ねることができましたか。

よくできた

まあまあ できた

あまりできなかつた

できなかつた



( )

( )

( )

( )

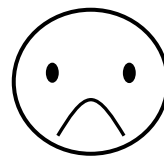
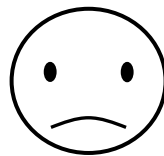
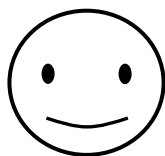
3. <sup>きも</sup>ともだちと音ではなしができましたか。

よくできた

まあまあ できた

あまりできなかつた

できなかつた



( )

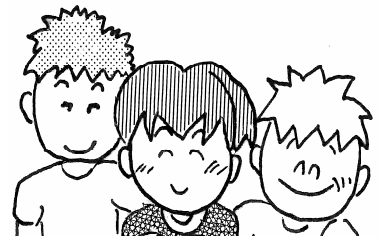
( )

( )

( )

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>13 簡単リコーダーリレー (相手に合わせる)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や考え方をもつ ③自他のよさを見いだす		<b>背景</b>	群れ合い体験の不足から、集団の中で自分を表現することに抵抗を感じる子どもがいる。	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級のみんが聴いている中で、3音だけの簡単なリコーダー奏をすることを通して、自己表現の経験をもち、自信を深める</li> <li>・自分の演奏に合わせて学級全員が演奏してくれる経験を通して学級への帰属感を高める</li> <li>・直前の子の演奏を聴いて、最後の音に合わせて、互いに認め合う経験をもつ</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	・小低・小中・小高・中1		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	5分～10分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	朝の会 音楽
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダー各自1本</li> <li>・演奏のパターン例を示した掲示物(ソソソ・ラララ…) ・指使いを示した掲示物(必要に応じて)</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	<b>○活動のねらいを知る</b> ・ソソソ・ラララ…など片手でできる3音のリコーダーの演奏を、教師の演奏のあとに続いて全員で演奏する (教師ソソソ→全ソソソ→教師ラララ→全ラララ)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で音をそろえる心地よさを感じ取らせる</li> <li>・全員が3音なら演奏できるという条件になるまで無理にリレーをしない</li> </ul>		
<b>主活動</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">リコーダーリレーでみんなの心をつなげよう</div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーが苦手な子の様子を見ながら、実態によっては教師と全員という導入の活動を多くする</li> <li>・つかえて再スタートする場面では、「つかえるのが当たり前ほど難しい」ということを強調する</li> <li>・演奏のレベルを上げる例 (レベル2)ソララ・ソラシ・シシラなどのように1音ずつ隣の音に変えていく (レベル3)前の人の演奏の最後の音から自分の演奏をはじめる ソララ→ラシシ→シラソ…</li> </ul>		②自分なりの見方や考え方をもつ  ③自他のよさを見いだす  暴力NO  パスOK  持ち出し禁止
<b>ふり返り</b>	<b>○約束を知る</b> ・途中でつかえる子がいてもそこから再スタートする  <b>○活動する</b>  <b>○ふり返る</b> ・活動の初期は教師からがんばった子について話す ・全員でつながってできたところに、ふり返りシートを使う		※毎日の朝の会や、音楽の時間の導入に、1グループずつで継続して行うことが効果的		
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つかえる子が出てきたときに、苦手なことであっても挑戦している姿勢に価値があることを伝える</li> <li>・苦手な子に対して個別指導に機会をつくることも場合によっては必要</li> <li>・模擬授業的な研修で教師自身がこの活動を体験し、たとえ3音だけでも一人で演奏することの緊張感に共感できるとよい</li> </ul>				

「リコーダーリレー」  
かつどう  
～活動をふりかえろう～



名前 ( )

4 よくできた    3 まあまあできた    2 あまりできない    1 できなかった

- |                          |         |
|--------------------------|---------|
| 1 自分からすすんで取り組むことができましたか  | 4-3-2-1 |
| 2 活動を楽しむことができましたか        | 4-3-2-1 |
| 3 自分の演奏を楽しむことができましたか     | 4-3-2-1 |
| 4 リレーがつながってよろこぶことができましたか | 4-3-2-1 |

○ 「リコーダーリレー」の感想を書こう



タイトル (活動概要)	<b>14 小中交流体験授業 (クラブ活動への参加)</b>				基本 体験	被受容	
育てる力 関連スキル	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ③自他のよさを見いだす 「仲間づくり」⑩さわやかにあいさつする ⑮しっかり話を聴く	背景	「自分は必要とされている存在」と思える自己有用感が未成熟				
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生から頼りにされ、自分は役に立っているのだという『自己有用感』を体感する</li> <li>中学校への安心感や中学生から専門的な技術等を教えてもらう喜びを体験する</li> </ul>						
対象学年	小中・小高・中1・中2		実施時期	8～12月(小中間で調整)			
所要時間	90分×(4)回	活動場所	出身小学校	活動場面	総合・クラブ活動		
準備	各クラブに必要なもの ・名札 ・筆記用具 ・ふり返しシート						
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等			ルールとねらい	
導 入	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">小学生に教えてあげよう・中学生に聞いてみよう</div>						
	主 活動	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①第1回「みんなと話そう! 名前を覚えよう!」 ・「70 仲良し握手」「72 自己紹介すごろく」「68 友だち紹介をつなごう」等のプログラムを実施する ②第2回「たくさん話をしよう!」 ・「50 サイコグループトーク」等のプログラムから入り、グループでクラブ活動について話題にする ③第3回「実践Ⅰ「アドバイスをしてみよう!」 ・クラブについて具体的な技術を伝える ④第4回実践Ⅱ「さらに必要なアドバイスを」 ・相手が必要としているより深い具体的技術を伝える  ○約束を知る ・「よろしくお願いします」「ありがとう」などのあいさつをする ・中学生は小学生が楽しめるように心がける ・小学生は中学生に感謝の気持ちを表す言葉を言う			・名札を胸につける ・椅子を輪にして並べ、お互いが話しやすい雰囲気作りをする  ・数回にわたって取り組む中で、必要としているアドバイスについて考えさせていく  ・「取り組んでよかった」と思えるような言葉がけをしていく ・本人の気づきがあるような言葉がけをする		
ふ り 返 り		○活動する					
	○ふり返る			・体育館や多目的ホールに集まり、小中学校の教員から小中それぞれ達成できたことを伝える			暴力 NO  パスOK  持ち出し禁止
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中連携による企画、立案、及び綿密な打ち合わせをする(特に会場となる小学校側の理解・協力が重要)</li> <li>小中での児童生徒への意識づけ、小中実行委員での打ち合わせ等をする</li> <li>「ふり返し」の大切さと必要性を小中の教員が共通理解する</li> </ul>						



## 小中交流体験授業(クラブ活動)

年( )組( )名前( )

第1回 ねらい「みんなと話そう！ 名前を覚えよう！」( 月 日)

☆あなたの今回の目標

☆やってみて (反省・感想)

第2回 ねらい「たくさん話をしよう！」( 月 日)

☆あなたの今回の目標



☆やってみて (反省・感想)

### 第3回 ねらい「アドバイスをしてみよう！」( 月 日)

☆あなたの今回の目標

☆やってみて (反省・感想)



### 第4回 ねらい「さらに必要なアドバイスを！」( 月 日)

☆あなたの今回の目標

☆やってみて (反省・感想)



### 全体のまとめ

☆リーダーとして、中学生としてできたこと

☆全体を通しての反省・感想

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>15 気持ちを整理しよう</b>  (感情のコントロールを身につける)			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ		<b>背景</b>	自分の感情をコントロールできない	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の悩みや気持ちと向き合い、自分の感情を自分でコントロールする</li> <li>自分の心の中で気になっていることを整理し、気持ちを安定させる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小・中個別・中・高		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	帰りの会・特別活動
<b>準備</b>	・ワークシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る  心に浮かんだことをいろいろ取り出して、気持ちの整理をしてみよう				
<b>主活動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ・軽く目を閉じて、深呼吸し、楽な姿勢をとる ・目を閉じたまま、最近のこと、今日一日の自分をふり返って、気になっていることや困っていることはないか考える ・浮かんできたことを順番に、ワークシートの箱に書く（自分のペースで書く）  ○約束を知る ・声を出さずに静かに行う  ○活動する		・ゆったりとした気持ちで行えるよう、間をとりながら声かけをする ・気になることがない場合は嬉しかったことなどでもよい。 ・言葉ではなく、記号や絵などで表現させてもよいし、箱にふたをしたり、鍵をかけさせたりしてもよい  ・身体がどのように感じているかについても投げかける		②自分なりの見方や感じ方をもつ ①自分の意見をもつ  パス OK
<b>ふり返り</b>	○ふり返る ・気持ちを箱の中に入れて、どんな感じがしたか、終わったときの感じをワークシートの中を書く。思ったことを班で発表し合い、クラス全体でふり返る		・不安なことや、相談したいことがあれば、相談する時間を確保することを伝える		安全の配慮
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不適応感の強い子どもにとっては、不快な情動を再体験する場になることもあるので無理強いをしない</li> <li>活動中の子どもの様子をよく観察しながら実施する。必要があれば個別に対応し心のケアをする</li> </ul>				



## 気持ちの整理カード

月 日

名前( )

☆はこの中に、自分が気になっていることや、こまっていることを1つずつ書きましょう。絵や記号を使って表してもよいです。


☆書き終えて、自分の身体や気持ちがどうなったか振り返ってみましょう

---

---

---

---

---

☆先生に相談したいことや話したいことがある人は、知らせてください。

## コラム:気持ちを整理する(フォーカシング)

現代の子どもたちは、自分の心の中のもやもやした感情(問題)を、「ムカツク」などの画一的な表現で表すことが多くなっている。自分の気持ちをはっきりと認識したり、また、そのもやもやの原因がどこにあるのかを感じ取ったりしながら、気持ちそのものに対処していこうとする力が弱くなってしまった子どもたちは、短絡的に暴力やいじめ等の問題行動に走ってしまいがちである。

本プログラムは、自分の心の中のごちゃごちゃになった問題やはっきりしないもやもやした感じを、自分が安心できる空間的なイメージの中に整理することで、心の余裕を生み出していこうとする「フォーカシング」と呼ばれる技法を用いている。プログラムを継続実施することにより情緒の安定が図られ、問題認識やそれに取り組む積極性、気持ちを整理することへの満足感などが高まる。

自分の感情や、悩み等、他人には知られたくないことを書くことができるように、安全には、万全の配慮をもって行う必要がある。学級が教師によってきちんとコントロールされ、安全・安心の学級風土の中で実施したい。言葉ではなく、自分しかわからないイラストや暗号などを使って書いてもよいとしたり、相談したいと思っている子に対して後でフォローできるシステムを準備したりすることも重要である。

この活動を通して、子どもが自分の悩みや気持ちとていねいにつきあっていく姿勢を身につけていってほしい。

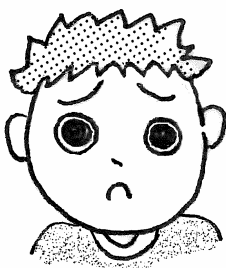
気持ちがすっきりした

もやもやの原因が何となく分かった



体が軽くなったような気がする

## コラム:考え方を広げる



自分に起こった出来事をどう考えるかによって、自分の感情や行動は変化してくる。前向きに考えたり、相手の立場に立って考えたりすることで、自分の気持ちにゆとりをもつことができる。

子どもは様々な経験を通して、客観的な考え方や視野を広げながら成長する。しかし、経験の少ない子どもや、不安や苦痛を強く感じやすい子どもは、物事や周りの状況やを一面的にとらえ、ストレスを溜め込んだり、感情的になったりする傾向が見られる。

「19 考え方を広げよう」は、他の人がどう感じるか、人の意見を聞くことを通して、複眼視的な思考力を伸ばすことで、子どもの考え方を変化させることをねらいとしたものがある。

タイトル (活動概要)	16 くっつき虫 (気持ちを合わせる)			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ④自他の違いを知る		背景	身体を通した集団と自分の 関わりを意識できない	
活動のねらい	・仲間と気持ちを合わせることの大切さを実感する ・身体接触を通して、相手とのかかわりを意識する				
対象学年	小低～高校		実施時期	通年	
所要時間	5～15分	活動場所	広い場所	活動場面	体育・集会
準備	・動きやすい服装      ・ふり返しシート				
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導 入	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">くっつき虫になって、相手と合わせて動こう</div>				
主 活 動	○活動の流れ(やり方)を知る ①二人組になり、自分の右肩と相手の左肩がくっついたり想定し、教師の指示で、そのまま歩いたり、立ったりする ②教師の指示で、くっつく場所を変えて、同様に動く(例)背中、頭、すね、うで、ひざ等		・身体接触を嫌がる子には無理強いしない ・体に無理がかかっているか、声をかける ・適宜、二人組を変える		暴力 NO  パス OK
	○約束を知る ・相手と離れないようにして動く				④自他の違いを知る
	○活動する				②自分なりの見方や感じ方をもつ
ふ り 返 り	○ふり返る ・二人組になって、自分がどのような動きをしたか、相手の動きをどう感じたかについて話し合う		・身体接触を通して、友達の温かさを自然に気づいたり、自分の動きや相手の動きを意識したりする 発言があれば、取り上げたい		
配慮事項		・身体接触を伴うので、グループ構成(男女別など)に配慮する ・楽しく参加できるよう配慮し、参加を強要しないようにする			

くっつき虫 ふり返りをしよう

月 日 くみ( )なまえ ( )

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった

① たの 楽しく <sup>きょうりよく</sup>協力 <sup>かつどう</sup>して活動できましたか

4 | 3 | 2 | 1

② あいて 相手の <sup>うご</sup>動き <sup>かん</sup>を感じながら <sup>うご</sup>動くことができましたか

4 | 3 | 2 | 1

③ この <sup>がくしゅう</sup>学習 <sup>じぶん</sup>をして、<sup>ともだち</sup>自分や友達について、<sup>あた</sup>新 <sup>はっけん</sup>しい発見 <sup>き</sup>や気づきがありましたか

4 | 3 | 2 | 1

④ <sup>がくしゅう</sup>学習 <sup>かん</sup>をして感じたことを <sup>か</sup>書きましよう

.....

.....



.....

.....

.....

.....

.....

.....



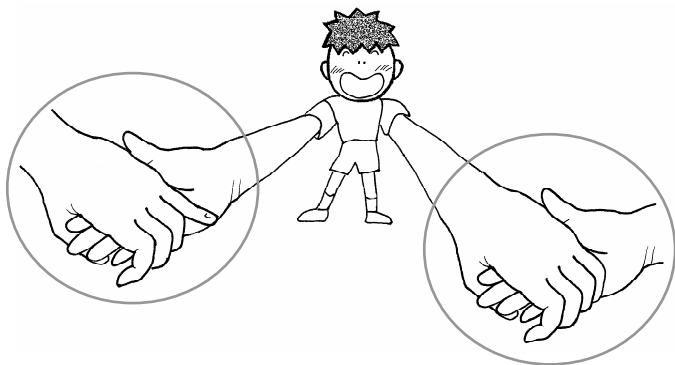
<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>17 いい詩だなあ、好きだなあ！</b> (様々な感じ方を分かち合う)			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ④自他のちがいを認める		<b>背 景</b>	画一的な価値観にとらわれ、自 分の感じ方を大事にできない	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人とは違う、自分なりの感じ方を大切にする</li> <li>・詩をじっくりと味わう中から詩の多様性を発見する</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高・中・高		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	国語(読書アニメーション)・総合
<b>準 備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者名を伏せた詩を7～8編印刷したシート(基準:時代が偏らない・あまりに有名な作品は避ける・様々な傾向の作品を取り混ぜる等、それぞれにA,B,C・・・と整理記号をつける)(人数分)</li> <li>・ワークシート</li> <li>・ふり返しシート</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		好きな詩を選んで友達と交流し合おう		
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに好きな順に記号を書く</li> <li>・教師は黒板に一覧表を貼る (グループのときは、グループごとに司会と記録用紙を用意する)</li> <li>・発表順に(発表者の名前は書かない) Aが2位、Bが6位・・・というように記入していく</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①配られたプリントの詩を読む</li> <li>②自分が好きな順に、詩に番号をつける</li> <li>③一番好きな詩についてその理由を考える</li> <li>④グループまたは全員の前で、各自が好きな詩の順番を言いながら、1位をつけた詩について、なぜ一番好きなのかを発表する</li> <li>⑤それぞれの詩の作者名を聞く</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>②自分なりの見方や感じ方をもつ</li> <li>④自他のちがいを認める</li> <li>暴力NO</li> <li>パスOK</li> </ul>			
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人それぞれの感じ方のよさを認められるようなふり返しを賞賛する</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達が理由を言うときは、頷きながら聞く</li> </ul>				
<b>配 慮 事 項</b>	○活動する				
	○ふり返る				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返しシートに、活動して気づいたこと、詩を好きな理由、友達の感じ方とのちがい等感じたことを記入する</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる時代の詩を選ぶためのすぐれた文献リストを作成しておくとい</li> <li>・小中高生が理解できることを前提にすると明治以降のものを多く扱う</li> </ul>			



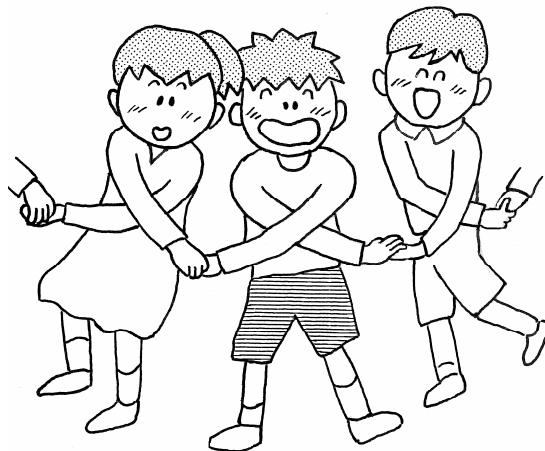


<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>18 人間ちえの輪 (気持ちを合わせる)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ④自他の違いを知る		<b>背景</b>	身体を通した集団と自分の関わりを意識できない	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちえの輪をほどく作業を通して、コミュニケーションの大切や仲間と気持ちを合わせることの大切さを実感する</li> <li>・身体接触を通して、集団の中での自分の動きを意識する</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	5～15分	<b>活動場所</b>	広い場所	<b>活動場面</b>	体育・集会
<b>準備</b>	・動きやすい服装    ・ストップウォッチ				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">         みんなの動きに気をつけながら、ちえの輪をつくったり、ほどいたりしよう。       </div>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方）を知る				
	①右手が上側、左手が下側になるように手をつなぎ、10～15人で手をつなぎ輪になる ②ちえの輪をほどく役を2人決め、グループの動きが見えないように待つ ③グループは手をつないだまま自由に動いてちえの輪を完成させる ④ちえの輪ができたなら、ほどく役の2人は、指示を出してちえの輪をほどいていく			・ちえの輪を複雑にしようとして、自分や相手の身体に負担がかからないように配慮できるように言葉かけをする ・身体接触を嫌がる子には無理強いしない ・体に無理がかかっているか、声をかける ・ちえの輪をほどくのに時間がかかるなら降参とする	
	○約束を知る ・ちえの輪を完成するまで黙ってやる ・ちえの輪役の人は、勝手に動いたりせず、言われたとおりに動く ・手を離してはいけない ○活動する			・ほどくまでの時間を計って競ってもよい	
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る				
	・グループの中で自分がどのような動きをしたか、どうかかわったかについて気づいたことや感じたことを話し合う			・身体接触を通して、友達の温かさを自然に気づく発言があれば、取り上げたい	
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体接触を伴うので、グループ構成(男女別など)に配慮する</li> <li>・ほどく役の子は、強引に輪をほどこうとしないように注意する</li> <li>・楽しく参加できるよう配慮し、参加を強要しないようにする</li> </ul>				

## 知恵の輪こうやって



右手が上、左手が下というように、同じやり方でつないでいかないと、ねじる時に難しくなる。また、途中でつないだ手を離してつなぎ変えたりすると後でとけなくなってしまう。



### 対人関係へのウォーミングアップ

#### ～ふれあうということ～

対人関係とは、人と人とのふれあいによって学ぶものである。〈ふれ合い〉とは、まさに心と心、からだとからだに触れ合うことが基本である。心のふれ合いと、体のふれ合いは、それぞれのふれ合いを促進する。

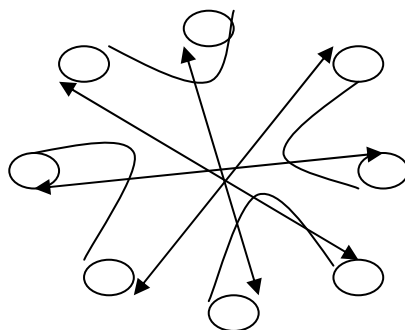
手をつなぎ、相手の温かさを感じることで、相手の存在が近くなり、互いの親近感が増していく。仲良くなれば、自然と手をつなぎたくなる。人は、とりわけ子どもは他の人と「ふれ合い」、信頼感を確かめたいものなのである。

集団の雰囲気や人間関係をより深めていくには、体のふれ合い、身体接触を含むプログラムを意図的に活用することが効果的である。本プログラムは、極めて自然な身体接触を作り出し、それによって信頼感が生まれることを実感することができる。集団がとけ合ったところに生まれる受容的雰囲気は、集団の学習効果を大きく押し上げることが期待できる。

### 知恵の輪バリエーション

自分のグループの知恵の輪を、自分のグループで解くときには、次のような方法で知恵の輪を作って解かせるとよい。

輪になって、対角線にあたる人と右手と右手をつなぐ。隣の人とは左手と左手をつなぐ。



このやり方で行うと、解いたときに、交互に内向き、外向きとなる。



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>19 考え方を広げよう (前向きに考える練習をする)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ④自他のちがいを認める		<b>背 景</b>	様々な人とのかかわりが少なく、いろいろな考え方があることに気づく機会がない	
<b>活動のねらい</b>	・同じ状況でも考えによって気持ちが変わってくることに気づき、前向きに考えることで自分の感情をコントロールしようとする				
<b>対象学年</b>	小高		<b>実施時期</b>	5年保健学習「心の健康」の中で	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	体育科 (保健学習)
<b>準 備</b>	・ワークシート ・ストップウォッチ				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・同じできごとでも、考え方によって違う気持ちになることを知る		・テストの点数が同じでも、落ち込む子どもと喜ぶ子どもの考えの違いについて話し合う		暴力NO (友達の考えを否定しない) パスOK ④自他の 違いを認める ②自分なりの見方や感じ方をもつ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           安心して穏やかな気持ちになる前向きな考えをたくさんみつけよう         </div>					
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ (やり方・内容) を知る ①ワークシートの課題について、安心して穏やかな気持ちになれる前向きな考えを2つ以上書く(個人で) ②各自が書いた考えをグループで出し合って、話し合う ③クラス全体でグループの中で出た前向きな考えをいくつか発表する		・各自で考えさせ、ワークシートに記入させる ・記入していない考えもグループの中で出してよいことを伝える		
	○約束を知る ・友達の考えたことを肯定的に聞く		・前向きな考えがたくさん出たことを賞賛する		
	○活動する		・考えによって感情や行動が変わることへの気づきや感想があったら賞賛する ・逆の「否定的な考え→不安・悲しみ→後ろ向きな行動」を付け加えて説明してもよい		
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・日頃の自分の考えが自分の感情や行動にどのように影響しているか、また、前向きな考えをするとよい点などを話し合う				
	○まとめる ・前向きな考え→安心して穏やかな気持ち→前向きな行動の関係について知る				
<b>配慮事項</b>	ふり返り項目:前向きな考えだと、どのようなことが変わるでしょう(自由記述) ・コラム→「20 気持ちを整理しよう」参照				

〈課題1〉

朝、友達が向こうの方から歩いてくるのが見えました。あなたは「おはよう」と声をかけましたが、友達はだまって行ってしまいました。

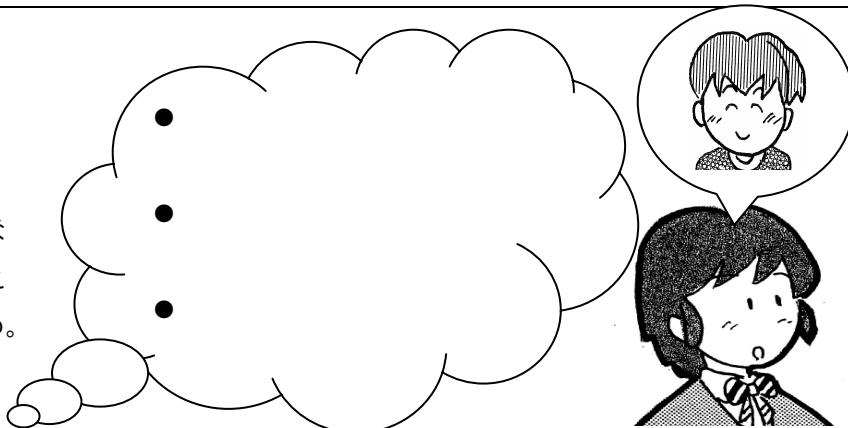
さあ、いやな気持ちにならないために、どんな前向きな考えを思いうかべたらいいでしょう。



〈課題2〉

遊ぶ約束をしていたのに、友達が約束の時間をすぎても、なかなかあられしません。

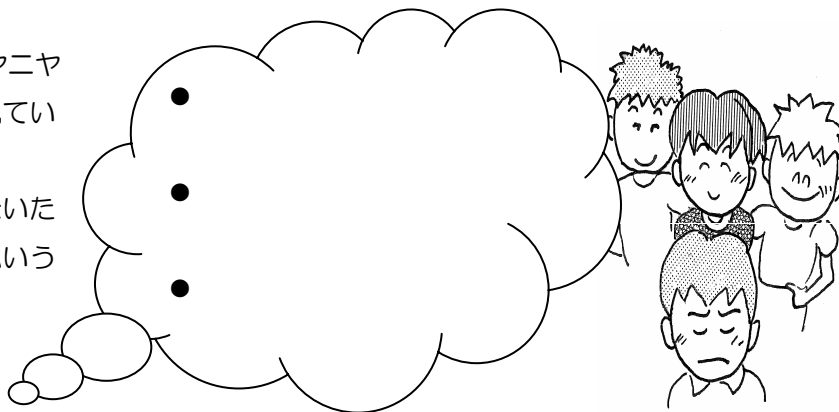
さあ、いやな気持ちにならないために、どんな前向きな考えを思いうかべたらいいでしょう。



〈課題3〉

クラスの友達が集まってニヤニヤ笑いながら、あなたのほうを見ています。

さあ、いやな気持ちにならないために、どんな前向きな考えを思いうかべたらいいでしょう。



ふり返りをしよう

☆今日の活動は、

	4	よくできた	3	まあまあ	2	あまりできなかった	1	できなかった
1 楽しく活動できた	4	—	3	—	2	—	1	
2 前向きな考え方をすることができた	4	—	3	—	2	—	1	
3 前向きな考え方のよさがわかった	4	—	3	—	2	—	1	

☆活動をして感じたことを書こう

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>20 いろいろな気持ちを表現してみよう</b> (気持ちに気づく・伝える)			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ④自他のちがいを認める ⑬気持ちに共感する		<b>背景</b>	自己肯定感が低く、自己受容、 他者理解の力が乏しい子どもが多い	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちに気づき、表現できるようになる</li> <li>・友だちの気持ちに気づき温かい声かけができるようになる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高・中1		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	学級	<b>活動場面</b>	国語、保健、
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・表情シート(1人1枚)</li> <li>・表情カード(グループ毎)</li> <li>・色鉛筆</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分の気持ちに気づき表現してみよう</div>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る				②自分な りの見方 や感じ方 をもつ ④自他の ちがいを 認める パスOK
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①いろいろな気持ちをワークシートに書く</li> <li>②書いた気持ち(感情)に合った色を考え、言葉の枠の中を色鉛筆でぬる。</li> <li>③書いた言葉と色をグループ、または全体に発表して共有する</li> <li>④書いた気持ちの中で、今日の自分の気持ちを選ぶ</li> <li>⑤今日の自分の気持ちを表す表情カードを選ぶ</li> <li>⑥グループの中で、順番に表情カードを見せながら、今日の気持ちの理由を述べる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入することで自分の中に、たくさんの気持ちがあることに気付かせる</li> <li>・子どもの実態に合わせて、約束を設定し、守らせる</li> <li>・共感的な温かい言葉をかけられるように、教師が見本を示す</li> </ul>		
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				⑬気持ち に共感す る 持ち出し 禁止
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いている人は、うなずきながら聞く(①～③)</li> <li>・聞いている人は、話した人に温かい言葉をかける(④～⑥)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;発達段階によって①～③まででもよいし、①～④でもよい。また、①～③までと、④～⑥までを分けて実施してもよい&gt;</li> <li>&lt;⑤⑥のみを日常の朝や帰りの会で継続して行うと効果的である</li> <li>→「21 今日の気分は」&gt;</li> </ul>		
	○活動する				
	○ふり返る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の活動について感じたことや気付いたことを発表する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな気持ちがあることや、それを表現する難しさをフィードバックする</li> </ul>		
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・否定的な感情も人間の中にはあることを認めながら、様々な感情があること、その表現は人によって違うことに気付かせる</li> </ul>				



## <いろいろな気持ちを表現してみよう>ワークシート



年 組 名前 (

### ① いろいろな気持ちを表現してみましょう

☆生活の中で、感じている「気持ちを表す言葉」を、思いっただけ、なるべくたくさん書いてみましょう。下のマスの中に、一つずつ書きましょう


☆それぞれの気持ちにあう色を選んで、その言葉のわくの中をぬりましょう（たとえば、幸せな気持ちには黄色など）

### ② 書いた気持ちを表す言葉の中から、今日の気分が一番あうものに○をつけましょう

### ③ 表情シートから、上で○をつけた気分が一番合うものを選びましょう

### ④ 表情カードを（または○をつけた表情シート）見せながら、このカードを選んだ理由を話しましょう

#### ☆ 学習の振り返りをしましょう

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 いろいろな気持ちがあることを発見できましたか 4 3 2 1

2 自分の気持ちを見つけることができましたか 4 3 2 1

3 自分や友達のこと、気づいたことや感じたことがあったら書きましょう


---



---

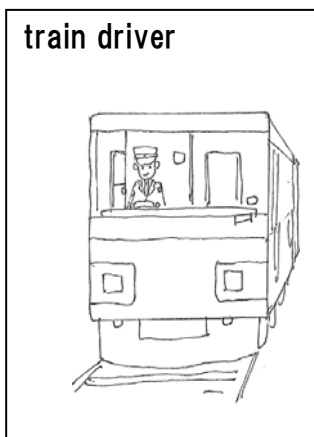
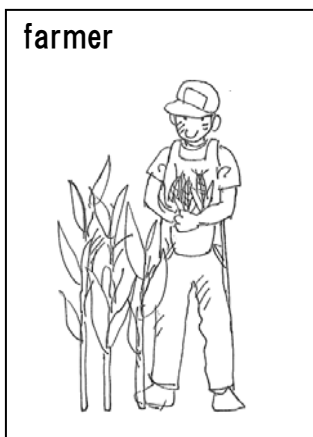
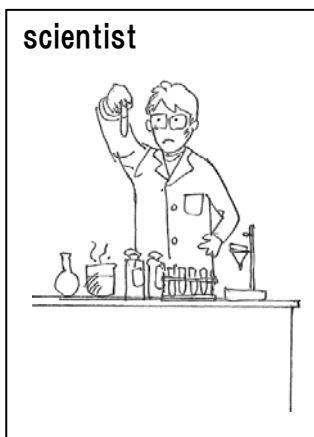
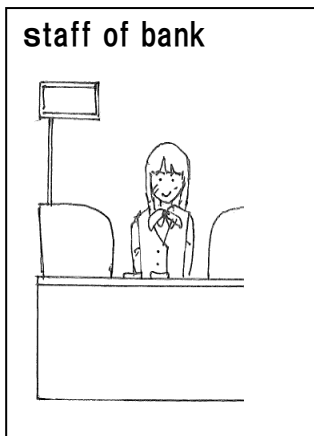
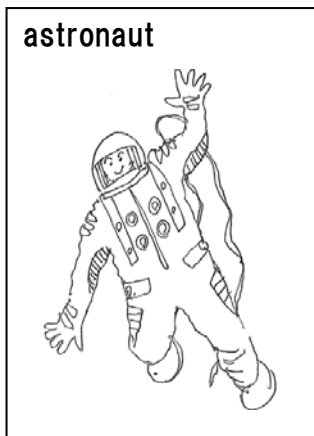
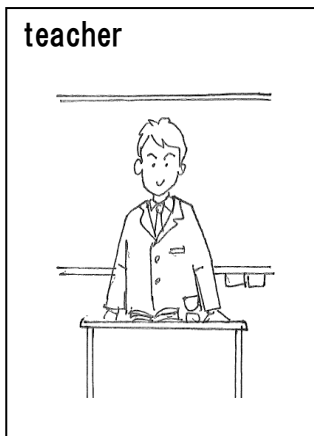
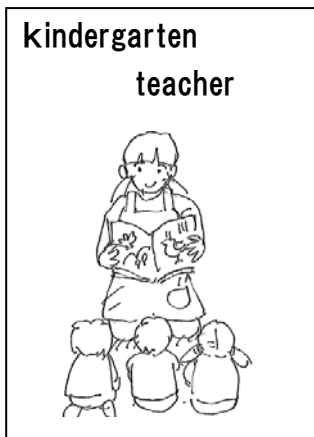
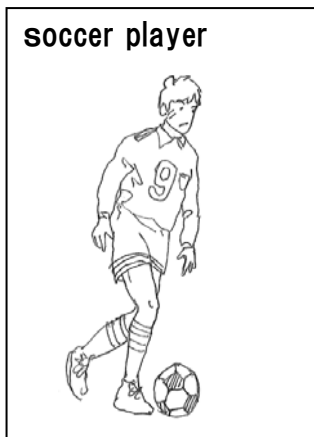
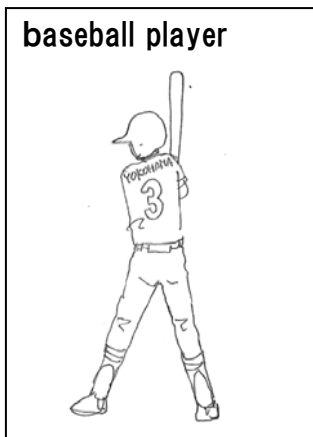
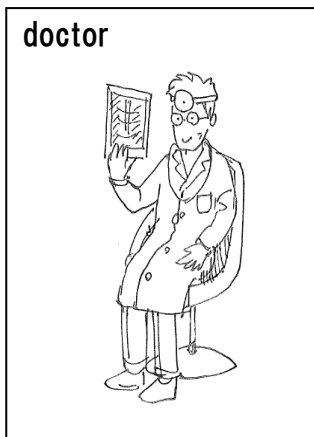
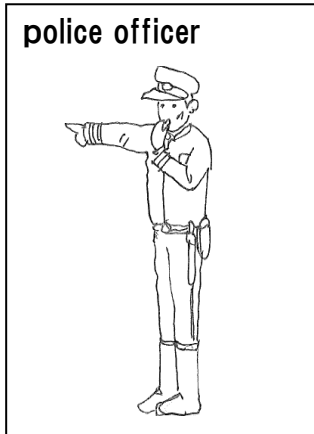
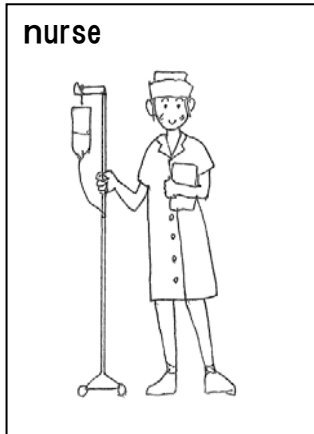


---

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>21 今日の気分は？(自分の気持ちが分かる・伝える)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ ④自他のちがいを認める 「仲間づくり」⑭温かい言葉をかける	<b>背景</b>	自己肯定感が低く、自己受容、 他者理解の力が乏しい子どもが多い		
<b>活動のねらい</b>	・自分の気持ちに気づき、表現できるようになる ・友だちの気持ちに気づき温かい声かけができるようになる				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高・中個別	<b>実施時期</b>	通年		
<b>所要時間</b>	5分～15分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	朝の会、帰りの会等
<b>準備</b>	・表情シート(掲示用) ・表情カード				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る 今日の気分をみんなに伝えよう		 ※自分が表現することで、傷つく人がいないかどうか、考えさせる。 ・言葉で表現できないときは、表情カードで表現することもOKとする ・ネガティブな感情を選んだ子どもには、感情が高ぶり過ぎないように、十分に注意を払う ・共感的な温かい言葉をかけられるように、教師が見本を示す ・日常の朝や帰りの会で継続して行うと効果的である ・温かい言葉をかける人を、あらかじめ決めておく(翌日の日直や隣の席の人等)とよい		暴力 NO パス OK ②自分なりの見方や感じ方をもつ ④自他のちがいを認める ⑭温かい言葉をかける 持ち出し禁止 安全の確認
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①今日の自分の気持ちを表す表情カードを選ぶ ②今日の気持ちの理由を考える ③グループの中で、順番に自分の今日の気分に基づいた表情カードを見せながら、今日の気分の理由を述べる ④1～2人が全体の前で発表する(毎日の活動では、日直等の順番で、③のみを行う)			
<b>ふ り 返 り</b>		○約束を知る ・人が傷つくような話をしない ・聞いている人は、話した人に温かい言葉をかける			
	○活動する ○ふり返る ・話した人の気持ちが伝わってきたか ・温かい言葉をかけてもらってどのような気分になったか				
<b>配慮事項</b>	・ネガティブな感情については、伝えていけないわけではないこと、伝え方には「45,46 自分も相手も大切に伝える伝え方」があること、「23 わたし言葉で会話しよう」等、本プログラムを実施する中で、自分の感情に気づき、それを上手に伝えるスキルを身につけさせていくことが、人とのよい関係を作っていく力につながっていく				

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>22 将来の夢は？ (英語で夢を語ろう)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ 「仲間づくり」⑤はっきり伝える	<b>背景</b>	自分の将来に不安を感じる子どもが増えている		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の夢を伝えることで、自分の将来についての考えをもつ</li> <li>互いの夢を知り、友達との相互理解を深める</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高		<b>実施時期</b>	年度末(2～3月頃)	
<b>所要時間</b>	45分×2回	<b>活動場所</b>	多目的室等	<b>活動場面</b>	外国語活動
<b>準備</b>	「職業の絵カード」…十数種類(子どもたちが興味をもっているもの)				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>世の中には様々な職業があることを理解し、職業を表す英語の表現に興味をもてるようにする</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェスチャーや絵を用い、様々な職業を英語で表現する</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分が将来就きたい職業について、英語で伝え合おう</div>				
<b>主 活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>職業を通して、自分の将来に目を向けるようにする</li> <li>全員が活動に参加し、自己有用感や成就感を感じることができるよう支援するが、参加を無理強いしない</li> <li>話し方、相手を尊重した聞き方を指導する</li> <li>話し手と聞き手が一体となった発表会を心がけ、それぞれが自己有用感や成就感を体験できるようにする</li> </ul>		②自分なりの見方や感じ方をもつ パス OK  ⑤はっきり伝える
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ①自分の就きたい職業とその理由を考える            ②伝えるための英語の表現を知る            話し手:I want to be a(an) ～.            聞き手:Why?            話し手:(Because) I like/have ～.            聞き手:That's great! (拍手)         </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>①二人一組で自分の夢を伝える練習をする</li> <li>②グループで順番に自分の夢を伝える</li> <li>③全体で発表会を行う</li> </ul>				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				暴力NO (批判したり、からかったりしない) 持ち出し禁止
	<ul style="list-style-type: none"> <li>笑顔で聞き、OKアクションをつける(親指を立てる等のサインを用いる)</li> </ul>				
	○ふり返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>夢を語る大切さ、それを応援する友達のあたたかさをまとめる</li> </ul>		
	○まとめる				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表された「なりたい職業」の言い方をみんなで言う</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての友達の夢を受容し、讃えることによって、それぞれの存在を尊重しようとするあたたかい雰囲気を学級に作り出すようにする</li> </ul>				

職業の絵カード (資料)



# 将来の夢は？ ワークシート ( )組 氏名 ( )

## 1 いろいろな職業の英語での言い方を知りましょう

職業の絵カードを見ながら、先生の英語を聞き、くり返しまねて言ってみましょう。

## 2 自分がつきたい職業を伝える際の英語の表現を知りましょう

(1)～(3)のようなとき、英語でどのように言ったらよいか、先生の英語を聞き、くり返しまねて言ってみましょう

※英語は読めたり、書けたりする必要はありません

- (1) 「～になりたい」と伝えるとき (I want to be a(an) ～.)  
(2) 「なぜ？」と理由をたずねるとき (Why?)  
(3) 「なぜなら～だから」と理由を述べる時 (Because ～.)  
・「なぜなら～が好きだから」 (Because I like ～.)

## 3 自分がつきたい職業と理由を言ってみましょう

- つきたい職業 (I want to be a(an) ～.)  
○ 理由 (Because I like ～.)

※言い方が分からないときは、先生に質問しましょう

## 4 話し手が気持ちよく話せるための聞き方を考えてみましょう

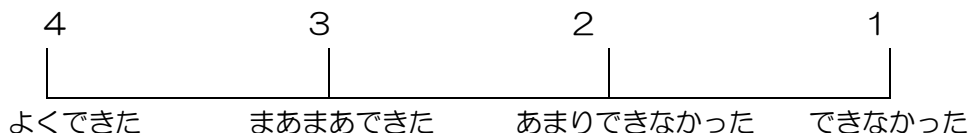
## 5 二人組で自分の夢を伝え合いましょう

- (話し手) 自分がつきたい職業を言う (I want to be a(an) ～.)  
(聞き手) 理由をたずねる (Why?)  
(話し手) 理由を伝える (Because I like ～.)  
(聞き手) ことばと拍手で夢をたたえる (Great! / Nice! 拍手)

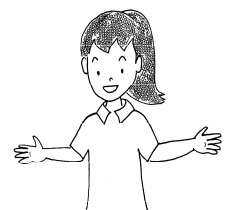
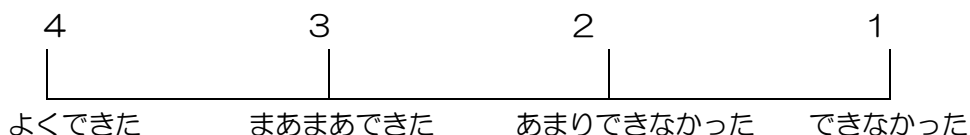
## 6 グループやクラス全体で自分の夢を伝え合いましょう

### ふり返り

1 自分の夢を英語ではっきり伝えようとしていましたか



2 友だちの夢を応援しようという気持ちをもてましたか



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>23 わたし言葉で会話しよう</b> (前向きに相手と会話をする)			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ 「仲間づくり」⑤はっきり伝える	<b>背景</b>	自分の気持ちや思いを建設的に相手に伝える会話力が未成熟である		
<b>活動のねらい</b>	・主語を「わたし」とすることでコミュニケーションが円滑になる体験を通して、自分の気持ちや思いを建設的に相手に伝える会話力を養う				
<b>対象学年</b>	中1・中2・中3・高	<b>実施時期</b>	通年(年度初めに一度行うと良い)		
<b>所要時間</b>	10分～50分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	道徳・総合
<b>準備</b>	・ワークシート ・ふり返しシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「わたし言葉」で会話して、相手に自分の思いを上手に伝えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な会話は、ほとんどの問題を未然に防止する重要な技術であることを伝える</li> </ul>		
	<b>主活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る			
①二人一組になって、ワークシートの会話ア、イを交互に、ロールプレイングする ②ア、イの会話から感じたことを話し合う(以上二人一組で) ③全員で「あなた言葉」「わたし言葉」の違いをまとめ、さらに自分の気持ちを付け加える言い方を考える(こうしてもらえるといやではない) ④ワークシートの演習ウ、エについて、二人一組で考え、ロールプレイングをして確かめる		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングは役割演技であることを説明し、ロールプレイング終了後に気分を持ち越さないよう、&lt;役割解除&gt;する</li> <li>・例題を全員ですることによって、あなた言葉とわたし言葉の違いを理解し、さらによりよい使い方をまとめる</li> </ul>	安全の配慮 ⑤はっきり伝える		
○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングの中で、語調や態度、表情も相手に影響することを感じ取らせる</li> </ul>	②自分なりの見方や感じ方をもつ パスOK 安全の確認		
○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わたし言葉」の方が感情的にならないこと、自分の感情に気づくこと等の気づきを取り上げる</li> </ul>			
<b>ふり返し</b>	○ふり返る				
	・ふり返しシートに記入し、感想を発表する  ○まとめる ・「わたし言葉」のポイントをまとめる				
<b>配慮事項</b>	・ロールプレイングの中で、相手を脅すような演技がないように注意する 振り返り項目:あなた言葉とわたし言葉の感じの違いが分かりましたか				

# <わたし言葉で会話しよう！> ワークシート

( ) 組 氏名 ( )

二人一組になって、交互に下の2つのロールプレイングをして、感じたことを話し合おう。

英語の時間、辞書を使おうとしたら、仲の良いA君が、あなたの机の上にあった辞書を勝手に使っていました。

<会話 ア：あなた言葉>

あなた：「あれ、辞書がない。なんだよ、A君、辞書返してよ」

A君：「ちょっとまって、これ写してから・・・」

あなた：「君、勝手に辞書使っていやだなあ」

A君：「(感じた気持ちをセリフにして言ってみましょう)」

<会話 イ：わたし言葉>

あなた：「あれ、辞書がない。なんだよ、A君、辞書返してよ」

A君：「ちょっとまって、これ写してから・・・」

あなた：「ぼく(わたし)は、勝手に辞書われるといやだなあ」

A君：「(感じた気持ちをセリフにして言ってみましょう)」

☆上の会話をまとめてみよう



**あなた言葉**

(わたしはあなたのことがいやだ)



**わたし言葉**

(あなたは嫌いじゃないけれど、わたしはあなたがしたことはイヤだ)



☆もう一歩進んで、自分の言いたいこと言葉にしてみよう

(わたしはあなたにこうしてもらえるとイヤではない・うれしい・ありがたい)

<あなた言葉>を<わたし言葉>になるように書きかえて、ロールプレイングで確かめてみよう

演習 ウ あなたが勉強しているそばで、弟がテレビをつけました

「〇〇(弟の名前)、うるさいからテレビ消して」

→

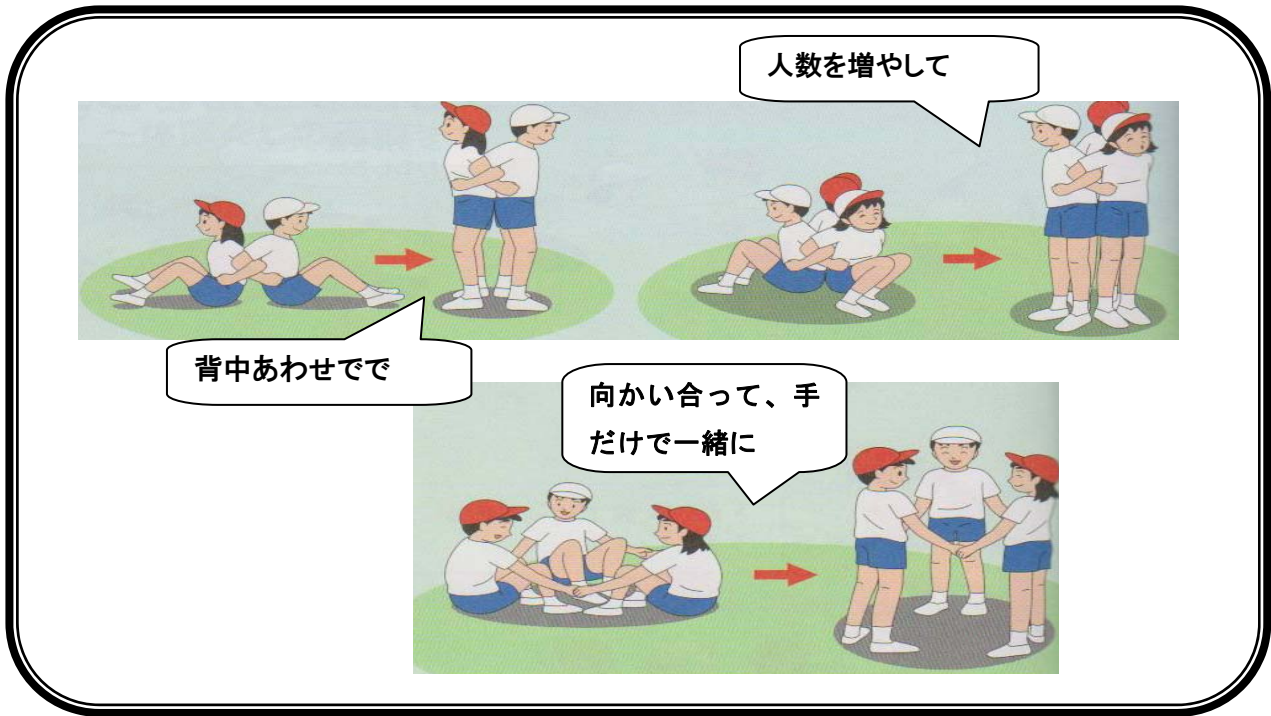
演習 エ 友達が、あなたに黙って携帯電話であなたの写真を撮りました

「黙って携帯で写真をとるなんて、あなたってひどい」

→

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>24 いっしょに立とう (気持ちを合わせる)</b>				<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ 「仲間づくり」⑧仲間に加わる		<b>背 景</b>	人と身体をふれあう体験が不足し、 相手のことを感じられない子供が 増えている		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を使った活動を通して、自分と友達が支え合う関係のなかにあることに気づく</li> <li>・仲間とのふれあいのなかで、声をかけあう心地よさに気づく</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	小中～	<b>活動場所</b>	体育館	<b>実施時期</b>	学年初めのころ	
<b>所要時間</b>	10分		<b>活動場面</b>	体育		
<b>準 備</b>	・ふり返しシート (場合によって活用する)					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           気持ちを合わせていっしょに立とう         </div>					
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る			<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の人間関係を注意深く観察し、避けられる子どもがいないことを確認してから行う</li> <li>・人の体に触れること、人から触れることに抵抗感がある子には配慮する</li> <li>・背中合わせをしたときに、相手の身体にもたれかからせ、互いの身体存在(重さや温かさ)を充分に感じさせる</li> <li>・いっしょにできた達成感を表現させるしかけ(ハイタッチ等の動作や掛け声等)を取り入れ、仲間の連帯感を高めたい</li> <li>・様々な日常的な活動の中で、声をかけあうことを習慣化させたい</li> </ul>		安全の配慮  パス OK  ②自分なりの見方や感じ方をもつ  ⑧仲間に加わる
	①背中合わせで長座して目を閉じ、相手の背の温かさを感じ取る  ②後ろ向きで座ったまま腕を組み、一緒に立ちあがる  ③3人組になったり、前向きになって手をつないだまま立ったりする					
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立てたら、向き合ってハイタッチをする</li> <li>・相手が変わるときには、「ありがとう」「お願いします」等の言葉をかける</li> </ul>					
	○活動する					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間があれば、グループの中で、相手を変えて行う</li> </ul>					
	○ふり返る					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の中で感じたことを話し合う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に支えられた発言や、できたときの喜びを表現したときの心地よさへの発言があったら、取り上げる</li> </ul>		
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体格差・男女等を考慮する</li> <li>・集団の人間関係に課題があり、安全な活動にならない可能性がある場合は、取り組まないようにする。</li> </ul>					





## 「いっしょに立とう」ふり返りシート

( ) 組 氏名 ( )

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 楽しく協力して活動できましたか

4	3	2	1

2 活動の中で、友だちにあいさつをしたり、喜びを伝え合いましたか

4	3	2	1

3 学習をして、自分や友だちのことで気づいたことがあれば書きましょう

---



---



---

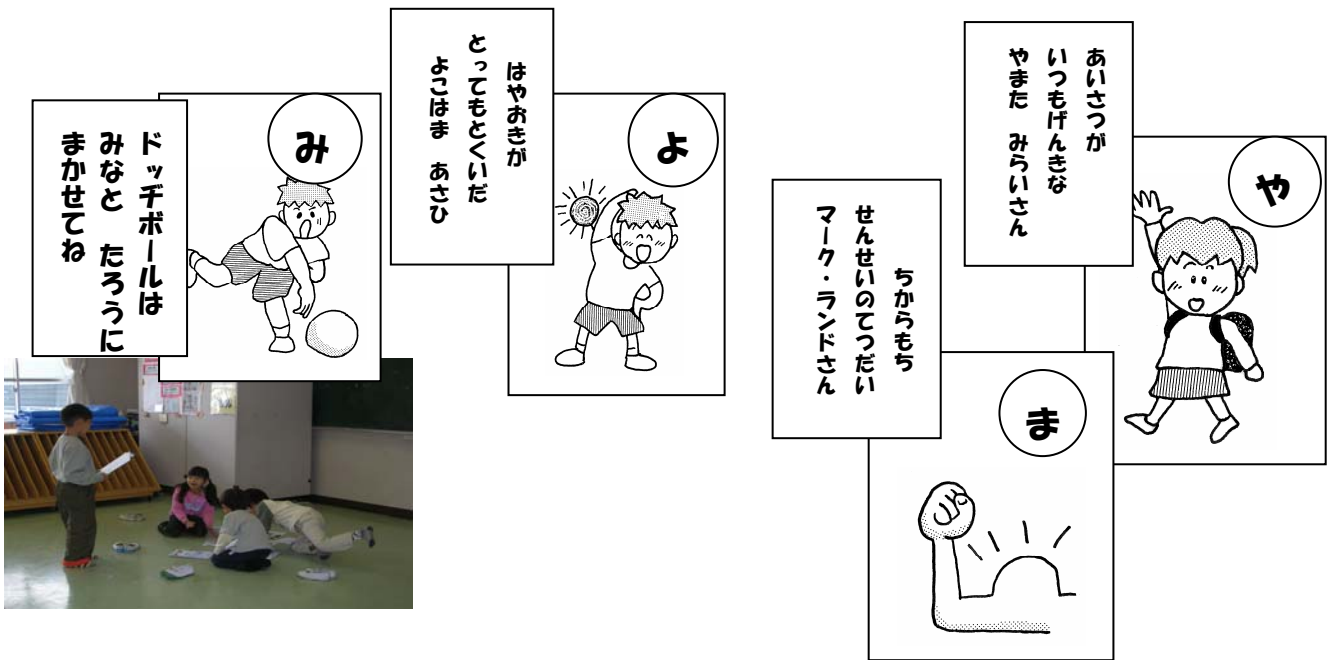


---

タイトル (活動概要)	<b>25 友達カルタ (よいところさがし)</b>			基本 体験	被受容
育てる力 関連スキル	「自分づくり」③自他のよさを見出す		背景	自分や友達のよいところを実感できず、なげやりになる子が増えている	
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達のいいところをお互いに認め合う雰囲気味わう</li> <li>・ 自分や友達のいいところを探す眼を養う</li> </ul>				
対象学年	小低		実施時期	友達のことが分かってきた頃	
所要時間	20分(事前2時間)	活動場所	教室	活動場面	国語
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カルタを書くための厚紙</li> <li>・ クレヨン、カラーペン等の描画材</li> <li>・ フェルトペン</li> </ul>				
			支援の観点・留意点等	ルールとねらい	
導入	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友達や自分のよいところをみつけて、カルタをつくろう</div>				
主活動	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①自分のよい点と友達のよい点を見つける ②自分のよいところと友達のよいところをかいた友達カルタを作る ③友達カルタで遊ぶ  ○約束を知る ・友達が言われてうれしいことをカルタにする  ○カルタを作る (ここまで事前2時間) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友達カルタであそぼう</div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家の人や友達に取材する時間をとる</li> <li>・ 自分のよいところカルタの絵札と言葉の札ができあがったら、生活班などのグループ内でお互いにカードを作り合う</li> <li>・ かかれた内容は、教師が点検する</li> </ul>		③自他のよさを見出す  暴力NO (人が傷つくことは書かない) 安全の配慮
振り返り	○振り返る ・ 自分のよさを見つけて書いたときの気持ちや、家の人に教えてもらったときの気持ち、友達からよさを見つけてもらったカルタを見ての気持ち、カルタで遊んでみた気持ちを話し合う		・ 「自分をほめたカルタを友達がすぐにとってくれたことがうれしかった」等の感想を拾い上げ、認められたという感覚をもてたことをほめる		
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉の札の内容チェックは事前に十分行っておく</li> <li>・ カルタとりの勝敗に目が行きすぎないように、クラスでルールを決めてから行う</li> </ul>				

## 自分のよいところカルタ

## 友達のよいところカルタ



## ともだちカルタ ふりかえりカード

( )くみ なまえ( )

1 じぶんの よいところを みつけて カルタをつくれましたか



よくできた



まあまあできた



あまりよくできなかった



まったくできなかった

2 ともだちの よいところを みつけて カルタをつくれましたか



よくできた



まあまあできた



あまりよくできなかった



まったくできなかった

3 ルールをまもって たのしく カルタとりができましたか



よくできた



まあまあできた



あまりよくできなかった



まったくできなかった

4 カルタとりをした かんそうを かきましよう

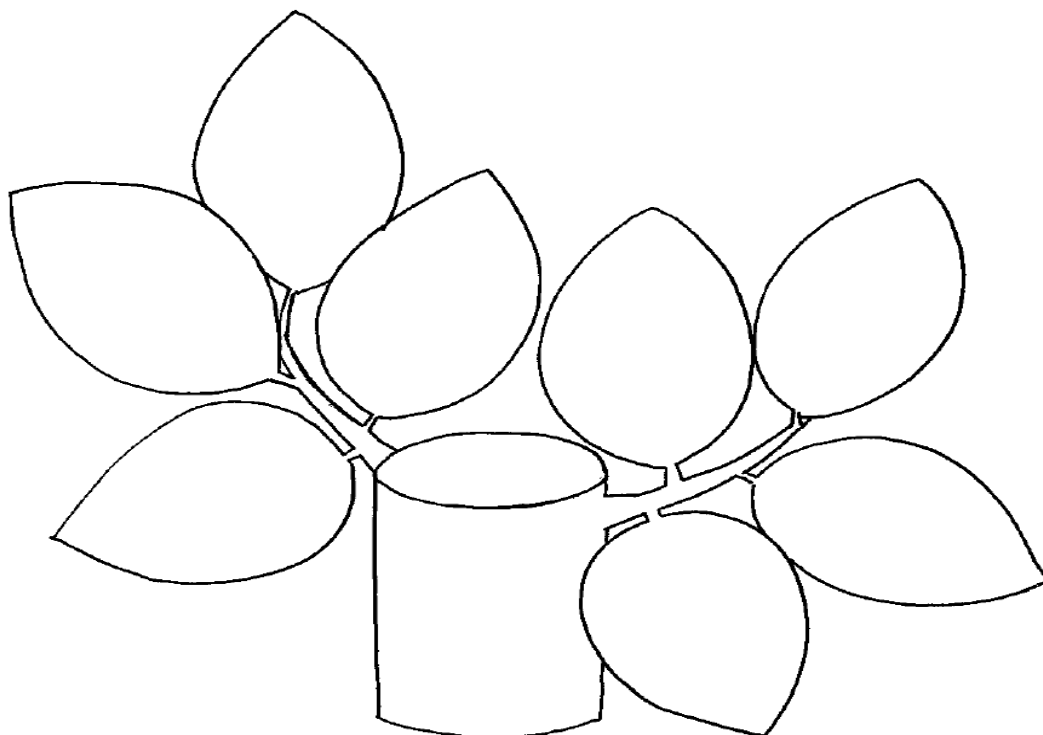
<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>26 わたしはあなたのサポーター (よいところづくり)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他のよさを見出す		<b>背 景</b>	人に喜んでもらったり、親切にしたりする 経験が不足	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーターを演じることで、人に喜んでもらったり、親切にしたりする行為を身につける</li> <li>・人から支えてもらう体験を通し、感謝の気持ちをつたえられるようにする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中～中3		<b>実施時期</b>	人間関係ができてから	
<b>所要時間</b>	1日	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	1日中
<b>準 備</b>	・クラス全員の名前を書いたくじ				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
導 入	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">だれかの1日サポーターになろう！</div>				
主 活 動	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①(前の日の)帰りの会でくじをひき、明日1日、引き当てた人のサポーター役となる ②サポーターは、1日の中で、その人が困っているところをみつけて、さりげなく助ける ③帰りの会で、今日の自分のサポーター役と思った人に「今日1日ありがとう」と言う ④言われた人は、あたっていたら、「どういたしまして」と言って握手する はずれていたら「こちらこそ」とあいさつを返す  ○約束を知る ・だれのサポーターであるかは、帰りの会まで秘密にする  ○活動する  ○ふり返る ・1日サポーター役をしてみてどうだったか、または、サポーターをしてもらってどうだったかを話題にする		・クラスを半分に分けて1日交替で行うとよい  ・親切には、温かい言葉も含まれることを伝える  ・当たらなかった子、当ててもらえなかった子については、十分に注意を払う		③自他のよさを見出す  暴力NO 持ち出し 禁止
ふ り 返 り					
<b>配慮事項</b>	・1日だけでなく、続けて数日間行くと、友達への親切の仕方が身についてくる				

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>27 たくさんの葉 (人のかかわりに気づき感謝する)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他のよさを見出す		<b>背 景</b>	他者への感謝や思いやりの気持ちが乏しい	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が多くの人のかかわりの中で存在していることを意識する</li> <li>・周囲の人に助けられて生活している実感をもつ</li> <li>・お世話になった人に自分ができることはないかを考える</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高・中1・中2・中3・高		<b>実施時期</b>	4月・9月・1月・3月	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室・保健室・相談室	<b>活動場面</b>	道徳・特別活動・総合
<b>準 備</b>	ワークシート ・ 振り返りシート ・ 筆記用具				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お世話になった家族や友達、先生などのかかわりを思い出そう</div>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人は一人で生きているのではなく、多くの人のかかわりの中で現在の自分があることを考えさせる。</li> <li>・お世話になっている人に、自分ができることはないかを考えて行動すると、より深い人間関係が築けることを伝える</li> <li>・毎日、少し時間をとって、その日一日の人のかかわりや家族や友達について考えることで、自分が多くの人に支えられている実感が得られるようにすることもできる</li> <li>・登場させる人を、例えば先生と友達など、〇〇の人と限定して行ってもよい</li> <li>・葉を別の色画用紙に印刷して切りとって貼ると美しく仕上がる</li> <li>・自分が多くの人に支えられたり、かかわってもらったりしていたことに気づいた感想があれば取り上げる</li> </ul>		<b>③自他のよ さを見出す パス OK</b>  暴力 NO (人が傷つく とは書か ない) 持ち出し禁 止
	①ワークシートの葉っぱに、自分とかかわりのある人の名前を書く ②書いた中から何人か選び、選んだ人について以下のことを書く ・してもらったこと ・してあげたこと・これからしてあげたいこと ・その人に今、伝えたい言葉				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思い出すことが辛いときは先生に言う</li> <li>・マイナスのことは書かない</li> </ul>				
	○活動する				
	○振り返る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに記入する</li> <li>・感想を交流する</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親しい人を亡くした喪失体験を間近にした子どもがいないかを十分に配慮してから行う</li> <li>・実態に応じて言葉を補って説明したり、時間を調整して行ったりすることで、個別支援級や保健室・相談室登校等の子どもにも実施可能である</li> <li>・保健室・相談室登校等の子どもについては、子どもの状況を十分に観察しながら行う</li> </ul>				

## たくさんの葉 ワークシート

氏名( )

★あなたとつながりがある人を思い出して、下の木の葉っぱに名前を書いていきましょう。



★葉っぱに書いた人からだれかを選び、①～③を書きましょう

● ( ) さん

①してもらったこと・迷惑をかけたこと、

②してあげたこと・これからしてあげたいこと

③ひとことメッセージ

● ( ) さん

①してもらったこと・迷惑をかけたこと、

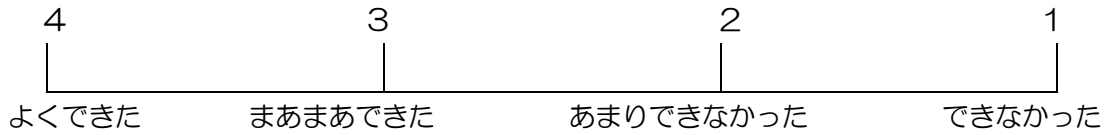
②してあげたこと・これからしてあげたいこと

③ひとことメッセージ

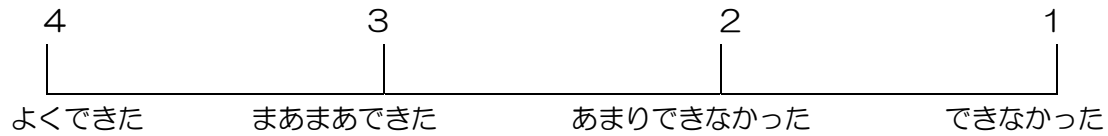
# たくさんの葉 ふう返しシート

年 組 名前 ( )

1 人にしてもらったことを思い出すことができましたか



2 多くの人とのかかわりで、今の自分があることがわかりました



3 友だちなどにしてあげたいことを考えることができましたか



4 これから人とかかわるときに、自分は何を大切にしていきたいですか

---

---

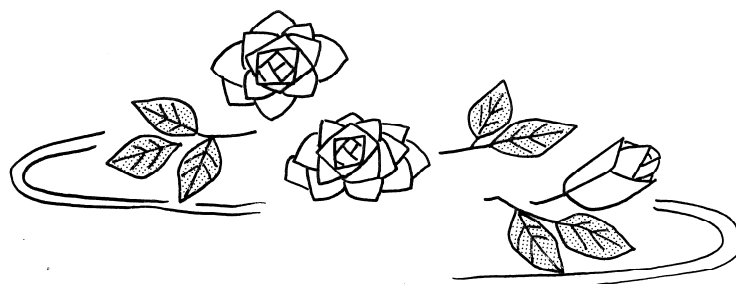
---

---

---

---

---



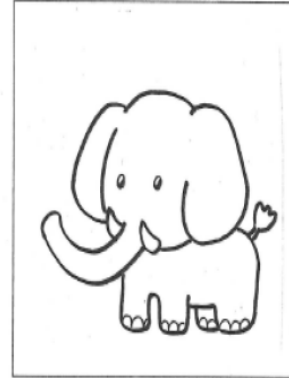
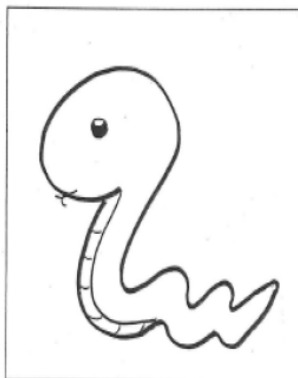
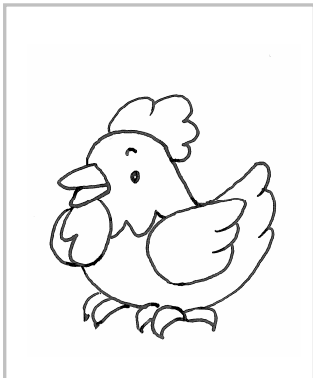
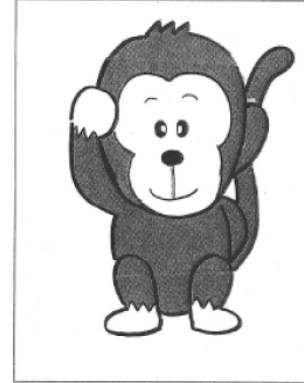
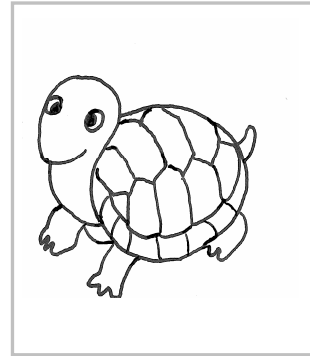
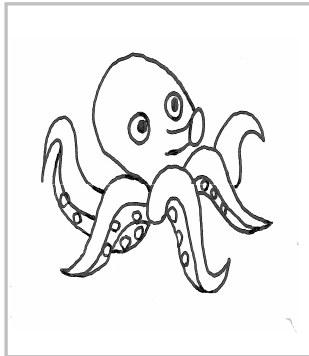
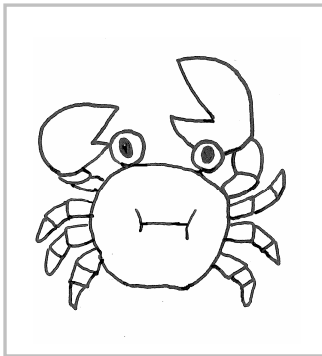
<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>28 あなたからもらったものは・・・</b> (ジェスチャーリレー)			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他の違いを認める ②自分なりの見方や感じ方をもつ		<b>背 景</b>	自分を表現することが苦手な子ども が増えている	
<b>活動のねらい</b>	・自分が受け取ったものをジェスチャーで伝えるなかで、相手に自分の表現を伝えようとして たり、相手の表現をすすんで受け取ったりしながら、人と進んでかかわろうとする態度を 養う				
<b>対象学年</b>	中学生以上		<b>実施時期</b>	人間関係ができてから	
<b>所要時間</b>	10分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	集会、特活
<b>準 備</b>					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				パス OK
	協力して、ジェスチャーリレーゲームをしよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る		・渡すもの(例) 赤ちゃん、花束、バケツ、うなぎ、雛 鳥、賞状等特徴のあるものにする		②自分 なりの 見方や 感じ方 をもつ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5人程度で1列に縦に並び、一番後ろの人からジェスチャーをしながら、手渡しで&lt;あるもの&gt;を渡していく</li> <li>・1人ずつ前に渡していくが、自分の番が来るまで後ろを振り返ってはいけない</li> <li>・最後まで渡されたら、輪になって、最後の人が最初の人に、ジェスチャーで手渡しをしながら、渡された&lt;あるもの&gt;を言葉で言う</li> <li>・最後から2番目の人から順次、自分が渡したものを言葉で述べ、最後に1番始の人が最初に渡したものを言う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初から&lt;あるもの&gt;を限定しておき、「○○な(例:泣いている、笑っている、生まれたての等)赤ちゃん」を渡していくことにしてもよい</li> <li>・受け取り方は人それぞれ違うことコミュニケーションの難しさについて気づきがあれば取り上げる</li> </ul>		
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				③自他 の違い を認め る
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が感じたものを自信をもって表現する</li> </ul>				
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する		・自分の身体表現についてふり返り、 日常的な人と接するときの振る舞い や表情についてふりかえることができ るとよい		
	○ふり返る・まとめる				
		・何気なく人と接するときでも、自分の身体が表現していることを意識して人と向き合うことの大事さについてまとめる			
<b>配慮事項</b>	・「90 聴き方上手になれるかな」「91 身体と心はつながってる」等のプログラムと関連付けて行くと効果的である				



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>29 このどうぶつなんだ？(ジェスチャークイズ)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」④自他の違いを認める 「仲間づくり」⑤はっきり伝える		<b>背景</b>	人間関係が希薄になり、コミュニケーション能力が低下し、人に何かを必死で伝えようとする体験が少なくなっている	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの表現やアイデアを尊重しあうことにより、人との関係づくりを深めていく</li> <li>・ジェスチャーで内容を伝える活動を通して、自分なりに表現を工夫しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成する</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低		<b>実施時期</b>	クラスづくりの時	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	外国語活動
<b>準備</b>	・動物ピクチャーカード(大1セット、小6セット) ・感想カード				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
導入	○ 活動のねらいを知る		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           みんなで協力して、楽しくジェスチャーゲームをしよう         </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のジェスチャーを見て、黒板に貼ったどの動物を表しているかを考える</li> <li>・同じ動物で、他のジェスチャーを考え発表する</li> </ul>				
主活動	○ 活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さなカードセットを使い、実際のやり方を示す</li> </ul>		④自他の違いを認める
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ①班ごとにジェスチャーをする順番を決める            ②ジェスチャーをする児童は、配られたカードの中から動物を選び、            “What animal is this?” といいいながら、ジェスチャーで動物をあらわす            ③班のメンバーは、どの動物を表しているかを相談し、声をそろえて答えと感想を言う            (It's a dog. Cute!)            ④順番にジェスチャークイズをする         </div>				
ふり返り	○ 約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に感想カードをはり、感情をこめて言う練習をする</li> </ul>		⑤はっきり伝える
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを掲げ、ポーズをしながら笑顔で答えを言う</li> </ul>				
		○ 活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想カードは2種類だけなので、日本語で自由に発表させる</li> </ul>	
		○ ふり返る			
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループづくりには十分配慮する</li> <li>・友達の考えた表現(ジェスチャー)に対して感想を言うことで、尊重しあえるよう指導する</li> </ul>				

### ピクチャーカード例

紹介する動物は、①日本語になっておりなじみのあるもの、②身近で言いやすいもの、③ジェスチャーの工夫ができるものなどを選択する



### 感想カード例

感想を表す語は、言いやすいもの、意味が分かりやすいもの、そして肯定的な意味の語を選択した。学年が進むにつれて、少しずつ語彙を増やし、思い思いの感想が言えるようにさせたい。

**Cute!**

**Cool!**

**Great!**

**Nice!**

**Good job!**

**Good!**

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>30 支え合うってすてきだね</b> <b>(人間椅子・気持ちを合わせる)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他のよさを見いだす 「仲間づくり」⑧仲間に加わる		<b>背景</b>	自分が人とかかわりの中で、支えられながら生きているという実感がもてない子どもが増えている	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人とかかわりの中で、自分と友達が支え合う関係のなかにあることに気づく</li> <li>・体を使ったふれあいを通して、人とかかわりの温かさを感じ取る</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高	<b>活動場所</b>	体育館	<b>実施時期</b>	集団の凝集力を高めたいとき
<b>所要時間</b>	20分		<b>活動場面</b>	集会・体育・縦割り活動	
<b>準備</b>					
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           友達と支え合いながら、人間椅子をしよう         </div>				
<b>主活動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の人間関係を注意深く観察し避けられたりする子どもがいないことを確認してから行う</li> <li>・1グループを使ってやり方を知らせる</li> <li>・人の体に触れること、ふれられることに抵抗感がある子は配慮する</li> <li>・温かい言葉をかけあえるように、楽しい雰囲気作りを演出する</li> <li>・完成したときの合い言葉等を決めて一緒に叫ぶ等、達成感を味わうことができるようにする</li> </ul>		安全の配慮  パス OK  ⑧仲間に加わる ⑨仲間に誘う
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8人～10人程度のグループで、後ろの人の膝の上に腰をかける</li> <li>・自分の膝の上に、前の人腰をかける</li> <li>・同じ要領で、腰掛けていくが、徐々に円陣を作っていく、最後の人が一番最初の人椅子になって輪が完成する</li> <li>・全員が座りみんなで10数えたら成功！</li> </ul>				
	○約束を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手は前の人肩に置く</li> <li>・成功したら、みんなで合い言葉を叫んで、両手を上に上げる(例 1・2・3・・・10 3班ナイス！ ワー 拍手 等)</li> </ul>				
	○活動する				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに作戦を話し合いながら行う</li> <li>・グループを合体させ、徐々に大きな輪にする</li> <li>・最後にクラス全員で人間椅子を完成させる</li> </ul>			安全の確認	
<b>ふり返り</b>	○ふり返る				③自他のよさを見いだす
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の中で感じたことを話し合う</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女混合にするか男女別にするかはクラスや学年の実態に応じて配慮する</li> <li>・普段をおとなしくリーダー役をとれない子どもに、人間椅子の輪から外して、外から指示を出す役にする、思わぬ力を発揮することがある</li> </ul>				

## 人間椅子を成功させるためには

最初が一番後ろの人が壁にもたれて、順々に前に腰をかけていくやり方で、人間椅子の感覚をつかむ。

それがうまくできたら、壁にもたれないで全員で輪になる方法を行うが、順々に座っていくやり方だとなかなかうまくいかない。

最初から輪になって立ち、合図で一斉に座ると完成しやすい。何回もチャレンジさせて、話し合う中から方法をつかむことがグループの一体感を高める。

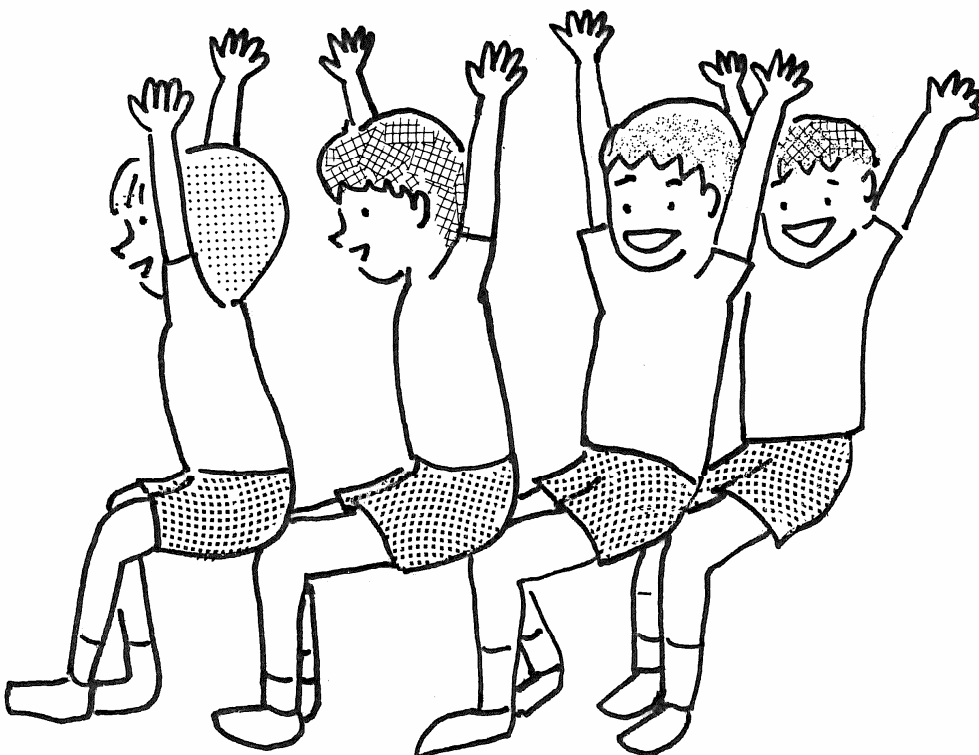
大きな行事の前などには、クラス全員で輪になると、結束力を高めるのに効果的である。

その際、行事のリーダーとなる子に、輪の並び方を修正したり合図を出したりする役目をとらせると自信をもたせることができる。

### 初級向き



みんなで協力してうまくいった時はうれしいね



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>31 きれいに響かせよう (リコーダーで相手に合わせる)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他のよさを見いだす 「仲間づくり」⑬気持ちに共感する		<b>背景</b>	群れ合い体験の不足から、友だちの表情や行動から感情などを推察することが難しい	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの仲間などとリコーダーの音色を合わせる心地よさを味わう</li> <li>・お互いの音が一つになり響き合うよう、タイミングを合わせる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	リコーダー学習初期	
<b>所要時間</b>	5～10分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	音楽
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダー (各自)</li> <li>・演奏する音やリズムの分かる掲示物</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏が終わったら、拍手でがんばりを認めるようにする</li> <li>・リコーダー演奏に慣れてきたら人数を増やしてもよい</li> <li>・演奏が苦手な子を温かく応援できるよう、声をかける</li> <li>・演奏した友だちのよかったところを視点(音色、タイミング、表情など)を提示しながら認め合えるようにする</li> </ul>		③自他のよさを見いだす ⑬気持ちに共感する  暴力NO パスOK 持ち出し禁止
	二人で気持ちを一つにしてリコーダーの音色を響かせよう				
<b>主 活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る				
	①教師が示した音を二人組でタイミングを合わせて演奏する ②二人が同じ響きになるように、息の量や強さを合わせる。 ③近くのペアどうしで発表しあう ④みんなの前で発表する				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				
	・できるようになったことや、よいところを認め合う				
	○活動する				
	○ふり返る				
		・演奏を聴いてよかったこと、気がついたことなどを出し合う			
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表する子どもに偏りが出ないように配慮する</li> <li>・リコーダー演奏に慣れてきたら、グループで練習したり、リズムや音色についても話し合わせたりして実施することもできる</li> </ul>			

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>32 ミニ漢字テスト</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他のよさを見いだす 「仲間づくり」⑬気持ちに共感する		<b>背 景</b>	被受容体験の不足に学力不振も重なり、 自己肯定感の低い子どもがいる	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10問(低学年は5問)だけの漢字テストへの取り組みを通して、努力すれば満点がとれるという達成感を一人残らず全員が感じとる</li> <li>・「この子は学習が苦手な子」などという周囲の子たちの思いこみを変革する</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	4月を中心に通年	
<b>所要時間</b>	10分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	国語(帯単元として継続する)
<b>準 備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト用紙</li> <li>・漢字ドリルや国語教科書の巻末など、出題する漢字が予告できるもの</li> </ul>				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	漢字練習をがんばって、ミニ漢字テストに挑戦しよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①示された漢字テストの問題を20分間練習する (①は最初の1回だけを基本とし、必要に応じて数回行う) ②漢字テストを受ける ③その日のうちに返された漢字テストを見て、次の漢字テストに意欲をもつ ④次の漢字テストに出題される漢字と、実施する日時を知る  ○約束を知る ・人と比べたり、競争したりしない。 ・前の自分より努力できたかどうかを大切にす  ○活動する			・漢字ドリル等、出題する漢字を自分で練習しやすい教材を用意する  ・最初の1回は、①の練習時間で、練習方法の指導を行う。特に、漢字を苦手と思っている児童には、ていねいな支援をする。また、学級の状況により、①を何回か繰り返し、がんばれば高得点がとれるという体験になるように配慮する。その後、家庭学習で練習してくる設定に移行する  ・その日のうちにまるつけをして返却し、努力の成果を確かめられるようにする	
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る・まとめる ・著しく得点を伸ばした子を紹介し、最初から満点がとれることもいいことだが、できなかったことができるようになることに大きな価値があることを話す ・初めて満点が取れた子などの感想を聞いておき、紹介する			・ふり返りの意味が生まれた時をのがさず、教師からふり返りの話をする	
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字学習が苦手な負担が大きくなる子どもがいる場合は取り組まない</li> <li>・「学習が苦手な子が達成感を感じる」というこのプログラムのねらいを十分に意識するようにし、単なる漢字の学習で終わらないようにする</li> </ul>				
					暴力NO パスOK 持ち出し禁止  ③自他のよさを見いだす  ⑬気持ちに共感する

## ミニ漢字テストの実践から

### 学習が苦手なAくん

「あ、わかんない。オレの将来の姿が見えた。オレの将来真っ暗だ・・・。」Aくんは、算数の問題を一人で解く際や理科や社会のノートをまとめる際などには、途中で投げ出してしまい、こんな独り言をブツブツ言うのでした。また、掃除や給食の当番でも、友達にちょっと指摘されただけで、仕事を投げ出して教室の隅にすわりこんでしまい、「一人にして・・・」と言って、落ち着くまでしばらく泣いているのでした。

そんなAくんの転機となったのが、ミニ漢字テストでした。Aくんは算数など積み上げが要求される内容ではすぐに結果が出せないけれども、漢字ならば少し練習すればある程度覚える力がありました。そこで、担任はAくんがミニ漢字テストで達成感を感じられるように工夫することにしました。

最初の一回は、特別にAくんに声をかけることはわざとしませんでした。テストの点は20点。二問だけしか書けなかったのです。2回目以降には「やればできる」ということを際立たせるため、練習時間にさりげなく声をかけ、Aくんがどのくらい覚えたかチェックし、練習時間を十分にとりました。

結果は、見事に80点。Aくんは「やったー！」と言いながらにこにこ顔でテストを受け取りました。

### 保護者との信頼関係の形成

テスト用紙は、返却するたびに台紙にしている色画用紙にのりづけして記録する約束になっています。この日は3時間目ははじめに返却したので、学級のみんがすぐにのり付けの作業をはじめました。

ところが、Aくんは台紙を出そうともせずすぐに漢字テストをしまっていました。不審に思い、のりづけを促すと、「今日は持って帰るから貼らない」と言います。80点のこのテストを母親に見せたかったのです。うれしそうな笑顔を見て今日は特別にそのままでいいことにしました。

後日、母親との面談の際には漢字テストが80点だったことを一緒に喜んだと聞きました。自分の子どもの学習意欲が低いことや友達とのトラブルが多いことを入学時から気にして、何かあると学校との関係がうまくいなくなることもあったという保護者なのですが、このような事実があることにより、言葉以上に保護者との信頼関係のモトがつくれるような気がします。

### 学級のみんが自信を持ち、認め合う雰囲気をつくる

Aくんが80点だったことを、わざと周囲に聞こえるように言いました。一番仲のいい友達が、「すごいじゃん」などと声をかけていました。練習時間が十分にあったのでほとんどの子が満点だったのですが、それ自体、学級全体に自信を持たせる意味もあるのだと思います。また、そんなときほど、子どもたちにも気持ちの余裕があり互いに優しい言葉がかけられるような気がします。

時期を見て、満点という結果だけが大事なのではなくて、最初は苦手だったことを克服していく姿勢に意味があるということをお話しました。そのときには、一人の子が「Aくんって、3年生のときと比べるとすごく成長したと思うよ。なんか、近ごろ、あんまり怒りっぽくないもん」と発言してくれるなど、いつも問題を起こす子どもというふうに見られがちなAくんを見る目が少しずつ変わってきました。

漢字に限らず、小さな課題で着実に結果を出せるという取り組みは、学級づくりの一つの基礎になるものと確信しました。学習という学校の中心的な機能をもとに自己肯定感を高めるという方法は、さまざまに工夫していく必要のあることではないでしょうか。

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>33 わたしっていいな ホメホメ大作戦</b> <b>(よいところさがし)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他のよさを見いだす 「仲間づくり」⑭温かい言葉をかける	<b>背 景</b>	被受容体験の不足から自分自身のよ さを実感できない子どもが多い		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよさを認め、自信がもてるようになる</li> <li>・友だちのよさに気づく</li> <li>・友だちに温かい声かけができるようになる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中		<b>実施時期</b>	クラスの友達がわかり始めた頃	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準 備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よいところ・すきなところさがし」カード(担任も事前にいいとこさがしカードに記入しておく)</li> <li>・「わたしっていいな」カード</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	友だちのよいところをカードにホメホメで書こう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①よいところさがしカードに同じ班の友達のよいところ を書く ②友達によいところさがしカードを渡す ③「わたしっていいなカード」に貼っていく ④よいところカードを読んで感じたことを、「わたしって いいなカード」に書く  ○約束を知る ・友だちが気にしていることやいやがることは絶対に書か ない ・よいところさがし・すきなところさがしカードを渡すとき には、「どうぞ」「ありがとう」(例)という言葉添えて、目 を見て手渡しする  ○活動する		・「よいところ・すきなところさがしカー ド」は色画用紙に印刷、「わたしって いいなカード」はそれが映える色画用 紙や白が用紙に印刷する ・<よいところ・すきなところ>を見つけ てもらいにくい児童がいると予想され る場合、取組の前の時期にその児童 のよいところが話題になるような場面 を設定するなど、必ず誰もがカードを もらえる条件をつくる  ・担任が書いた「よいところ・すきなとこ ろさがしカード」を全員の前で一人ひ とりに渡ししながら、渡し方の見本を見 せる		暴力NO パスOK 持ち出し 禁止  ③ 自他 のよさ を見い だす  ⑭ 温か い言葉 をかけ る
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・感じたことを班で発表し合い、クラス全体でふり返る				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「よいところ・すきなところさがしカード」は、教師が集めて点検してから、受け渡しをする</li> </ul>				



# よいところさがし・すきなところさがしカード

よいところさがし・すきなところ

よいところさがし・すきなところ

よいところさがし・すきなところ

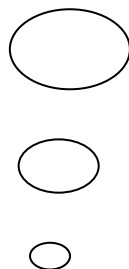
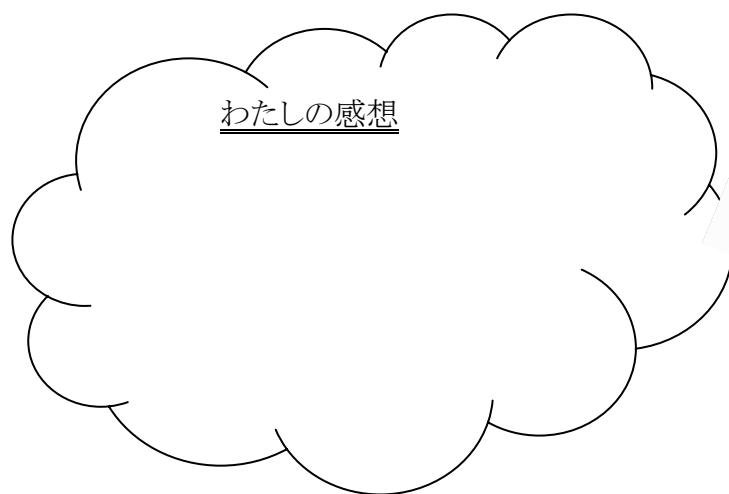
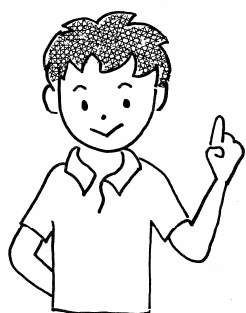
よいところさがし・すきなところ

よいところさがし・すきなところ

よいところさがし・すきなところ

# わたしっていいな カード

年 組 名前 (                      )



わたしのいいところ

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>34 「いいとこみ～つけ」 でビー玉いっぱいにしてよう!</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他のよさを見いだす 「仲間づくり」⑭あたたかい言葉をかける		<b>背景</b>	被受容体験により不足から、自分に自信を持って行動することができない児童が目立つようになってきた	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いのよさを伝え合うことで自己への肯定的な感情を育てる</li> <li>・仲間のよさに注目することにより他者理解を深める</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低		<b>実施時期</b>	新学期、仲間同士の関係を作り始める段階から	
<b>所要時間</b>	5分程度	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	帰りの会
<b>準備</b>	・ビー玉 ・透明な空き瓶（増えていく様子が見えるものがのぞましい）				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る  今日一日をふり返り、みんなのために、だれがどんなことをしていたか発表しよう				
<b>主活動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①いいことを見つけた人は、前に出て並ぶ ②出てきた順に自分の見つけたよさを発表し、ビー玉を入れる (例)「〇〇さんは、△△さんが困っているのを見て、助けてあげました」 ③ビー玉を入れたら席に戻り、他の友達の発言を聞く  ※ビンがビー玉でいっぱいになったら、何をするかも決める  ○約束を知る ・発表しているときは、だまって聞く  ○活動する ・帰りの会のプログラムに入れ、日常的に行う		・普段からよく友達を見ていないと言えないような内容が出てきたときは大いにほめる  ・あまり発表してもらえない子がいた場合は、教師が発表する人になって発言し、ビー玉を入れる  ・友だちの良さに気づいたこと、友だちが伝えてくれた自分自身の良さに気づくことの大切さをその都度伝える  ・友達がいいなと思って伝えてくれたことをしっかり受け止めたかどうかもふり返りようにする		③自他のよさを見いだす  ⑭あたたかい言葉をかける  暴力NO
<b>ふり返り</b>	○ふり返る ・「よさを伝えているとき、伝えてもらっているとき、あなたはどんな気持ちでしたか」				
<b>配慮事項</b>	・あまり発表してもらえない子がいた場合は、教師が発表する人になって発言し、ビー玉を入れる ・行事などの取組に限定して行うことも、意欲を喚起する方法として効果的である。				

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>35 あなたのよいところは (よいところさがし)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他のよさを見いだす 「仲間づくり」⑭あたたかい言葉をかける	<b>背景</b>	友達に対して表面的な見方をする 子どもが多い		
<b>活動のねらい</b>	・ 友達のよさを見つけ伝え合うことを通して、自他への肯定的な感情を育てる				
<b>対象学年</b>	小中・小高	<b>実施時期</b>	総合的な学習のまとめの時期・行事後		
<b>所要時間</b>	30分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	総合 (グループ学習)・特別活動
<b>準備</b>	・ ワークシート ・ ふり返しシート				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る  友達のよいところを伝え合ひましょう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ (やり方・内容) を知る ①グループ学習の準備やまとめ等の活動の中 で気づいた、友達のよいところを思い出し、ワ ークシートの項目の当てはまると思う欄に○印 をつける ②つけ終わったら、隣の人に渡す ③ワークシートは、班の人全員にまわす ④戻ってきた自分のシートを読む  ○約束を知る ・ 友達一人につき、必ず3つは○をつける ・ 渡すときには「どうぞ」受け取るときには「ありがとう」 とってワークシートをやりとりする  ○活動する		・活動グループの人数が多過ぎる場 合は、グループ内を分ける ・「よいところなんてない」といった発言 が出ないように、普段から友達のよ いところを見つける大切さについて 話す ・どうしてもよいところが見つからないと 語る子には、「自分がしてもらったこ と」「自分とその子が一緒にしたこと」を 思い出させ、自分は人とかかわりに よって生きていることに気づかせる		暴力 NO (人を傷つけ る言葉を使わ ない) 安全の配慮
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・ 自分のよさを知って思ったことを発表し合い、クラ ス全体でふり返る				⑭あたたかい言葉をか ける  ③自他のよ さを見出す
<b>配慮事項</b>	・ 学校行事後等、目的に応じてアレンジすることができる ふり返し項目: 自分のよいところがわかりましたか 友達と活動する楽しさを感じましたか				

# あなたのよいところは！

氏名( )

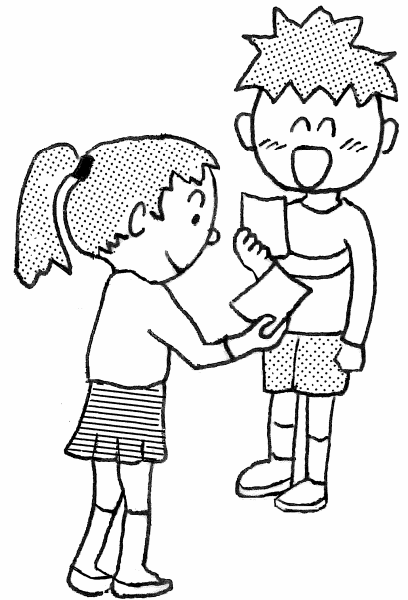
よいところ	氏名					
	さん	さん	さん	さん	さん	さん
◎いろいろなアイデアを出してくれた						
◎自分から進んで仕事を見つけようとしていた						
◎友達の見解をよく聞こうとしていた						
◎グループをまとめようと努力していた						
◎みんなにやさしくしてくれた						
◎落ち着いて行動していた						
◎みんなに協力していた						
◎かたづけや整理整頓をがんばっていた						
◎こまっている人を助けようとしていた						
◎楽しいふんい気をつくろうとしていた						
◎あきらめずねばり強く行動していた						
◎自分の仕事に責任をもってやっていた						
◎夢中になって活動していた						
◎自分の意見をきちんと伝えようとしていた						
◎いつも元気いっぱいだった						
◎いざというときにたよりになった						

## カードをもらっての感想

<b>タイトル (活動概要)</b>	<b>36 ありがとうをあなたに (感謝の気持ちを贈ろう)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自分のよさを見出す ⑭あたたかい言葉をかける		<b>背 景</b>	人から支えられていることを感じられなかつたり、自分のよさに気づけなかつたりする子が増えている	
<b>活動のねらい</b>	・人に感謝したり感謝されたりすることで、自他のよさを感じ取る ・活動をふり返り、自分が多くの人に支えられていることに気づく				
<b>対象学年</b>	小中・小高		<b>実施時期</b>	宿泊体験学習や大きな行事で	
<b>所要時間</b>	20分・45分	<b>活動場所</b>	教室・ホール等	<b>活動場面</b>	道徳・総合
<b>準備</b>	・ありがとうカード(色画用紙) ・台紙 ・のり ・飾りの紙 ・カラーテープ等				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る(事前に伝えておく)				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">一緒に活動した友達に感謝の気持ちを贈ろう</div>				
<b>主 活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①体験活動や修学旅行の夜に、活動をふり返り、友達にしてもらったことへの感謝の言葉をありがとうカードに書く ②学校に帰ってから、友達にカードを渡す ③もらったカードを台紙に貼り、感想を書く		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうカードを人数分印刷した色画用紙(シート)を1人1枚配る。</li> <li>・グループのメンバーには別々の色のシートを配るとできあがり美しい</li> <li>・書くことが思いつかない子には、自分がしてもらったこと等、例を挙げてふり返らせる</li> <li>・シートはその場で集め、不用意な言葉がないか点検しておく</li> </ul>		安全の配慮  ⑭あたたかい言葉をかける
	○カードを書く(体験学習の夜) ・1日の活動や、計画した時からのことを思い出し、感謝の言葉をありがとうカードに書く ○約束 ・必ずグループ全員に書く ・もらった人がうれしくなるような言葉を書く		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に各自が記入したシートを配り、きれいにハサミで切って、カードを渡せるように準備しておく</li> <li>・教師がやりとりの見本を見せる</li> <li>・「相手の目を見て」「笑顔で」等の感謝の気持ちが伝わるような渡し方のポイントを押さえる</li> </ul>		安全の配慮
<b>ふ り 返 り</b>	○カードを渡す(学校に戻って、2～3日中に) ・グループごとに座り、カードを贈りあう ・交換が済んだら、自分がもらったカードを台紙に貼る ○約束 ・「○○してくれてありがとう」「どういたしまして」と声に出し心を込めてカードを贈る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の参観の機会等にあわせて掲示することでより効果が期待できる</li> </ul>		③自分のよさを見出す
	○ふり返る ・ありがとうカードがたくさん貼られた台紙を見て、感想を書く ・感想を共有する				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情の低い子どもや、独りよがりの傾向のある子どもは、他者とのかかわりを認識できないことが多い。普段から当たり前と思っていることが、実は他者からの贈り物であることに気づかせることによって、人と自分とのかかわりに目が開かれる経験となる。</li> </ul> ふり返り項目:自分が友達から支えられたり、友達を支えたりしていると感じましたか				

## ありがとうをあなたに(完成例)

- ・体験学習や修学旅行の夜に、活動が終わった就寝前の静かな時間を使い、1日のふり返りとしてカードを書く



(僕は、役に立たない人間だと思っていたけれど) みんなにお礼やありがとうと言われると、やる気がわいてきてうれしい。みなさん、これからもよろしくおねがいます。

6年 横浜 太郎

5年生までいろいろ頑張ってきた太郎さん。このところ、周囲との関係もなんとなくぎくしゃくして、息切れ気味。このプログラムを実施して、サブリーダーとしての自信を取り戻したようです。

- ・体験学習や、修学旅行の夜に、活動が終わった就寝前の静かな時間を使い、1日のふり返りとしてカードに書く作業を行う
- ・帰校してから交換する時間をとると、思い出深く、大変効果的である
- ・台紙は濃い色を使用すると、美しく仕上がる
- ・グループ内のメンバーには、異なる色のありがとうカード(お花カード)を配っておくと、交換したときに、カラフルになって楽しい

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>37 認め合いペア音読</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」③自他のよさを見いだす 「仲間づくり」⑭あたたかい言葉をかける	<b>背景</b>	生活のなかで互いに認め合う機会が少なく関わりが少ない子どもたちがいる		
<b>活動のねらい</b>	・音読を相互に聴きあい、いいところを評価し合うことにより、日常接することの少ない子どもどうしも、認め合うという経験をもつ				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	10～20分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	国語
<b>準備</b>	・音読カード・国語教科書 ・ペアをつくるくじ(マグネットのネームプレートでランダムにペアを作るとよい)				
<b>学習・活動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る ・一人の子の音読をみんなで聴き、音読のいいところ探しをする(最初の活動のときだけ)		・事前に、一人での音読や、保護者や教師に聴いてもらう音読を十分に行い、一人残らず全員があまりつかえずに教材文を音読できるようにしておく		③自他のよさを見いだす ⑭あたたかい言葉をかける 暴力NO パスOK 持ち出し禁止
<b>主活動</b>	友達の音読のいいところやがんばったところをみつけよう		・教材文が長い場合は、二人で半分ずつ読むなど、時間的に無理のない形にする ・本人が見たあとに教師が回収し、ひと言添えたり、いい内容のものを紹介したりする ・その時間の終わりにすぐに紹介できるものがあれば紹介するが、後日でもいい		
<b>振り返り</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①二人一組で、音読を聞きあい、音読カードに相手の音読のよいところを書いたり、感想を書いたりする ②相手の書いてくれた音読カードを読んで、自分のよさを感じ取る ○約束を知る ・いいところやがんばったところを書く ・アドバイスはしない ○活動する ○振り返る ・相手の音読のいいところやがんばったところを的確に書いた例を紹介したり、書いてもらった子の感想を発表したりする				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読が苦手な負担が大きくなる子どもがいる場合は取り組まない</li> <li>・この活動の前までに教師が子どもの音読のいいところやがんばったところを数多く指摘することにより、子どもが相互にプラスの評価をする観点を持てるようにする</li> <li>・一度だけでなく、何度も違うペアで行うことにより、多くの子とかかわれるようにする</li> <li>・「詩」などの短いものや、スピーチ原稿などの発表練習などに活用することもできる</li> <li>・二人組だけでなく、4人程度のグループで行うこともできる</li> <li>・ランダムにペアを作るのではなく一定期間、同じペアで認め合うようにする方法もある</li> </ul>				



# 音読カード(個人学習用)

(教材名)

年 組 ( )

何 回 目	やった日	読んだ範囲 (p〇の〇行目～p 〇の〇行目) 全部のときは全部と 書く	漢字が全部読 めたか	はっきりした 声で読めたか	あまりつかえ ずに読めたか	意味を考えな がら読めたか
1						
2						
3						
4						
5						

×……あまりできなかった △……まあまあできた ○……できた ◎……かんぺきです

# 音読カード(認め合いペア音読用)

(教材名)

(自分のめあて)

年 組 ( )

何回目	やった日	読んだ範囲	聴いてくれた人	聴いた人が見つけた「いいところ」や「がんばったところ」など
1				
2				
3				
4				
5				

タイトル (活動概要)	<b>38 ナイス！アイデア！（ブレインストーミング）</b>			基本 体験	被受容
育てる力 関連スキル	「自分づくり」④自他の違いを認める ①自分の意見をもつ	背景	意見や考えを受け入れてもらう経験が少なく、自信がない		
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰のどんな意見でも肯定的に受け止め、よさに気づく</li> <li>・自分なりの意見を伝えるだけでなく、友達の意見もしっかり聞く</li> </ul>				
対象学年	小中・小高・中1・中2・中3・高校	実施時期	行事等の計画立案の前・学級開き		
所要時間	15～30分	活動場所	教室等	活動場面	特別活動・総合
準備	画用紙や模造紙・フェルトペン・対象とする物（ボール、新聞紙、ストロー等何でも）				
	学 習 ・ 活 動		支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導 入	○活動のねらいを知る				①自分の 意見をも つ  パス OK 暴力 NO (意見を批 判しない) 持ち出し 禁止 ④自他の 違いを認 める
主 活 動	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           グループで協力して、ユニークな意見をたくさん出そう         </div>				
	○活動の流れ（やり方・内容）を知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈設定〉みなさんが乗った船が難破し、この○○(例:わりばし)だけがここに残りました。そこに海賊が来て宝物を要求しました。みなさんでこの○○○がどんなに便利な宝物であるか、その使い道をたくさん考えて、海賊にアピールしましょう。</p> </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①グループで、話す順番と記録係を決める</li> <li>②時間内に順番にたくさん意見を出し合い、紙（模造紙や画用紙）に記録する</li> <li>③グループで最もユニークな(おもしろい)意見を決める</li> <li>④各グループで出た意見を発表し合う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間は2～3分程度(実態に応じて決めてよい)</li> <li>・○○○(例:わりばし)は、日常的に身の回りにあるものがよい。具体物を用意して、各グループに配る</li> </ul>			
	○約束を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順番を守って話す(周りはだまって聞く)</li> <li>・なるべくたくさん意見を出す</li> <li>・意見が思いつかないときは、パスと言う</li> <li>・ユニークな意見ほど大歓迎</li> </ul>				
ふ り 返 り	○活動する				
	○ふり返る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して感じたことや気づいたこと、学んだことを全体で話し合う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時には、どのチームに対しても、必ず賞賛の拍手をする</li> <li>・ルールを守って楽しく活動できたことをフィードバックする</li> <li>・いろいろな意見があることや人によって考えが違うことを押さえる</li> </ul>		
配慮事項	・導入で教師がユニークなアイデアを例とすることで子どもの発想が広がる				

## ブレインストーミングの活用

### ブレインストーミングとは

単なる思いつきでも、みんなで自由にこだわりなく発言していくうちに、その中から思いもよらなかったすばらしいアイデアが生まれてくるという発想方法である。

既存の概念を打ち破り、自分の意識下に眠っている発想を引き出すことができる。

ブレインストーミングを行うには、以下の大事な4つのルールがあります。

#### ブレインストーミングのルール

##### 1 批判しない

＜批判が出ると、意見が出しにくくなる＞

##### 2 どんな意見も OK

＜実現可能でなくとも OK、奇想天外な案からすばらしいアイデアが生まれる＞

##### 3 質より量が大事

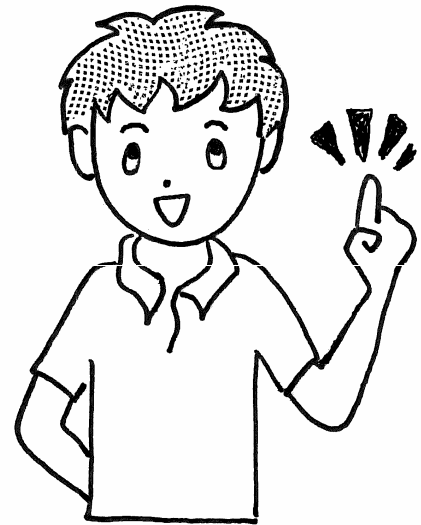
＜数が多いことが一番＞

##### 4 人まね OK

＜人の意見から新たな発想をして、別な意見を生み出す＞

### ブレインストーミングのやり方

- ①グループになる
- ②記録係を決める
- ③出されたテーマに対し、みんなが自由に多くのアイデアを出す
- ④アイデアの数の多いところから発表する



### 「ナイス・アイデア！」ふり返りシート

年 組 名前 ( )

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 楽しく安心して活動できましたか。

4 3 2 1  
| | | |

2 たくさんの意見を出せましたか。

4 3 2 1  
| | | |

3 友達や自分のよさについて感じる事ができましたか

4 3 2 1  
| | | |

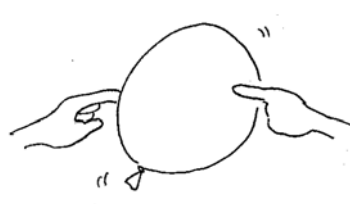
4 今日の活動で気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったら書きましょう。

---

---

---

---

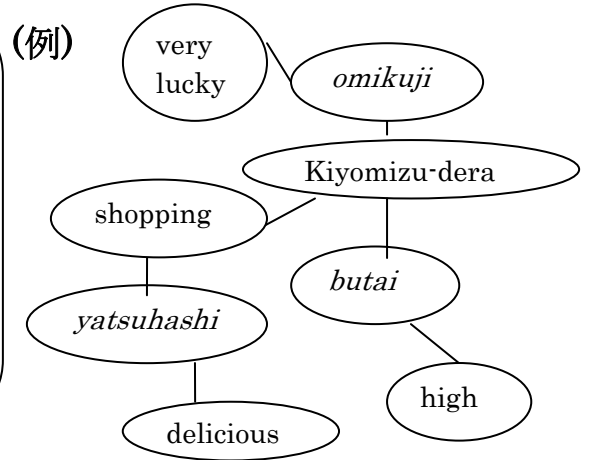
<b>タイトル (活動概要)</b>	<b>39 風船送り (相手を感じる)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い	
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」④自他のちがいを認める ②自分なりの見方や感じ方をもつ		<b>背 景</b>	自己中心的で、他者の存在を認められない子が増えている		
<b>活動のねらい</b>	・相手と自分が違う存在であることを実感し、人は相手とのかかわりの中で生活して入ることに気づく					
<b>対象学年</b>	小中個別・小～高・大人		<b>実施時期</b>	席替えや班編成をしたとき		
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室・どこでも	<b>活動場面</b>	朝の会・特別活動・集会	
<b>準備</b>	・風船                      ・班 (3人～6人)					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールねらい</b>	
導 入	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">班や列の人と協力して上手に風船送りゲームをしよう</div>					暴力 NO 安全の配慮
	主 活 動	○活動の流れ (やり方・内容) を知る ・2列に並び、列の一番後ろから前に向かって、隣の人と協力して風船をリレーする (円陣になって行ってもよい) ※席替えをしたときなどは、座席に座ったままで立たないで行うようにする <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"><b>【風船の渡し方】</b> 必ず隣の人と一緒に風船に触れる ・両手で ・片手ずつで ・指1本ずつで ・指1本ずつで、二人の間で大きく1回円を描いてから ・目をつぶって</div>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・速く渡すことがよいのではないことを知らせる</li> <li>・徐々に難しい渡し方にしていく</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を発しないで言い、身体感覚に気づかせる</li> </ul>	
ふ り 返 り		○約束を知る ・しゃべらないで行う				
	○活動する			<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を感じることから、協力することの必要性を感じた発言が出たらとりあげる</li> </ul>		
○ふり返る ・活動して、感じたことを出し合う						
<b>配慮事項</b>	・失敗したときに相手を責める雰囲気にならないように、個別の支援が必要な児童生徒に気を配るようにする					

タイトル (活動概要)	40 修学旅行での体験を英語で伝えよう			基本 体験	被受容	
育てる力 関連スキル	「仲間づくり」⑤はっきり伝える ⑮しっかり話を聴く 「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ	背景	伝えたいことを分かりやすく話したり、 人の話を受容的に聴いたりする力が身 についていない			
活動のねらい	・修学旅行での体験を、聴き手を意識して分かりやすく伝えたり、聴き手が話し手に質問したりすることによって、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を養う					
対象学年	中3	実施時期	修学旅行実施後（5～7月頃）			
所要時間	50分×3回	活動場所	教室、多目的室	活動場面	外国語科	
準備	・ワークシート					
学 習 ・ 活 動		支援の観点・留意点等			ルールとねらい	
導 入	○活動のねらいを知る  修学旅行で体験したことを、聴き手に分かりやすく工夫して伝えよう 友達の修学旅行の体験をしっかり聴き、質問をしよう					
主 活 動	○活動の流れを知る <1時間目> ①修学旅行のグループで、どんな場面や内容を伝えるか、ウェビングマップ等を用いて、構想を練る ③グループ内で相談し、英語で原稿を作る  <2時間目> ①分かりやすく伝えるための工夫をする (例:絵や写真、実物などの使用/ジェスチャーの活用など) ②プレゼンテーションに向けて、グループ内で練習をする  <3時間目> ①グループごとにプレゼンテーションを行う ②それぞれの発表の後に、各グループ1人ずつ質問をする  ○約束を知る ・発表後には、大きな拍手を送る  ○活動する	・AETまたは教師が、例を示す ・写真や絵などを効果的に活用する ・各グループの活動を必要に応じて支援する  ・エピソードや感想などを加え、聴き手が楽しく聴ける内容を工夫させる ・聴き手を意識して、分かりやすいプレゼンテーションができるようにする ・グループで協力することの大切さを感じられるようにする ・相手を尊重した話し方や聴き方ができるようにする  ・話し手と聞き手が一体となった発表会を心掛ける	②自分なりの見方や感じ方をもつ  ⑤はっきり伝える  ⑮しっかり話を聴く  暴力 NO			
ふ り 返 り	○ふり返る ・活動の導入時に示したねらいの視点から、自己評価・相互評価を行う	・それぞれが自己有用感や成就感を感じることができるようふり返りにする ・教師がそれぞれのグループの取組についてコメントをする				
配慮事項	・修学旅行に参加できなかった子どもがいた場合には、その子が活動に参加できるような発表内容や役割を各グループに配慮させる ・発表の際には、多目的室などを使用し、椅子を半円形にするなどして、話し手と聴き手が一体感を感じることができるよう空間を工夫する					

## School Trip ～修学旅行での体験を伝えよう～

class(        ) name(                    )

### 1 伝えたいことの構想を練ろう



### 2 英文を書こう

---



---



---



---



---

### 3 分かりやすく伝えるための工夫をしよう

(工夫する点、心掛ける点)

### 4 各グループのよかったところをメモしよう

group 1		group 4	
group 2		group 5	
group 3		group 6	

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>41 知ってもらおう！家庭科学習</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑤はっきり伝える 「自分づくり」③自他のよさを見いだす		<b>背景</b>	異年齢での関わり合いが少ないため、互いのよさを認め合うことができない	
<b>活動のねらい</b>	・自分たちの経験を伝えることや、それらを聞くことを通して、よりよい人間関係を育てる				
<b>対象学年</b>	第4学年・第5学年		<b>実施時期</b>	学年末	
<b>所要時間</b>	45分×2	<b>活動場所</b>	家庭科室	<b>活動場面</b>	家庭科
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科学習ふり返しシート（5年生のみ）</li> <li>・やかん ・湯飲み茶わん ・きゅうす・茶葉</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	<p>○活動のねらいを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの家庭科学習で、楽しかったことや大変だったことなどを4年生に伝えることを知る</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">4年生とのお茶会で家庭科学習の楽しさを分かりやすく伝えよう</div>				
<b>主活動</b>	<p>○活動の流れ（やり方・内容）を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①4年生を交えたお茶会の準備をする</li> <li>・5年生家庭科振り返しシートで、1年間の家庭科学習を振り返り、4年生に伝えることをまとめる</li> <li>②お茶を飲みながら、5年生は家庭科学習について伝え、4年生はその話を聴く</li> <li>③4年生からの質問や感想を受ける</li> <li>④5年生を中心に片づけをする</li> </ol> <p>○約束を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下級生である4年生を、「お客様」としてもてなす 「相手を気遣う」「やさしい言葉遣いで」「はっきりした声で」 「相手の顔を見て」</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに制作した作品や写真等を事前に準備しておく</li> </ul>		<p>③自他のよさを見いだす</p> <p>⑤はっきり伝える</p> <p>暴力NO パスOK 持ち出し禁止</p>
<b>ふり返し</b>	<p>○活動する</p> <p>○ふり返る（5年・4年それぞれに）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返しカードに、今日の活動で気づいたこと、思ったことなどを記入する</li> <li>・クラス全体やグループでカードに書いたことを出し合う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生、4年生ともにあらかじめグループ分けをしておく</li> <li>・グループごとに質問タイムを設けてもよい</li> </ul>		
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生の書いた家庭科学習ふり返しカードは事前に目を通しておく</li> <li>・4年生にも「聴き方」で気をつけることとして、「話している人を見る」「あいづちを打つ」「相手が話し終わるまで黙って聴く」など、実態に応じて指導をし、めあて意識をもたせておく</li> </ul>				





## 「家庭科の学習を4年生に伝えよう」

年 組 名前

1 自分から進んで学習に取り組むことができましたか（番号に○をつける）

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

2 4年生とのお茶会の活動を楽しむことができましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

3 4年生に喜んでもらうことができましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

4 4年生に家庭科の活動を上手に伝えることができましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

5 今日の活動で、気がついたことや感じたこと、学んだことがあったら書きましょう

---

---

---

---

---

---

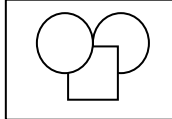
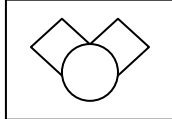
---

---

---

---



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>42 お絵かきリモコン (正確に伝える)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い	
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑤はっきり伝える ⑥上手に質問する ⑫やさしく頼む		<b>背 景</b>	相手の立場に立って、物を伝える力が低くなっている		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意図を正確に伝えるためには、相手の立場に立つことが必要であることを体験する</li> <li>協力して行うことによって、グループの凝集力を高める</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	小学校高学年～		<b>実施時期</b>	人間関係ができてから		
<b>所要時間</b>	30分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特活	
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ついたて</li> <li>画用紙</li> <li>試しの図形</li> <li>ワークシート</li> <li>サインペン</li> <li>ストップウォッチ</li> </ul>					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	<b>○活動のねらいを知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>代表が試しの図形を見て伝え、全員がワークシートの①に描く</li> <li>どのように伝えれば同じ図が描けたか話し合う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの情報を正確に伝えないと、正しく伝わらないことを知る</li> </ul>			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">           上手に教えたり質問したりしながら、グループで絵を完成させよう         </div>					
<b>主 活 動</b>	<b>○活動の流れ(やり方・内容)を知る</b> ①グループで順番を決める ②1番目の人が絵を見ながら、ついたての向こうにいる2番目の人に伝えて同じ絵を描かせる。 伝える人と描く人だけが話ができる ③時間になったら、2番目の人がついたてのこちら側に来て絵を見て、3番目の人に伝える ④1番目の人だけは、最後の人の後について、アンカーとなるが、話してはいけない ⑤以降繰り返す。ついたてのこちらに来たら、描く側には行けないが、 ⑥最後の人(1番目の人)がグループごとにできた絵を見て感想を出し合う		<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えるのも理解するのも困難を伴うことが予想される子どもがいる場合は、色や図形のような、伝達が簡単な情報を盛り込んでおく</li> <li>簡単な絵で練習した後、グループの話し合いの時間をもつと、課題の難しさを乗り越える作戦の話し合いになる</li> </ul>		パス OK ⑤はっきり伝える ⑥上手に質問する ⑫やさしく頼む  暴力 NO	
	<b>○練習の絵</b> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>					
<b>ふ り 返 り</b>	<b>○約束を知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>分からないことは、やさしくたずねる</li> </ul>					
	<b>○活動する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2人組になって簡単な絵で練習(ワークシート③)してから、ゲームを行う</li> </ul>					
		<b>○ふり返る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場を思いやって人とかかわることの大切さに思い至る発言があればとりあげる</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の難しさを十分に理解させ、乗り越えるための手段を理解させた上で実施し、ある程度の達成感を味わうことができるようにする</li> </ul>				

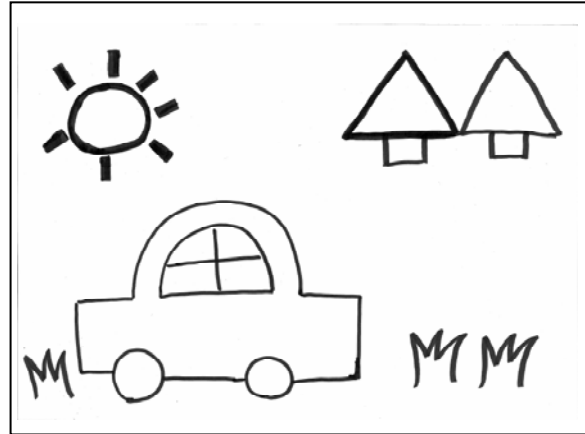
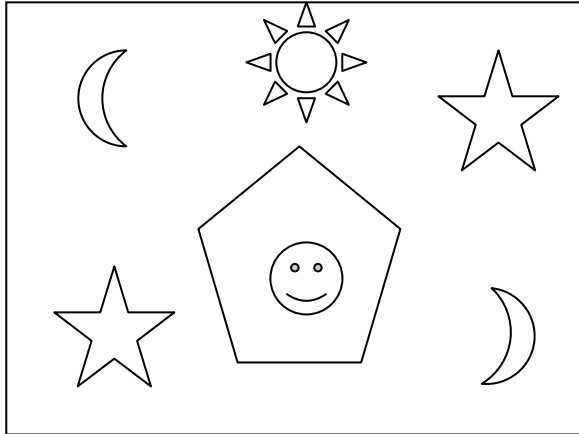


<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>43 記憶力お絵かきゲーム (伝える・聴く)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑤はっきり伝える ⑫やさしく頼む		<b>背 景</b>	グループ活動に慣れないため、分担・協力の苦手な子どもがいる	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見をはっきり伝えたり、友達の考えをしっかりと聴いたりする力を付ける</li> <li>・仲間の話に耳を傾けることよさや、アドバイスをし合って情報を交流させることの楽しさを味わう</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	友達に慣れてきたころ	
<b>所要時間</b>	15分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題にする元の絵</li> <li>・B4くらいの大きさの紙 ・フェルトペン ・ストップウォッチ</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		グループで協力して、見た絵をできるだけ同じように描こう		
	○活動の流れ(やり方・内容)を知る				
<b>主 活 動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①最初の1人が廊下に掲示した絵を見に行き、部屋に戻り記憶を頼りに絵を描く</li> <li>②合図で1番目の人は描くのを止め、2番目の人が絵を見に行き描く</li> <li>③以降、順々に見に行き描くリレーをして、絵を完成させる</li> <li>④できあがった各チームの絵を見合う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にクラス内を4～6人のグループに分けておく</li> <li>・絵を例示して説明する</li> <li>・見る時間は統一する</li> <li>・絵を描くことに過度の緊張を伴う子どもには、無理強いしない</li> <li>・友達に頼んだり、頼まれたりすることや、分担をして責任をもつ経験を通して、協力の成果を味わえるようにする</li> <li>・失敗を責めることなく、次の人が確かめて付け加えたり直したりしてチームで完成させる</li> </ul>		パスOK
	○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の人に、自分の記憶が足りないところや不確かな点を見て描いてもらうことを頼む</li> <li>・互いにねぎらいの言葉をかける</li> </ul>		⑫ やさしく頼む
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームごとに、描く順番や作戦を話し合い、2回目を行ってもよい</li> </ul>		暴力NO (相手が傷つくことを言わない)
	○ふり返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・できあがった絵をもとに、アドバイスの仕方や協力の仕方について感想を出し合い、発表する</li> </ul>		
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できばえを競う雰囲気にならないように気を配る</li> <li>・見る時間、描く時間、伝える時間をコントロールすることで、整然とゲームが進行することで、約束を守って楽しいゲームができ、グループの結束力を高めたい。</li> </ul>				

## お絵かきゲームの絵

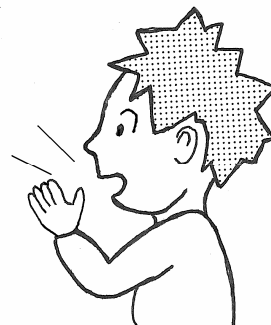
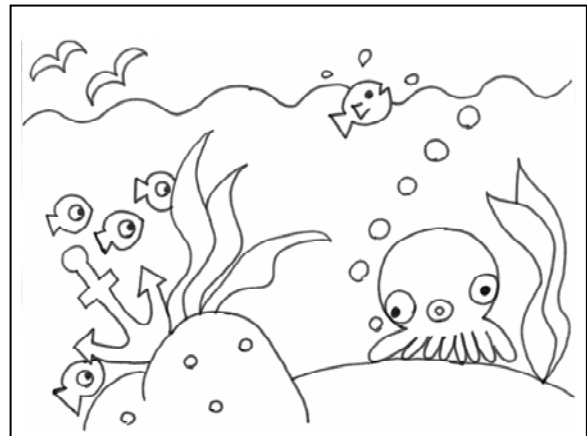
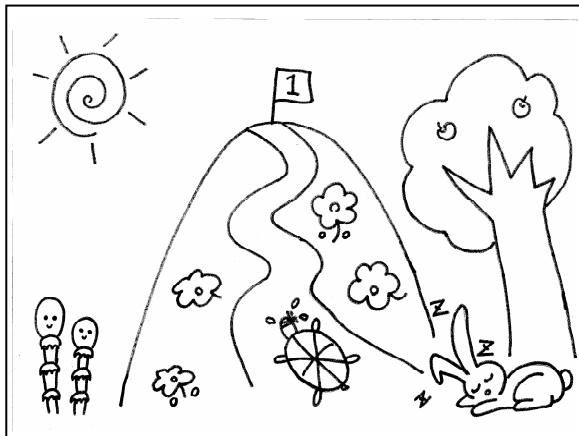
### ○ 小学校低学年の場合

絵の技量にかなりの個人差があるので、誰が描いても、グループの仲間に認められるようなできるだけ簡素化した絵を用いる。知名度が高いキャラクター等（ミッキーマウス、アンパンマン、ドラえもん等）は、元になる絵を見ないで描いてしまうことがあるので、帽子やマント、ネクタイやリボン等の付属物でヴァリエーションをつけるとよい。



### ○ 小学校中・高学年以上の場合

絵の要素は簡素化し、背景等で物語性をもたせる。チーム内の役割分担が図られ、コミュニケーションが活発になるような構成にする。



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>44 何の物まね？ (ジェスチャーゲーム)</b>				<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑤はっきり伝える ⑭あたたかい言葉をかける		<b>背 景</b>	イメージしていることを、上手く伝えられないことが多い		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェスチャーで相手に分かるように伝える体験を通して、自分のイメージを伝える力を高める</li> <li>注意して動作を見て、相手の伝えたいことを読み取る</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	個別支援学級 (小・中)・小低～中2		<b>実施時期</b>	通年		
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室など	<b>活動場面</b>	学校行事・学活など	
<b>準 備</b>	・動物 ・スポーツなどの問題絵カード (資料参照) ・ストップウォッチ					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		ジェスチャーで相手に分かるように伝えよう			
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ (やり方・内容) を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>例題を出して、教師が演じ、やり方を確認する</li> <li>1回戦は動物、2回戦はスポーツなどテーマを決めて取り組む方が取り組みやすい</li> </ul>		パスOK  暴力NO	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人が問題絵カードを見て、グループの仲間にジェスチャーで伝える</li> <li>答える人の正解を出すまで、ジェスチャーをする</li> <li>時間内になるべく多くの問題を連続してとく</li> <li>何問とけたか、数をグループで競う</li> <li>分からないときはパスという (伝える人、答える人、どちらがパスをしてもよい)</li> <li>伝える人を代えて2回戦、3回戦と時間まで行う</li> </ul>					
	○約束を知る					
<b>ふ り 返 り</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちがってもいいから答えをどんどん言う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>グループのメンバーがお互いに協力することが大事だということを強調する</li> <li>他のチームの様子を観察して、自分たちの動作にいかすよう助言する</li> </ul>		持ち出し 禁止	
	○活動する					
	○ふり返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業、宿泊学習のレクリエーションなど、色々な場面で利用できる</li> </ul>		⑤ はっきり伝える  ⑭ あたたかい言葉をかける	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果の発表と感想を聞き合う</li> </ul>					
<b>配慮事項</b>	・子どもの状況に応じて、回答者だけをやるようにしてもよい					

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>45 自分も相手も大切にする伝え方 パート1</b> (役割演技で身につける)			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑤はっきり伝える 「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ	<b>背景</b>	仲間集団の中で、相互に尊重したコミュニケーションの経験が少ない		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え方の違いについて知り、相互尊重の伝え方を使っていこうとする</li> <li>・ロールプレイングを通じて、日頃の自分や友達の話し方に気づく</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高	<b>実施時期</b>	ある程度人間関係が深まったとき		
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	国語・特別活動
<b>準備</b>	・ロールプレイングのシナリオ ・パート1 ワークシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	3つの伝え方を演じて、違いを感じてみよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え方の違いが出るように、少しオーバーに話すように伝える</li> <li>・演技であることをしっかりと確認し、子どもの様子を観察しながら進める</li> <li>・演じるのをためらう子どもには無理強いしないで、傍で見るなど配慮する</li> <li>・B役を演じて、「スッとした」と感じる子どもがいたら、相手役の気持ちとあわせて考えさせる</li> </ul>		⑤はっきり伝える
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二人一組でシナリオで劇をする</li> <li>・Aさん、Bさん、Cさんを一通り終えたら役割交代をして、同様に繰り返す</li> <li>・三つの違いをワークシート①に記入する</li> </ul>				②自分なりの見方や感じ方をもつ
	○約束を知る				安全の配慮
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				
	○ふり返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えだけでなく、相手のことも大切にする姿勢が必要なことを押さえる</li> <li>・これまでの自分の伝え方についての気づきがあったときは、賞賛し、本時の経験を生かしていくよう伝える</li> </ul>		パスOK
	○まとめる				
○まとめ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを考えながら自分の思いを伝えることが、自分にも相手にもよいことを知る</li> </ul>			
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの実態に合わせて、劇(ロールプレイング)のシナリオや場面設定など工夫する</li> <li>・子どもの実態に合わせて、2コマを連続して行ってもよい</li> </ul>				



## ☆自分も相手も大切に伝える方（ロールプレイングシナリオ）

- ① 三つの言い方について、役割を決めて、演じてみましょう。
- ② 一通り終わったら、役割を交代して演じてみましょう。

〈場面〉給食の準備中、給食をもらうためにならんで順番を待っていました。その間、ちょっとおしゃべりをしていたら、自分の前に割り込んでいる子に気がつきました。

### Aさん

相手役 配ぜん台のほうを見ている

Aさん 「ねえ…、ちょっと私（ぼく）が先に…」（小さな声で言う。）

相手役 「なに…、どうしたの？」

Aさん だまって下を向いてしまう。

相手役 「何かあったの？」

Aさん 「いや、なんでもない…」（と小さな声になって、下を向いてしまう。）

相手役 「なに？へんなの！」

### Bさん

相手役 配ぜん台のほうを見ている。

Bさん 「ねえ、ちょっと何してんの。」（と、にらみつける。）

相手役 「なに…、どうしたの？」

Bさん 「私が先にならんでるの、わかんないの？割り込まないでよ！ほんとにずるいんだから…。」（大きな声で言う。）

相手役 「しゃべってて、ちゃんと並んでなかったじゃないか！」

Bさん 「何、言ってるの？自分がズルやったのを、ごまかさないでよ！」（と、強く言う。）

### Cさん

相手役 配ぜん台のほうを見ている。

Cさん 「ねえ、ちょっと〇〇さん。」

相手役 「なに…、どうしたの？」

Cさん 「私が先にならんでたんだ、順番守ってくれる？」（相手の顔をしっかりと見る。）

相手役 「だって、ちゃんとならんでなかったから。」

Cさん 「私がしゃべっていて、そう思ったんだろうけど、順番は私が先だったんだ。」

相手役 「わかったよ。おなかがすいてて、早く給食もらいたかったんだ。ごめん。」

Cさん 「私もしゃべって、ちゃんとならんでなくてごめん。」

## ☆自分も相手も大切に伝える方（パート1 ワークシート）

年 組 名前（ ）

- ①ロールプレイングをした後、三人の話し方について、考えてみましょう。相手役やAさん、Bさん、Cさん役をして、感じたことや気がついたことを書きましょう。
- ②書いたことを発表し合い、それぞれの特徴を考えましょう。

	相手役で感じたこと	A,B,Cさん役をして感じたこと	特 徴
Aさん			
Bさん			
Cさん			

### 「自分も相手も大切に伝える方 パート1」ふり返りシート

月 日（ ） 年 組 名前（ ）

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 友だちと協力して、安心して活動できましたか。

4 3 2 1  
└───┬───┬───┬───┘

2 自分の感じ方を素直に表現できましたか。

4 3 2 1  
└───┬───┬───┬───┘

3 三つの伝え方があったことが分かりましたか。

4 3 2 1  
└───┬───┬───┬───┘

4 今日の活動で気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったら書きましょう。

---



---



---



---



---

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>46 自分も相手も大切に伝える方 パート2</b> (役割演技で身につける)			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑤はっきり伝える 「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ	<b>背景</b>	仲間集団の中で、相互に尊重したコミュニケーションの経験が少ない		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互尊重の伝え方を理解し、日常生活の中で使っていこうとする</li> <li>・ロールプレイングや台詞を考えることで、日頃の自分や友達の話し方に気づく</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高	<b>実施時期</b>	ある程度人間関係が深まったとき		
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	国語・特別活動
<b>準備</b>	・パート2 ワークシート ・「自分も相手も大切に伝える方パート1 シナリオ」				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る 「自分も相手も大切に伝える方 パート1」を想起させ、3つの伝え方を確認する  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分も相手も大切に伝える方を使えるようになるう</div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パート1のプログラムと学年をまたいで行うときは、パート1シナリオを提示する。</li> </ul>		
<b>主活動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ・ワークシート②の場面を読み、自分も相手も大切に伝える方の台詞を考えて書く ・2人組になり、それぞれ自分の考えた台詞でロールプレイングして、聞き役の感想を聞く  ○約束を知る ・自分が感じたことを率直に伝える  ○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いや考えだけでなく、相手のことも大切に伝える姿勢が必要なことを押さえる</li> <li>・必要に応じて、自分の置かれている状況(事実)、気持ち、相手への配慮(代替案)、などを伝える内容として提示してもよい</li> <li>・「24 わたし言葉で会話しよう」の話し方を参考に出だしてもよい</li> </ul>		⑤はっきり伝える  安全の配慮  パス OK ②自分なりの見方や感じ方をもつ
<b>振り返り</b>	○振り返る ・振り返りシートに書いたことを共有しあう  ○まとめる ・学級生活では、自分も相手も大切に伝える方を使っていこうとまとめる		<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>		
<b>配慮事項</b>	・児童の実態に合わせて、2コマを連続して行ってもよい				

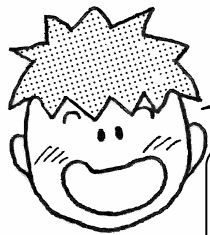
自分も相手も大切に伝える方 (パート2 ワークシート)

年 組 名前 ( )

- 次の場面を読んで、自分の相手も大切に伝える方のセリフを考えましょう。
- 2人組で、自分が作ったセリフでロールプレイングをして、感想を話し合しましょう。

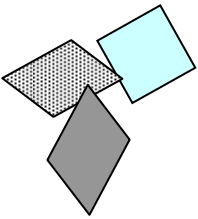
<場面>

図工で折り紙を忘れたAさんが、「少しちょうだい」とあなたに言いました。あなたが「いいよ!」と言ったら、Aさんはきれいな色ばかりたくさん折り紙を持って行ってしまいました。その中には、あなたがこれから使いたかった色の折り紙がふくまれていました。そのとき、あなたはなんと言いますか?



折り紙ありがとう!

ぼくは(わたしは)...



**「なんていうかな?パート2」ふり返りシート**

月 日 ( ) 年 組 名前 ( )

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 自分も相手も大切に伝える方の意味が理解できましたか

4 3 2 1

2 生活の中で自分も相手も大切に伝える方を使っていくことができると思えるようになりましたか

4 3 2 1

3 今日の活動で気づいたことや感じたこと、学んだことがあったら書きましょう。

---



---



---



---



---



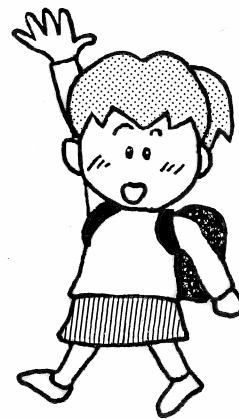
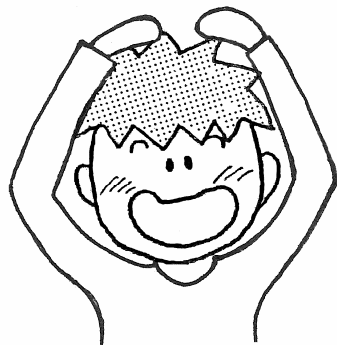
---

アサーション (assertion) は、「自分の気持ち・考え・意見・希望などを率直に正直にしかも適切な方法で自己表現すること」であり、「自分と相手の相互を尊重しようという精神で行うコミュニケーション」である。アサーションの基本的な考え方は、自己信頼「I am OK」と相互信頼「I am OK ,you are OK」であり、まさに横浜プログラムのねらいとするところでもある。

近年、子どもたちのコミュニケーション能力の低下が指摘され、暴力行為やいじめ、不登校等の子どもの問題行動の大きな要因と指摘されている。学校では、友達関係が気まづくなり仲間外れやいじめに発展することや、自分の本音が語れずに友達との関係に悩んでいる子どもたちの姿がある。そこには、自分や相手の思いを理解し、認め合おうとする姿勢が不足している。自分のネガティブな感情や、いやなことを「いや」と、自分だけでは解決できないことを「助けて」などを、「言うてはいけないこと」として自分の中に押し込めているようである。

アサーションのプログラムを実施すると、子どもたちは、自分が「非主張的」「攻撃的」「アサーティブ」な表現を、様々な場面や相手に対して気がつかずに使い分けていること、そしてその偏りを発見し、自分の中の様々な感情やものの見方・考え方、相手との関係性などに気づく。そして、「人間は誰でも自他の権利を侵さない限り、自己表現をしてよい」という＜アサーション権＞の意識を学ぶ時、子どもたちの中に、自分自信を大切にしていこうとする自己信頼感が育まれる。

日常の教育活動の中で、アサーションの考えを基本として、自分の言葉を最後までしっかりと聴いてもらえる経験や、相手と自分の意見や考え方が違うことを前提で意見交換をし、互いを認め合っていく体験の積み重ねが、相互信頼の感覚を育て、自尊感情や人権意識を育てるのである。



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>47 ステップアップスピーチ(目標をもってスピーチする)</b>			<b>基本体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑤はっきり伝える ⑯しっかり話を聴く	<b>背景</b>	自分の意見をはっきり伝えたり、相手の話に耳を傾けたりする力が弱い子がいる		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチを行う経験の積み重ねを通して、相手にはっきり伝える力を身につける</li> <li>・話している人の気持ちを考えながら耳を傾けることの大切さを実感する</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高・中個別・中1	<b>実施時期</b>	通 年		
<b>所要時間</b>	5～10分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	朝の会・国語
<b>準 備</b>	・時期に応じたスピーチのテーマと目標の掲示物				
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○ねらいを知る		目標を意識して、はっきりと相手に伝わるスピーチをしよう		
	○手順（やり方・内容）を知る（最初だけ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・話のテーマと目標を決めてスピーチをする</li> <li>・だんだんと目標をステップアップしていく</li> </ul> <テーマ例> 「好きなこと」「昨日のこと」「好きな教科」 「遠足で心に残ったこと」「将来の夢」等 <目標例> (内容)「様子を詳しく」「感想を入れて」 (話し方)「みんなに聞こえる声で」「みんなの方を見て」「しっかりした姿勢で」				
<b>主 活 動</b>	○約束を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスOKだが、できることに挑戦する</li> <li>・目標に関してのよいフィードバックをする</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員にかかる期間が長くなり過ぎないように1日にスピーチする人数を考える</li> <li>・時間は発達段階によって変える</li> <li>・スピーチのテーマと目標を掲示する</li> <li>・目標を内容に置くか、話し方に置くか、発達段階に応じて設定する</li> <li>・朝の会などの短時間の場合は、原則として教師がフィードバックする</li> <li>・その日のスピーチが、目標を達成していたら、大いに認める</li> <li>・聞き方についての評価も時によっておこなわれる</li> <li>・子どもがフィードバックする場合は、その日の目標やテーマについてのみ評価するようにする</li> </ul>		⑤はっきり伝える ⑯しっかり話を聴く  パス OK 暴力 NO (目標以外のことについて、負の評価をしない)
	○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィードバックをする人を、前日の発表者や翌日の発表者にしておくと、担当者が明確になる</li> <li>・個人の成長を見つけられたことを評価する</li> </ul>		
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチをして、またはスピーチを聞いて、感じたことを発表する</li> </ul>				
	○まとめる <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に、できるようになったこと(目標)を確認する</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パスありのルールをしっかり伝え、負担になり過ぎる子どもが出ないようにする</li> <li>・パスした場合、なかなかできないようならば、個別にアドバイスする</li> <li>・声の小さい子どもへの評価を否定的にしてしまうと逆効果になるので、長期的な取り組みであることを話し、人との比較でなく、本人の進歩を評価していくようにする</li> </ul>				

## ステップアップ例

ステップアップには、様々なバリエーションが可能である。発達段階、状況によって使い分けたい。

下の例は、内容をステップアップしていく低学年のものであるが、ステップ1は1日で全員、ステップ2は4日で全員、ステップ3は1日5人・・・というように、1日に話す人数を減らしていきながら行う。全員がステップ4までできたら、1つのテーマについて、グループで1人ずつ順番に内容を加えて話をしていくゲーム（ステップアップ・スピーチリレー）を行ってもよい。

### ステップ1

登校するとき、こんなものを見ました。

わたしは白い犬を見ました。



### ステップ2 <様子を加える>

登校するとき、こんなものを見ました。  
それは〇〇〇（様子・動作）でした。

わたしは三毛猫を見ました  
それはふわふわでぬいぐるみのようでした。



### ステップ3 <気持を加える>

登校するとき、こんなものを見ました。  
それは〇〇〇でした。  
わたしは、△△と思いました。

わたしは近所のおばあさんと会いました。  
おばあさんは、道を掃除していました。  
わたしは、おばあさんはこの街が好きなんだ  
なあと思いました。



### ステップ4 <行動を加える>

登校するとき、こんなものを見ました。  
それは〇〇〇でした。  
わたしは、△△と思いました。  
わたしは、□□することにしました。

わたしは、床屋のおじさんと会いました。  
おじさんは、私を見て「おはよう」と声をかけてくれました。  
わたしは、自分からあいさつができなかったことを恥ずかしく思いました。わたしは、明日からは自分からあいさつすることにします。

## ステップアップスピーチリレー

### ステップ1 A子（スタート）

綱引きでは、わたしたち赤が勝ちました

### ステップ2 →B子

綱引きではわたしたち赤が勝ちました。

綱を引いているみんなの顔は真っ赤でした

### ステップ3 →C男

綱引きではわたしたち赤が勝ちました。

綱を引いているみんなの顔は真っ赤でした

わたしは力いっぱい引いて、苦しいと思いました

### ステップ4 →D男（ゴール）

綱引きではわたしたち赤が勝ちました。

綱を引いているみんなの顔は真っ赤でした

わたしは力いっぱい引いて、苦しいと思いました

それでも、わたしは力いっぱい引き続けました

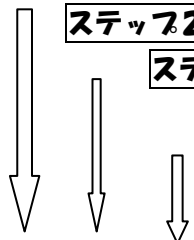
## 目標をステップアップする

### ステップ1 みんなに聞こえる声で

### ステップ2 みんなの方を見て

### ステップ3 1分以上で

### ステップ4 笑顔で



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>48 サイコロ・ペアトーク (自分を語る)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑤はっきり伝える ⑮しっかり話を聴く	<b>背 景</b>	伝えたいことを言葉にすることが 苦手な子どもがいる		
<b>活動のねらい</b>	・少人数の相手に話すことで、伝えたいことを言葉にすることへの抵抗感をなくす ・聞きとったことを相手に返すことで、相手とのつながりができることを感じる				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高・中個別・中1	<b>実施時期</b>	4月を中心に通年		
<b>所要時間</b>	5分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	朝の会・国語
<b>準 備</b>	・サイコロ (学級で一つまたはグループやペアで一つ) ・サイコロトーク表 (サイコロの目によって話題が決まる表)				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		・学年初めは人間関係づくり、進むに 従って話し方や聴き方の練習という目 的を強調する		
	伝えたいことが相手に伝わるように話をしよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ (やり方・内容) を知る		・さまざまなペアで話せるようにするか、 同じペアでさまざまな話題を話し相互 理解を深めるか、実態に応じて使い分 ける		⑤はっき り伝える  ⑮しっか り話を聴く
	①二人一組で聞き手、話し手の順を決める ②話し手はサイコロを振り、出た目の数のテーマ (サイコロトーク表)で1分間話をする ③聞き手は話し手に感想を返す ＜返す内容＞(発達段階で返す内容を絞る) A 話し手の言いたかったこと B それについての感想 C 話し方でよかったこと ④聞き手、話し手を交代して行う		・最初は、簡単な話題にする ・話す時間は話題によって変える(次ペ ージ例参照) ・聞きとったことを一言で返すやり方は、 教師が見本を示す		
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る		・子ども同士のかかわりあい、「話す・聴 く」の能力、話すのが苦手な子どもの 成長など、その時に応じて学級に必 要な観点を設定し、一人ひとりの活動 をよく観察しておく		暴力 NO パス OK
	○活動する				
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る		・全体での発表では声の小さい子ども でも、ペアの中では十分に聞こえる声 で話せた場面などを捉え、評価し励ま すようにする		
	○まとめをする				
		・話し方や話している内容、聴いている姿勢や返 す言葉の内容などについて、教師が全体に広げ たいものを紹介する			
<b>配慮事項</b>	・話すことが苦手な子どもがいる場合は、サイコロトーク表の話題をできるだけ簡単にする。				



# サイコロ・ペアトーク

## トーク表 (例)

サイコロの目	話すテーマ
1	好きな飲みもの
2	身近なこわい動物
3	実はよく知らないこと
4	行ってみたい場所
5	生まれ変わるとしたら
6	みんなの知らないかくし技

サイコロの目	話すテーマ
1・2	昨日 食べたもの
3・4	昨日 見たTV番組
5・6	昨日 楽しかったこと

### 会話例 テーマ昨日食べたもの

話し手：昨日は、お母さんの誕生日だったので、家族でケーキを食べました。お父さんが紅茶をいれてくれました。ケーキを一口食べてから、紅茶を飲んだお母さんが、ぷっと言って口を押えました。みんなは顔を見合わせました。わたしたちもすぐに紅茶を飲んでみました。紅茶は、お父さんがお砂糖とお塩を間違えて入れて、しょっぱかったのです。でも、お母さんは、「こぶ茶みたいでこれもおいしいわ」と言って、平気な顔で飲んでしまいました。みんなで大笑いしました。でも、わたしは、ケーキは甘くておいしかったけど、紅茶はこっそりパスしました。これは秘密です。

聞き手：

#### A 話し手の言いたかったこと

- ・お母さんの誕生日のケーキは甘くておいしかったんだね
- ・誕生日のケーキは甘くておいしかったけど、紅茶はしょっぱかったんだね
- ・しょっぱい紅茶でも、お母さんの誕生日は楽しかったんだね
- ・お父さんの塩入紅茶で、みんなで大笑いしたんだね
- ・仲よし家族がそろってのお母さんの誕生日は、楽しかったんだね

#### B 話を聞いての感想

- ・しょっぱい紅茶を平気で飲んじゃうなんて、お母さんはお父さんに優しいんだね
- ・楽しくていい家族だね
- ・「こぶ茶みたい」って、お母さんはユーモアがあるね
- ・紅茶はよほどしょっぱかったんだね

#### C 話し方でよかった点

- ・声の大きさがちょうどよく、「声の物差し」に合っていました
- ・身ぶりや表情がついていて、その場の様子がよく分かりました



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>49 彼・彼女の好きなこと (英語で紹介する)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑥上手に質問する 「自分づくり」④自他の違いを認める	<b>背 景</b>	友達に興味をもち、積極的にかかわり 理解をしようとする態度が減っている		
<b>活動のねらい</b>	・自分を表現する活動と友達を紹介する活動を組み合わせ、三人称単数を活用しながら、 人との関係づくりを深めていく				
<b>対象学年</b>	中1		<b>実施時期</b>	夏休み後 (三人称単数導入時)	
<b>所要時間</b>	50分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	外国語科
<b>準 備</b>	・ワークシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		英語で自分や友達の好きなことを紹介し合おう		
	○活動の流れ (やり方・内容) を知る		・AETと教師とで示範する (Assistant English Teacher)		
<b>主 活 動</b>	① 4～5人のグループ内でインタビューをし合う I like ○○. How about you? → (友達) I like △△. ※○○が食べ物なら△△も食べ物、色の時は色として同じ種類の物の中で答える ② ワークシートに記入し、友達のサインをもらう ③ 紹介シートを作る He(She) is my friend. He(She) likes △△. ④ 作った紹介シートをもとに、全体の前で友達を紹介する グループが1列に横に並び、次々と隣の友人を紹介し、最後の人は最初の人を紹介する				⑥上手に質 問する ④自他の違 いを認める パスOK  暴力NO (相手の表 現をからか わない)
	○約束を知る		・スポーツや色、教科など、お互い を知るために多くの質問ができる ようにする		
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				
	○ふり返る				
<b>ま と め り</b>	・英語で友達を紹介したり、紹介されたりして、どのような 気持ちになったかをふり返る				
	○まとめる				
<b>配慮事項</b>		・グループづくりには十分配慮する ・発表時に全員が紹介されるよう確認するとともに、聞き手が発表内容を尊重できるよう指導 する			


# わたしの好きなこと/彼・彼女の好きなこと

Name ( )

(1) インタビューゲームをしよう

*I like*

*How about you ?*



友達の サイン				
友達の 好きな こと				

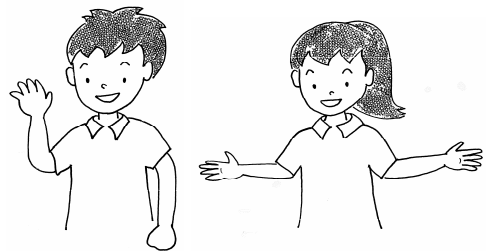
(2) みんなにグループの友達を紹介しよう

*He/She is my friend*  (名前) .

*He/She likes*  .

(3) 発表を聞きながら 自分を表現しよう

- ☆ 同じものが好きだったら、*Me too!*
- ☆ 意外だったら、*Oh!!*



4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 1 楽しく協力して活動できましたか                             | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 聞いている友達の目を見て発表できましたか                        | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 友達の発表に、表情豊かに反応できましたか                        | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 イントネーションや丁寧な発音を意識してできましたか                   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 今日の活動で気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったら書きましょう。 |   |   |   |   |

---



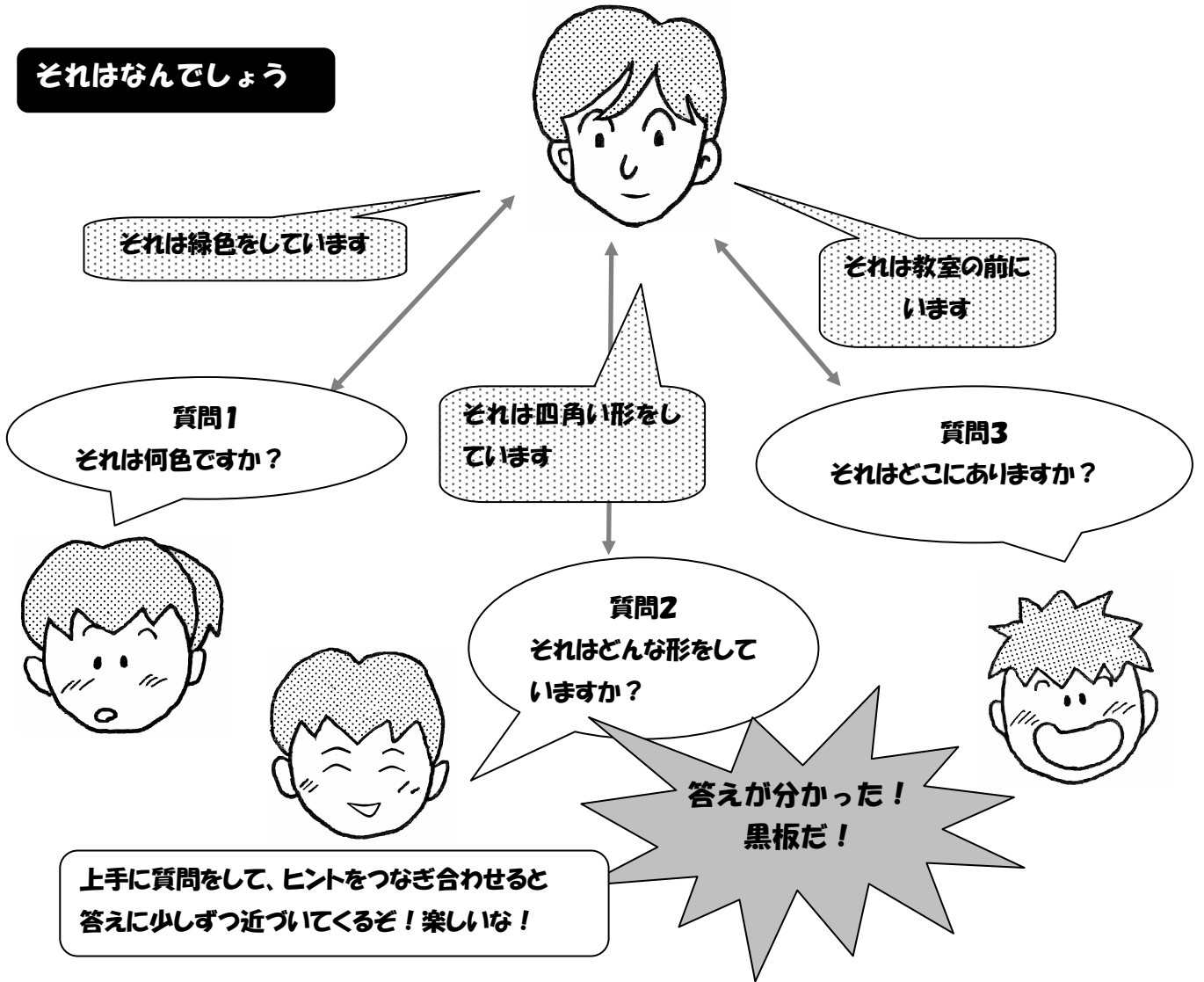
---



---

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>50 それはなんでしょう (質問ゲーム)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑥上手に質問をする ⑮しっかり話を聞く		<b>背 景</b>	人とのかかわりが少なく、質問して相手の話を聞く力が弱い子がいる	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 答えを見つけるために上手に質問できるようになる</li> <li>・ しっかり話を聞いて、情報を結びつけて答えを見出すことができるようになる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低～小高		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	15分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	集会等
<b>準備</b>					
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">上手に協力して質問し、答えを見つけ出そう</div>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①出題者を決める ②出題者は、問題を決める ③回答者は順番に質問し、出題者が答える(質問の数はあらかじめ決めるか、回答者の数にする) ④最終質問までいったら、答えを出す(答えがわかった時点で答えたら、ポイントを増やす等する)  ○約束を知る ・問題は、全員が知っているものにする  ○活動する		・教師が例題を出し、やってみせる  ・正解しなくても責めるような言動はしないように注意する  ・ゲームの方法がわかったら、グループ単位で取り組んだり、グループ対抗で取り組んだりして楽しむ ・質問する順番は、ローテーションさせる		暴力 NO (正解しなくても責めない)  ⑥上手に質問をする  ⑮しっかり話を聞く  パス OK
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・友達同士で、協力して質問しながら、答えにたどりついた感想を話し合う				
<b>配慮事項</b>	・最初は話を聴くことが苦手な子の参加を促すために、教師が例題を工夫して、やり方をつかませる ・まずはゲーム自体の楽しさを味わわせ、少しずつ参加意欲を高める				

それはなんでしょう



ふりかえりをしよう

なまえ ( )

よくできた    まあまあできた    あまりできなかつた    できなかった

1 ともだちとたのしくかつどうができましたか



2 じぶんでかんがえて、しつもんができましたか



3 ヒントをつなぎあわせて、こたえをみつけようとかんがえることができましたか



4 きょうのかつどうで、かんじたことをかきましょう。

.....

.....

.....

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>51 上手な断り方 (役割演技で断り方を身につける)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑦きっぱり断る ⑤はっきり伝える 「自分づくり」①自分の意見をもつ	<b>背 景</b>	自分が孤立することを恐れて、仲間集団の 関係性を優先させてしまう傾向がある		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の要求や誘いに応じられないときは、自分の考えを適切に伝え、断ろうとする</li> <li>相手に自分の考えや意見をはっきりと伝えることができるようにする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高・中1・中2・中3	<b>実施時期</b>	通年		
<b>所要時間</b>	45～50分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動・道徳・総合
<b>準 備</b>	・ロールプレイングのワークシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・自分の気持ちに添わないのに断れなかった経験を 思い出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>断れなかった自分に目を向けさせ る</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">上手に断ることができるようになろう</div>	
	<b>主 活 動</b> ○活動の流れ(やり方・内容)を知る ・三人組になり、頼む役、断る役、観察者を決める ・ワークシートの課題から一つ選び、頼む役、断る役 のロールプレイングを2分間行う ・観察者は、断る役が上手に断れたかをフィードバックする ・役割交代して課題を替え、同様にロールプレイング する  ○約束を知る ・相手を傷つけるような断り方をしない  ○活動する  ○まとめる ・上手な断り方のポイントを整理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師と子どもで実際にやって見せる</li> <li>上手な断り方の例として、               <ol style="list-style-type: none"> <li>頼みを聞けないことを謝る</li> <li>断る理由を言う</li> <li>断りを表明する</li> <li>代わりの意見を伝えるなどを提 示してもよい</li> </ol> </li> <li>ロールプレイングが終わったら、 役割解除を行う</li> </ul>			
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・ロールプレイングをしたときの気持ちや、これまでの 自分の行動や考え方等についてふり返り、話し合う	<ul style="list-style-type: none"> <li>断るときの言語的側面、非言語的 側面(視線、声、距離など)も重要で あることを押さえる</li> <li>頼みごとをされても、様々な状況判 断をして断るのか、引き受けるのか 決め、はっきりと断ることが重要なこ とを伝える</li> </ul>		暴力 NO (相手を傷つ けるような言 葉を使わな い) パス OK 安全への 配慮	
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロールプレイング中は、子どもの様子を注意深く観察し、必要があれば後で話を聞くなどのケアを行う。</li> <li>これまでの自分の行動や考え方についての気づきがあったら、認めて、言語化を支援する</li> </ul>				

# ワークシート「上手な断り方」

氏名( )

☆ 三人が「頼む役」、「断る役」、「観察者」という役を交代しながら、下の場面のロールプレイングを3回やります。

場面：あなたたちはとても仲のよい友達です。ある日、友達から次のような頼みごとがありました。しかし、あなたはどうしても引き受けたくありません。あなたはどのようにして断りますか？

☆断る役は、相手が納得するようにいろいろな言葉を考え、断り続けてください。

☆観察者は、断る役がどれだけ上手に断ることができたかを判定してください。

## 〈課題〉

- ① (テスト前の大事な時に)「今度の土日にノートを貸してくれない？」
- ② 「宿題を写させてくれない？」
- ③ 「今日の部活の練習、さぼっちゃわない？」
- ④ 「文化祭の発表の原稿、全部やっというて」

	1回目	2回目	3回目
頼む役 / 断る役	/	/	/
断り方でよかったところ			

## 上手な断り方の例

- ①頼みを聞けないことを謝る
- ②断る理由を言う
- ③断りを表明する
- ④代わりの意見を伝えるなど

## 「上手な断り方」ふり返りシート

月 日 ( ) 年 組 名前 ( )

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 楽しく安心して活動できましたか。

4 3 2 1  
| | | |

2 相手を傷つけない断り方があったことがわかりましたか

4 3 2 1  
| | | |

3 上手に断る方法をやってみることができましたか

4 3 2 1  
| | | |

4 今日の活動で得たことを日常生活活かせそうですか

4 3 2 1  
| | | |

5 今日の活動で気がついたことや感じたこと、学んだことがあったら書きましよう。

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---





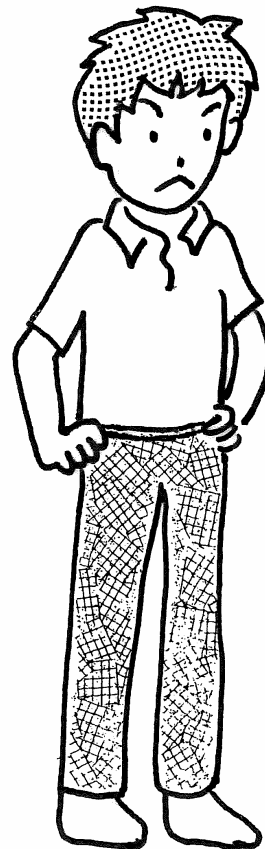
## コラム：「断る」というスキル

断ることで相手と自分の人間関係が崩れてしまうと思い込み、相手の頼みを断ることができない子どもがいる。横浜プログラムでいうところの、「Small I, Big We.」の子どもである。

また、断り方が曖昧で、結局は断りきれなくなってしまう子ども、断ったつもりだったのに、相手にそう取られずにトラブルになる子ども、断り方で相手との人間関係を壊してしまう子どもなどもある。相手の頼みごとをきちんと、しかも相手との人間関係を壊さないように断るには、それなりの技術が必要である。

まず、相手の頼みごとを「引き受けたくない」「いやだな」「断りたい」と感じたら、その理由を考えてみよう。「自分の力で頼まれたことをやり遂げるのは無理」「人の迷惑になること、社会的ルールに反していること」「自分が一方的に利用されるのはいや」のどれだろうか。自分が断りたい理由をはっきり意識して、断る決意をすることがまず第一段階である。

次には、相手との人間関係を壊さないような伝え方を考える。「45 自分も相手も大切に伝える伝え方」にあるように、受け身型、攻撃型ではない「さわやかな自己主張型」の断り方になるような断り方を考えさせたい。



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>52 はっきり断る (役割演技で断り方を身につける)</b>			<b>基本体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑦きっぱり断る ⑤はっきり伝える 「自分づくり」①自分の意見をもつ	<b>背景</b>	友達からの悪い誘いをはっきりと断れない 子どもが多い		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非行に誘われた場面で様々な対応の仕方を検討し、その中から自己主張的できる行動(断り方)を学び、いかそうとする</li> <li>・相手の要求や誘いに応じられないときは、自分の考えを適切に伝え、断ろうとする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高・中1・中2・中3	<b>実施時期</b>	通年		
<b>所要時間</b>	45～50分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動・道徳・総合・(体育保健学習)
<b>準備</b>	ロールプレイングのワークシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	友達にいけないこと(万引きなど)に誘われたとき、はっきりと断ることができるようになる				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る				
	①グループごとにAからGまでの答え方を役割分担して演じる ②「よい答え方」「悪い答え方」を分類し、グループでどれがよい答え方かを話し合う ③答え方についてクラス全体でまとめる ④はっきり断る言葉を考え、練習する <ul style="list-style-type: none"> <li>・断る言葉をワークシートに記入する</li> <li>・考えた言葉を使って順番にロールプレイングをする</li> </ul>	○約束を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイング後は、拍手でねぎらう</li> </ul> ○活動する <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のまとめをする             <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えた言葉を発表し、これからとるべき態度を確認する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合って答えをグループで一つにする。</li> <li>・自己主張型、受け身型、攻撃型の3パターンの断り方を紹介し、どの断り方が望ましいかをグループで話し合い、自分なりの対処法について考えることができるようにする</li> <li>・ロールプレイングは、決意表明であるのでしっかり行うように声をかける</li> <li>・参加は強制せず、自然に参加できるよう十分に意識付けを行う</li> </ul>	暴力NO (批判しない)  ⑤はっきり伝える ⑦きっぱり断る	
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定場面は、万引き、喫煙、薬物など、状況に応じて必要なプログラムに変更可能</li> <li>・相手が不当な要求や不合理な要求、社会的ルールに反する要求をしてきたときは、相手の気持ちを考える必要はない。むしろ、はっきり断ることによって、自分自身を守り、健全な人間関係を築くことができる。また、はっきり断ることができたことによって、自尊感情も向上していく。はっきり断れば、どのパターンを選択してもよいが、対人トラブルを防ぐ観点からは、自己に判断基準を置いた自己主張型の断り方を選択させたい。</li> </ul>			

## ワークシート ～ はっきり断る ～

名前 ( )

### 場面 ゲームソフトの万引きに誘われて

誘い役：おもしろそうなゲームソフトがあるんだけど、ちょっと、ついて来てくれない？  
見ているだけでいいからさあ。だれも見えてないし、見つからなければ大丈夫だからさあ。

〈 断り方 〉

- A： それって、万引き？ ・ ・ ・ よくないことだから、やめた方がいいよ。  
B： べつに、いっしょについていだけならいいけど ・ ・ ・ 。  
C： いやだよ！ ばかじゃない！！  
D： 先生に心配かけたくないし、やめとくよ。  
E： う～ん、 それって、あまりほしくないんだけど ・ ・ ・ 。  
F： 警察につかまるぞ！ 君がそんなことをするとは思わなかったよ。  
G： だめだよ ぼく（わたし）は、そういうことは絶対にしないんだ。だから、やめなよ

☆自分だったら、どう言うかな？

☆自分の考えた断り方で、演じてみよう。

☆今日の学習で分かったこと、気づいたことを書きましょう。

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>53 手拍子チームワーク</b>			<b>基本 体験</b>	群れあい
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑧仲間に加わる		<b>背景</b>	群れ合い体験の不足から、集団で何かをなしとげる楽しさを感じたことの少ない子どもがいる	
<b>活動のねらい</b>	・学級全員でリズムを合わせた手拍子をすることにより、学級のみんなで心をつなげる楽しさを体験する				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	5分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	朝の会
<b>準備</b>	・振り返りシート				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">手拍子チームワークで心をつなげよう</div>				
<b>主活動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①手拍子の方法を説明し練習する(最初の活動の時だけ) ・「心をあわせて」 ・「心をあわせて、せーの」パン ・「せーの」パンパン ・「せーの」パンパンパン ・「せーの」パンパンパンパン ・「せーの」パンパンパンパンパン(5回で終了) ②手拍子チームワークに挑戦する ③感想を言う(毎回感想を言わなくともよい。時間がある時や、感想を言う意味が見いだせる時に行う)  ○約束を知る ・失敗する人がいても、責めたりしない  ○活動する ・座席順でリレーしていく		・「心をあわせて」ができるようになったら、少し難しい手拍子にしてもよい (難しい例)「リレー三三七拍子」  ・最初は失敗してつかえてしまう子がいるのは当たり前だということを話し、失敗する子を責めることにならないようにする  ・失敗しても何回か取り組むようにしてチャンスを増やす  ・成功するまでやるのではなく、成功しなければいけないで、次回にまた挑戦しようという形で時間をみて終了する  ・振り返りシートは成功したときに書くのがよい  ・なかなか成功しないことが続いた場合、がんばって成功させようとしている子どもの姿を教師が指摘する形で振り返りをする		暴力NO (失敗を責めない)  ⑧ 仲間に加わる  パスOK
<b>振り返り</b>	○ふり返る ・心を合わせようと努力している子のようすを教師が具体的に指摘する ・時期をみて、振り返りシートを書く				
<b>配慮事項</b>	・うまくいかなかったときに一人の子を責めるのではなく、学級全体の目標と考えるよう留意する ・すぐに成功することを目標とするのではなく、何回もやってみていくなかでだんだんと心がついていくことに意味があることを意識させる				

# 「手拍子チームワーク」 ～活動をふりかえろう～

名前（ ）

4 よくできた    3 まあまあできた    2 あまりできない    1 できなかった

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| 1 自分からすすんで取り組みました    | 4-3-2-1 |
| 2 活動を楽しめました          | 4-3-2-1 |
| 3 友達とリズムをあわせるのが楽しかった | 4-3-2-1 |
| 4 全員で成功したときうれしかった    | 4-3-2-1 |

○ 「手拍子チームワーク」の感想を書こう

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>54 どうぶつ うた合戦</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑧仲間に加わる		<b>背 景</b>	新しいグループになじめず、チームワークができない	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで声を合わせるにより、気持ちが和らぎ楽しさを体験する</li> <li>・合図に集中しながらグループで心を合わせて歌うことの楽しさを味わう</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低		<b>実施時期</b>	友達の名前を覚えたころ グループ替えをした後	
<b>所要時間</b>	10分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準 備</b>	・動物の顔絵カード（資料参照） 5・6種類				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           どうぶつの鳴き声で、楽しく歌合戦をしよう         </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵カードに書いてある動物の鳴き声（「ワン」や「ニャン」）を使って「かえるのうた」をみんなで楽しく歌う</li> </ul>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に歌いながらやり方を説明する</li> <li>・歌うグループを曲の中で交互にしたりカードの出し方を工夫したりすると楽しい</li> <li>・間違いを責めることなく元気よく声を出した楽しさや声を合わせた楽しさを味わわせたい</li> </ul>		⑧仲間に加わる  暴力 NO （間違いを責めない） パスOK
	①やり方を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定された歌を出されたカードの動物の声で歌う</li> <li>・曲の途中で絵カードが取り替えられたら、それに合わせて歌う</li> </ul>				
②グループ対抗で歌合戦をする					
○約束を知る					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・間違えても責めない</li> <li>・元気よく声を出すことやみんなで声を合わせることを大事にする</li> </ul>					
○活動する					
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの友達と声を合わせて歌ったときの感想を書いたり発表し合ったりする</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく知っている歌（かえるのうた・ぶんぶんぶん など）が歌いやすい</li> <li>・グループ単位で行うことでおとなしい子も声を出すことの楽しさに慣れるよう、1度だけでなく機会を見つけて行うとよい</li> </ul>				



# どうぶつ うた合戦～ふりかえり～

年 組 名前 ( )

1. たのしく活動<sup>かつどう</sup>できましたか。

すごく楽しかった

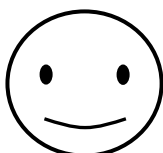
まあまあ 楽しかった

あまり楽しくなかった

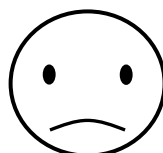
楽しくなかった



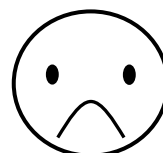
( )



( )



( )



( )

2. いろいろなともだちと3人ぐみになれましたか。

よくできた

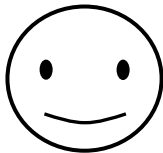
まあまあ できた

あまりできなかった

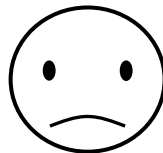
できなかった



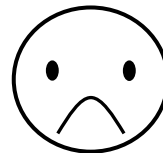
( )



( )



( )



( )

3. ともだちとこえをかけあって3人ぐみになりましたか。

よくできた

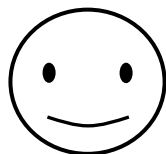
まあまあ できた

あまりできなかった

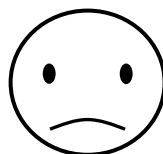
できなかった



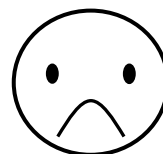
( )



( )



( )



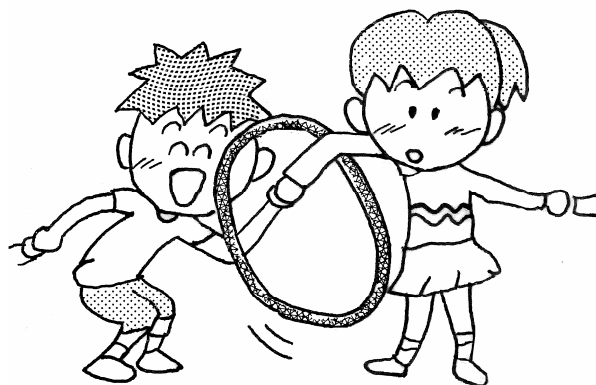
( )

おもったことを かきましょう

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>55 フープ回しリレー (協力して達成する)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑧仲間に加わる 「自分づくり」②自分なりの見方や考え方をもち		<b>背景</b>	一つのことを協力してやり遂げる経験が不足している	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いに協力することの大切さやグループメンバー同士の一体感を味わう</li> <li>自分と友達の身体が触れ合う感覚や手足が動く感覚を味わう</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	5～15分	<b>活動場所</b>	校庭・体育館	<b>活動場面</b>	体育・集会
<b>準備</b>	・輪(フープやたすき、ロープなど) ・タンバリン ・ストップウォッチ				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る ・グループ毎に手をつないで輪になり、大きさを変えながら、リズムに合わせて歩いたり動いたりする  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">みんなで力を合わせてフープを送り、一周回そう</div>		・タンバリンのリズムに合わせて楽しい雰囲気づくりをする		⑧仲間に加わる  暴力NO (遅くても責めない)  ②自分なりの見方や感じ方をもつ
<b>主活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ・グループ全員が手をつないで輪になる ・スタートの人を決め、人間の輪(腕)にフープを通し、順に体をくぐらせながら1周させる  ○約束を知る ・しっかりと手をつなぐ ・どうしたら速く回せるのか考え、励まし合ったりアドバイスし合ったりする  ○活動する ・作戦タイムをとる ・メンバーのつなぎ順を変えたり、内側向き、外側向き、輪のサイズを変えたりして何回か行う		・最初に教師と子ども何人かでデモンストレーションして動きのイメージをつかませる  ・フルーツバスケットの要領で、「赤い服を着ている人(例)」等のかけ声で、メンバーを楽しく移動させ、多くの友達と手をつなぐようにする  ・自然と手をつなぐ力が強くなっていることに気づくことができるよう、声をかける  ・友達とつながることのうれしさや楽しさに気づいた発言を賞賛する		
<b>ふり返り</b>	○ふり返る ・感じたことや気づいたことをグループで話し合い、みんなでも共有する				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループであたたかい言葉かけができたかをどうかを評価する</li> <li>全員で協力してできたことを拍手で賞賛し合う雰囲気づくりが大切</li> </ul>				



手をつないだ中でフープを回すためには、つないだ手を上下させたり、進退をくねらせたりすることが必要である。グループのメンバーからの温かいアドバイスがたくさん出るようにしたい。



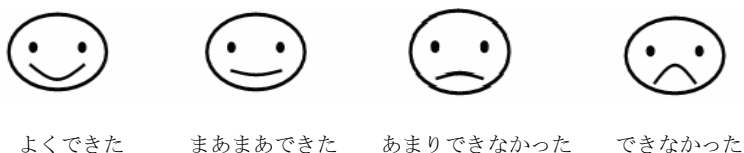
### ～グループづくりに抵抗感をなくす～

仲間づくりのプログラムでは、なるべく多くの友達と分け隔てなく接することができるように「仕掛け」を設けておきたい。

日頃から、グループ作りの方法をゲーム化しておいたり、手をつなぐ等の身体接触を図ったりしながら、頻繁に多くのメンバーと接するようにしておくことで、グループづくりに抵抗感が低くなる。本プログラム中でも、フルーツバスケットのやり方を取り入れ、途中で手をつなぎ合うメンバーを、楽しく、かつさりげなく交換する場面を設けている。

## フープ回しリレーふりかえりカード ( ) くり ( )

1 楽しく安心してかつどうができましたか



2. かつどうの中で、友だちをはげましたり、おうえんしたりできましたか



3. まわしおえて、みんなでよろこびあうことができましたか



4. このかつどうをして、気づいたこと・感じたことを書きましょう。

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>56 円陣手つなぎ風船ラリー</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」④自他のちがいを認める 「仲間づくり」⑧仲間に加わる ⑨仲間に誘う		<b>背景</b>	友達との認め合いや協力してやり遂げる ことの経験が不足している	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの友達とゲームを通して、互いを認め合い受容することのよさを味わう</li> <li>・仲間の存在に気づき、円滑なコミュニケーションをとれるようにする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高・中1		<b>実施時期</b>	4・5月 学級開きの頃	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	体育館	<b>活動場面</b>	体育
<b>準備</b>	・風船 ・グループ表				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           グループの友達と力を合わせて、風船を落とさないように続けましょう         </div>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・8人から10人程度のグループで行うが、グループの人数や数、男女混合か男女別にするかはクラスの実態に合わせる</li> <li>・1回だけでなく何回かチャンスをつくる。何回やるのかは、ゲームを始める前に明示する</li> </ul>		暴力 NO  パスOK  持ち出し 禁止
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①やり方を知る               <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の人と手をつなぎ円陣をつくり、スタートの合図で風船を落とさないようにつないだ手でうつ</li> <li>・つないだ手を離さない</li> <li>・風船が落ちたらゲームは終わり</li> <li>・最後まで落とさなかったチームが勝ち</li> </ul> </li> <li>②風船うちゲームの練習をする</li> <li>③練習の経験をもとに、並び方やうち方の作戦をグループで話し合う</li> <li>④風船うちゲームをする</li> </ul>				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				④自他のちがいを認める  ⑧仲間に加わる  ⑨仲間に誘う
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗することがあっても励まし合って協力する</li> <li>・勝ち負けよりも力を合わせられたかを大事にする</li> </ul>				
	○活動する				
	○ふり返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力したり認め合ったりしていたグループで振り返りを紹介できる</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の活動から思ったことや気づいたことをふり返りシートに書き、グループ内で話し合い発表する</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施場所は体育館や風の影響を受けない広い室内がよい</li> <li>・風船は割れやすいので予備を用意しておく</li> </ul>				

# 「円陣手つなぎ風船ラリー」

～活動をふりかえろう～

名前（ ）

4 よくできた    3 まあまあできた    2 あまりできない    1 できなかった

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 1 自分からすすんで取り組みました   | 4-3-2-1 |
| 2 活動を楽しめました         | 4-3-2-1 |
| 3 グループの人と協力できた      | 4-3-2-1 |
| 4 グループの人のいいところを見つけた | 4-3-2-1 |

○ 「円陣手つなぎ風船ラリー」の感想を書こう

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>51 漢字トランプをしよう (ゲームの中で伝える)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑧仲間に加わる ⑤はつきり伝える		<b>背 景</b>	人間関係づくりに課題のある子が多い	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的にゲームに参加しようとする</li> <li>同じ部分をもつ漢字カードを使い、友達と楽しくカードゲームをする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	同じ部分をもつ漢字の学習終了後	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	国語
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「同じ部分をもつ漢字」で学習したカード (2・3人グループで活動しやすい枚数)</li> <li>ふり返しシート</li> <li>筆記用具</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
導 入	○活動のねらいを知る		漢字カードで、楽しくゲームをしよう		
	主 活 動	○活動の流れ (やり方・内容) を知る			
<ul style="list-style-type: none"> <li>順番(カードを引く)を決める</li> <li>同じ部分(偏やつくり)をもつ漢字カードを机の上に裏返し、カードを混ぜる</li> <li>2枚めくって同じ部分をもっていたら取ることができる</li> </ul>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <b>(例) 線と絵、計と話、国と図、科と秋、道と通、汽と活、花と草等</b> </div>			
○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>「いとへんが同じです」「くにがまえが同じです」と、はっきり伝えてから取れるように支援する(苦手な子どもがいる場合は、同じ部分の部首と部首名を黒板に掲示しておく)</li> </ul>			
○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールを全員が理解できるように、グループ内で確認しながら練習する</li> </ul>			
ふ り 返 り	○ふり返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に楽しく学習し、教え合ったり仲良くなれたりした喜びを表現させたい</li> </ul>		⑧仲間に加わる  ⑤はつきり伝える 暴力NO (間違いを責めない) 安全の配慮 パスOK
	○まとめる				
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲームに楽しく参加できる学級の雰囲気づくりをする</li> <li>学習の苦手な子どもにはさりげない支援を行い、できたことを賞賛する</li> <li>漢字カードは学習しながら、子どもが作成できるよう学習計画に入れておく</li> </ul>			

## 漢字トランプをしよう ～応用編～

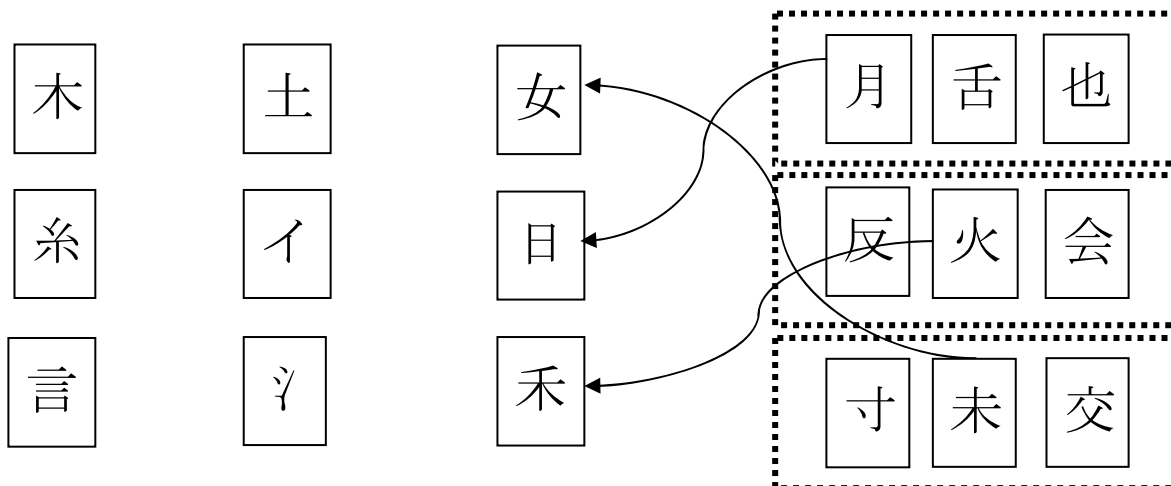
### 偏とつくりを組み合わせて漢字をつくる

#### ☆漢字組み合わせゲームをしよう

対象学年 小中・小高

○活動の流れ

- ・何枚かの漢字を偏とつくりに分解し、偏だけまたはつくりだけを並べておく。
- ・偏を並べた場合はつくりの（つくりを並べた場合は偏を）書いてあるカードを配る。



- ・順番につくりを出していき漢字をつくっていく
- ・カードを置いたときには、できた漢字の読み方を言う
- ・制限時間を設け、時間内に置けなかったらパスとする
- ・早くカードを出し終えた人（チーム）が勝ち
- ・チームで行うときは、漢字が苦手な人をグループの1番最初にする等の作戦を考えて助け合う

### 同じ漢字を見つける

対象学年 小低・小中・小高

#### ☆漢字ババ抜きをしよう

○活動の流れ

- ・同じ漢字を2組以上用意し、全部のカードを混ぜてから配る
- ・配られた漢字に同じものがあれば、組にして場に置く
- ・ババヌキの要領で、隣の人から1枚カードを引き、同じものがあれば場に出していく
- ・カードを出すときには、読み方を言いながら出す
- ・カードがなくなったら、あがり

- ※ ジョーカーを1枚作っておくと楽しい
- ※ 似ている漢字を入れておくと、漢字の細部まで注意して見るようになる
- ※ <部首が同じ>で出してよいことにすると高学年でも楽しめる



# 漢字トランプをしよう 振り返りシート

年 組 名前 ( )

- 1 安心して楽しく活動ができましたか (番号に○をつける)

4	3	2	1
_____			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

- 2 漢字トランプのルールをよく理解することができましたか

4	3	2	1
_____			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

- 3 友達と漢字のつくりやへんについて教えあいながらトランプができましたか。

4	3	2	1
_____			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

- 4 今日の学習で、漢字はへんやつくりで仲間わけができることがわかりましたか。

4	3	2	1
_____			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

- 5 今日の活動で、気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったら書きましょう。

---

---

---

---

---

---

---



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>58 パチパチリレー</b>				<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑧仲間に加わる ⑨仲間に誘う		<b>背 景</b>	身体表現が少なく、自分の気持ちを伝えることが苦手な子どもが多い		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で拍手をリレーすることで、仲間意識をもたせる</li> <li>・簡単な遊びを通して、身体を使ったコミュニケーションの重要性に気づく</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	小低以上		<b>実施時期</b>	人間関係を作りたいとき		
<b>所要時間</b>	5分	<b>活動場所</b>	広い場所	<b>活動場面</b>	集会等、出会いの場	
<b>準 備</b>						
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">         みんなで協力して、拍手リレーしよう       </div>					
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る				パス OK	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で輪になって並ぶ</li> <li>・スタートの人から、1人1回の拍手をして、時計回りにリレーして1周させる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の人に身体を向けたり、拍手する手を向けたりしてサインを送ると、よりリレーがスムーズになることに気づいた子どもがいれば、取り上げる</li> </ul>		⑧ 仲間に加わる	
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				⑨ 仲間に誘う	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートに戻ったら全員で拍手(掛け声等でもよい)をする</li> </ul>					
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				暴力 NO	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートに戻ったら、反時計回りで1周する</li> <li>・スタートから時計回り、反時計回りを同時にスタートして途中で拍手が交差してスタートまで戻る等のバリエーションをつけて行う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートまで戻っても止めないで2～3周してみると面白い</li> </ul>			
<b>ふ り 返 り</b>		○ふり返る・まとめる				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の人とのコミュニケーションをとる手段として、様々な身体のサインを活用した子どもに注目させ、身体表現は気持ちを伝えるのに有効であることに気づかせる</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズにつながらないときも、失敗した子を責めるのではなく、ねらいの「協力」を意識して、再度、挑戦する</li> </ul>				

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>59 みんなで協力 なかまをみつけよう (仲間探し)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑧仲間に加わる ⑨仲間に誘う		<b>背 景</b>	自分を表現する体験が不足しているため、人間関係づくりが苦手	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力して仲間探しをすることで、人とのかかわりを深める</li> <li>言葉を使わないで表現することで、相手に理解してもらおう、相手を理解しようとする態度を養う</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小学校低学年～		<b>実施時期</b>	友だちがわかり始めた頃	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特活
<b>準 備</b>	・「絵」カード(資料参照)各種類5～6枚ずつ7～8種類用意、箱の中に入れておく				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
導 入	○活動のねらいを知る		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           言葉を使わないで、協力して仲間を見つけよう         </div>		
	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①全員がカードを引き、自分以外には見せないようにする ②一言もしゃべらない、カードを見せないで、黙って部屋の中を歩いて、自分と同じカードを引いた仲間を見つけ、集まって座る ③合図で、互いのカードを見せあう  ○約束を知る ・一言もしゃべらない、声を出さない  ○活動する				
主 活 動	○ふり返る ・感じたことをグループで話し合い、クラス全体でふり返る ・仲間に感謝を伝える		・ねらいが「約束を守る・協力」にあることを伝える ・カード例 動物、乗り物等の具体物から、抽象的な概念(悲しい・嬉しい・色・教科等)まで、発達段階で変える  ・仲間が見つけれなかった児童や間違えた児童へ、他の児童から声をかけることをうながす  ・どのような方法で仲間を見つけたのかを、指導者が全部のグループにインタビューをして、仲間を見つけるためにどことなくふうをしたか、見つかったときの気持ちはどうだったかなど、ふり返りの視点を示す		⑧ 仲間に加わる ⑨ 仲間に誘う
ふ り 返 り					
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵カードを友達の背中につけ、自分が知らない状態でゲームを行うのもよい</li> <li>グループ作りの一方法として用い、そのまま主活動にはいるアイスブレイキングとしてもよい</li> </ul>				



タイトル (活動概要)	60 小中交流体験授業			基本 体験	群れあい
育てる力 関連スキル	「仲間づくり」⑧仲間に加わる ⑩さわやかにあいさつする ⑮しっかり話を聴く	背景	群れ合い体験の不足から、新しい環境や新たな出会いに過剰な不安や悩みを抱えることが多く、いわゆる中1ギャップの課題がある		
活動のねらい	・ 中学入学を控えた6年生が安心して中学校に入学できるようさわやかな出会いを経験する ・ 新たな出会いの中で小学校6年生と中学1年生との交流を和やかに行う				
対象学年	小高・中1		実施時期	12月上旬	
所要時間	90分	活動場所	中学校 各授業場所	活動場面	総合
準備	・筆記用具 ・各教科に必要なもの				
学 習 ・ 活 動		支援の観点・留意点等		ルールとねらい	
導入	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">6年生と中学生が楽しく交流しながら学習しよう</div>				
主活動	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①自己紹介をする ②活動の目的や授業内容を中学生が説明する ③活動の仕方を知る ・授業の展開 例) 数学の図形 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">折り紙を折り、はさみを1回だけ使って 正六角形をつくってみよう</div> ④小中学生が二人組になり、学習を進める ⑤二人組で互いに活動の感想を伝える  ○約束を知る ・「よろしくお願いします」「ありがとう」などのあいさつをする ・中学生は小学生が楽しめるように心がける ・小学生は中学生に感謝の気持ちを持って参加する  ○活動する		・緊張をほぐし、和やかに取り組めるようにする ・事前に中学生に具体的な指示をしておく ・中学生が小学生とともに活動する内容をあらかじめ決めておき、事前に小学校に伝えておく  ・例を提示しながらできるだけ具体的な興味・関心をもちやすい作業活動を入れていく  ・楽しかったという会話がやりとりできるような雰囲気作りをする		⑧ 仲間に加わる  ⑩ さわやかにあいさつする  ⑮ しっかり話を聴く  暴力NO  パスOK
ふり返り	○ふり返る ・授業を受けた感想をお互いに伝え、来年度、同じ中学生として生活していく確認をする				
配慮事項	・事前の小学校・中学校の学年担当者の綿密な打ち合わせが必要 ・受け入れる中学校側の実行委員結成等による、事前準備が大切 (中学生による体育館での全体リハーサルを行う) ※体育館等で、中学生による全体合唱等普段の取組を見せてもよい ・小学生に主旨や当日行う授業の希望をとるなどの事前準備による意識づけが大切 ・中学生による小学生の受け入れ方やマナーの説明、意識づけが必要				

## 小中交流体験授業

～ふり返りをしよう～

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 出来なかった

氏名 ( )

・参加して楽しかったですか。

4 3 2 1

・進んで取り組みましたか。

4 3 2 1

・「よろしくお願いします」「ありがとうございました」などのあいさつができましたか

4 3 2 1

・参加した小学生（中学生）のいいところを見つけることができましたか。

4 3 2 1

・小学生に教える（中学生に教わる）ことができましたか。

4 3 2 1

参加した感想を具体的に書いてみましょう！

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>61 木の中のリス</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑨仲間に誘う ⑧仲間に加わる		<b>背 景</b>	群れ合い体験の不足から人間関係づ くりが不得手な子どもが多い	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな友だちとゲームを通して、かかわりをもつ</li> <li>・ルールに従って集団で遊ぶ楽しさを体験する</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	友達になれてきた頃	
<b>所要時間</b>	30分	<b>活動場所</b>	体育館	<b>活動場面</b>	学級活動
<b>準 備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数調整を考えておく</li> <li>・オオカミのセリフを模造紙に書いておく</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る いろいろな友達ともっと仲よくなるゲームをしよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ・3人組を作る ・2人は立ったまま手をつなぎ「木」となり、残りのひとはリスになり木の中に入りしゃがむ ・「オオカミ」のいう言葉によって移動する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;"><b>オオカミの言葉</b></p> <p>ア「来たぞ来たぞきこりが来たぞ」・木は、きこりに切られないように手を繋いだまま他のリスのところに動く  イ「来たぞ来たぞオオカミが来たぞ」・リスはおおかみに食べられないように他の木に移動する  ウ「来たぞ来たぞ大嵐が来たぞ」・嵐に飛ばされないように全員がバラバラになり新しい3人組をつくり役割を決める</p> </div> ・オオカミは何にでも変身することができるので空いているところにはいり新しい役になることができる ・3人組に入れなかった人が次のオオカミになる  ○約束を知る ・なるべくいろいろな人と仲良くなるようにする ・入れないでいる子がいたら、誘うようにする  ○活動する ・3人組に上手く分けられないときにはオオカミを2人にして相談しながら行うこともできる		・はじめは担任がオオカミ役になり3パターンの練習をする ・3人組を前に出し、説明する ・オオカミの言葉が覚えられない子は模造紙を見ながら言ってよいことを伝える ・どう動いていいかわからない子へは担任が近くについて支援する ・声が聞こえない時にはマイクを使うとよい ・友達の行動や言葉に気付き、友達とのかかわりを感じることができるようにする  ・誘ったり、自分から行ったりする様子を紹介し、普段の仲良しとは違う子と仲良く活動することの大事さについてまとめる		⑧ 仲間に加わる ⑨ 仲間に誘う 暴力 NO パス OK
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・友達について発見したことや感じたことを発表する				
<b>配 慮 事 項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームのルールが飲み込めない児童がいる場合は、はじめの練習を多く取り理解させたい</li> <li>・学級の実態に合わせて「きこりが来たぞ」のとき木がバラバラになって動いてもよい</li> </ul>				



# 木の中のリス ～ふりかえり～

年 組 名 前 ( )

1. この授業は、楽しかったですか。

すごく楽しかった

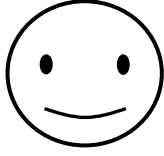
まあまあ 楽しかった

あまり楽しくなかった

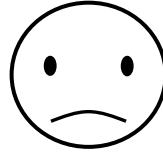
楽しくなかった



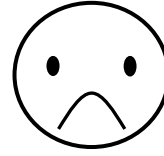
( )



( )



( )



( )

2. いろいろなともだちと3人ぐみになれましたか。

よくできた

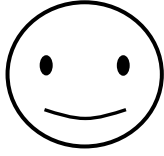
まあまあ できた

あまりできなかった

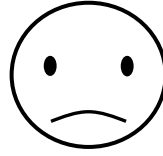
できなかった



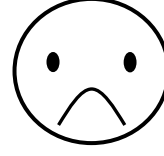
( )



( )



( )



( )

3. ともだちとこえをかけあって3人ぐみになりましたか。

よくできた

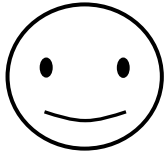
まあまあ できた

あまりできなかった

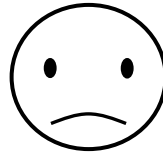
できなかった



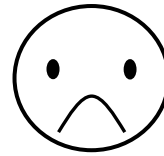
( )



( )



( )



( )

おもったことをかきましょう

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>62 リズム九九あそび (一体感を感じる)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑨仲間に誘う ⑧仲間に加わる		<b>背景</b>	友だち関係が固定してしまい、他者と協力して取り組む体験が不足している	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムうちに合わせて九九を連続して唱えることを通して仲間意識を深める</li> <li>・励ましあったり工夫を重ねたりして、活動を達成しようと協力する気持ちを育む</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中		<b>実施時期</b>	九九を覚えてから	
<b>所要時間</b>	10分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	算数・朝の会等
<b>準備</b>	・九九表				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		みんなで楽しく九九を覚えよう		
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>＜全員練習＞</li> <li>♪ ♪ ♪ ♪</li> <li>(拍手)(膝うち)(拍手)(膝うち)</li> <li>パンパン 2の段 ににんが し</li> <li>＜グループで＞</li> <li>♪ ♪ ♪ ♪</li> <li>(拍手)(膝うち)(拍手)(膝うち)</li> <li>パンパン Aさん さんが ろく</li> <li>( 全員 ) ( Aさん )</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パスOK</li> <li>⑧仲間に加わる</li> <li>⑨仲間に誘う</li> </ul>
○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>※九九について不安がある子がいるときは、覚えている九九を唱えてよいというルールにする</li> <li>・実態に合わせて速さや拍子を変えたり、ランダムに名前を呼んだり変化させて楽しめるように話し合わせる</li> </ul>		暴力NO	
○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員ができれば、やり方を話し合い、繰り返す</li> </ul>			
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり方を教えたり、リズムをゆっくりにして失敗してしまう友達を助けたりしていたグループを取り上げ賞賛する</li> </ul>		
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗感を味わわせないように、初めは、全員ができるペースで練習させたい</li> <li>・全員が終わったら「こんにちは、おはよう」等のあいさつをすると朝や帰りの会で日常的に使うことができる</li> <li>・1年生や2年生の足し算引き算をリズムで練習することもできる</li> </ul>			



タイトル (活動概要)	<b>63 手つなぎ鬼 (簡単なルールの鬼ごっこをする)</b>			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「仲間づくり」⑧仲間に誘う ⑨仲間に加わる		背景	大勢で遊ぶ中で、手をしっかりつなぐなどのふれあい経験が少ない	
活動のねらい	・手をつなぎながら鬼ごっこをすることで、より多くの友だちと信頼体験をする				
対象学年	小低・小中		実施時期	学級編成・班編成後	
所要時間	5～15分	活動場所	体育館等	活動場面	体育・集会
準備					
	学 習 ・ 活 動		支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導 入	○活動のねらいを知る みんなで手をつないで楽しく鬼ごっこをしよう				
主 活 動	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ・始めの鬼は1人(みんなに知らせる) ・タッチされた人は鬼と手をつないで、鬼になり、追いかける(3人組まで) ・鬼が4人になったら、2人組に分かれて鬼になり、どんどん鬼が増える ・体育館などで行う ・校庭で行うときは、コーン等で区切った場所で行う		・やり方を理解させるため、動ける範囲を狭くしてやってみる ・逃げられる範囲を広くし、カラーコーンなどで分かるようにしておく		安全の配慮 ⑧仲間に誘う ⑨仲間に加わる 暴力NO パスOK
	○約束を知る ・鬼はペアになった人と手を放さないで追いかける ・他の鬼の組と協力して、逃げている人を追いかけて、捕まえる ・最後の人が捕まるまでやる ・手はきちんとつなぐ				
	○活動する				
ふ り 返 り	○ふり返る ・手つなぎ鬼をやってみて、気づいたことや感じたことなどを発表する				
配慮事項	・手をつなぐのを避けたり避けられたりしている子がいないか注意深く観察し、支援する				

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>64 リズムでつながろうみんなの輪 (一体感を感じる)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑨仲間を誘う ⑧仲間に加わる ⑩さわやかにあいさつする		<b>背 景</b>	友だち関係が固定してしまい、他者と協力して取り組む体験が不足している	
<b>活動のねらい</b>	・リズムうちに合わせて名前を言うことを通して仲間意識を深める ・誰とでも気軽に声を掛け合える雰囲気を楽しむ				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	友だちの名前が解り始めたころ	
<b>所要時間</b>	10分	<b>活動場所</b>	音楽室・教室等	<b>活動場面</b>	特別活動・音楽・縦割り活動
<b>準備</b>	・リズム譜(2拍子・3拍子・4拍子)				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           リズムに合わせて、友だちの名前呼びリレーをしよう         </div>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1グループを使ってやり方を説明する</li> <li>・初めは4~6人くらいのグループで、やり方になれるようにする</li> <li>・実態に合わせて拍子を変えたり、ランダムに名前を呼んだりとグレードアップしていく</li> </ul>		⑧仲間に加わる ⑨仲間を誘う  ⑩さわやかにあいさつする  パスOK 暴力NO
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで輪になって座る</li> <li>・2拍子の拍子打ち(拍手)の後に、膝を打ちながら隣の人の名前を言う</li> <li>・名前を言われた人は立って、その次の人の名前を2拍子に合わせていう                ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪                (拍手) (膝うち) (拍手) (膝うち)                パンパン ○○さん は〜い (立つ)</li> <li>・途中で止まったらその人からやり直す</li> <li>・全員が呼ばれて立ったら終わる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が終わったら「こんにちは、おはよう」等のあいさつをすると朝や返りの会で使える</li> </ul>		
	○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しなれてきたら、「男子は女子を呼ぶ」「毎日違う友達の名前を呼ぶ」等の制限をつけると友達関係の偏りが少なくなる</li> </ul>		
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり方を教えたり、リズムをゆっくりにしたりして、失敗してしまう友達を助けていたグループを取り上げ賞賛する</li> </ul>		
	○ふり返る				
<b>配慮事項</b>		・リズム感がもてない子どもがいるので、失敗感を味わわせないように、初めはゆっくと、全員ができるペースで練習させたい			



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>65 リズムでセッション (即興でたのしくやいとりする)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い	
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑨仲間に誘う ⑧仲間に加わる		<b>背 景</b>	友達関係が固定してしまい、他者と協 力して取り組む体験が不足している		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムうちに合わせて名前を呼ばれる経験を通して仲間意識を深める</li> <li>・誰とでも気軽に声を掛け合える雰囲気を楽しむ</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	小中以上		<b>実施時期</b>	友達の名前がわかり始めたころ		
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	音楽室・教室等	<b>活動場面</b>	音楽	
<b>準 備</b>	・コンガ、ボンゴ、ジャンベ等の打楽器					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る					
	楽器を使って、楽しくリズム打ちゲームをしよう ♪♪					
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る			<ul style="list-style-type: none"> <li>・1グループを使ってやり方を説明する</li> <li>・初めは動きの確認をしながら、ゆっくり練習する</li> <li>・なれてきたら、交替をすばやくしたり、全員でするリズム打ちの回数を2回や1回に制限したりしてスピード感を出す</li> <li>・少しなれてきたら、ランダムに名前を呼んで行う</li> <li>・苦手意識のある子は、予め、自分が打つリズムを練習しておく</li> </ul>		⑧仲間に加わる ⑨仲間に誘う  暴力NO パスOK
	①グループで一つの楽器を囲んで輪になる ②最初の人自分の好きなリズムを打って、友達の名前を呼び、全員が手拍子で次の人が準備ができるまでリズム打ちを続ける ♪♪Aさん(最初の人) ♪♪Aさん(全員)・・・ ③次の人は準備ができたなら合図して違うリズムを打ち、次の人の名前を呼ぶ ♪♪JBさん(Aさん) ♪♪JBさん(全員) ④以下同様に繰り返し ⑤全員が呼ばれてリズム打ちが終わったら拍手をして終わる					
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のリズムに合わせてくれた友達との間に一体感を感じたり盛り上げてくれた友達への感謝の気持ちの言葉が出てきたら賞賛する</li> </ul>		
	・グループごとに盛り上げる工夫をする  ○活動する  ○ふり返る ・活動して思ったことや気づいたことをグループ内で話し合う					
<b>配慮事項</b>	・苦手意識のある子は、失敗感を味わわせないように、予め、自分が打つリズムを決めて練習しておく					

# 「リズムでセッション」ふり返りシート

年 組 名前 \_\_\_\_\_

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 楽しく安心して活動できましたか

4 3 2 1  
| | | |

2 活動に満足することができましたか

4 3 2 1  
| | | |

3 友達を盛り上げる声をかけられましたか

4 3 2 1  
| | | |

4 打楽器を演奏する楽しさを感じられましたか

4 3 2 1  
| | | |

5 今日の活動で気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったら書きましょう。

---

---

---

---



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>67 はじめまして あいさつをしよう!</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑩さわやかにあいさつする ⑪自己紹介をする	<b>背景</b>	明るく挨拶を交わすことで、人と親しむ 経験が不足している		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手との関係を円滑にするために大切な話し方や聴き方のポイントに気付く</li> <li>・自己紹介を通して、多くの友達と積極的に関わりをもち、相互理解を深める</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中		<b>実施時期</b>	学級開きの頃(4月当初)	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	多目的室等広い場所	<b>活動場面</b>	YICA(外国語活動)
<b>準備</b>	「対話補助カード」*対話の手順を示す状況を、日本語で書いたカード				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				パス OK
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           たくさんの人と、英語であいさつしよう         </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任とAET が示範する</li> </ul>		
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉によらないコミュニケーションの手段(声のトーン、表情、ジェスチャー等)も大切であることに気づくようにする</li> </ul>		暴力 NO ⑩さわやかに挨拶する ⑪自己紹介をする
	①AETと一緒に対話練習を行う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             A: Hello.      B: Hello.              A: My name is ~.              B: My name is ~.              A: Nice to meet you.              B: Nice to meet you, too.              A,B: 握手をして Bye. で別れる           </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん人と出会えるような空間(場所)や時間、雰囲気作り(BGMの活用など)等を工夫する</li> <li>・全員が活動に参加し、自己有用感や成就感を感じることができるようにする</li> <li>・さわやかに挨拶するための必須条件であるので、練習をしてから活動を始めたい</li> </ul>		
	②自由に部屋の中を歩き、出会った人にあいさつをし、自己紹介を行う ③できるだけ多くの人とあいさつ・自己紹介をする				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔で、相手の目を見てあいさつする</li> <li>・できるだけオーバーアクションで行う</li> </ul>				
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返りにより、コミュニケーション上、大切なこと(アイコンタクト、スマイル等)に気づくようにする</li> </ul>		
	○ふり返る				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく英語で表現できなくても、身振り手振りを活用するなど、あらゆる手段を用いて伝えたり、理解したりしようとする姿勢を称賛するようにする</li> </ul>				

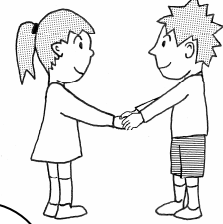
# はじめまして。あいさつをしよう！

年 組 氏名

やくそく

○えがおで、あい手の目を見て話しましょう

○身ぶりや手ぶりを使いましょう



会話の進め方

- 1 あいさつをしましょう
- 2 自分の名前をつたえましょう
- 3 会えてうれしいとつたえましょう
- 4 あくしゅをしてわかれましょう

ふり返りをしましょう

1 たくさんの人とあいさつができましたか



よくできた



まあまあできた



あまりできなかった



できなかった

2 えがおで、あい手の目を見てあいさつをしようと思いましたか



よくできた



まあまあできた



あまりできなかった



できなかった

3 身ぶりや手ぶりをつかってあいさつをしましたか



よくできた



まあまあできた



あまりできなかった



できなかった

4 えい語で自分のことをつたえたりあいてのことを知ろうとしたりしまし



よくできた



まあまあできた



あまりできなかった



できなかった

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>68 友達紹介をつなごう (友達紹介リレー)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑪自己紹介をする ⑧仲間に加わる		<b>背 景</b>	友達同士で関わり合う経験が少ないため自己開示が苦手な子が多い	
<b>活動のねらい</b>	・簡単な遊びを通して、人の話を聞いたり、友だちのことをお互いに知りあったりしながら、関係づくりのきっかけとする				
<b>対象学年</b>	小学校高学年～中学校3年		<b>実施時期</b>	グループを新しくつくるとき	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室等	<b>活動場面</b>	集会・委員会・クラブ等
<b>準備</b>	・4～5人のグループ ・名札				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	友達の好きなものを覚えて、仲良くなろう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、名札をつけて行う (例)横浜さんのとなりの桜木さんの隣の関内さんのとなりの石川です。</li> <li>(例)オムレツが好きな桜木さんのとなりの、カレーが好きな関内さんのとなりの、漬物が好きな石川さんのとなりの、ご飯が好きな横浜です</li> <li>・パスの場合は、名前だけを言う</li> <li>・関係ができている場合は、名前だけの紹介を省略する</li> <li>・覚えられない子どもが辛い思いをしないように、温かな雰囲気作りに努める</li> </ul>		⑪自己紹介をする  パスOK  ⑨仲間に加わる  暴力NO
	①グループで輪になり、スタートの人から名前を名乗り、次の人は、「○○さんのとなりの△△です」と自己紹介をし、同様に最後の人までつなげる ②一巡したら、スタートの人を一人ずらし、自己紹介の項目を限定して、(例:「好きな食べ物」「昨日見たTV番組」等)同様の自己紹介を行う ③以降もスタートをずらしながら、項目を変えて自己紹介する				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				
	・言うことを忘れた人がいたら、忘れられた本人がジェスチャーで教える  ○活動する				
<b>配 慮 事 項</b>	○ふり返る				
	・名前や好きなものを覚えてもらったことや、共通のものや違いについて知った感想を述べあう		・これから一緒に活動するグループの仲間として意識が持てたことを大事にする		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚えることに眼目を置かないで、メンバー同士があたたかな雰囲気の中で知り合うことを大事にする</li> <li>・記憶に問題がある(耳からの情報では覚えられない)子どもが居る場合は、紹介カードのような視覚情報を用いるとよい</li> <li>・「自己紹介すごろく」のプログラムの実施後に行くと、自己紹介すごろくの情報をもとに、友達紹介を行うことができる</li> </ul>			

## 「72 自己紹介すごろく」を使った「友達紹介つなごう」展開例

☆「72 自己紹介すごろく」で分かった友達のことを使って、友達紹介をしよう

○活動の流れ

### 展開例1

- ①「72 自己紹介すごろく」を1番最初に上がった人が、スタートとなる
- ②自分の隣の人、「自己紹介すごろくの中で言ったこと」を冒頭につけて自己紹介する  
紹介される人は、「自己紹介すごろく」で自分が止まった項目にコマを置いて助ける  
(例) 野球が趣味の横浜さんのとなりの桜木です
- ③2番目の人は、前の人が出たことそのままの後に、前の人を紹介して自己紹介し、順次同様にする
- ④最後の人全員を紹介してから自己紹介する

○約束

・紹介する人のことを忘れた場合は、周りの人がすごろくの項目を指し、ジェスチャーで教える

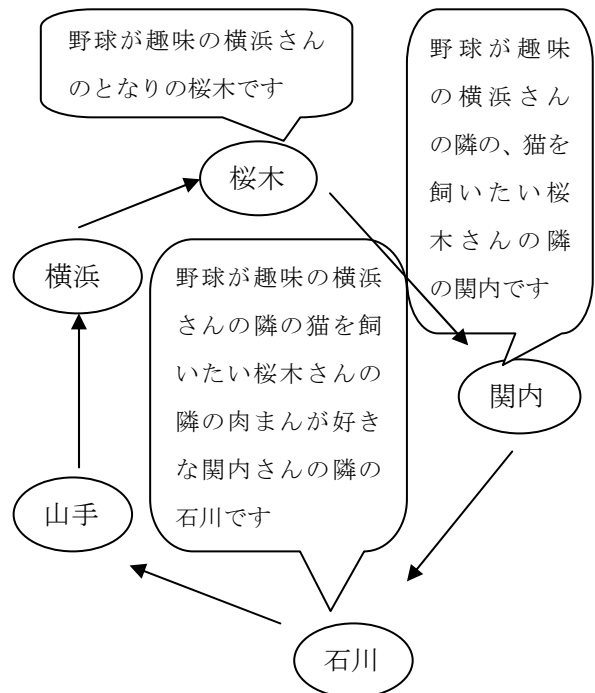
### 展開例2

- ①「72 自己紹介すごろく」を1番最初に上がった人が、スタートとなる
- ②自分の隣の人「自己紹介すごろくの中で言ったこと」を冒頭につけて自己紹介する  
(例) 野球が趣味の横浜さんのとなりの桜木です
- ③2番目の人は、同様に自分の隣の人「自己紹介すごろくの中で言ったこと」を冒頭につけて自己紹介する
- ③以降、順次同様にする
- ④最後の人までいったら、2巡目は、前回に紹介したと違うことを冒頭につけて自己紹介する

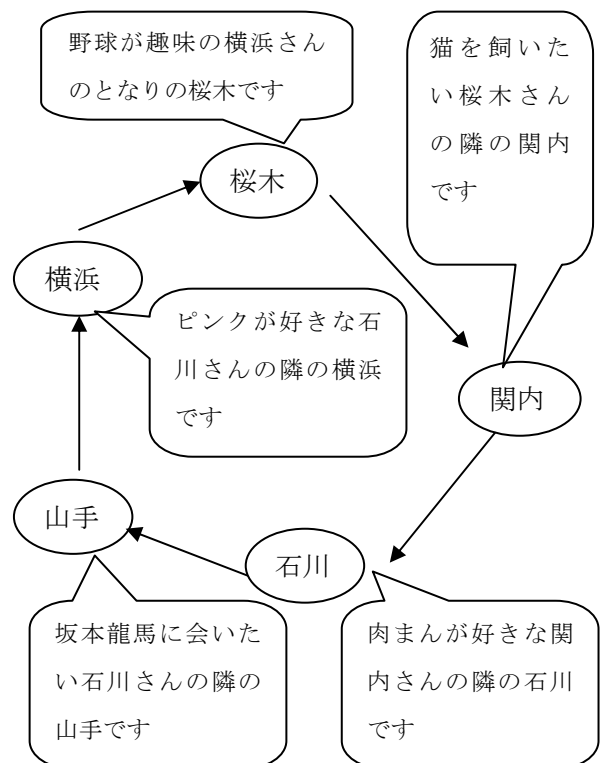
○約束

・紹介する人のことを忘れた場合は、周りの人がすごろくの項目を指し、ジェスチャーで教える

### 展開例1



### 展開例2



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>69 「友達列車シュッシュュッシュ」 (自己紹介ゲーム)</b>			<b>基本体験</b>	群れあい
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑩自己紹介をする ⑨仲間に誘う		<b>背景</b>	群れあい体験が少ない状況で育った子どもが多く、周りの友達のことに興味・関心を示すまで時間がかかる	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のことを積極的に人に伝えたり、友達の紹介をしっかりと聞き取ろうとする</li> <li>友達との共通することを見つけた喜びを味わう</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低		<b>実施時期</b>	クラス編成してまもなく	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室・体育館	<b>活動場面</b>	朝、帰りの会 特別活動
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介カード(画用紙八つ切り大の段ボールにリボンを付けたもの)</li> <li>ピアノまたはオルガン ・カラーペン ・クレパス ・シール</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る				
	たのしくじゃんけんゲームをしながら、たくさんの友達をつくろう				
<b>主活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>入学直後のまだ自分の名前が書けない子どもには、一緒に書く支援をする</li> <li>必要に応じてカラーペンを自由に使えるように準備しておく</li> <li>「私は〇〇です。好きなものは××です」というような文型を掲示し、紹介の仕方がわかるようにする</li> <li>自分の名前や好きなものを相手が言えたらシールを渡すようにすると活動の手ごたえがはっきりする</li> <li>伴奏をしながら、「ガッシャン」を大きな声で歌うようにすると、出会う友達との手と手を強く合わせることができる</li> <li>なかなか仲間に入れない子どもには、一人で相手を捜している子どものところに連れて行く</li> </ul>		⑨ 仲間に誘う  ⑩ 自己紹介をする          暴力 NO  パス OK
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の一番好きなものを自己紹介プラカードに絵や文で書き、裏に自分の名前を書く</li> <li>「貨物列車シュッシュュッシュ」の替え歌で、「友達列車シュッシュュッシュ」を歌いながら、「ガッシャン」で出会った友達と手と手を合わせてから、じゃんけんをする</li> <li>じゃんけんで勝った人は自分の好きなもののプラカードを見せながら紹介する</li> <li>負けた人はあとから同じように紹介する</li> <li>出会った相手の名前や好きなものを言って、別れる</li> <li>回数を重ねながら、次のようなルールを話し合っただけでもよい               <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 自分の名前も付け加える</li> <li>イ 「よろしくね」と最後に言う</li> <li>ウ 自分も同じだったときは「私も焼き肉好きだよ」などと付け加えて握手する</li> </ul> </li> </ul>				
<b>ふり返り</b>	○約束を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>なるべくたくさんの人とじゃんけんしよう</li> <li>競争はしない</li> <li>大きな声で「ガッシャン」と言おう</li> </ul>				
	○活動する				
	○ふり返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>出会った友達の名前を言えた子どもや、自分と同じものが好きだったことの喜びを発表できた子どもを賞賛する</li> </ul>		
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でしっかり聞いて行動できる自信をもたせるよう配慮する</li> <li>できたことをしっかりとほめ、わずかでもできたことを認めていく</li> <li>緊張している子どもには、できることから自信をつけていく経験を積み重ねていく</li> </ul>				

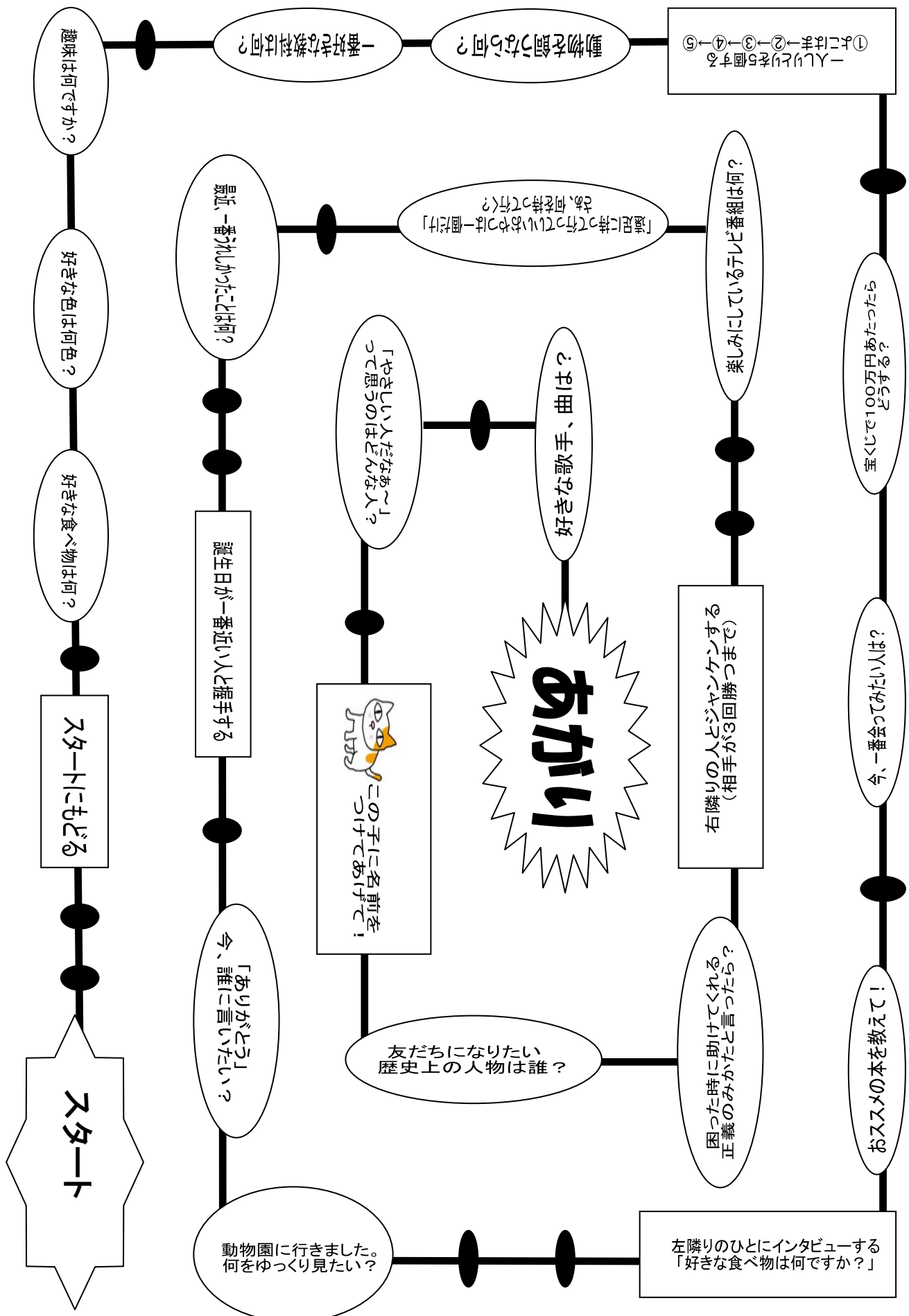


<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>70 なかよし握手 (自己紹介)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑪自己紹介をする ⑩さわやかにあいさつする ⑮しっかり話を聴く		<b>背景</b>	群れ合い体験が不足していて、友達 同士の交流が苦手である	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大勢の友達に進んで声をかけ、握手ゲームを楽しむことによって友達とふれ合う喜びやあたたかさを感じる</li> <li>・友だち同士でのあいさつが自然にできる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小中(個別支援級)		<b>実施時期</b>	学級開き等学級初期段階	
<b>所要時間</b>	5分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	集会・朝の会
<b>準備</b>					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る  大勢の人と握手をして仲良しになろう				
<b>主活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ・自由に歩き、友達にあったら両手を後ろに隠す ・お互いに自分の出したい手を決める ・「セーノ」の合図に合わせて手を出し「こんにちは」とあいさつをする ・手が合ったら、握手をして「よろしくね」とあいさつする ・手が反対で握手ができなかったときには「またね。ばいばい。」といって別れ次の友達を探す  ○約束を知る ・なるべくたくさんの人と握手をしよう  ○活動する		・担任と子どもでモデルを見せ、ルールがわかるようにする          ・友達と握手できたときの喜びやあたたかさに触れるようにする		⑩さわやかにあいさつする  ⑪自己紹介をする  ⑮しっかり話を聴く  暴力NO  パスOK
<b>ふり返り</b>	○ふり返る ・握手ができたとき、できなかったときの気持ちを発表する				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段あまり話したことのない友達と行うように声をかけることによって友達を広げるようにする</li> <li>・孤立傾向のある子どもについては、スムーズに活動に参加できるよう個別に支援する</li> </ul>				

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>71 名刺交換、よろしくね (自己紹介)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑩自己紹介をする ⑩さわやかにあいさつする ⑮しっかり話を聞く		<b>背 景</b>	体験不足から、知らない人と話 ができない子が増えている	
<b>活動のねらい</b>	・多くの人と関わることで、友だちになるきっかけをつくる ・集団の中で自己表現できるよう、練習の機会とする				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高・中1		<b>実施時期</b>	学年初め・縦割り活動の顔合わせ	
<b>所要時間</b>	15分	<b>活動場所</b>	教室・校庭	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準 備</b>	・事前に名刺カードを作っておく				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           自分を知ってもらおう名刺カードで、多くの人と友達になろう         </div>				
<b>主 活 動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードに自分の名前や好きな食べ物や好きな遊びを書く(事前準備)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・もらった人が読みやすいように丁寧に書くように声をかける</li> </ul>		⑩さわやかにあいさつする パス OK ⑪自己紹介をする ⑮しっかり話を聴く  暴力 NO (人の嫌がることをしない・もらった名刺を大事に扱う)
	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなかふれあえない子には、何人とふれあえたか目標をつくとよい</li> <li>・参加が難しい子は、先生と名刺交換をする</li> <li>・思春期の子どもには、握手の代わりに、人差し指を合わせる等の工夫をする</li> <li>・じゃんけんをして勝ったら相手の名刺をもらい、負けたら返すという方法もできる</li> </ul>		
	○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の顔を見て、笑顔で交換する</li> <li>・普段あまり話さない人と交換するようにする</li> </ul>		
	○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り活動等の導入使うときは、グループの中で行う</li> <li>・複数学年や全校で行うときには名前を知らない人と交換するようにする</li> </ul>		
<b>ふり 返り</b>	○まとめる・ふり返る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に帰って、もらった名刺を台紙に貼りながら、名刺交換をしたときの気持ちをふり返る</li> <li>・多くの友達に自己紹介ができた喜びを感じさせたい</li> </ul>		
<b>配慮事項</b>	・自分から声をかけられない子どもについては、担任が付き添いきっかけづくりをするとよい				

<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな くだものは( )です</p> 	<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな あそびは( )です</p> 
<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな きゅうしょくは( )です</p> 	<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな まんがは( )です</p> 
<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな おかしは( )です</p> 	<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな のみものは( )です</p> 
<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな スポーツは( )です</p> 	<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな うたは( )です</p> 
<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな くだものは( )です</p> 	<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな あそびは( )です</p> 
<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな きゅうしょくは( )です</p> 	<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな まんがは( )です</p> 
<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな おかしは( )です</p> 	<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな のみものは( )です</p> 
<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな おかしは( )です</p> 	<p>( )ねん( )くみの ( )です すきな のみものは( )です</p> 

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>72 自己紹介すごろく (自己紹介ゲーム)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑪自己紹介をする ⑮しっかり話を聞く	<b>背 景</b>	友達同士でかかわり合う経験が少ないため自 分を表現することが苦手な子どもが多い		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な遊びを通して、自分を理解してもらい伝え方、人の話を聞く態度を育てる</li> <li>・友だちのことをお互いに知り、関係づくりのきっかけとする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高・中1・中2・中3	<b>実施時期</b>	学級開きや班編成後、 保健室登校生徒間の交流時		
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室、保健室	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準 備</b>	・さいころ ・すごろくシート ・コマ(各人の消しゴム等を使う)				
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る グループごとに楽しくすごろくをしながら、自分のことを伝えよう				
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方)を知る ・グループごとに順番を決めてさいころをふり、コマを進める ・止まった枠で、指示されたことを話す ・聞く人は、肯定的な言葉を返す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的な言葉を返すことができるように例を示す 例)話し手「私は猫が好き」 聞き手「猫はあったかくてかわいいものね」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の人が言葉を返すことにしておく と、前の人の話をしっかり聞くことができる</li> <li>・話した内容に対して、批判せずあたたかい態度で受け取れるようにする</li> </ul>	
<b>ふ り 返 り</b>		○約束を知る ・パスのときは、元の場所に戻る ・顔を見ながら最後まで話を聞く ・次の人は、前の人に肯定的な言葉を返してからサイコロをふる	○活動する		
	○ふり返る ・友だちのことや自分のことで発見したことや感じたことなどを出し合う	○まとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し方や聞き方のよかった点や、そのことで友達との関係が深まったことをフィードバックする</li> <li>・お互いのことを知ったことで、これからの関係づくりができるように伝える</li> </ul>	持ち出し禁止	
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども同士のかかわり合いに配慮する</li> <li>・「話す・聞く」に苦手意識の強い子どもへは個別に支援する</li> <li>・話す内容について配慮が必要な子どもがいないかを、検討して実施する</li> </ul>				



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>73 お願いします (頼み方を考える)</b>			<b>基本体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」 ⑫やさしく頼む		<b>背景</b>	仲間とのふれあいが少なく、相手の気持ちを推測できない	
<b>活動のねらい</b>	・相手の気持ちや立場を尊重しながら頼み事をする方法を身につける				
<b>対象学年</b>	小中・小高		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動・道徳
<b>準備</b>	・お願いシート ・『にっこりマーク』と『いやいやマーク』のカード				
<b>学習・活動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る ・教師と代表の児童が演じる場面を見て、気付いたことを話し合う		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「ねえ、習字道具貸してよ」 「え、またあ？」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">相手が気持ちよく引き受けてくれる頼み方をみんなで考えよう</div>		
	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①頼み方で大切なことを話し合い、まとめる ②ワークシートの場面を選び、自分が考えた頼み方を「お願いシート」に書く ③グループで2人組になり、考えた言葉で実際に頼み事をする ④頼まれ役の児童は、気持ちよく引き受けられそうだったら『にっこりカード』を、そうでなかったら『いやいやカード』を出す ⑤役割を交代して演じ、頼み方について話し合う。				
<b>主活動</b>	○約束を知る ・感じたことを素直に表現し、個人的な感情ではなく、頼み方で判断する		・言語的な側面だけでなく、非言語的な側面の大切さも気付くようにする ・4人組になり、役をする子以外の2人が頼み方を観察する ・「いやいやマーク」を出すことが相手を傷つけることではないことを理解させる ・フィードバックの言葉が、演じた人を傷つけないように配慮することを伝える		⑫やさしく頼む  安全の配慮  パス OK 暴力 NO
	○活動する		・これから、実際の場面で相手が気持ちよく引き受けてくれる言葉が言えるよう投げかける		
<b>振り返り</b>	○まとめる・振り返る ・感じたことや気付いたことを発表する ・頼み方のポイントをまとめ、これから実践しようとする気持ちを高める				
<b>配慮事項</b>	・日常生活の振り返りでは、互いの批判にならないよう配慮する				

# お願いします ワークシート

年 組 ( )

◆ 人にものを頼むとき、気持ちよく引き受けてもらえるような頼み方をまとめましょう

〈たのむときに伝えること〉



〈たのむときの伝え方〉



◆ 次の場面の中から1つ選び、友達が気持ちよく引き受けてくれるようなたのみ方を考えましょう。

① そうじのとき、重たい机をいっしょに運んでほしい。

② 教科書を忘れたので、見せてほしい。

③ リコーダーのふきかたを教えてほしい。

Four horizontal dashed lines for writing inside a large speech bubble shape.

◆ 学習をして、感じたことを書きましょう

Four horizontal dashed lines for writing.


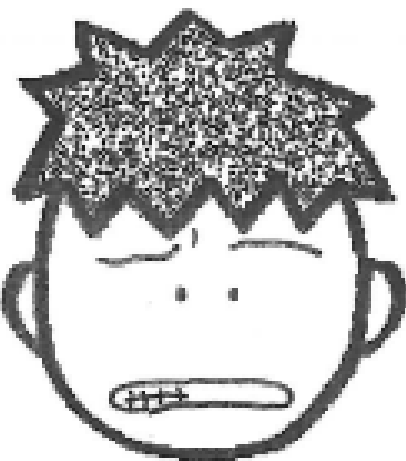

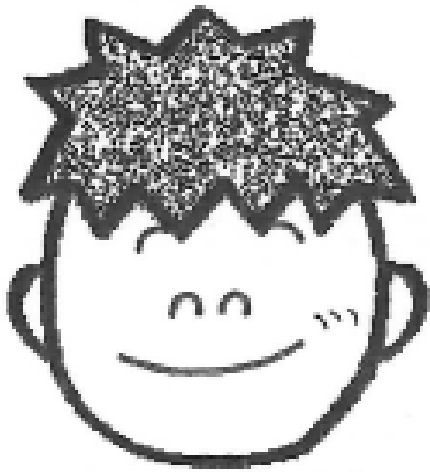
<頼むときに注意すること>

①～③の内容を入れて、A～D右のような態度で頼む

- ① 頼みごとをしなければならない理由
- ② 何を頼みたいのか具体的な自分の要求
- ③ その要求を満たしてくれたときの結果

- A 相手の近くに行く
- B 相手の目をきちんと見る
- C 相手に聞こえる声で言う
- D 笑顔で言う

(例)「今、このプランターを運ばなくてはならない (①) のだけど、  
裏庭までいっしょに運んでくれませんか (②)。  
運んでくれたらとっても助かるのだけど (③)。」

い や い や カ ー ド		
に っ こ り カ ー ド		



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>74 ギュッと団結！(一体感を味わう)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑬気持ちに共感する 「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方を もつ		<b>背景</b>	力を合わせて一つのことをやりとげると いう達成感を感じる場が少ない	
<b>活動のねらい</b>	・力を合わせ、支えあって成功するという体験を通して、仲間への信頼感を強める				
<b>対象学年</b>	小中・小高		<b>実施時期</b>	クラスの友達が分かり始めてから	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	体育館	<b>活動場面</b>	体育・学級活動等
<b>準備</b>	・新聞紙等の紙 ・マット				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>	
<b>導 入</b>	○ねらいを知る				
	みんなで団結して、漂流するいかだ(新聞紙)に乗ろう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る			<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバーと気持ちを一つにして協力することがねらいであることを確認する。</li> <li>・グループ数が多いときは、前半・後半に分けるなど、安全に目を配れるようにする</li> <li>・場所によって座布団・マットなどに変えることもできる</li> <li>※身体接触を伴うので、子どもの実態を十分把握し、グループ作りに配慮をする</li> <li>※排除されたり、避けられたりする子どもがいないことを十分に確認しておく</li> <li>・友達が支えてくれたこと、みんなでつかまりあった一体感、友達の体の温かさ等、具体的な感想が出たらしっかりと受け止めてほめる</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班で一人ずつ順に紙の上に乗る</li> <li>・のり方は、片方でも両足でも、人の上ののったり、つかまったりしても構わない</li> <li>・最後の人が乗ってから、声に出して30秒数える間、誰も落ちなければ成功</li> <li>・紙が破れてしまったら、破れた紙(大きい方)に乗る</li> </ul>				
<b>ふ り 返 り</b>	①班毎に練習して乗る順番を決める			<b>⑬ 気持ちに共感する</b>  パスOK 暴力NO 安全の確認	
	②各班が順番にチャレンジする 場合によっては、作戦タイムを入れてもよい				
	③紙を折って大きさを調整したり、乗る順番を変えたりして、2～3回行う			<b>② 自分なりの見方や感じ方をもつ</b>	
	○約束を知る				
	・声を合わせて大きな声で30数える				
	○活動する				
	○ふり返る				
	・活動をして、感じたこと気づいたことを発表する				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パスOKであるが、そのことを皆の前で言えない場合もあることから、活動を行う前に、接触到抵抗がある子どもがいないかどうか、十分に確かめてから行う</li> <li>・安全面に考慮して、紙の下にマットをしく等して、倒れたときの安全に配慮する</li> </ul>				

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>75 たおさずキャッチ(一体感を味わう)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑬気持ちに共感する 「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方を もつ		<b>背 景</b>	集団で同じ行動をして、一体感や達成 感を味わう経験が不足している	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間で集中してタイミングを合わせ、一体感のこちよさを感じる</li> <li>・自分の体を素早く動かし、棒を受け止める感覚を味わう</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	5～15分	<b>活動場所</b>	運動場・体育館	<b>活動場面</b>	体育・集会等
<b>準 備</b>	・人数分の体育の体操棒(0.8～1.2m) ・動きやすい服装				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○ねらいを知る  友達とタイミングを合わせて、棒を倒さないようにキャッチしよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る 合図で、自分が立てた棒から手を放し、 互いにすばやく相手の場所へ移動して 相手の立てた棒をつかむ ①二人組になって練習する(上手になったら二人 の距離を離す) ②グループ(4～6人)でやってみる ③クラス全員でやってみる  ○約束を知る ・チームが一体となるようなかけ声をかけあう  ○活動する		・メンバーと気持ちを一つにして協力 することがねらいであることを確認 する。 ・グループになったら、バリエーション をもたせて、挑戦させる (例)隣の人の棒をキャッチ 一人おきの人の棒をキャッチ 円を大きくしたり逆回りにしたりし てキャッチ ・一体感を演出するように、拍手をし たり、かけ声をかけたりすると効果的		暴力NO 安全の確認 パスOK ⑬気持ち に共感す る  暴力NO (失敗を責め ない)  ②自分なり の見方や 感じ方も つ
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・活動をして、感じたこと気づいたことを発表する		・気持ちを一つにすることや集中した こと、みんなのできたことへの具体 的な感想が出たらしっかりと受け止 めてほめる		
<b>配慮事項</b>	・活動を上手に出来ない児童への、周囲の児童のアドバイスがあれば、その都度フィードバックする				

## バリエーション

## たおさずキャッチ（鉛筆バージョン）

広い場所や人数分の棒、時間がないときには、卓上で鉛筆等を用いて行う。新しい班編成をしたときなど、仲間としての関係づくりプログラムとして行う。

育てたいスキル：⑧仲間に加わる ⑨仲間にさそう

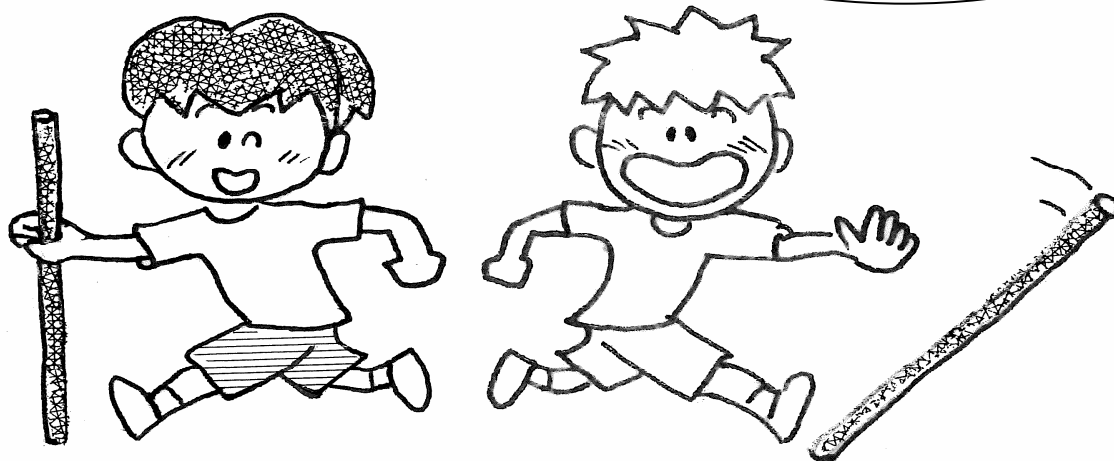
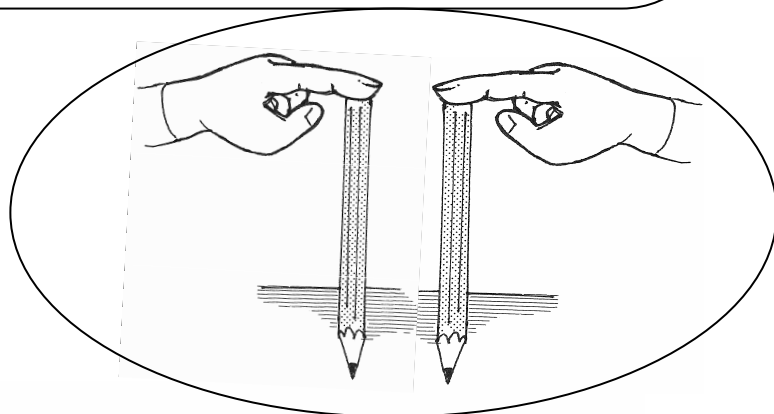
対象学年：小中～

所要時間：3分～10分

実施時期：班編成を行ったとき等、仲間としての関係性をもたせたいとき

友達とタイミングを合わせて、鉛筆を倒さないようにキャッチしよう

- ・ 2人組で向き合い、机の上でそれぞれ鉛筆やボールペン等の先を下にして、その頭を指1本で押さえて立てる
- ・ 合図で、互いの鉛筆から指を離し、相手の鉛筆を倒さないように、指1本で頭を押さえてキャッチする
- ・ 2人組で練習してできるようになったら、グループで輪になって行い、隣の人、1人おきの人、対角の人等のバリエーションをつける
- ・ できるようになったら、リズムや音楽に合わせて、連続して行う
- ・ 頭を指で押さえることが難しい場合は、握ってキャッチする



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>76 まねっこ行進(一体感を味わう)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑬気持ちに共感する 「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方を もつ	<b>背景</b>	集団で同じ行動をして、一体感や達成 感を味わう経験が不足している		
<b>活動のねらい</b>	・仲間で集中してタイミングを合わせ、一体感のここちよさを感じる				
<b>対象学年</b>	幼稚園、小学校低学年～高学年	<b>実施時期</b>	通年		
<b>所要時間</b>	5～15分	<b>活動場所</b>	体育館等	<b>活動場面</b>	体育・集会等
<b>準備</b>	・CD プレーヤー				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○ねらいを知る  先頭の人に足音をそろえて行進しよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①グループで1列に並ぶ ②普通のリズムで、足音を揃えて行進する ③先頭の人のリズムに揃えて行進する 例:タンタンタンタン、 タンタンタンタカ ④合図(1分位)があったら、先頭は列の最後尾 に移動し、交代する ⑤以下全員が先頭を務めたら終わる  ○約束を知る ・全員の足音がそろえるように工夫する  ○活動する		・メンバーと足音をそろえて行進する ことがねらいであることを確認する。  ・低学年は先頭児童の表現活動(動 物、様子等)をまねて連なってある いてもよい ※軽快な音楽があると、雰囲気 が盛り上がる ※他の活動のアイスブレイキング にしてもよい  ・気持ちを一つにすることや集中した こと、みんなのできたことへの具体 的な感想が出たらしっかりと受け止 めてほめる		暴力 NO  安全の確認  パス OK  ⑬ 気持ち に共感す る  ②自分なり の見方や 感じ方も もつ
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・活動をして、感じたこと気づいたことを発表する				
<b>配慮事項</b>	・活動を上手に出来ない子どもへ、周囲の子どもの配慮等(テンポをゆっくりにする、掛け声 をかける等)について、教師が把握し、その都度誉める。				

○ **一体感を身体で感じとることの心地よさ**

子どもが、学級集団を所属集団として感じ取るためには、＜安全・安心＞の風土とともに、何かをともに成し遂げ、身体が一つに解け合ったという感覚が大いに役立つ。以前は当たり前のように行われていた整然とした行進が学校から消えて久しいが、リズムに合わせた「行進」は、子どもにとって身体全体で一体感を感じ取る貴重な体験であり、斉読とともに十分に体験させたいものである。

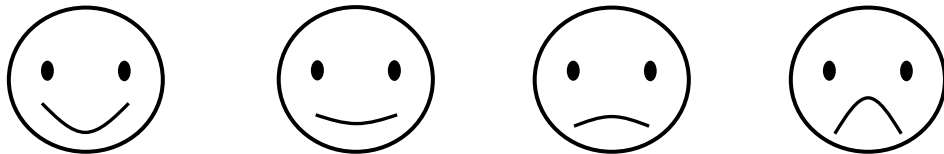


**「まねっこ行進」ふいかえいシート**

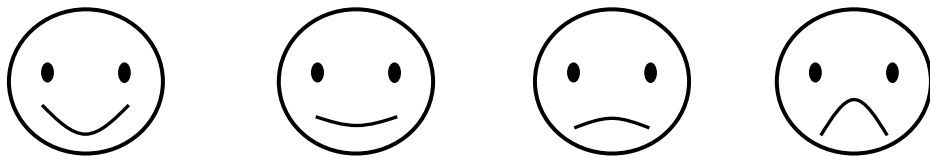
月 日 ( ) 年 組 なまえ

よくできた      まあまあできた      あまりできなかった      できなかった

1. たのしく安心してかつどうができましたか。(色をぬるか○をつける)



2. 友だちやじぶんのことで気づいたことやわかったことがありましたか。



3. このかつどうをして、気づいたこと・感じたことを書きましょう。

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>77 THE 飛行石!</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑬気持ちに共感する ⑧仲間に加わる		<b>背 景</b>	相手に合わせながら、何かをやり遂げる体験が少ない	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手とタイミングを合わせて新聞紙を飛ばすことで、相手への信頼感をもたせる</li> <li>グループの仲間と楽しむことで、集団への所属感を高める</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中学年以上		<b>実施時期</b>	仲間づくりが必要なとき	
<b>所要時間</b>	10分	<b>活動場所</b>	広い室内	<b>活動場面</b>	集会等
<b>準 備</b>	・新聞紙(人数分)				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る  友達と協力して、タイミングを合わせて石を飛ばそう				パス OK
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ・2人で向き合って1枚の新聞紙を持ち、その上に、新聞紙を丸めた「石」を乗せる。 ・タイミングを合わせて新聞紙上下に動かし、上にのせた「石」を上を飛ばして受け止める ・できるようになったら、2人組同士で、石を投げてキャッチしあう ・更にできるようになったら、4人1組になって、石を高く上に投げ上げる  ○約束を知る ・楽しく協力できるような掛け声を考えて、声をかけ合って活動する  ○活動する		・新聞紙の「石」は2人で相談して作らせる ・新聞紙が破れたら決めた枚数の中で取り替える(発達段階によって枚数を制限する) ・うまくできなくてもOKであることを伝える ・他のグループと回数を競うような形にはしないで、それぞれのグループごとに立てためあて(高さ、回数、落とさない等)に向けて活動する  ・相手と呼吸を合わせたり、タイミングを図るための工夫に気づいた発言があれば取り上げる ・新聞紙は、回収する。		⑬気持ちに共感する  暴力 NO  ⑧仲間に加わる
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・協力して楽しくできたことを労って終了する。				
<b>配慮事項</b>	・アイスブレイキングに最適であり、人間関係を作ることが必要なときに、用いることができる。新聞紙を投げ上げるためには、タイミングをつかむことが必要であるが、困難を感じる子どもがいないかどうか、確かめて、子どもに失敗感をもたせることがないかどうか見極めて実施するようにしたい。				

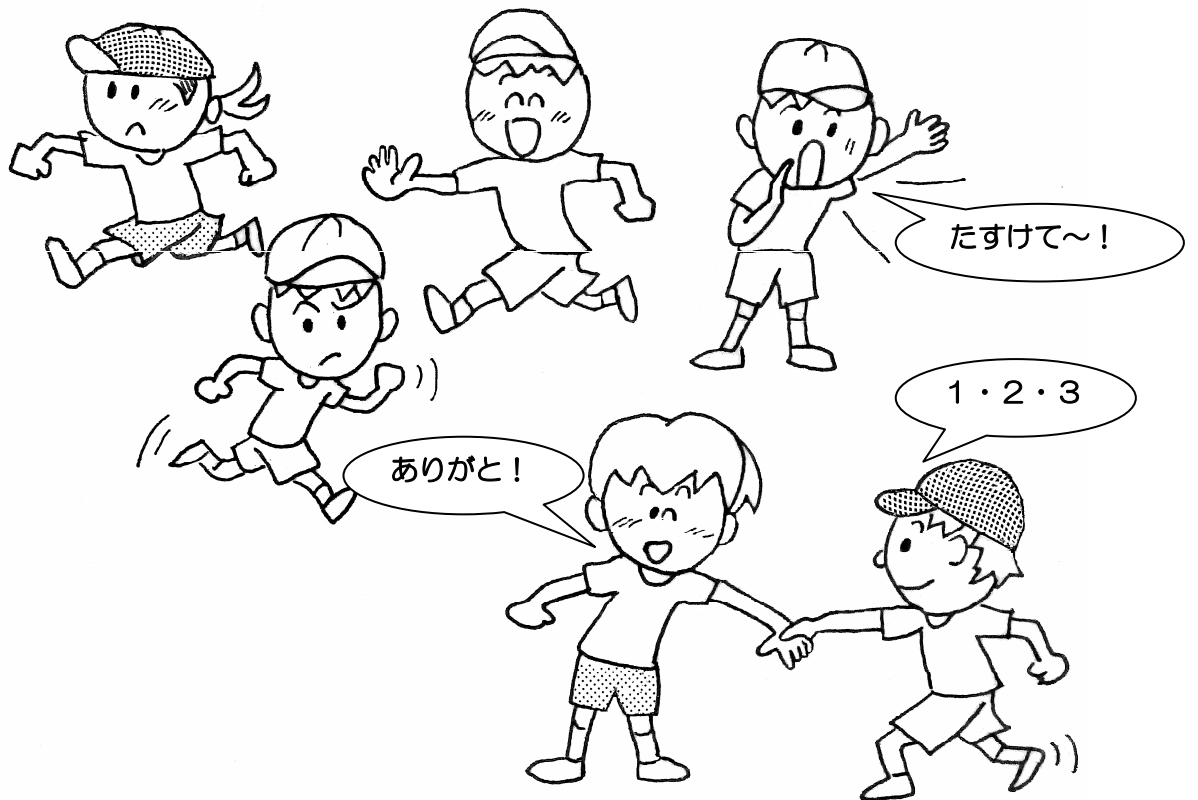
<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>78 グー・チョキ・パーおに</b>				<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑭あたたかい言葉をかける ⑧仲間に加わる ⑬気持ちに共感する		<b>背景</b>	仲間と同じ目的に向かって協力し、達成感を感じる経験が少ない		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの中で感謝や励ましなどの言葉かけをすることができる</li> <li>・お互いに助け合って楽しくゲームができるように作戦を相談することができる</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	小中・小高		<b>実施時期</b>	クラスの友だちが分かり始めてから(通年)		
<b>所要時間</b>	15～45分	<b>活動場所</b>	校庭・体育館	<b>活動場面</b>	体育・学級活動	
<b>準備</b>	校庭:ラインカー 体育館:マット3枚(グループ全員が入れるくらいの陣地が正三角形の頂点に位置するようにする)・審判用ホイッスル・ストップウォッチ・3色のビブス					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           チームで協力してグー・チョキ・パーおにをしよう         </div>					
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①男女混合の3チーム(グー・チョキ・パー)を作り、グーはチョキを、チョキはパーを、パーはグーをつかまえ、自分の陣地に捕虜として連れてくる</li> <li>②捕虜を連れてくる人を途中で捕まえてはいけない</li> <li>③つかまえられた捕虜は、味方がタッチしたときに逃げるができる</li> <li>④捕虜が増えたときは、手をつなぎ長くなり、助けを求める</li> <li>⑤味方がタッチした後の捕虜は解放される(先頭にタッチすれば、全員が解放される)</li> <li>⑥手が離れていると、先頭がタッチされても解放にはならない</li> <li>⑦捕虜の最後尾は陣地のラインに片足が入っていないといけない</li> <li>⑧各チームの陣地の中にいる人、陣地のラインに体がふれていればつかまえられる</li> <li>⑨時間になったときに、捕虜が一番多いチームが勝ち</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧ 仲間に加わる</li> <li>⑬ 気持ちに共感する</li> <li>⑭ あたためた言葉かける</li> </ul>	
	○約束を知る					
<b>ふ り 返 り</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで声をかけあって協力しよう</li> <li>・助けってもらったら「ありがとう」と言おう。</li> </ul>					
	○活動する					
○ふり返る						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各チームで作戦を話し合い、ゲームをする</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームの中で気がついたことや感じたことを出し合う</li> </ul>						
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを分かりやすく知らせ、ゲームを楽しめるようにする</li> <li>・繰り返し行うことで、作戦をたて、工夫できるようになる</li> </ul>				

タイトル (活動概要)	<b>79 じゃんけん城くずし</b>			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「仲間づくり」⑬気持ちに共感する ⑧仲間に加わる ⑭あたたかい言葉をかける		背景	群れ合い体験の不足から仲間づくりが 苦手な子どもが多い	
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班対抗戦を行う中からチーム意識を高める</li> <li>・お互いに協力することの大切さや班のメンバー同士の一体感を感じる</li> </ul>				
対象学年	小低・小中・小高		実施時期	通年	
所要時間	15～30分	活動場所	教室・ホール 体育館	活動場面	特別活動
準備	守りチームの人数分の椅子 得点を記録する得点板 ストップウォッチ				
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導 入	○活動のねらいを知る  みんなで力を合わせて、「とのさま」に勝とう				
主 活 動	○活動の流れ（やり方・内容）を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>・2チームに分かれて先攻と後攻を決める</li> <li>・後攻チームは図のような並び方をする</li> <li>・先攻チームは、決まったラインから順番に後攻チームの1列目の人とじゃんけんをし、二人に勝ったら2列進む</li> <li>・一番後ろの列の「とのさま」に勝ったら1点</li> <li>・負けたらもう一度ラインに戻り、最初からやり直す</li> <li>・時間内に何点取ったかで勝敗が決まる</li> <li>・作戦タイムをとり、じゃんけんの順番や出し方、後攻の座り方など話し合う</li> </ul> ○約束を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>・負けたら必ずラインに戻る</li> <li>・勝ち負けより力を合わせることを大事にする</li> </ul> ○活動する <ul style="list-style-type: none"> <li>・「とのさま」に勝ったら、メダルやカードをもらえるようにしてもよい</li> <li>・1回やった後、作戦タイムをとってもよい</li> </ul>		先攻チーム ↓ ↓ ↓  ● ● ● ● ● ● ○ とのさま 後攻チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1チーム6人とし、二人に勝ったら進むという設定にすることによって、じゃんけんをしてもられない守りチームの子どもがいないようにする</li> <li>・実際に子どもが動きながらルールの確認をする</li> <li>・チームの分け方は、児童の実態に合わせて行う</li> <li>・ルールを守ってチームで協力できたことを中心に、まとめる</li> <li>・活動に慣れたら「みんなで楽しむスペシャルじゃんけん城くずし」に発展させ、課題解決の力をのばす取り組みにしてもよい</li> </ul>	安全の確認  ⑧ 仲間に加わる  ⑬ 気持ちに共感する  ⑭ あたたかい言葉をかける  暴力NO パスOK
ふ り 返 り	○ふり返る ・じゃんけん城くずしをして、感じたこと、気づいたことなどを話し合う				
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が楽しく参加できる雰囲気づくりを行う</li> <li>・実態に合わせて、ふり返りシートを使ってふり返りにしてもよい</li> </ul>				





<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>80 こおり鬼 (簡単なルールの鬼ごっこをする)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑭あたたかい言葉をかける ⑬気持ちに共感する	<b>背 景</b>	大勢で遊ぶ中で、友達を助けたり友達に助けられたりする経験が少ない		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体を触れ合いながら鬼ごっこをすることで、より多くの友だちと信頼体験（助ける・助けてもらう）をする</li> <li>・感謝の気持ちを表す「ありがとう」を言う</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中		<b>実施時期</b>	学級編成・班編成後	
<b>所要時間</b>	5～15分	<b>活動場所</b>	校庭	<b>活動場面</b>	体育・集会
<b>準 備</b>	・紅白帽				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
導 入	○活動のねらいを知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・やり方を理解させるため、動ける範囲を狭くしてやってみる</li> <li>・逃げられる範囲を広くし、カラーコーンなどで分かるようにしておく</li> <li>・一回ごとにふり返りをして、融かす方法を変更・追加してもよい(例)名前を呼ばれたら、必ずその人を助ける、女子は男子を男子は女子を助ける</li> <li>・凍っても助けを呼べない子、助けを呼んでも助けに来てもらえない子がいないか注意深く観察し、支援する</li> </ul>		⑭あたたかい言葉をかける  ⑬気持ちに共感する  安全の配慮  パスOK
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> みんなで助けたり助けられたりして楽しく鬼ごっこをしよう </div>				
主 活 動	○活動の流れ（やり方・内容）を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼は赤、逃げる子は白と帽子を色分けする</li> <li>・鬼は、逃げる人に「タッチ」と言って触る</li> <li>・触られた人はその場で凍って動かない</li> <li>・逃げている人が「あったかパワー12345」と言ってタッチしたまま5つ数えると、凍った人は融けて動けるようになる</li> <li>・全員が凍ったら、または、一定時間で鬼を交代する</li> </ul>				
ふ り 返 り	○約束を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・凍ったら「助けて～」と仲間を呼ぶ</li> <li>・助けを求められたら、その人を必ず助ける</li> <li>・助けてもらったら「ありがとう」と言う</li> </ul>				
○活動する					
○ふり返る					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こおり鬼をやってみて、気づいたことや感じたことなどを発表する</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・助けてもらい、うれしかった気持ちだけでなく、助けてもらえなかったときなどのネガティブな感想も受けいれていく</li> </ul>			
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回ごとにふりかえりをして、助けてもらえなかった子の気持ちに焦点を当てて友達に助けてもらうことよき気づかせていくとともに、どの子も助けられる経験ができるように配慮する</li> </ul>				



鬼ごっこなどどこにでもある遊びが、ねらいとルールを明確にすることで気づきや、子ども同士の人間関係の促進の場となる。楽しく遊ぶ場を、どのようにデザインするかが、教師の腕の見せ所となる。繰り返し行うことによって、男女の関係や、班の結束力が高まってくる。

### 「仲間づくり」プログラムから、「集団づくり」へ！

「仲間づくり」プログラムでは、気づきの分かち合いを通して、心の居場所づくりを行う。しかし、中でも、「鬼ごっこ」のような簡単で、ルールにバリエーションがつけやすい集団遊びでは、子どもたちがより面白く遊ぶために、繰り返しルールに変更を加えながら、その学級独自の「〇〇鬼」を創り上げていくことは珍しくはない。その出来上がっていくルールの中には、自分たちの学級ならではの価値や基準、文化が盛り込まれているはずである。

そのルールの生成過程は、子どもたちが自分たちの体験をもとに、合意形成を繰り返していく過程でもある。仲間づくりプログラムを実施するなかで、教師が上手に子どもたち自身に考えさせ、決定させていくことによって、子どもたちの学級集団としての協働意識の醸成と、学級文化を育てていく「集団づくり」の一步としての取り組みが達成されるのである。

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>81 わたしはだれでしょう？ (友達を知る)</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑬気持ちに共感する ⑪自己紹介する	<b>背 景</b>	自分を中心に考え、友達のことを理解しよう としない子どもが増えている		
<b>活動のねらい</b>	・一人ひとりがクイズを出したり答えたりすることを通して、学級の仲間が、互いのことをより深く知る				
<b>対象学年</b>	小高・中1		<b>実施時期</b>	友達関係が落ち着いてきた時期	
<b>所要時間</b>	5分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	朝の会・帰りの会
<b>準備</b>	・問題シート ・クイズBOX(空き箱を利用)				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る もっと知りあうために友達が知らない自分のエピソードを紹介しよう		<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会のプログラムに設定することを伝える</li> <li>深刻すぎることを書かないように伝える</li> <li>前日の答えの人がエピソードを読み上げるようにする</li> <li>正答が出なかったら、出題者が答えの子どもを紹介し、以降流れは同じとする</li> </ul>		⑪自己紹介する  安全の配慮  パス OK
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①問題シートに友達が知らない自分に関するエピソードを書き、クイズBOXに置いておく (活動開始の前日まで) ②クイズBOXから前日の出題者が1枚問題シートを引いて、読む ③答えがわかった人は、出題者に耳打ちする ④正答が出たら、答えの子どもは立って、自分が書いたエピソードについて詳しく紹介する			
<b>ふ り 返 り</b>		○約束を知る ・答えの子を拍手でたたえる		<ul style="list-style-type: none"> <li>あたたかい雰囲気が出る読み方をした子を称賛する</li> <li>「こんな面があるのか」「自分と同じだ」など、共感する点を発表できるように示唆する</li> </ul>	
	○活動する				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話すのが苦手な子については、前の日に伝えておき、自分が紹介するエピソードを練習させておく(出題者にもBOXの中から引く紙を指定しておく)</li> <li>相手を知ることで、今後の学級での人間関係に広がりが出てくる</li> </ul>				

## 私はだれでしょう 問題シート

エピソードⅠ

エピソードⅡ

エピソードⅢ

正解は・・・

です

---

☆上半分を切り取って、クイズ BOX に入れましょう。自分が話すエピソードの要点メモを作って手許に置いておきましょう

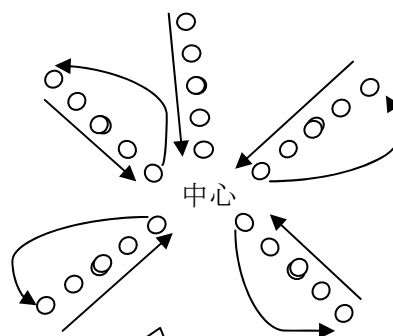
**エピソードメモ**

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>82 勝て勝て！パワーじゃんけん（気持ちを伝える集団遊び）</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑬気持ちに共感する ⑭あたたかい言葉をかける		<b>背 景</b>	集団でかかわる楽しさを知らない 子どもが多い	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで遊ぶ楽しさや友達のあたたかさを感じる</li> <li>・友だちにあたたかい声かけができるようになる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	さらに関係性を深めたいとき	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	体育館 校庭	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準備</b>					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
導 入	○活動のねらいを知る				
	グループ対抗で力を合わせて勝て勝てパワーじゃんけんをしよう				
主 活 動	○活動の流れ（やり方）を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体接触を嫌がる子がいないか、気を配り、だめならパスOK</li> <li>・みんなのパワーを合わせる大切であることを伝える</li> <li>・手のあたたかさ、応援してくれる友だちの思いを感じられるよう、声かけをする</li> </ul>		パスOK ⑬気持ちに共感する ⑭あたたかい言葉をかける
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ1列で、放射状に並ぶ(座る)(図参照)</li> <li>・先頭が「多いが勝ち」のじゃんけんをし、勝ったら列の後ろに回り、先頭が交代する</li> <li>・ゲームの最中に「勝て勝て」と言いながら前の人をの背中を手のひらでこする&lt;勝て勝てパワー&gt;を送り続ける</li> <li>・全員が終わったら終了(終わってないチーム同士で行う)</li> </ul>				
ふ り 返 り	○約束を知る				安全の確認 暴力NO (勝敗にこだわって、人を傷つける言葉は使わない)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が声を合わせ&lt;勝て勝てパワー&gt;を送る</li> <li>・なかなか勝てない子へ&lt;協力パワー&gt;を送る</li> </ul>				
ふ り 返 り	○活動する				
	○ふり返る <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝て勝てパワーじゃんけんをし、感じたこと、気づいたことをグループごとに話し合う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの気持ちが一つになり、楽しかったことをフィードバックする</li> </ul>		
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝敗にこだわらず、みんなで遊ぶ楽しさや、友だちの声かけや手のあたたかさなどを感じられるように支援する</li> <li>・気持ちが一つになった状態を意識化させ、みんなで分かち合えるようにする</li> </ul>				

## 勝て勝てパワーじゃんけん!



放射線状になり中心が先頭になるようにする



教室でいすを並べて行くと、コントロールしやすい



パワーを合わせて  
「か〜て!か〜て!」  
「か〜て!か〜て!」

多いが勝ちだよ  
じゃんけんぽん!



### 活動後の子どもの感想

○友だちに背中をさすられて最初はくすぐったかったけれど、なんだか力が伝わってくる気がして楽しかったです。

○じゃんけんで勝てた時、班のみんなが喜んでくれてうれしかったです。

○はじめはパワーが伝わってこなかったけれど、後の方になったら体が熱くなって友だちのパワーを感じることができました。

### 本プログラムのわらい

本プログラムは集団遊びであるが、多くの友達が一体となって自分を応援してくれる体験は、結果として自己効力感を高めることにつながる。



また、みんなと声を合わせて〈勝て勝てパワー〉を送る体験は、集団と一体となった自分を感じることができる。声とともに温かな身体接触によって友達から大きなパワーをもらう経験は、友達との仲間意識を高めると同時に、集団の中での自己の存在意義を自己確認する場となる。



## 学級が温かい雰囲気で リフレーミングが上手になったら…

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>83 あなたのなやみにお答えします！(ユーモアで返す)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑬気持ちに共感する ⑭あたたかい言葉をかける		<b>背 景</b>	相手の気持ちをくみ取ったり、思いやり たりすることが苦手である	
<b>活動のねらい</b>	・仲間の気持ちに共感し、あたたかい言葉がけをすることを通して信頼関係を促進する				
<b>対象学年</b>	小中・小高・中1		<b>実施時期</b>	クラスの間人間関係が深まった頃	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準 備</b>	・相談シート ・ふり返りシート ・筆記用具				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		友達の悩みに、あたたかい気持ちでアドバイスをしよう		
	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①相談シートにペンネームで悩みを書く ②相談シートを集め、ランダムに配る ③相談者の悩みをリフレーミングやユーモアでなご ませる回答を、ペンネームで書く ④回答を記入したシートを集め、みんなで「相談シ ート」の悩み相談と回答を聞く				
<b>主 活 動</b>	○約束を知る ・みんながなごむ回答をする		・深刻すぎる悩みは書かないこと、ユ ーモアのあるものが良いことを示唆 する ・相談シートが本人に配られた場合 は、回収し配り直す ・内容のよい回答文は「今日のナイス 回答！」などとして、発表してもよい ・「欠点も見方を変えればよいところ ～リフレーミング～」参照		暴力 NO パス OK 持ち出し 禁止 ⑬ <b>気 持 ち に 共 感 す る</b> ⑭ あたたか い 言 葉 を か け る
	○活動する		・最後に悩みと回答を子どもが発表 する場合は、事前に教師が点検す る		
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・回答をしたり、してもらったりして、感じたことや気づ いたこと、考えたことなどを発表する		・お互いに温かい気持ちになり、この ような経験が信頼関係を深めること を押さえる		安全への 配慮
<b>配慮事項</b>	・学級集団の状況が、お互いを大切にする雰囲気のない場合は実施しない ・ユーモアのある回答のイメージがわからない子どもがいる場合には、次のページの回答をサ ンプルとして読んだり、配布して読ませたりする				



## 相談シート例

なやみ相談シート	回答シート
<p>「私、相談したいことがあるんですけど…… もうすぐ運動会があるのですが、私は運動が苦手で、とにかく走る競技がいやでいやで、ゆううつです。」</p>  <p>＜小野 妹子＞</p>	<p>「そうですか。…… 嫌なことはなかなか好きになることは難しいです。それでは運動会であなたが楽しめることを見つけてみてはどうですか。ちなみに私の一番の楽しみは鈴木先生の仮装です。」</p>  <p>＜坂上田村麻呂より＞</p>

なやみ相談シート	回答シート
<p>「私、相談したいことがあるんですけど…… 私には家族に言えない秘密があります。家族で母の誕生日にプレゼントしたカップを、昨日、誤って割ってしまいました。わからないように接着剤でつないだら、今のところ割れていることはバレていません。私はこれからどうしたらよいでしょう。」</p>  <p>＜うっかりん子＞</p>	<p>「そうですか。…… わからないようにつなげるなんてあなたは発掘調査や美術修復の仕事が向いているかもしれません。でももしバレてしまったらこう言いましょ。「今度のお母さんの誕生日も、またカップがプレゼントできるね。うれしいなあ。」</p>  <p>＜ちゃっかりん子＞</p>

### コラム：ユーモアで返す

ユーモアとは、<にもかかわらず笑うこと>と言われる。通常のを考え方をひっくり返したり、普通では思いつかないことを言って「笑いをとる」ことは、言ってみれば決められた約束から「自由になる」ということである。自由の風土は笑いを生み、笑いは自由の風土を生む。クラスの中でユーモアのある会話が交わされることは、自由で安心の風土が育つことを意味する。

言われたことにユーモアで返したり、逆手にとって面白く返したりすることができれば、心にゆとりや勇気が生まれてくる。ユーモアのある会話力は、いじめを減らすビタミン剤となる。

なやみ相談シート

「私、相談したいことがあるんですけど……」



相談者 <

>

回答シート

「そうですね。……」



回答者 <

>

なやみ相談シート

「私、相談したいことがあるんですけど……」



相談者 <

>

回答シート

「そうですね。……」



回答者 <

>

「あなたの悩みにお答えします」ふり返りシート

月 日 ( ) 氏名 ( )

1 友だちの相談に、あたたかい気持ちで答えることができましたか

4	3	2	1
_____			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

2 友だちの相談に、ユーモアのある答えを書こうとすることができましたか

4	3	2	1
_____			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

3 友だちの回答に参考になるものがありましたか

4	3	2	1
_____			
たくさんあった	まあまああった	あまりなかった	なかった

4 今日の活動で自分や友だちのことで気づいたり感じたことがあったら書きましょう

---

---

---

---

---

---

---

---

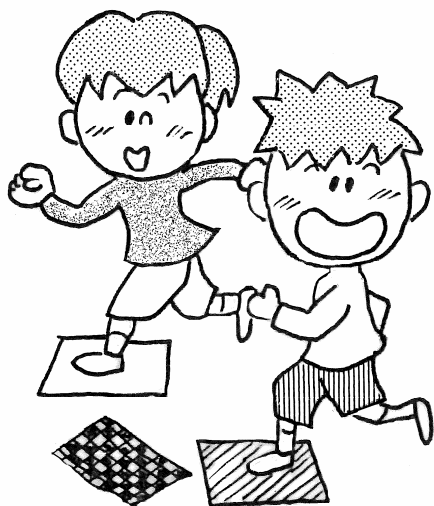
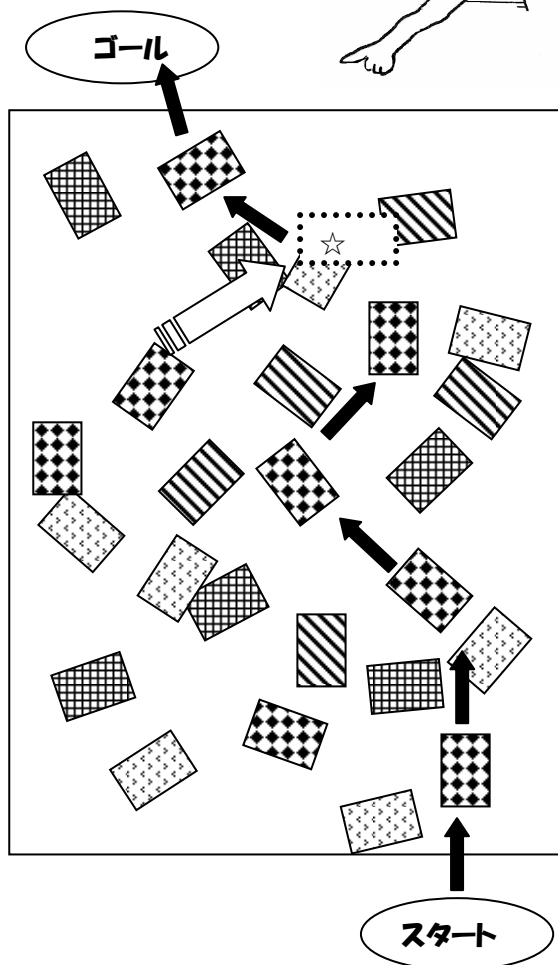
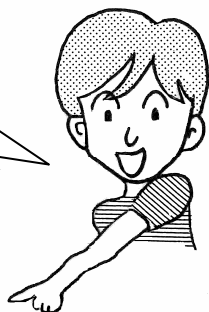
---




---

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>84 カラフルロードを渡りきろう！(助け合って遊ぶ)</b>				<b>基本 体験</b>	群れ合い	
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑭あたたかい言葉をかける		<b>背 景</b>	友だちと声をかけ合ったり協力したりしてゲームを楽しむことが難しい			
<b>活動のねらい</b>	・友だちと一緒に、身体を使ってゲームを楽しむことで、お互いに励まし合ったり、協力したりすることができる						
<b>対象学年</b>	小個別・小低・小中・中個別		<b>実施時期</b>	通年			
<b>所要時間</b>	25分	<b>活動場所</b>	体育館	<b>活動場面</b>	体育・特別活動		
<b>準 備</b>	・色画用紙または矢印付きマーカー(15枚×4色) ・2チーム作る(人数に応じて) ・マット ・ビニールテープ(スタートとゴールのマーク) ・色を示すくじ						
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>		
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		助け合ってカラフルロードを渡って、ゴールしよう				
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・ルール)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にやって見せてやり方を確認する</li> <li>・実態に応じてルールの工夫をする</li> <li>・見ている児童は、応援したり、渡り方をアドバイスしたりする</li> <li>・ゴールしようと頑張っている友だちを応援したり、ゴールできた友だちにあたたかい言葉かけをしたりできるように声をかける</li> <li>・全員が楽しくできるように色画用紙の配置を工夫する</li> <li>・矢印付きマーカーを使えば、バリエーションがつけられる</li> </ul>	安全の配慮・確認  実態に応じてルールの工夫をする		
○約束を知る		⑭あたたかい言葉をかける パスOK 暴力NO					
<b>ふり 返り</b>	○チームに分かれて活動する						
	○ふり返る						
		○楽しかったことなど感想を話し合いまとめをする					
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的能力を十分配慮した上で行う。場合によっては、教師が援助してもよい</li> <li>・ゲームのルールを守ることも、みんなでゲームを楽しむことができるような雰囲気づくりをする</li> </ul>					

## カラフルロードを渡りきろう！

ここに動かせば  
渡れるね！  
がんばれ！



- 1 マットの上に、A4の色画用紙をまき、カラフルロードをつくる（左図）
- 2 プレーヤーは、色画用紙のくじを引いて、出た色の画用紙の上だけを渡って、スタートからゴールまでたどりつく  
※左の例では、
- 3 足が届かない場合は、手を床についてもよいがジャンプは禁止
- 4 同じチームは、1人1回色画用紙を移動して、プレーヤーを助けることができる  
左図の場合は、の場所に、をおいてあげると、プレーヤーはうまく渡れる
- 5 プレーヤーがゴールできたら1ポイント
- 6 チーム対抗でポイントを競う

## 矢印付きマーカーを使って

- 矢印付きマーカーを使うと、矢印と色の両方を使い、ゲームにバリエーションがつけられる。同じ色と、矢印方向の2つに進むことができるルールにすると、友達からのアドバイスがゴールインに大きな役割を果たす。



タイトル (活動概要)	<b>85 ふわふわ言葉とチクチク言葉</b>			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「仲間づくり」⑭あたたかい言葉をかける ⑬気持ちに共感する 「自分づくり」②自分なりの見方や考え方をもち	背景	群れ合い体験の不足から、人間関係づくりが苦手な子どもが多い		
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>あたたかい言葉を進んで使おうとする</li> <li>自分たちが使っている言葉に関心をもち言葉が引き起こしている感情に気付く</li> </ul>				
対象学年	小低・小中		実施時期	周囲から思いやりの言葉が聞こえるようになった頃	
所要時間	15分	活動場所	教室	活動場面	帰りの会、特別活動・道徳
準備	・模造紙				
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導 入	<p>○活動のねらいを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の思いやりのない言葉で傷ついたことがないか思い出す</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">気持ちがあたたかくなったり辛くなったりした言葉を思い出し、自分の言葉遣いを考えよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任に苦情があったことや人権的に気になる言葉等があることを伝える</li> </ul>			
	<p>○活動の流れ（やり方・内容）を知る</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①言われると嬉しくなったり、気持ちがあたたかくなったりした言葉を発表する</li> </ol> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">気持ちがふわっとなるのでふわふわ言葉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>②悲しくなったり、イライラしたり、心が傷ついた言葉を発表する</li> </ol> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">トゲトゲがある言葉などでチクチク言葉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>③隣同士でふわふわ言葉とチクチク言葉を一つ一つ声に出して言い合う</li> <li>④最後の言葉はふわふわ言葉を言い合って、お互いに握手する</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな言葉の時にどんな気持ちが出たかを後で言ってもらうことを伝える</li> <li>言葉によって受け止める気持ちが違うことを実感させたい</li> <li>感情的な言い合いにならないよう注意する</li> </ul>		<p>②自分なりの見方や考え方をもち</p> <p>⑬気持ちに共感する</p> <p>⑭あたたかい言葉をかける</p>	
主 活 動	<p>○約束を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チクチク言葉を言う時は、ためしてみるだけなので、おこらない</li> </ul> <p>○活動する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>模造紙を半分に分け、ふわふわ言葉、チクチク言葉に分けてなるべくたくさん書く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>模造紙をしばらく掲示し、意識化を図る</li> </ul>		<p>暴力NO</p> <p>パスOK</p> <p>持ち出し禁止</p>	
	<p>○ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふわふわ言葉とチクチク言葉を言ってみてどんな気持ちが出たか、言われたときの気持ちはおんなかを発表する</li> <li>これからどんな言葉を使っていきたいかを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことを短冊に書き机にはるのもよい</li> </ul>			
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の信頼関係が形成されてないときに実施すると、感情的な言葉の応酬となる危険もあり、十分な配慮が必要</li> <li>学級の状況に合わせて、帰りの会でよかったことや困ったこととして発表させたり、学級の問題として学級活動で取り上げ、学級の約束をつくったり、道徳として思いやりを考える機会として扱ったりすることも考えられる</li> </ul>				

# 「ふわふわ言葉とちくちく言葉」ふいかえいシート

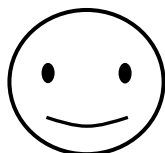
月 日 ( ) 年 組 なまえ

1. この授業は、楽しくできましたか。

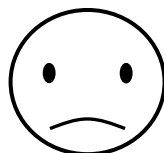
よくできた      まあまあできた      あまりできなかった      まったくできなかった



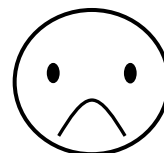
( )



( )



( )



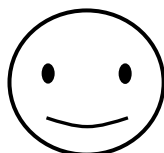
( )

2. 気持ちよく活動や話ができましたか。

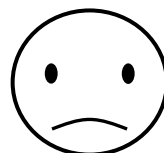
よくできた      まあまあできた      あまりできなかった      できなかった



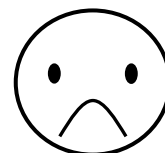
( )



( )



( )



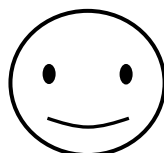
( )

3. ふわふわ言葉をつかうとよいということがわかりましたか。

よくわかった      まあまあわかった      あまりわからなかった      ぜんぜんわからなかった



( )



( )



( )



( )

4. この授業をして、気づいたこと・感じたことを書きましょう。

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>86 欠点も見方を変えればよいところ～リフレーミング～</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑭あたたかい言葉をかける 「自分づくり」③自他のよさを見いだす	<b>背 景</b>	多様な人との関わりの経験が少ないため、多面的な見方が苦手である		
<b>活動のねらい</b>	・見方を変えることで物事の受け止め方が変わり、自分や友だちのよさに気づくことができるようになる				
<b>対象学年</b>	小高・中1・中2・中3・高校	<b>実施時期</b>	学級内の関係性が深まってから		
<b>所要時間</b>	30～45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準備</b>	・ワークシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・先生を例に欠点をよいことに変えてみる 「がんこ」→「意志が強い」 「忘れっぽい」→「切り替えが早い」等	・ものの見方は、視点が変わると違うことを押さえる		持ち出し 禁止 パス OK  ⑭あたたかい言葉をかける  安全の配慮  ③自他のよさを見いだす	
	自分が欠点だと思っていることも見方を変えてよいところにしよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①ワークシートに自分の欠点と思うことを書く ②欠点を書いたワークシートをグループ内で回し、他のメンバーが見方を変えてよいところになるような言葉を書く ③最後に自分のワークシートが戻ったら、書かれた言葉を読む	・考えるヒントを例示するとよい（次ページ参照）  ・学級の状況によっては、事前にワークシートに書かれた内容を点検する  ・「～すればもっとよくなる」等のアドバイスのようなことは書かない		暴力 NO	
	○約束を知る ・前向きで肯定的なことだけを書く  ○活動する				
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・自分があたたかい言葉をもらって、また相手にあたたかい言葉を贈って、感じたことや気づいたことを発表する	・あたたかい言葉によって自分や友達への見方が変わったという発言があれば、賞賛する			
<b>配慮事項</b>	・ワークシートは活動後に回収し、自尊心を傷つける内容がないかを確認し、傷つきの可能性がある場合は、個々に応じてケアする				



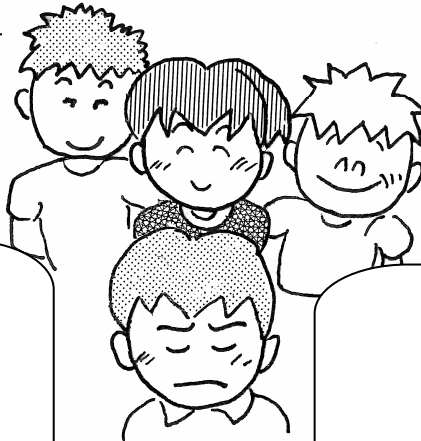
# 〈欠点も見方を変えればよいところ〉ワークシート

年 組名前 ( )

私(ぼく)の気になるところ(欠点)は…

- 
- 
- 

みんなからの言葉



\_\_\_\_\_ よし

\_\_\_\_\_ よし

\_\_\_\_\_ よし

\_\_\_\_\_ よし

\_\_\_\_\_ よし

## リフレーミング例

欠点	見方を変えれば	欠点	見方を変えれば
目立ちたがり屋	明るい	頭がかたい	まじめ
あわてんぼう	行動的	うるさい	元気が良い
あきらめが悪い	努力家	いいかげん	おおらか
怒りっぽい	熱血・熱	気が弱い	気が弱い
口がうまい	話し上手	だまされやすい	素直
反応が鈍い	おだやか	おとなしい	聞き上手
負けず嫌い	がんばりや	優柔不断	柔軟
強引	頼りがいがある	物事に細かい	しっかりしている
飽きっぽい	好奇心が旺盛	言い方がきつい	はっきりしている

## 欠点も見方を変えればよいところ ふり返りシート

年 組 名前 ( )

- 1 友達が欠点と思っているところを言い換えることができましたか

4 3 2 1  
 | | | |  
 \_\_\_\_\_  
 よくできた まあまあできた あまりできなかった できなかった

- 2 友達が書いてくれたシートを見て、自分についての考え方が変わりましたか

4 3 2 1  
 | | | |  
 \_\_\_\_\_  
 とても変わった まあま変わった あまり変わらなかった 変わらなかった

- 3 今日の活動をふり返って気がついたことや感じたことを書きましょう

---



---



---



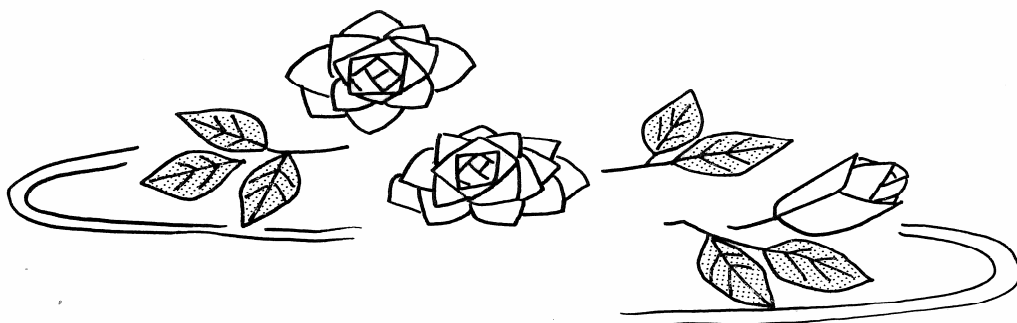
---

## コラム：リフレーミング

「事実」というものにわれわれが無意識に与えている「意味づけ」を変える技法。（國分康孝監修 カウンセリング辞典 1990年 より一部抜粋）

リフレーミングは“価値観は一つではない”との考えが根本である。価値観や考え方にとらわれ身動きが取れなくなったとき、立ち位置を変えて見つめてみると、新たなものが見えてくる。だらしがないと言われる人も、見方によってはおおらかである。このような発想の転換を自分自身で行えるようになることが、生きる力であり、豊かな心である。

一方、リフレーミングは、指導ではなく「甘やかし」「その場しのぎ」ととらえる向きもある。しかし、この手法を用いて、You are OK!（あなたは、あなたでよい→あなたは、大切な存在である）を実感させることは、大きな意義がある。人間は、ありのままの等身大の自分を受け入れるところがスタートである。自尊感情が低く、自分を否定的に捉える子どもたちには、そのスタートラインに立つことを支援することが必要であり、リフレーミングはそのために大きな力を発揮するのである。



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>87 「心配しないで！からだの成長」</b> ～考えよう。安心できる言葉かけ～			<b>基本 体験</b>	群れあい
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑭あたたかい言葉をかける ⑬気持ちに共感する 「自分づくり」④自他のちがいを認める		<b>背 景</b>	群れ合い体験などの不足から他児と 違う成長に対し戸惑う	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成長の個人差や男女差を知り、思いやりある言動をしたり男女協力して行動したりしようとする</li> <li>自分の成長を肯定的に受け止めようとする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中		<b>実施時期</b>	心身の変化が現れ始める頃 10歳を祝う会と関連して	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	体育(保健)
<b>準 備</b>	・ワークシート①、② ・ストップウォッチ				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           体の成長のことで悩んでいる友だちがいたとき、 安心できるようなアドバイスをみんなで考えよう         </div>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>時間設定や実態に応じて、2つのケースを続けて扱ってもよい</li> <li>体のことや成長について、ふざけやからかいは絶対にしてはならないことを知らせる</li> <li>体の変化は全員に起こることを知って安心すると共に、友だちも思いやりをもって対応してくれるという集団への信頼感が高まるように支援する</li> </ul>		④ 自他のちがいを認める  ⑬ 気持ちに共感する  ⑭ あたためた言葉 をかける  暴力 NO  パス OK  持ち出し禁 止
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ケース(1または2)を読み、どう言葉をかけるかを考えて書く</li> <li>② グループで5分間話し合い、一番安心できるアドバイスをグループで一つにまとめる</li> <li>③ 各グループから、発表をする</li> <li>④ 出た意見を先生が板書し、みんなで感想を出しあう</li> </ul>				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふざけ」や「からかい」は、絶対にしない</li> <li>悩んでいる友達が「安心できる」アドバイスを考える</li> </ul>				
	○活動する				
	○ふり返る				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>全体での感想発表の場面で、自分の成長も友だちの成長も前向きにとらえ、仲間づくりができるようまとめる</li> <li>ふり返りカードで各自ふり返る</li> </ul>			
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちを思い、友だちが安心できるような言葉を考えるように指示する</li> <li>安心して話し合いに参加できるような雰囲気づくりを行う</li> <li>異性や性などのテーマについての話し合いでは、特に、ふざけた態度や言葉づかいには毅然として指導に当たり、誰もが安心して参加できるようにする</li> </ul>				



# ケース2

年 組 名前 (                      )

あなたの友だちがこんなことでなやんでいます。あなただったら、どんなふうにアドバイスしますか？友だちが安心するような言葉をかけられるといいね。



このあいだ、お風呂に入ったとき、わき毛や性毛が生え始めたことに気づきました。プールの時や体験学習でお風呂に入るとき、見られたらはずかしいな……。何か言われなかと心配です。

どうしよう……？

**だいじょうぶ！**

## ～活動をふりかえろう～

名前（ ）

4 よくできた    3 まあまあできた    2 あまりできない    1 できなかった

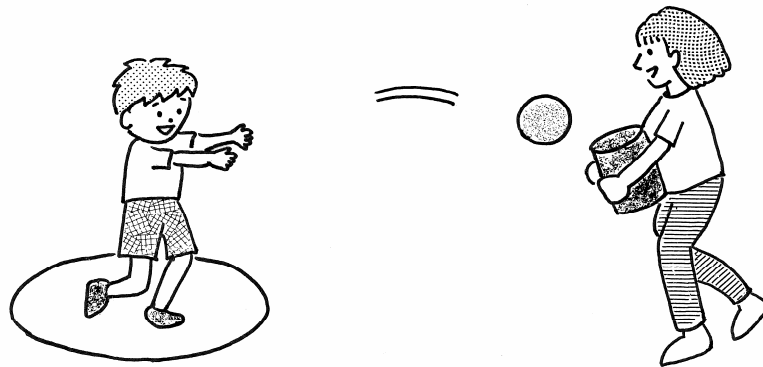
- |                          |         |
|--------------------------|---------|
| 1 自分からすすんで取り組みました        | 4-3-2-1 |
| 2 「ふざけ」や「からかい」なしに取り組みました | 4-3-2-1 |
| 3 友達が安心できるアドバイスを考えられました  | 4-3-2-1 |

○ 「心配しないで体の成長」の感想を書こう

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>88 力を合わせてシュート&amp;キャッチ!</b> (協力してボール遊びをする)			<b>基本 体験</b>	群れ合い	
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」 ⑭あたたかい言葉をかける ⑧仲間に加わる ⑨仲間に誘う		<b>背 景</b>	人間関係づくりが不得手な 子どもが多い		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな友だちとゲームを通して、かかわりをもつ</li> <li>・ルールに従って集団で遊ぶ楽しさを体験する</li> <li>・成功したときの達成感・一体感を味わう</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	幼・小個別・小低・小中・中個別	<b>実施時期</b>	友達に慣れてきた頃			
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	体育館・小ホール	<b>活動場面</b>	特別活動	
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フラフープ</li> <li>・ソフトバレーボール (カラーボール)</li> <li>・ストップウォッチ</li> <li>・ゴール (プラスチック製のゴミ箱等のボールがはまる入れ物)</li> </ul>					
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>			<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友だちと息を合わせて、ボールをゴールに入れよう</div>					
<b>主 活動</b>	○活動の流れ(やり方)を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでゴールマンを一人決め、ゴールを胸の前で持ち、ゴールラインに立つ</li> <li>・他の人は1列に並び、スタートの合図で先頭がフープ(枠)の中からボールを投げ、ゴールマンはボールが入るように動いて、キャッチする</li> <li>・一回シュートが入ったら、次の人と交代する</li> <li>・制限時間内にシュートした数を競う</li> </ul> ○約束を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>・入っても入らなくても励ましの言葉をかける</li> </ul> ○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ人数のグループ(4~8人)を作る</li> <li>・ゴールラインから5mぐらい離れた所にフープ(枠)を置く</li> <li>・距離は子どもの状況によって変える</li> <li>・子ども同士でキャッチが難しい場合は、教師がゴールを持つ</li> <li>・シュートが成功した時に一緒に喜び、達成感が味わえるようにする</li> <li>・言葉かけが難しい場合は、入ったとき、入らなかった時の言葉や動作をあらかじめ決めておくとよい (例) 成功「ナイスシュート ゲー(拳をあげる)」 「やったね、パチパチ(拍手)」 失敗「チャレンジ! パチパチ(拍手)」</li> </ul>			⑧仲間に加わる ⑨仲間に誘う  暴力NO (シュートが入らなくても批判しない)  ⑭あたたかい言葉をかける
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームをしているときに感じたことを発表する</li> </ul>					
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームのルールが飲み込めない児童がいる場合は、はじめの練習を多く取り理解させたい</li> <li>・「入った!」という達成感・一体感を味わうことができるようなルールにする</li> </ul>					



## 個別支援級のみで行う場合



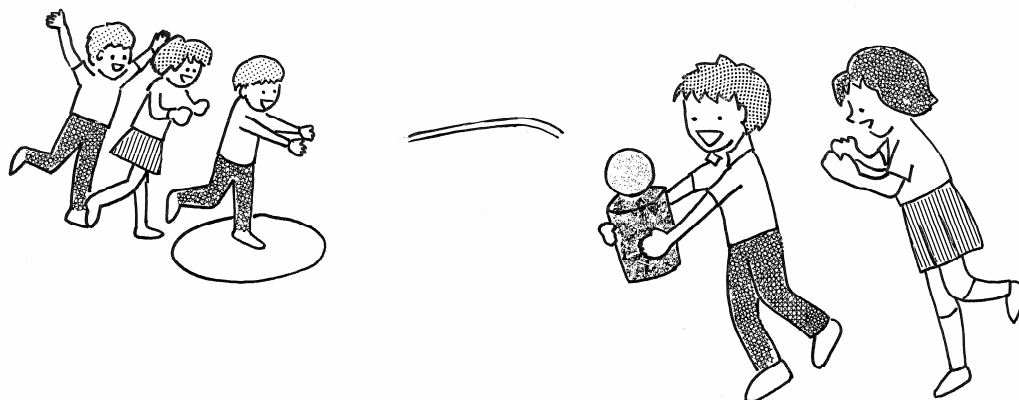
教師がゴールを持ち、児童の実態に合わせて距離を短くする。「入った！」という達成感が大切！！  
2チーム作れない場合は、記録更新を目指して何回か挑戦するとよい

## 交流級や交流学年で行う場合



各グループに、個別支援級の児童が必ず入るようにする  
個別級の児童がシュートする時には成功するように、ゴールを持つ児童が動いても良いことにすると、「やさしさ」「おもいやり」の形を行動で表すことができる

## 一般級で行う場合



シュートする人とキャッチする人を同じ人数に分け、順次交代していくと、スピード感が出る  
シュートする人とキャッチする人を同じ人数に分け、順次交代していくと、スピード感が出る

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>89 「ありがとう」の一言 (役割演技で考える)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」 ⑭あたたかい言葉をかける ⑬気持ちに共感する	<b>背 景</b>	感謝の気持ちを素直に表すことができない子どもが増えた		
<b>活動のねらい</b>	・相手にお礼を言う場面の役割演技を通して、「ありがとう」を言うことによって、相手との人間関係がスムーズに運ぶことを体験し、日常生活の中で使おうとする意欲をもつ				
<b>対象学年</b>	小中～小高		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動・道徳
<b>準 備</b>	・「ありがとう」の一言がなかったために、トラブルになってしまった例話 ・ワークシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・教師が、「ありがとう」の一言が無かったためにトラブルになった例を挙げる				パス OK
	友達への言葉かけを考えよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①ワークシートの例を二人組で演じて、感想を話し合う ②感想をもとに、自分だったらどういう言葉をかけるか考え、ワークシートに書く ③グループ(または二人組)で、考えた言葉で演じ、よりよい言葉かけを考える		・役割演技への参加は強要しないよう配慮をし、自然に参加できる雰囲気づくりを行う ・グループ内で考えた言葉が適切でない場合も考えられるので、役割演技をするときは必ず教師が確認した上で行う ・役割演技が終わったら、「役割解除」を行う		⑬ 気持ちに共感する  安全の配慮 パスOK
	○約束を知る ・役割演技での感想を否定しない				⑭ あたたかい言葉をかける
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				
	○ふり返る ・感想の中からいくつか全体に紹介する				
<b>配 慮 事 項</b>	○まとめる ・毎日の生活の中に、積極的に「ありがとう」の一言を使っていくことができるよう、動機付けをする				
	・中学年で実施する場合は、具体物を使って演技することが効果的である ・例話は児童生徒が積極的に参加できるよう身近な話題に改編すると効果的 ・教師の目が行き届くよう、グループ数は4～6程度とし、できるだけ全体を視野に入れながら活動させる				

# 「ありがとう」の一言 ワークシート

氏名 ( )

1 次の場面を、役割を決めて演じてみましょう。どのような感じがしますか？

給食当番の片づけの時、当番のAさんは、牛乳パックを持っていくのを  
忘れました。それに気づいたBさんは、わざわざ追いかけてもってきてくれました。

B : 牛乳パック忘れてたよ。  
A : 後から取りに行こうと思っていたのに。  
B : .....

2 あなたがAさんだったら、どうしますか？ 自分で考えて書いてみましょう

B : 牛乳パック忘れてたよ。  
A :

3 グループ、またはペアで、自分で考えたせりふで演じて、感想を話し合みましょう。  
また、直した方がよいところが見つかったら、書き直してみましょう。

B : 牛乳パック忘れてたよ。  
A :  
B :

4 今日の活動をふり返り、感じたことを書きましょう

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 楽しく安心して活動できましたか 4 3 2 1

2 演じた感想を素直に伝えられましたか 4 3 2 1

3 友達と話し合っ、よりよい方法を考えられましたか 4 3 2 1

4 活動して気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことを書きましょう。

.....  
.....  
.....

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>90 聴き方じょうずになれるかな(話すこと・聴くこと体験)</b>				<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑮しっかり話を聴く		<b>背 景</b>	相手と直面して話をしたり聴いたりする経験 が少なくなっている		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の聴き方によって話しやすくなったり話しにくくなったりすることを知る</li> <li>・友だちと思いやりのある会話や話し合いができるようになる</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	小中～大人		<b>実施時期</b>	人間関係をさらに深めたいとき		
<b>所要時間</b>	30分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	国語・特別活動	
<b>準備</b>	・ふり返しシート      ・ストップウォッチ					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">話す人がもっと話したくなるような、聴き方じょうずになろう</div>			
	○活動の流れ（やり方・内容）を知る					
<b>主 活 動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①二人組で話し手と聞き手の順番を決める</li> <li>②積極的でない話の聴き方を交互に体験する ＜聞き手は目線を合わせない、無表情などで聞く＞(1分)</li> <li>③積極的な話の聴き方を交互に体験する ＜聞き手は相手の目を見る、うなづく、相づちをいれる、などで聴く＞(1分)</li> <li>④話し手聞き手の気持ちや感じ方の違いなどについて二人組で話し合う</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人関係の不得手な子どもには十分に配慮し、無理強いしない</li> <li>・積極的でない聴き方と積極的な聴き方は、ロールプレイングであることについて十分に説明し、相手に対する不快感が残らないようにする</li> <li>・話しやすいテーマを設定する (例)好きな食べ物 昨日見たテレビ番組 など</li> </ul>		パス OK  安全の配慮  ⑮しっかり話を聴く  暴力NO	
	○約束を知る					
<b>ふ り 返 り</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に腹を立たなくても相手にぶつけない</li> <li>・ロールプレイングが終わったら、握手をする</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な聴き方のときの、心地よさや親密感の高まりについて押さえる</li> <li>・普段の生活の中でも、上手な聴き方ができるとよいことを伝える</li> </ul>			
	○活動する					
	○ふり返る					
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の人間関係が形成されて実施したほうがよい</li> <li>・ロールプレイングの後に、話し手が心地よい話の聴き方を出し合い、まとめておくと、日常の学級生活の中での話の聴き方をふり返る材料になる</li> </ul>				

# 「聴き方じょうずになれるかな」ふり返りシート

年 組 名前 (

)

1 今日の活動は、楽しくできましたか。(番号に○をつける)

4	3	2	1
_____			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

2 話の聞き方によって、話しやすかったり話しにくかったりすることが分かりましたか

4	3	2	1
_____			
よく分かった	まあまあ分かった	あまり分からなかった	分からなかった

3 上手な話の聞き方のポイントが分かりましたか。

4	3	2	1
_____			
よく分かった	まあまあ分かった	あまり分からなかった	分からなかった

4 今までの自分の話の聞き方について、ふり返ることができましたか

4	3	2	1
_____			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

5 今日の活動で、気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったら書きましよう。

---

---

---

---

---

---

---

---



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>91 身体と心はつながってる!?</b> (話すこと・聴くこと体験)			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑮しっかり話を聴く 「自分づくり」②自分なりの見方や感じ方をもつ		<b>背景</b>	相手と直面して話をしたり聴いたりする経験が少なくなっている	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり話を聞くための方法を再確認する</li> <li>・言葉が態度に影響したり、態度が言葉に影響したりすることを知る</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	高校生以上		<b>実施時期</b>	人間関係が深まってから	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	国語、学級活動
<b>準備</b>	・ふり返しシート ・ストップウォッチ				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		自分の普段の聞き方をふり返ろう		
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割演技であることについて十分に説明し、相手に対する不快感が残らないようにする</li> <li>・話し手は、共感的な言葉よりも態度に反応し、よく聴いてもらっていないと感じる</li> <li>・聞き手は、自分の共感的な言葉のトーンが態度に引きずられて、そっけないものになっていくを感じる</li> <li>・コミュニケーションは、言葉よりも身体が果たす役割が大変大きいことをまとめる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①積極的でない聴き方、積極的な聴き方の2種類の聴き方のロールプレイングを体験する</li> <li>②3つめのやり方&lt;言葉は積極的で態度が積極的でない聴き方&gt;で交互にロールプレイをする</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉は、積極的な聴き方 「そうですか」「なるほど」「それは楽しかったでしょうね」「見てみたいですね」等の共感する言葉を使う</li> <li>○身体は、積極的でない聴き方 そっぽを向く、腕や足を組む、ふんぞり返る、うなずかない等の態度をとる</li> <li>③3つめのやり方で感じたことを出し合う</li> </ul>					
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割演技が終わったら、握手をする</li> </ul>				
	○活動する				
	○ふり返る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二人組みで感想を述べ合ったあと、全体化する</li> </ul>				
	○まとめる				
<b>配慮事項</b>	・「90 聴き方上手になれるかな」の後に行えば、小学校高学年から可能である				

# 「 身体と心はつながっている 」 ふり返りシート

年 組 名前 ( )

1 今日の活動は、楽しくできましたか。(番号に○をつける)

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

2 話を聞くときに身体の果たす役割が、大変大きいと分かりましたか

4	3	2	1
よく分かった	まあまあ分かった	あまり分からなかった	分からなかった

3 上手な話の聞き方のポイントが分かりましたか。

4	3	2	1
よく分かった	まあまあ分かった	あまり分からなかった	分からなかった

4 今までの自分の話の聞き方について、ふり返ることができましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

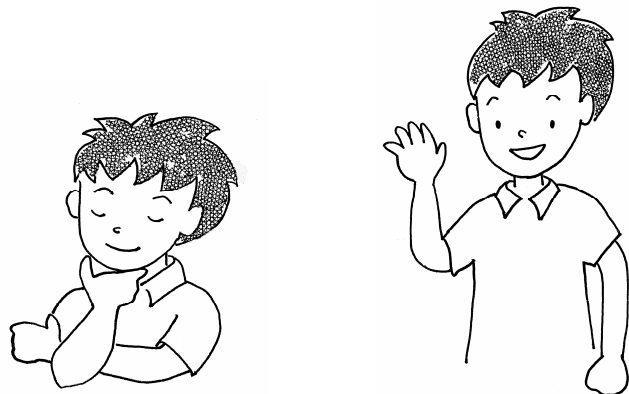
5 今日の活動で、気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったら書きましよう。

---

---

---

---



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>92 なにがすき？ (共通する話題で集まる)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑧仲間に加わる 「自分づくり」④自他の違いを認める		<b>背 景</b>	他者の話を聞く力や方法を身につけてない子どもが多い	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の話をしっかり聞く</li> <li>・自分と似た好みをもつ友達や自分と違う友達の存在を知り相互理解を深め合う</li> <li>・はっきりと自分の考えを伝える</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低・小中・小高		<b>実施時期</b>	友だちの名前を覚えた頃	
<b>所要時間</b>	25分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	集会
<b>準備</b>	・教師の質問にあわせた選択肢を書いた紙				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る  互いの好きなものをたくさん知り合おう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①教室の四カ所に掲示してある色カードから自分の好きな色を選び移動する ②集まってきた友達同士で選んだ訳を尋ね合う ③合図で、次に掲示してあるカード(題)に描いてあるものから自分の好きなものを選び移動する ④以降、同様に続ける  ○約束を知る ・質問した相手に、「教えてくれてありがとう」と言い握手をして別れる  ○活動する		・自分の気持ちにぴったり合わないときには、その中で一番近いと思うところに行くよう助言する ・グループで輪になって順番に話すか、2人組で相手を変えて話す ・全体の様子を見て次に行うカードを掲示する (例題) 給食、動物、菓子、漫画等 (掲示するカードは、同じ種類の中からとする)  ・友達とつながることのうれしさや楽しさに気づいた発言を賞賛する		⑧仲間に加わる  暴力 NO  ④自他の違いを認める
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・自分と同じ物が好きな友達がいたことを知ってどんなことを思ったか話し合う				
<b>配慮事項</b>	・教室の形を考えて四カ所にしたが、話し合う声が聞こえないような距離を保てれば選択肢は増やしてもよい ・話し合いの様子を観察し、話に参加できない児童に、教師が質問するなどの配慮を行う				



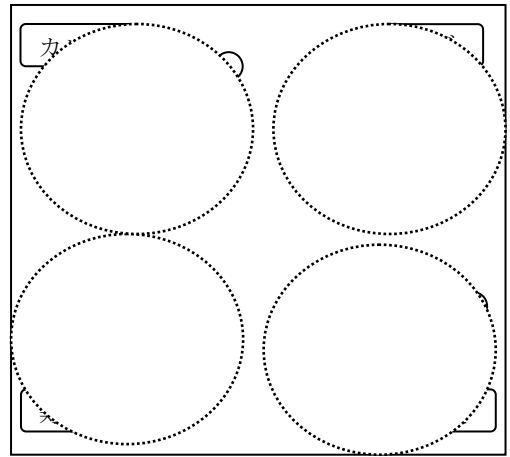
## ☆同じグループでの話の仕方

### ・グループで輪になって順番に話す

話をした人が隣の人に順番に尋ねるようにしていく。  
 選択肢を多くして、グループの人数が多くなりすぎないようにするか、1グループの人数制限をして同じ選択肢の中で複数グループを作る

### ・グループ内で2人組となり順次相手を代えて尋ね合う

多くの友だちと話ができるように、1回目に色で集まったときにそれぞれに色シールをもたせ、交換し合う等工夫する



## なにがすき？ ワークシート ( )くみ ( )

すきなもの	話をした友だちとシールをこうかんしよう			
	名前			
	シール			
	名前			
	シール			
	名前			
	シール			

### 1 楽しくかつどうができましたか

よくできた      まあまあできた      あまりできなかった      できなかった



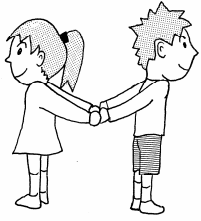
### 2. 友だちやじぶんのことで気づいたことやわかったことがありましたか。

たくさんあった      まあまああった      あまりなかった      なかった



### 3. このかつどうをして、気づいたこと・感じたことを書きましょう。

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>93 友だちを見つけよう (ヒントで回答する)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑮しっかり話を聞く ⑤はっきり伝える	<b>背 景</b>	話を聞くなどコミュニケーションをうまくとれない子どもが多い		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの話していることを、しっかりと聞きとれるようになる</li> <li>・絵の中の友だち(正解)の特徴を考えて、分かるようにヒントを伝えられるようになる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	国語
<b>準備</b>	・友だちさがしに使える絵(たくさんの人や動物等が描かれている絵)				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
導 入	○活動のねらいを知る		ヒントをよく聞いて、絵の中の友だち(正解)を見つけよう		
	主 活 動	○活動の流れ(やり方・内容)を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を使って教師が例題を出し、やってみせる</li> <li>・問題を出す話型「友だちは○○です」やヒントの回数は事前に提示する</li> <li>・話すとき、聞くときの約束を確認する</li> <li>・話しやすい机の配置にする</li> <li>・絵や写真は、子どもたちが問題を出しやすいものにする</li> <li>・正解しなくても責めるような言動はしないように注意する</li> </ul>		⑤はっきり伝える ⑮しっかり話を聞く
①二人組で、問題を出す人と答える人を決める					
②ヒントの数を決める					
③問題を出す人は、ヒント(正解となる人物の特徴:服の色や形、手に持っている物など)をよく考え、ていねいな言葉でゆっくりと話す (例)友達は、ひげをはやしています	④決められたヒントの回数で答えを言ったら、交代する	○約束を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答えが分からないときには、「もう一回お願いします。」といって問題を出してもらう</li> <li>・聞かれたら、丁寧にヒントを繰り返す</li> </ul>		
○活動する				パス OK	
ふ り 返 り	○ふり返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで友だち捜しのゲームをやった感想を話し合う</li> </ul>		暴力 NO	
	<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の発展として行うので、子どもたちが興味をもつようなキャラクターや特徴がはっきりしている人物が描いてある絵がよい</li> </ul>			

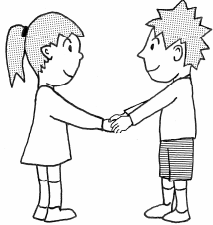


# 友だちを見つけよう ワークシート

( )月( )日 名前( )

☆ぜんぶのヒントでこたえがわかるようにかんがえましょう	
1	ともだちは、
2	ともだちは、
3	ともだちは、
4	ともだちは、
5	ともだちは、
わたしのともだち(こたえ)は、	

☆ぜんぶのヒントでこたえがわかるようにかんがえましょう	
1	ともだちは、
2	ともだちは、
3	ともだちは、
4	ともだちは、
5	ともだちは、
わたしのともだち(こたえ)は、	



# 「ともだちをみつけよう」ふりかえりシート

なまえ ( )

1 友だちときょうりよくして、たのしくがくしゅうできましたか。



よくできた

まあまあできた

あまりできなかった

できなかった

2 友だちに、こたえがわかるように、ヒントをだせましたか。



よくできた

まあまあできた

あまりできなかった

できなかった

3 よくちゅういして、友だちのヒントを、きくことができましたか。



よくできた

まあまあできた

あまりできなかった

できなかった

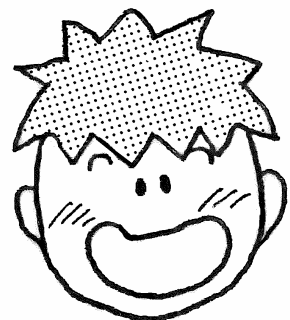
4 このがくしゅうをしてきがついたこと、かんじたことをかきましょう

---

---

---

---



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>94 何の音かな？ (よく聞く・よく見る)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑮しっかり話を聴く ⑤はっきり伝える		<b>背 景</b>	相手の話に耳を傾ける力が弱い子 どもが多い	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な音を当てるゲームを通して、聴く楽しさを味わう</li> <li>クイズ形式で相手の話に興味を持ち、言葉や音を聴き取る力を育てる</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	幼・小個別・小低～		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	朝の会・集会等
<b>準 備</b>	・大きくない楽器 ・トーキングカード ・効果音などのCDやテープ ・ついたて				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・椅子から静かに立ち上がり、音をたてないようにして座ることを何回かできるまでやり直す等して、静かに音を聞く環境を整える				
	よく聞いて、何の音か当ててみよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方）を知る ① ついたての裏から聞こえるのが何の音か考えながら聞く ＜例＞掃除機の音、風の音、包丁の音、消防車やパトカーのサイレン、動物の鳴き声、乗り物の音、楽器、〇〇先生の声等 ② 答えをグループで相談して解答用紙に書く ③ 正解を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に見本を見せるなどして、やるのがわかるようにする</li> <li>人形を使ってクイズを出すと、視覚的にも集中する</li> <li>絵カードや実物で正解を示し、イメージできるようにする</li> <li>生活音は児童が興味を持って聞く音だが、言葉で表現しにくい音の場合は、数枚の絵カードの中から正解を選ぶ方法をとる</li> </ul>		⑮しっかり話を聴く
	○約束を知る ・分かって最後まで音を立てないで聞く ・指名されてから答える ・正解を聞いて、当たっていた人やグループがあったら拍手する ・分からなかったらパスと言ってよい				⑤はっきり伝える
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				暴力NO (間違えても批判しない) パスOK
	○ふり返る ・音に興味を持って聞くことができたかどうかを振り返る				
<b>配慮事項</b>	・グループで答える場合に、いつも同じ子どもが答えるのではなく、多くの子が答える場面も作るようにする				

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>95 私の秘密・正解はだれだ!?(質問ゲーム)</b>				<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑮しっかり話を聞く ⑯上手に質問する		<b>背 景</b>	人への興味が薄く、深くかかわって いこうとする気持ちが少ない		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秘密を共有したり、相手をよく知ろうとすることで、友達への関心を高める</li> <li>・秘密を守るために協力して質問に答える経験を通し、グループの関係性を高める</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	中学1～3年		<b>実施時期</b>	人間関係ができてから		
<b>所要時間</b>	50分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特活	
<b>準備</b>	ワークシート					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>			<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		協力して、質問ゲームに勝利しよう			
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・秘密は差し障りのないものにする</li> <li>・選んだ秘密について後で他のチームからの質問に答えられるように共有する</li> </ul>		
①班の中で、まだ知られていない自分の秘密を一つずつ順番に話す。 ②班の人の秘密の中から質問ゲームの問題にする秘密を1つ選び、更に詳しく聞く ③問題を出す班は、問題となる秘密を声をそろえて相手の班の前で言い、正解はだれかを問う ④相手の班は、その秘密について一人1つだけ質問をする ⑤質問に対しては、班のだれかが、自分の秘密のふりをして答える(正解しか答えてはいけない) ⑥最後の質問が終わったら、誰の秘密か話し合い、正解の人の名前をみんなで言う ⑦正解を発表する		※ 個人が特定できるような質問は拒否してよい ※ メンバーが答えを知らない質問には、本人が答えることになる ・協力して、メンバー全員が本人のふりをして答える				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文例 「実は私はハワイに親戚がいます」</li> <li>・質問例 「ハワイには何回行った？」 「ハワイの親戚が住んでる所は？」 「ハワイのおいしい食べ物は何？」</li> </ul>			持ち出し禁止
	・正解しか答えてはいけない  ○活動する ・2グループ対抗でいった後、作戦タイムをとり、違う人の秘密で再度行う		・班の友達がフォローしてくれたことについての発言が出たら取り上げる			
<b>ふり返る</b>		○ふり返る				
<b>配慮事項</b>		・深刻な秘密を出さないように、秘密を教師が例示する				

## 私の秘密・正解はだれだ!? ワークシート

- ① 班のメンバーの秘密を1つずつ出し合ひましょう
- ② クイズにしたい秘密を選び、更に詳しく聞いて、情報をメモしましょう

メンバー	私 の 秘 密		
A		D	
B		E	
C		F	
<b>クイズの質問に備えて、詳しい情報を集めましょう</b>			
「私は、実は、 <span style="float: right;">」</span>			
「私は、実は、 <span style="float: right;">」</span>			

### 「私の秘密・正解はだれだ!?」 ふり返いシート

月 日 ( )      年 組 名前 ( )

4 よくできた   3 まあまあできた   2 あまりできない   1 できなかった

- 1 友達と協力して、答えを見つけるために質問したり、相手チームに答えが分からないように答えたりすることができましたか
 

4	3	2	1
- 2 友達の意外な面に気づくことができましたか
 

4	3	2	1
- 3 今日の活動で気がついたことや感じたこと、学んだことがあったら書きましょう。

---



---



---



---

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>96 先生を知るイエス・ノークイズ</b>			<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」⑮しっかり話を聴く ⑥上手に質問する		<b>背景</b>	被受容体験の不足から、自分自身や他者など人との基本的な信頼関係の育成が必要	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の自己開示により、子どもとのリレーションをつくる</li> <li>・子ども同士が自己紹介し合うときのモデルとして生かす</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小低		<b>実施時期</b>	学級開き	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	朝の会
<b>準備</b>	・イエスノークイズシート				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">先生に関するクイズの答えを考え、先生のことを知ろう</div>				
<b>主活動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①クイズシートを配り、クイズを1問ずつ教師が読み上げ、一人一人が答えを書く ②3～4人グループで相談して答えを決める ③全問終わったところで1問ずつ答えをいいながら、教師が自己紹介する ③正答数を挙手で確認し、一番多かったグループに拍手  ○約束を知る ・一人一人が意見と理由を言う 「私はイエスだと思います。わけは〇〇です」 ・グループで相談して答えを決める  ○活動する		・クイズの項目は、事実→感情→価値観に関するものに徐々に深めていく  ・黙っている子どもがいる場合や、一人の子どもがどんどん答えをまとめていってしまう場合には声かけをする  ・先生のことを新しくわかった楽しさを中心にまとめる		暴力 NO  パスOK  ⑮しっかり話を聴く  ⑥上手に質問する
<b>ふり返り</b>	○ふり返る ・やる前と比べて気持ちが変わったことや感じたことを話し合う ・ふりかえりの感想を書く				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーモラスな問題、意外な問題があると一気に親しみを見せるようになる</li> <li>・反応から会話が広がっていくことも大切にしたい</li> <li>・話し合いがスムーズに進まないグループや気になる児童がいるグループには適切な支援を行う</li> </ul>				



( ) **先生を知るイエス・ノークイズ**

2年 組 名前 \_\_\_\_\_

第1問 先生はスイスで生まれた。 イエス ・ ノー  
りゆう ( )

第2問 子どもが4人いる。 イエス ・ ノー  
りゆう ( )

第3問 なき虫である。 イエス ・ ノー  
りゆう ( )

第4問 子どものころ、てんこうしたことがある。 イエス ・ ノー  
りゆう ( )

第5問 好きなスポーツは、スケートである。 イエス ・ ノー  
りゆう ( )

あなたのとくてん

おもったこと

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>97 「ごめん」の一言 (役割演技で考える)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「仲間づくり」 ⑩相手の気持ちを考えて謝る ⑬気持ちに共感する	<b>背 景</b>	自分の非を認めきちんと相手に謝れない子どもがいる		
<b>活動のねらい</b>	・あやまる必要のある場面の役割演技を通して、自分が悪かったときにあやまることの大切さを感じる				
<b>対象学年</b>	小学生～高校生		<b>実施時期</b>	通年	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	道徳(学級)
<b>準 備</b>	・「ごめん」の一言がなかったために、トラブルになってしまった例話 ・ワークシート ・ふり返りシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・ワークシートの例をもとに、役割演技をして、Bさんの気持ちを感じ取る		・二人組で役割演技を行う ・Bの気持ちに焦点をあてる		パス OK
	相手を不愉快にさせないための伝え方ができるようになる				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①Aさんがどう言えばよいのか、グループごとに話し合い、ワークシートに書く ②自分たちの考えた言葉を発表する ③発表した中から例を一つ(または複数)選び、役割演技で全体の前行う ④グループで役割演技を行いながら、自分たちの謝り方を修正する		・グループ内で考えた言葉が適切でない場合も考えられるので、役割演技をする言葉は、必ず教師が確認した上で行う ・役割演技への参加は強要しないよう配慮をし、自然に参加できる雰囲気づくりを行う		⑬気持ちに共感する  安全の配慮 パスOK  ⑯相手の気持ちを考えて謝る
	○約束を知る ・役割演技でそれぞれが感じたことを否定しない				
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				
	○ふり返る ・ふり返りシートに感じたことを書く ・感想の中からいくつか全体に紹介する		・謝るポイントは「ごめん」「理由」「心を込めた言い方」であることを、グループでの話し合いを通してまとめられるようにする		
	○まとめる ・謝るポイントを確認する				
<b>配慮事項</b>	・教師の目が行き届くよう、グループ数は4～6程度とし、できるだけ全体を視野に入れながら活動させる ・例話は児童生徒が積極的に参加できるよう身近な話題に改編すると効果的				

# 「ごめん」の一言 ワークシート

氏名 ( )

☆ 次の場面を見て、どのように感じるか話し合ってみましょう

Aさんは、おばあさんが田舎からやってくるのをすっかり忘れて、Bさんと遊ぶ約束をしてしまいました。Bさんは、待ち合わせ場所で30分待っていました。そこへAさんがやってきました

B : どうしたの。30分も来ないから、心配したよ。

A : 今日は、おばあちゃん来るから遊べなくなった。じゃあね。

1 Bさんがいやな気持ちにならないように、今日は遊べないことを伝えるには、どのように伝えたらよかったですでしょうか？Aさんの言い方を考えてみましょう。

B : どうしたの。30分も来ないから、心配したよ。

A :

2 グループで話し合っ、伝え方を考えましょう

B : どうしたの。30分も来ないから、心配したよ。

A :

3 他のグループの発表を見て、役割演技をしながら、自分たちの伝え方を見直しましょう

B : どうしたの。30分も来ないから、心配したよ。

A :

4 今日の活動をふり返り、感じたことを書きましょう

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 1 楽しく安心して活動できましたか                       | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 友達のと話し合っ、よりよい方法を考えられましたか              | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 相手の気持ちを傷つけない伝え方が分かりましたか               | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 活動して気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことを書きましょう。 |   |   |   |   |

.....

.....

.....

.....

☆ 学習のまとめ 相手の気持ちを考えてあやまるために必要なポイントは！

1

2

3

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>98 ホームレスについて考えよう</b> (連想マップでまとめる)				<b>基本 体験</b>	被受容
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑰互いの感情や意見の違いを認め ながら調整しようとする ⑱問題や課題の解決をみんなで考 える		<b>背 景</b>	一面的な価値観で人を判断したり、 排除したりする子どもが増 えている		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分が大切、同じように他の人も大切」と思える子どもを育てる</li> <li>・屋外生活者（ホームレス）に対する自分自身の認識の仕方を見直し、課題意識をもつ</li> </ul>					
<b>対象学年</b>	中1・中2・中3・高校		<b>実施時期</b>	通年・長期休業の前		
<b>所要時間</b>	50分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	道徳・総合	
<b>準 備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙（4つ切り）</li> <li>・フェルトペン</li> <li>・ふり返しシート</li> <li>・ホームレスへの暴力事件等に関する新聞記事</li> </ul>					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>			<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○ねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「ホームレス」とは、どのような人々なのだろう</div>					
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①ホームレスへの暴力事件等に関する新聞記事を読む（次ページ参照） ②「ホームレス」という言葉からグループで連想マップを作る ③グループの連想マップで出たことを、いくつかのカテゴリーにまとめ、見出し（カテゴリータイトル）をつける ④見出しをテーマにして、グループごとに話し合いをもつ ⑤全体の場で、話し合ったことを発表する ⑥発表された中から疑問点や解決策を整理する  ○約束を知る ・互いの連想を否定しない  ○活動する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・襲撃した少年達の中に「ホームレスには何をしてもよい」という意識があることに気づかせる</li> <li>・「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校や「まち」づくりという場合、「だれもが」の中にはホームレスも入ることを意識させる</li> <li>・教師の助言で、屋外生活者が置かれている状況を正しく理解させる</li> <li>・子ども自身が自らを律し、迷惑行為や暴力行為をなくすために、どのような具体的な行動をとればよいかを考えさせる</li> <li>・一人ひとりの自尊感情が高められ、集団の人権意識が育まれ、集団の人権意識が高められることで、課題を自分のこととして受け止め、解決に向けて具体的に行動しようとする力を身に付けることができる</li> </ul>			⑰互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする  ⑱問題や課題の解決策をみんなで考える
<b>ふ り 返 り</b>	○まとめる ・出てきた課題について、調べていこうとする意欲をもつ					
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直な自己開示が批判を受けないように気を配る</li> <li>・行きすぎた差別的発言があった場合、制止し、事後に個別でかかわる</li> </ul>					

## 新聞記事（参考）

### 「屋外生活者襲撃事件」

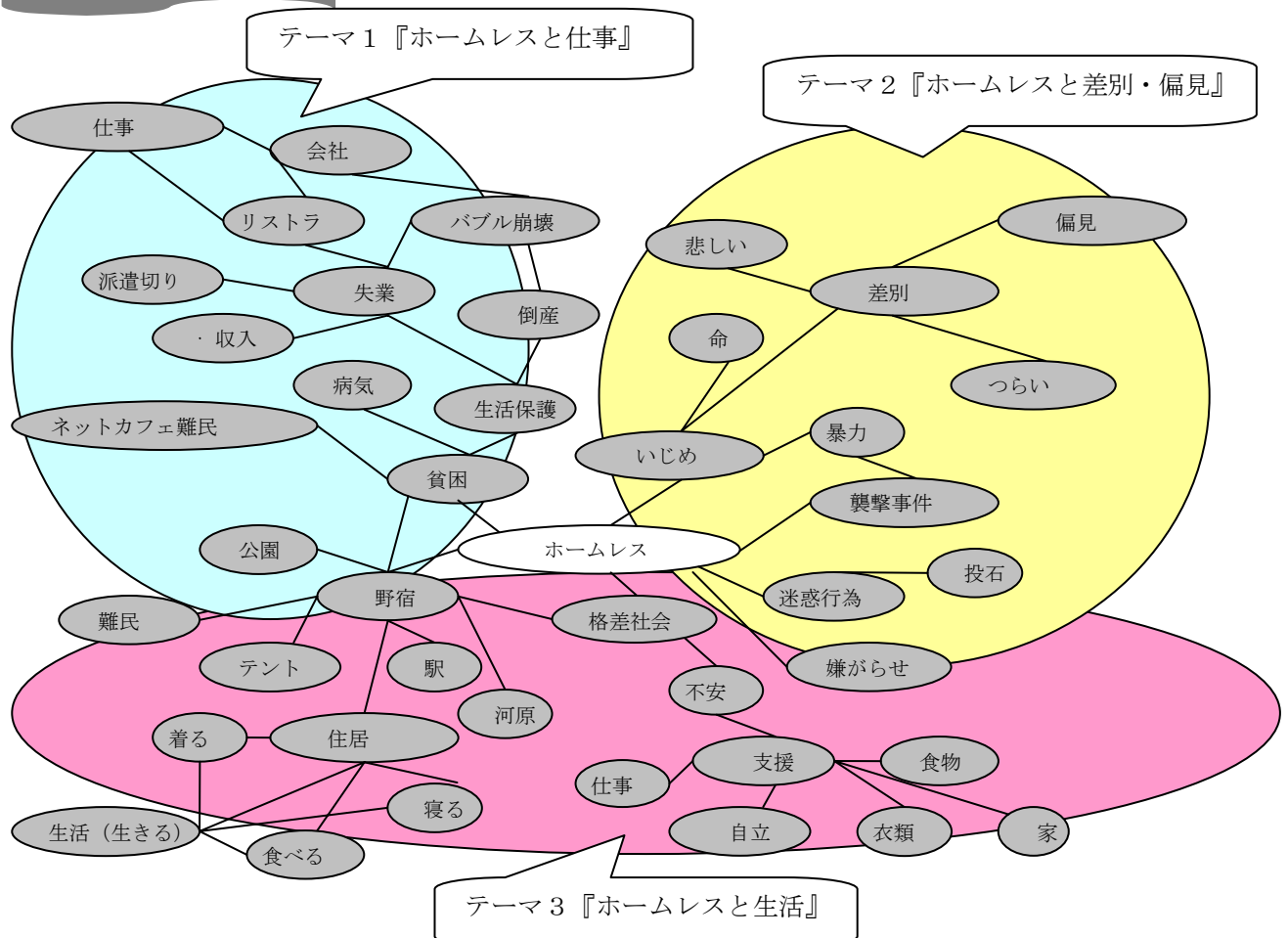
1982年暮れ頃から83年2月にかけて、横浜市内の公園などで、屋外で生活していた人たちが次々と襲われ、3人が死亡、13人が重軽傷を負う事件が発生した。2月11日、犯人として市内の中学生5人を含む14歳～16歳の少年10人が逮捕された。

少年たちは逮捕されたとき、「こんなことで逮捕されるの?」「襲撃すると胸がスカッとした」「おもしろかった」などと語り、社会に大きな衝撃を与えた。

その後の調べで、この事件を起こした動機は全くの「遊び」と判明。少年たちは襲った相手が死亡したことも知っていたが、罪の意識はなく、「屋外生活者は抵抗しない」との理由だけで、「おもしろ半分」に襲っていたことがわかった。

朝日新聞（昭和58年2月12日）から作成

## 連想マップ（例）



## グループ討議・進め方のポイント

- ① できあがった連想マップをいくつかのテーマ（カテゴリー）に分ける

連想マップ例から： 『ホームレスと仕事』  
『ホームレスと差別・偏見』  
『ホームレスと生活』 など

- ② グループごとにテーマ（カテゴリー）を分担し、疑問点や解決策を掘り下げていく

### 例：『ホームレスと仕事』を話し合うグループ

① ホームレスは、なぜ屋外生活をするようになったのか。仕事との関係から考えてみよう

② このような状況を社会全体で改善、解決していくには、どうしたらいいのか考えてみよう

### 例：『ホームレスと差別・偏見』を話し合うグループ

① なぜ、ホームレスに対する暴力事件や迷惑行為がおきるのだろうか。心の奥にひそむ気持ちを考えてみよう

② 暴力事件や迷惑行為をなくす具体的な行動は、どのようなものだろうか

### 例：『ホームレスと生活』を話し合うグループ

① ホームレスの人たちは、どのような生活をし、その生活にどのような不安を抱えているのだろうか

② ホームレスの人たちが、「安心して」生活するには何が必要だろうか。支援するには、具体的にどのような取組が必要なのだろうか

- ③ グループ討議の内容を発表し合う

**【屋外生活者（ホームレス）の人権を尊重する教育を進める具体的取組について】**

(1) 当事者の思いから学ぶ

ある中学校では、校内教職員研修をはじめ、保護者や地域と連携した様々な積み重ねの後、屋外生活の経験をもつ方とその支援者を講師として招き、講演会を開催しました。屋外生活者や、その支援活動をしている方から具体的な話を聞くことで、「どうしてホームレスになったのか」「どうやって暮らしているのか」等について、当事者の思いや願いを正しく理解していくことができました。子どもたちが、屋外生活者にかかわる問題に向き合うことができるのは、このような教職員や保護者の学び合いがあるからです。

(2) 地域へ出向く

屋外生活者の声を聞こうとする取組を行っている学校も増えてきました。区の校長会や生徒指導専任教諭協議会が中心となり、当事者である屋外生活者への声かけパトロールを実施しています。これらは、事件の早期対応と未然防止をめざした取組となります。屋外生活者に対する子どもたちによるいやがらせや迷惑行為は、特定の地域だけの問題ではなく、どの地域でも、どの学校でも起こりうるという認識を、教職員一人ひとりがしっかりともつことが大切です。

(3) 学校の様々な教育活動を通して

『「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校や「まち」づくり』の「だれもが」の中に屋外生活者を入れて、学校の全教育活動を通して、人間の尊厳にかかわる教育を推進していくことが大切です。屋外生活者に対する偏見や差別をなくすとともに、一人でも多くの人々が屋外生活から脱却できるように、子ども・教職員・保護者が具体的に行動しようとする力を付けていくことが求められています。

**参考**

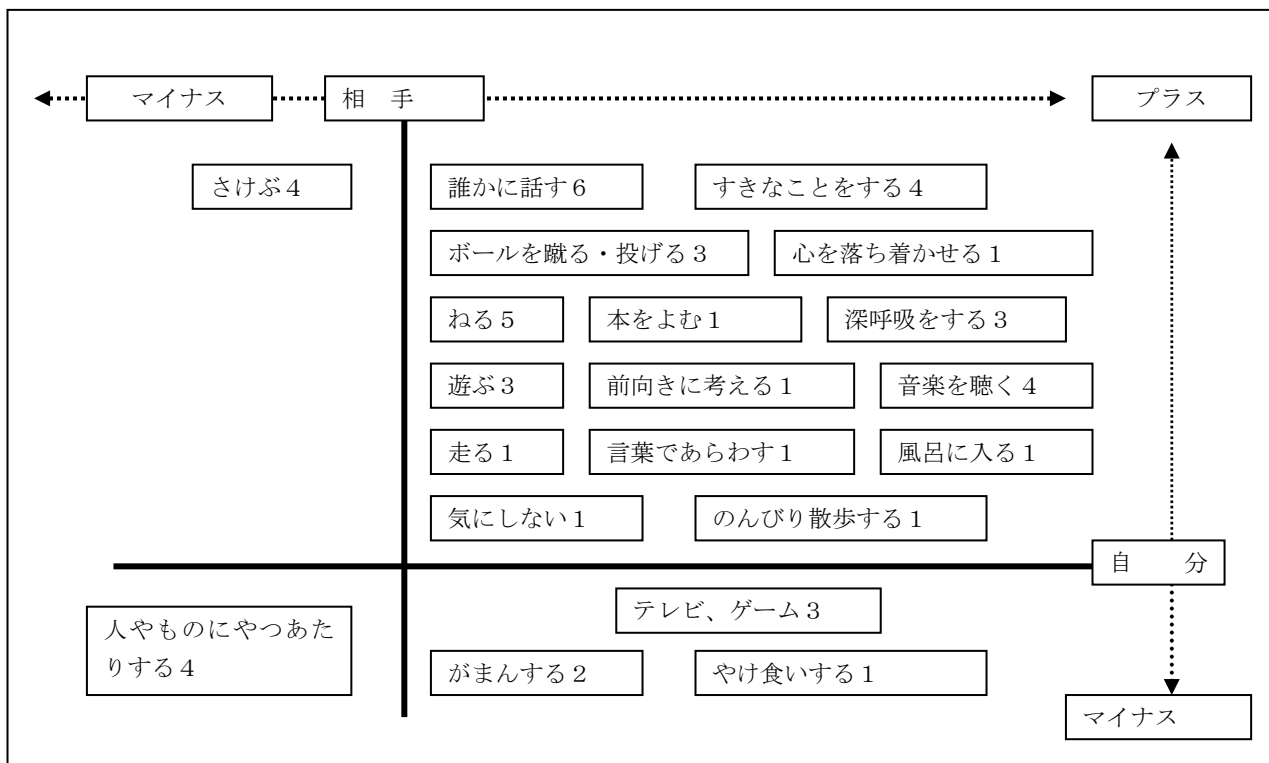
以下の参考資料を活用して、教職員研修にも取り組みましょう

- ・「人権教育 実践指導事例集 平成 22 年 4 月 横浜市教育委員会」
- ・「屋外生活者 研修資料」 Y-Y ネット

タイトル (活動概要)	99 イライラや不安・悩み解消法を見つけよう (ストレス解消)			基本 体験	がまん
育てる力 関連スキル	「集団づくり」⑰意見や感情の違いを認めながら調整しようとする 「自分づくり」①自分の意見をもつ			背景	負の感情のコントロールが未熟である
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安や悩みの対処の仕方にはいろいろな方法があることを知り、自分にあった方法を見つけることができる</li> <li>多くの友だちが不安や悩みを持っていることを知る</li> </ul>				
対象学年	小高・中1・中2		実施時期	思春期初期 保健学習 「心の健康」と関連	
所要時間	45分	活動場所	教室	活動場面	体育 (保健学習)
準備	事前アンケート・フェルトペン・付箋紙・4つの部屋シート 黒板掲示「ブレインストーミングの方法」(「38 ナイスアイデア」参照)				
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールねらい
導入	○活動のねらいを知る ・どんなときにイライラするのか振り返る ・不安や悩みはうまく解決できると気持ちが楽になること、またこれらは、解決をしないままでおくと、体にも影響を与えることがあることを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">イライラや不安・悩み解消法を見つけよう</div>		・事前アンケートの結果をまとめ、話し合いの資料にできるようにしておく		安全の配慮
主活動	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①グループで、ブレインストーミングを行い、イライラや不安・悩み解消法を付箋紙に書き、順番に出していく ②出し合った付箋紙をグループでまとめる(同じものは重ねる) ③付箋紙に書かれた対処法を【4つの部屋】に貼る ④4つの部屋を見ながら、感じたことを出し合う  ○約束を知る ・ブレインストーミングの約束(批判しない、順番を守る、たくさん出す、質より量、人まねOK) ・多数決で決めない ・少数意見も尊重する  ○活動する		【4つの部屋】分類法 自分軸・相手軸の4象限でそれぞれにマイナスになるものか、プラスになるものかを判断し、どの象限に入るかを判定する  ・ブレインストーミングの約束について徹底する		パスOK
振り返り	○活動する ○振り返る ○まとめる ・自分にあった対処法を見つけ経験することで、自信がついてくることを知る		・イライラや不安・悩み解消法には、いろいろな方法があることに気づく ・好ましくない方法もあることに気づくようにする		⑰意見や感情の違いを認めながら調整しようとする ①自分の意見をもつ 持ち出し禁止
配慮事項	・事前アンケートに書かれたイライラ、不安、悩みの内容の扱いは慎重にする。内容によっては、個別に対処する必要も検討する。				



## 4つの部屋<実施例> 5年生 28名 7グループ



### 4つの部屋分類法

自分軸・相手軸の交差する4象限で、自分、相手にとってマイナスになるものかプラスになるものかを判断し、どの象限に入るかを判定する

子どもたちは、それぞれが自分なりの悩みやいらいらの解消法をもっている。しかし、それが、周囲に受け入れられるものであるかどうか、また、自分を利するものであるかを考えることは少ない。

本プログラムは、自分が知らずに行ってきた行動がストレス解消法であったことを認識し、それを意識的に行ったり、より生産的なものへと改善していくことができたりするような自分をコントロールする力の育成ををねらいとしている。この力を十分に身につけさせるためには、理性的に考え話し合う経験だけでなく、自分自身で内面を見つめる「10 気持ちを整理しよう」のような感受性を育てるプログラムを併用していきたい。



## 保健学習アンケート

( ) 年 男 ・ 女

1. あなたは「イライラする」と感じるときがありますか? ある ない

1-2 「ある」と答えた人に聞きます。それはどんなときですか?

2. あなたは悩みや不安がありますか? ある ない

2-2 「ある」と答えた人に聞きます。それはどんなことですか?

3. 普段から、いらいらしたときや、困ったときに、心を落ち着かせるためにしていることや、気をつけていることがあったら書いてください

## 「イライラ・不安・悩み解消法を見つけよう」ふり返りシート

月 日 ( ) 年 組 名前 ( )



4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 楽しく安心して活動できましたか

4 3 2 1  
└───┬───┬───┘

2 友だちと協力して活動できましたか

4 3 2 1  
└───┬───┬───┘

3 悩みやストレスの様々な解消法がわかりましたか

4 3 2 1  
└───┬───┬───┘

4 自分なりの悩みへの対処法を見つけられましたか

4 3 2 1  
└───┬───┬───┘

5 今日の活動で気がついたことや感じたこと、学んだことがあったら書きましょう。

---

---

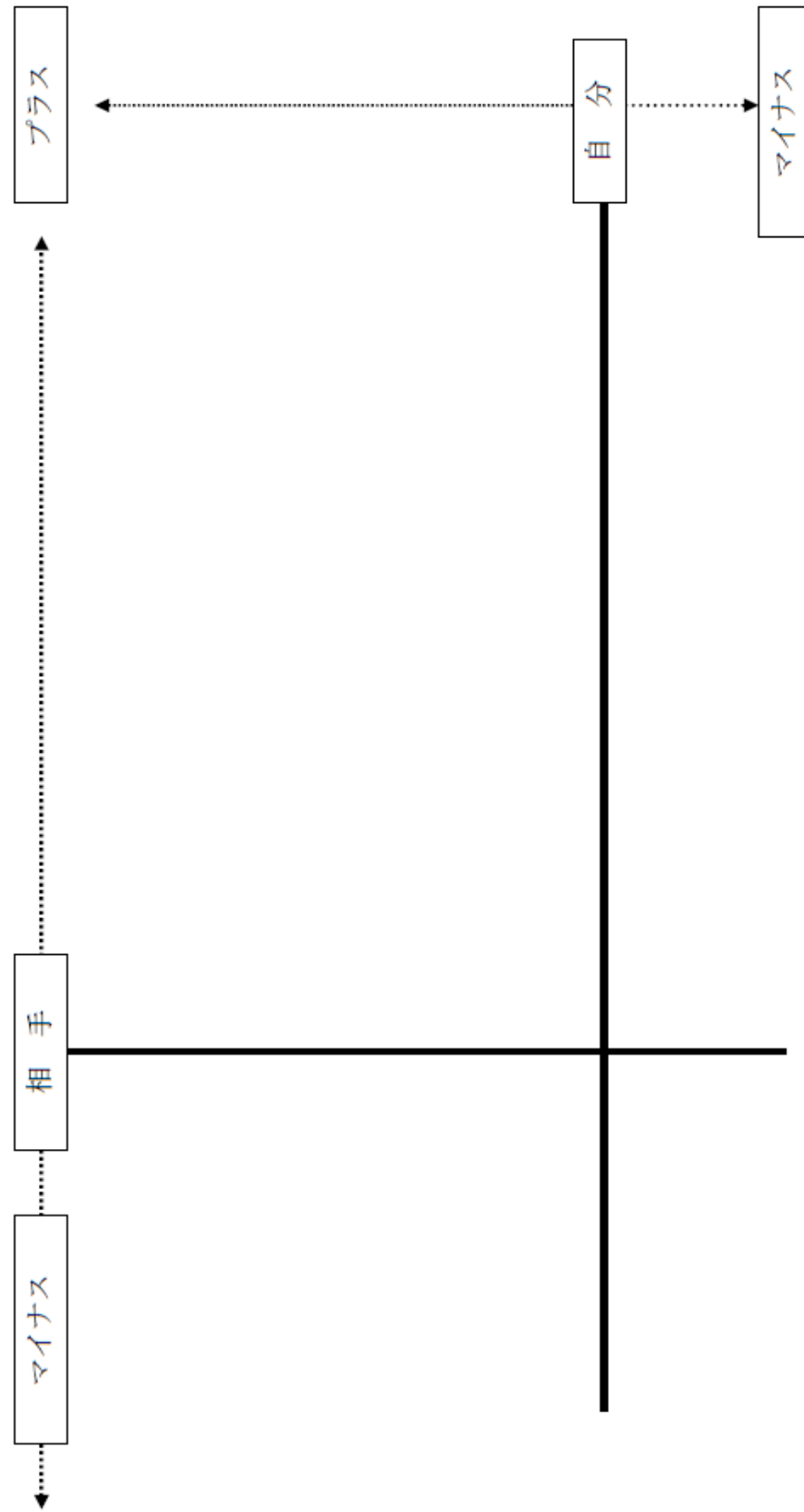
---

---

---

イライラや不安・悩み解消法を見つけよう！

( ) グループ



タイトル (活動概要)	100 一番大切なのは…			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「集団づくり」⑩互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする 「自分づくり」②自分なりの見方や考え方をもち		背景	お互いの意見が違うときに、うまく折り合いをつけてまとめることができない	
活動のねらい	・自分の考えをもちつつ、集団として意志決定をしたり、それに合意したりすることができる				
対象学年	小高・中		実施時期	通年・お互いの思いを話せるようになった頃	
所要時間	45分	活動場所	教室	活動場面	特別活動・道徳
準備	・ワークシート ・グループの一覧表 ・ふり返しシート ・4～5人のグループ				
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導入	○活動のねらいを知る  話し合っ て決めよう 大切なもの				
主活動	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①目的ややり方を確認する ②個人で大切なものの順位付けをする ③グループで一覧表を作り、グループとしての順位を決める ④グループごとに発表をする ⑤ふり返しシートに記入をし、全体で活動の振り返りをする ○約束を知る ・自分の考えをはっきりさせるために理由を必ず書く ・順位付けは、「こうすべきだ」という考えではなく、今、自分がそうしている現実を規準にする ・自分と人の考えが違って、それを否定したりせず、話し合う ○活動する ・グループで机を囲んで座り、ワークシートに自分が大切だと思う順に番号をつけ、その理由を記入する ・グループの一覧表を作ったら、一人一人がそれをじっくりと見て、他の人と比べて違いについて考えたりする時間をとってから、グループの順位を話し合っ て決める		・4～5人程度のグループで行う ・『話しあって決める』ことがめあてだということについて明確にする ・順位づけの結果に「良い・悪い」はないことを伝える ・一覧表を作るときには、理由は言わず、話し合うときに質問し合うようにする理由を言いたくないときは、無理に言わなくても良いことを伝える		②自分なりの見方や考え方をもち  パス OK  暴力 NO
ふり返し	○ふり返る ・ふり返しシートに記入し、活動を通して考えたことや感じたことについて自由に発表し合う ・みんなが納得して決められるようなやり方をしたグループについて、取り上げて評価する  ○まとめる ・みんなが納得して決められるようなやり方をしたグループについて、紹介しまとめる		・全員が順位付けが終わってからグループでの話し合いに入るようにする ・どうやってグループでの順位を決めたのかについて発表するように促す		⑩互いの感情の 違いを認 めよう ⑪互いの 意見な 整と
配慮事項	・それぞれの価値観や思いを大切にできるように、お互いの考えや意見に対して否定しないことを約束する ・実態に応じて、言葉は変更したり削除したりするようにする				

<ワークシート>

## 一番大切なのは…

下の言葉で、今「一番大切だ」と思っているものの順に1から番号をつけましょう。  
また、その理由を簡単に書きましょう。

名 前		
順位	言葉	理由
	家族	
	お金	
	思い出	
	命	
	友だち	
	夢	
	勉強	

- \* 自分たちで言葉を考えて加えてもよい。
- \* 部活・携帯・自由・進路・遊びなど、実態に応じて言葉は変更してもよい。
- \* 家族・命など、外した方がよい場合もあるため十分に配慮する。

<ワークシート>

グループの一覧表

氏名	(自分)					グループのランキング
家族						
お金						
思い出						
命						
友だち						
夢						
勉強						

\* グループのメンバーの名前は、全員が同じ順番で書く。

\* 順位は、一人ずつ発表する。(理由は言わない)

**<ふり返りシート> 名前\_\_\_\_\_**

1. 他の人の発表を聞いて、感じたこと・気づいたことは…


2. これから、もっと大切にしていきたいと思うことは…

3. この活動で、感じたことや学んだことは…

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>101 最高!わくわくプランニング</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「自分づくり」④自他の違いを認める 「集団づくり」⑰互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする		<b>背景</b>	お互いの立場を考えて、意見の違いを認め、まとめることができない	
<b>活動のねらい</b>	・色々な立場があることに気づき、参加者全員が楽しめるような〇〇(集会・低学年と遊ぼう・中学校紹介をしよう等)を話しあって計画することができる				
<b>対象学年</b>	小高・中1・中2・中3		<b>実施時期</b>	クラスの間関係ができてきた頃	
<b>所要時間</b>	45分～	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	学級活動・総合的な学習
<b>準備</b>	・プランシート ・画用紙か模造紙(半分程度) ・マジック				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る みんなで話しあって、全員がハッピーになる最高の縦割り集会を考えよう				
	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①グループで縦割り集会の時の、課題になりそうなことについて一人1つあげる。 ②出た課題からグループで1つテーマを決める。 ③そのテーマをクリアするための方法を話しあう ④画用紙に、テーマと解決法を書く。 ⑤グループごとに発表し合う。 ⑥各グループの意見をまとめてクラス全体で、縦割り集会のやり方を決める。  ○約束を知る ・少数意見を尊重する。  ○活動する ・①について、全体で話し合ってもよい。 ・実施する場合と企画を立てることを目的とする場合の2通りの活動が考えられる。 ・場合によって⑥は、行わなくてもよい。 ・⑤までを全員で話し合った後、実行委員等が意見を集約して⑥を提案するやり方もある。		・4～5人のグループで行う。 ・様々な立場から考えるように助言する。 ・お互いの意見を肯定的に聞くようにする。 ・司会や記録を決めておく。  <例> <b>「ハッピー縦割り集会を成功させよう」</b> ・知らないゲームはつまらないから、アンケートでやりたいことを聞こう。 ・どの学年にも、役割があるといいかな。 ・プログラムや内容の説明は、事前にした方がいいよね。 ・ゲームのルールもメンバーによって工夫しよう。  <その他の例> <b>「小学生に中学校案内をしよう」</b> ・緊張しているだろうから、ゲームをしよう。 ・全員が名札をつけたらいいのでは? ・説明がわかりやすいように、イラストや写真入りのパンフレットを作るといいね。		
<b>主 活 動</b>	○約束を知る ・少数意見を尊重する。				パス OK 暴力 NO  ④自他の違いを認める  ⑰互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする。
	○活動する ・①について、全体で話し合ってもよい。 ・実施する場合と企画を立てることを目的とする場合の2通りの活動が考えられる。 ・場合によって⑥は、行わなくてもよい。 ・⑤までを全員で話し合った後、実行委員等が意見を集約して⑥を提案するやり方もある。				
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・振り返りシートに記入し、感想を発表し合う。				
	○まとめる ・いろいろな立場の人のことを考えようとしていたグループの例を紹介し全体に広げる。				
<b>配慮事項</b>	・机上プランであっても、相手を傷つけるような意見にならないように助言する。 振り返り項目:色々な立場の人について考えられましたか お互いに意見を出し合いまとめられましたか				



## 最高！わくわくプランニング(フランチート)

活動名	名前
めあて	
<p>① みんながハッピーになるために、どんなことに気が付いたらいいかな？</p> <div data-bbox="209 629 1417 853" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"><p>&lt;自分の考え&gt;</p></div> <p>② グループで話し合ってテーマを決めよう！</p> <div data-bbox="209 920 1417 1178" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; height: 115px;"></div> <p>③ テーマ解決のために、どんなことをしたらいいかな？</p> <div data-bbox="220 1245 799 1554" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 363px;"><p>自分の考え</p></div> <div data-bbox="820 1245 1390 1554" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 357px;"><p>グループの考え</p></div> <p>④ 決まったことをまとめよう！</p> <div data-bbox="220 1630 1406 2002" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; height: 166px;"><div data-bbox="1241 1872 1414 2002" style="text-align: right;">発表へ</div></div>	

タイトル (活動概要)	102 日本脱出！？(話し合いをまとめる)			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「集団づくり」⑰互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする 「仲間づくり」⑤はっきり伝える	背景	互いの立場を認め、みんなの意見として受け入れる経験が少ない		
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己主張するだけでなく仲間の考えのよさを認め合いながら意見をまとめる</li> <li>自分の意見を相手に分かりやすく説明したり、相手の意見を傾聴したりする</li> </ul>				
対象学年	小高・中1・中2・中3・高校	実施時期	ある程度人間関係が形成された頃		
所要時間	45分	活動場所	教室	活動場面	特別活動
準備	・ワークシート ・ふり返しシート				
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導入	○活動のねらいを知る ・ワークシートを読み、ねらいを知る  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">             みんなで話し合い、意見をまとめて上手に日本脱出を果たそう           </div>				
主活動	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①ワークシートを読んで「日本脱出」についての自分の意見をまとめる ②リーダーを中心にグループ内で自分の意見を出し合い、ワークシートに記入する ③グループ内の意見についてみんなで話し合い、まとめる ④グループごとに発表する  ○約束を知る ・多数決で決めない ・少数意見も大事にする  ○活動する		・自分の意見を伝えることと話し合いの大切さを伝える ・グループの意見は後に発表することも説明しておく ・グループ全員が前に出て発表する ・同じ品物でも選んだ理由が違っていることに気付かせる		⑤はっきり伝える パスOK ⑰互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする  暴力NO(少数意見を無視しない) 持ち出し禁止
ふり返し	○ふり返る ・ふり返しシートに記入をする		・教師から、合意形成のよさや難しさについて、フィードバックする		
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ討議が活発になるような声かけを行う</li> <li>グループ内で意見が尊重されるような雰囲気作りに心がける</li> <li>質疑応答が誹謗中傷とならないように十分に配慮する</li> </ul>				

# 「日本脱出！？」ワークシート

氏 名 \_\_\_\_\_

みなさんは日々平和な暮らしを送っていました。しかし、ある日突然、日本中の火山活動が活発になり、地震が頻繁におき、噴火の灰や岩石が降り、日常生活を維持する機能が完全にストップしてしまい、日本は大混乱となりました。諸外国からの救援部隊も、危険でなかなか日本に近付くことができません。全ての滑走路が寸断され飛行機は使えません。やっと港にたどり着いたあなた方は、出航間際のある外国船になんとか乗せてもらえるよう頼みました。すると船長は次のように言いました。

「君たちが生き延びれば、いつかどこかで新しい日本ができるかもしれません。荷物はあまり乗せることはできません。相談して持っていくものを3つ決めなさい。」

そこで、あなた方のグループが持っている12の品物のどれをもっていくか話し合うことにしました。みなさんはこれから、外国で家族と別れて生活します。また、日本自体が沈没してしまうことはほぼ確実な状況です。

- ① 右の12の品物の右の（ ）に、他国で協力して生きていくために必要と思われるものの1～12の順位をつけてください。理由も考えましょう。数が書いていないものは人数分です。

12の品物	
・ 国語辞典1冊	( )
・ 携帯電話1台	( )
・ 小学校の卒業アルバム	( )
・ 家族の写真	( )
・ 中学校の制服	( )
・ 1万円札1枚	( )
・ コップ1杯の水	( )
・ お気に入りのCD	( )
・ パスポート	( )
・ カップラーメン1年分	( )
・ 親友からの手紙	( )
・ ゲーム機1台	( )

- ② メンバーの意見を表にします。それぞれの品物の順位を話し合い、持っていく物を決めますが、順位投票とするのではなく、それぞれの意見を話し合って最終決定をしましょう。

< >グループ

品物 氏名	自分の意見					班決定
国語辞典 1冊						
携帯電話 1台						
小学校の 卒業アルバム						
家族の写真						
中学校の制服						
1万円札 1枚						
コップ 1杯の水						
お気に入りの CD						
パスポート						
カップラーメン 1年分						
親友からの手紙						
ゲーム機 1台						



# 「日本脱出!？」ふり返しシート

月 日( )

氏名( )

1 友だちと協力して活動できましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

2 自分の考えで、持っていくものの順位を決められましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

3 自分の意見を友達に伝えることができましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

4 人はそれぞれ、様々な考え方をもっていることが分かりましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

5 互いの意見を取り入れながら持っていくものを決めることができましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

6 今日の学習で感じたこと、分かったこと、気づいたことがあったら書きましょう

---

---

---

---

---

---

---

---



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>103 フルーツポンチを作ろう！(意見を調整する)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑰互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする 「仲間づくり」⑤はっきり伝える	<b>背景</b>	子ども同士の中でもまれて育ってこなかったことから、相手と自分の折り合いのつけ方を経験していない		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの中で自分と友達の考えの共通点や相違点を見つけ、それぞれのよさを生かしながらグループの意見をまとめる</li> <li>小集団の中で自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりしながら話し合う</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高	<b>実施時期</b>	クラスの間人間関係を更に深めたい時		
<b>所要時間</b>	30分～45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動・総合(学級)
<b>準備</b>	・果物カード ・ワークシート ・グループ発表用シート ・ふり返しシート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールねらい</b>	
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る グループで話し合っ、フルーツポンチに入れる果物を決めよう				
<b>主活動</b>	○活動の手順を知る ①自分がフルーツポンチに入れたい果物3つとそれを選んだわけをワークシート(個人用)に書く ②入れたい果物のカードを1人1つずつ出しながら、その訳を話す(同じカードは重ねる) ③グループで話し合っ、入れる果物を決め、発表シートに書く ④グループの<おすすめ理由>を考える ⑤グループ毎に自分たちのフルーツポンチを紹介し、おすすめ理由を発表する  ○約束を知る ・話は最後までうなずきながら聞く ・どんな考えも否定しない ・多数決で決めたり、感情的に決めたりしない  ○活動する	・児童の状況によっては、下の表示を黒板に貼り、一人ひとりがはっきりと言えるように支援する  私は○○を選びました。なぜなら○○は△△だからです。	⑤はっきり伝える 安全の配慮 パスOK  暴力NO ⑰意見や感情の違いを認めながら調整しようとする		
<b>ふり返し</b>	○ふり返る ・相談しているときの気持ちや、感じたこと、気づいたことなどをふり返しシートに記入し、発表する		・話し合いの際、聞き方や話し方によって気持ちよく相談できることをまとめる		
<b>配慮事項</b>	・自己主張が安全にかつ十分なされる集団であるかどうかを確認する。集団の質によっては、子どもの閉塞感をより増幅させる危険性もあることを認識しておきたい。発達課題をもった子どもへの配慮が必要になる場合は、グルーピングに十分配慮する。 振り返り項目:全員が気持ちよく話し合いをして、決めることができましたか				

ワークシート(個人)

# フルーツポンチをつくろう!

年 組 名前

☆くだものカードからフルーツポンチに入れたいくだものをえらんで、書きましょう☆  
自分の意見をはっきり言えるようにしましょう

①くだもの:

わけ:

②くだもの

わけ:

③くだもの

わけ:

わたしは〇〇をえらびました。  
なぜなら、〇〇は△△△だからです。

## ふりかえりをしよう

よくできた

まあまあできた

あまりできなかった

できなかった



1 友だちと楽しく活動できましたか



2 自分の好きなくだものとそのわけを友だちにつたえられましたか。



3 友だちの意見をうなづきながら聞けましたか。



4 友だちの意見を大事にしなが、みんなでフルーツポンチに入れるものをきめられましたか。



5 この授業をして気がついたこと、感じたことを書きましょう

# シート(グループ発表用)



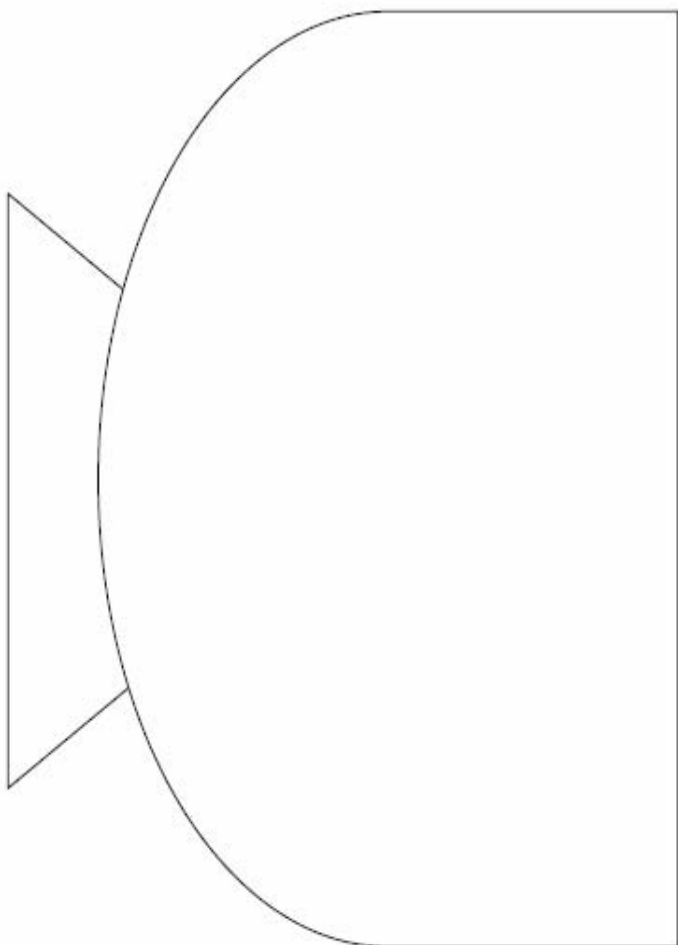
グループ

メンバー:

名刺で

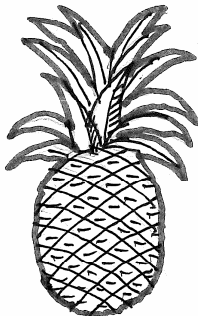
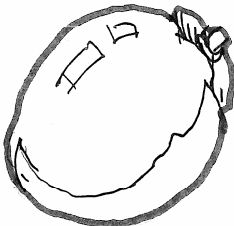
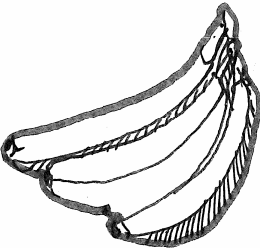
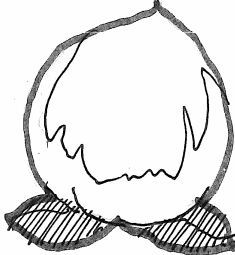
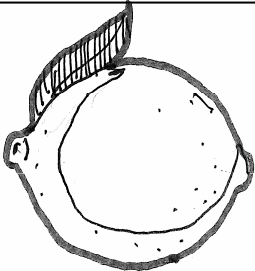
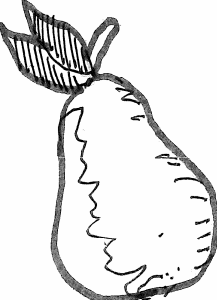
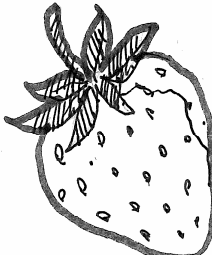
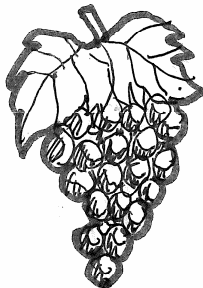
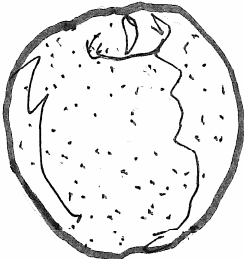
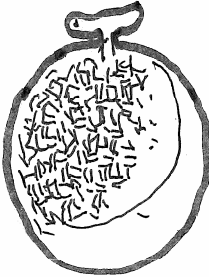

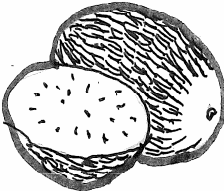
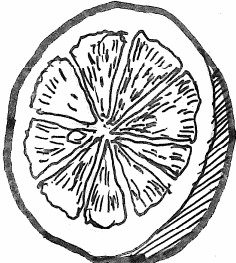
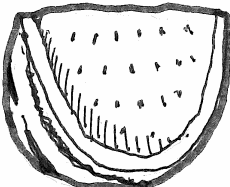
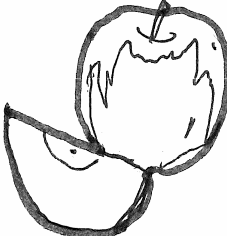
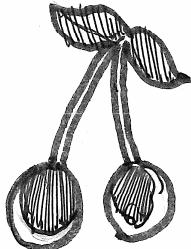
ポイント

おすめのわい





果物カード

タイトル (活動概要)	104 あきまつりのおみせをもっと楽しくしよう (話し合いをまとめる)			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「集団づくり」⑩互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする 「仲間づくり」⑤はっきり伝える	背景	互いの立場を認め、みんなの意見として受け入れる経験が少ない		
活動のねらい	・自己主張するだけでなく仲間の考えのよさを認め合いながら意見をまとめる ・自分の意見を相手にわかりやすく説明したり、相手の意見を傾聴したりする				
対象学年	1年		実施時期	10月～11月	
所要時間	45分	活動場所	教室など	活動場面	生活科
準備	・各お店のコーナーで作ったものなど				
	学 習 ・ 活 動		支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導 入	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分たちで遊んでみて、もっと楽しいお店になるよう話し合おう</div>				
主 活 動	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①お店グループの中で、お店屋さんとお客さんに分かれて交代で遊ぶ。 ②他のお店で遊んでみて、よかったと思うところや自分のお店もまねしたい工夫などを自分達のお店で伝えあう。 ・お店の様子 ・遊び方のルールや約束 ・お店の人の呼び声や話し方 ③他のお店で遊んで、伝え合ったよかった点などから自分達のお店も取り入れることを話し合って決め、発表する。  ○約束を知る ・他のお店で遊びながら「いいな!」「楽しい!」を探す ・自分のお店で話し合うとき、自分の考えと違って最後まで話を聞く  ○活動する		・自分のお店以外のところで遊ぶようにする ・前半と後半での交代やグループで話し合う時間など提示しておく ・話し合いの進め方がわかるワークシートを活用し、一人一人が話し合いに参加できるようにする。  ・お店のよいところ、楽しかったところを伝えられるようにする ・友達の話をしっかり聞いて話し合いができている子をほめる		④はっきり伝える パスOK ⑩互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする 暴力NO (自分の意見と違って感情的にならない) 持ち出し禁止
ふ り 返 り	○ふり返る ・お店グループごとに、次の時間に取り組む準備や練習、作り変えるところについて発表する				
配慮事項	・よいところをさがすという約束を強調し、マイナス面の話し合いにならないように配慮する。				

# あきまついのおみせをもっとたのしくしよう

ねん くみ ( )

①「いいな!」「たのしいな!」とおもったところを かこう

②かいたことを、一つずつ グループの人に はっぴょうしよう

③もっと たのしい おみせにするために なにをするか、グループできめよう

グループで きめたこと

わたしがやること

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>105 いじめについて考えよう(解決策を話し合う)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題の課題や解決策をみんな で考える	<b>背 景</b>	自分に不利益なことは避けようとする 傾向が見られる		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめについての認識をクラス全員で共通理解する。</li> <li>・いじめの認識を深め、予防しようとする気持ちを持たせる。</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高・中1・中2・中3		<b>実施時期</b>	入学、進級時(4月)	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	道徳・特別活動
<b>準備</b>	・事前アンケート・付箋・カード・筆記用具・マジック・模造紙(または画用紙)				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る いじめ問題について話し合い、解決策を考えよう				
<b>主 活 動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめについて身近な問題として捉えられているかを振り返る。</li> <li>・いじめの構図を使いいじめとは何かをおさえる。 ※児童の実態に応じ【図A】【図B】のどちらかを使う。</li> </ul> ○活動の流れ(やり方・内容)を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>①今まで人や自分がされた嫌なことにはどんなことがあったか付箋紙に書く。(3つ位)</li> <li>②付箋紙を出しながら順番に自分の考えを言う。 ※似た考えがあったら近くに貼っていく。 (仲間はずれ・無視・嫌がらせ・悪口中傷など)</li> <li>③その中から1番解決したい問題をグループで選びその解決方法をグループで考える。</li> <li>④グループで考えた問題と1番効果的な解決方法を発表する。</li> </ul> ○約束を知る ○活動する <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体で意見交換する。</li> </ul> ○まとめる <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が図(いじめの構図)を使っていじめについてまとめる。</li> </ul> ○ふり返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートを使い、気づいたことや今後の自分の行動について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートの結果をまとめ、話し合いの資料にできるようにしておく(新聞などの報道資料を活用する方法もある)</li> <li>・具体的な児童・生徒の名前は出さない。</li> <li>・現在いじめにあっている児童生徒もいることを配慮し、意見が言えなくても無理強いはしない。</li> <li>・4～5人のグループを作る</li> <li>・進行1名、記録1名を決める。</li> <li>・小さなことでよいからなるべくたくさん考えるよう声をかける。</li> <li>・図はABどちらを使っても良い。 ※振り返りシート</li> <li>・教師のまとめでは、人がみんなとつながり、助け合うことの大切さを感じられるように話をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全の確認(人の批判はしない)</li> <li>パスOK</li> <li>持ち出し禁止</li> <li>⑩問題の課題や解決策をみんなで考える</li> </ul>		
<b>配 慮 事 項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、いじめのダメージの可能性のある児童・生徒がいる場合は実施しない。</li> <li>・自分の問題として受け止められるよう配慮する</li> <li>・出された意見に対して批判やコメントはしない</li> </ul>				

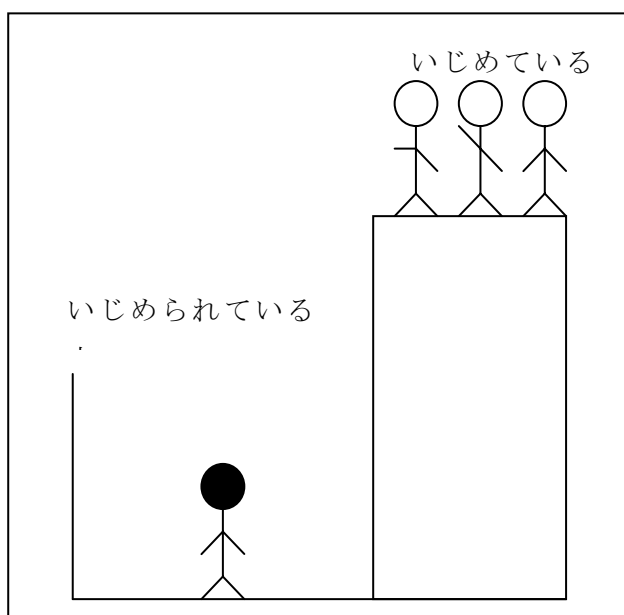
## 事前アンケート

第1問 あなたは今までに友達に嫌なことをされたことはありますか？

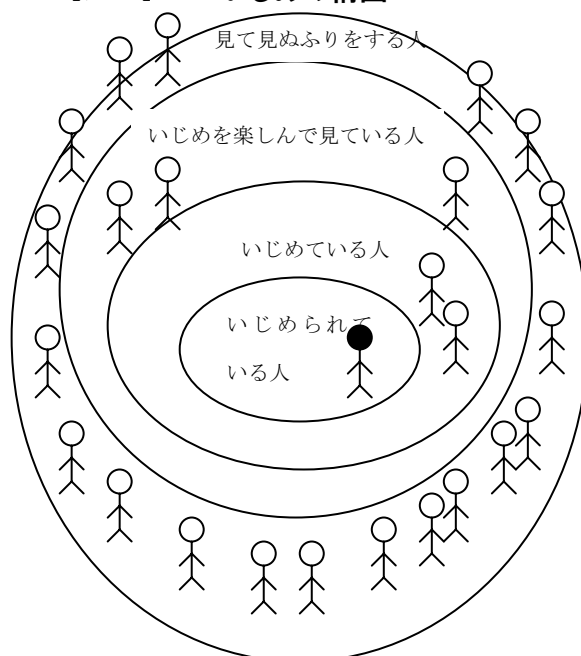
いつもある    ときどきある    ほとんどない    ない

第2問 どんなことをされた時嫌な気持ちになりましたか？書きましょう。

【図A】 いじめの構図



【図B】 いじめの構図



## 振り返りカード

(    ) 年 (    ) 組                      名前 (                      )

○今日の活動で、気づいたことや感じたこと、思ったことや学んだことがあったら書きましょう。

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>106 自分にもできる 応急手当を知ろう</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんな で考える 「自分づくり」①自分の意見をもつ	<b>背 景</b>	群れ合い体験の不足により、協力して 問題解決する場面が少ない		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力して課題を解決する体験を通して、友達との関係を深める</li> <li>・自分にもできる応急手当を知り、安全に気を付けて、思い出に残る宿泊体験学習にしようとする</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高		<b>実施時期</b>	宿泊体験学習の前 4年「けがの予防」	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	体育(保健)
<b>準 備</b>	・ワークシート、掲示用資料、ふり返りシート、グループ別カード				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・様々な場面のけがについて考え、どのようなけがが起 こりそうか、考え、話し合う				
	けがの手当てについてグループで話し合い、自分でできる手あてのやり方を知ろう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①一人一人がワークシートで、けがの種類にあった手 当の方法を選ぶ ②なぜそれを選んだのか、理由も話しながら、グルー プで1枚のワークシートにまとめる ③各グループで話し合った手あてとその理由を発表 する ④けがの種類と正しい手あての方法・手順について 説明を聞く		<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがの種類により手あての仕方や 手順が異なることを理解することが できるようにする</li> <li>・この学習が宿泊体験や実生活でい かせるように話をまとめる</li> <li>・体験学習の施設の絵地図や活動 場面等を提示し、イメージをもてる ようにするとよい</li> </ul>		① 自分 の意 見を も つ  ⑩ 問題 や 課 題 の 解 決 策 を み ん な で 考 え る
	○約束を知る ・どの手当てがよいのか、一人一人が自分の考えをもつ				パスOK
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する				
	○ふり返る ・今日の活動の中で感じたこと、学んだことをどのよう にいかして宿泊体験学習に向かうか考えたり、実生活で のいかし方を考える				持ち出し 禁止
<b>配慮事項</b>	・「けがの予防」の学習としても扱える。その場合は、学校生活や家庭の中での場面を想 起させ、意欲づけをさせるとよい。				

# 自分にもできる応急手当を知ろう

## 年 組 名 前

☆ それぞれのけがに合った応急手当を線でむすぼう。

つき指・ねんざ・  
打ぼく



- ①きず口をあらう
- ②きず口をハンカチなどでおさえる
- ③きず口を心ぞうよりも高くする  
注意) 人の血はさわらない

鼻血



- ①動かさない
- ②冷やす
- ③けがの部分を中心よりも高くする  
注意) 引っぱったり、もんだりしない

きりきず



- ①きず口をあらう
- ②きず口を消毒する
- ③ばんそうこうをはる  
注意) 人の血はさわらない

すりきず



- ①きず口をあらう
- ②きず口に薬をぬる・消毒をする
- ③冷やす  
注意) なるべくさわらない

虫さされ



- ①イスなどにすわる
- ②下を向いてつまむ
- ③冷やす  
注意) 上を向いてはダメ!





# 「自分にもできる応急手当を知ろう」ふり返りシート

年 組 名前 ( )

1 今日の活動は、楽しかったですか。(番号に○をつける)

4	3	2	1
-----	-----	-----	-----
できなかった	あまりできなかった	まあまあできた	よくできた

2 今日の活動は、男女関係なく協力してできましたか。

4	3	2	1
-----	-----	-----	-----
できなかった	あまりできなかった	まあまあできた	よくできた

3 今日の活動で、けがの応急手当について理解することができましたか。

4	3	2	1
-----	-----	-----	-----
できなかった	あまりできなかった	まあまあできた	よくできた

4 宿泊体験学習でけがをしたら応急手当ができる自信ができましたか。

4	3	2	1
-----	-----	-----	-----
できなかった	あまりできなかった	まあまあできた	よくできた

5 今日の活動で、気がついたことや感じたこと、学んだことがあったら書きましょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>107 あなたならどうする？(解決策を話し合う)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策を みんなで考える	<b>背 景</b>	携帯やパソコンでのコミュニケーションによる トラブルを起こしやすくなっている		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット上のコミュニケーションの長所や短所、危険性を知り、その時々適切なコミュニケーションの手段を考えて使おうとすることができる</li> <li>・自律の精神を重んじ、自分の意思と責任において誠実に行動しようとする態度を養う</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高・中1・中2・中3	<b>実施時期</b>	通年・情報モラル・マナー教育との関連から		
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	道徳・特別活動・社会
<b>準備</b>	・ワークシート ・事前のアンケートなどで、学級の実態を把握しておくとい				
<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・ワークシート例を読み、ネット上のコミュニケーションの特徴を出し合う		・ネット上のコミュニケーションの長所と短所を挙げ、ねらいを明確にする		
	チェーンメールについて話し合おう				
<b>主 活動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る ①2 つのチェーンメールの例について、それぞれが考えたことをワークシートに記入する ②ワークシートを回収してランダムに配り、配られた他の人の考えを読む ③グループで、配られた意見について話し合い、自分だったらどうしたよいか、話し合っグループの意見をまとめ全体で共有する		<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直に感じた気持ちを話し合えるように4～5人のグループになるようにする</li> <li>・無記名のシートの友達の考えを読み、様々な考えがあることを知る</li> <li>・どのような考えも、頭から否定したりせず、そう考えた理由も思いめぐらせるように助言する</li> <li>・ネット上のコミュニケーションの利便性と危険性を知った上で、自分で正しい判断をしていくことの大切さを確認する</li> </ul>		④ 自他の違いを知る  パスOK
	○約束を知る ・その人の思いを大事にしながら反論する				⑩ 問題や課題の解決策をみんなで考える
<b>ふ り 返 り</b>	○活動する		・チェーンメールは不確かな情報であり、受け手にとって迷惑や危険な情報になる可能性があるため、絶対回さない		暴力NO
	○まとめる ・チェーンメールの扱いについてまとめる		・自分自身と友達の考えのちがいをともに、話し合っ解決策を見出すことの大切さを感じ取る		持ち出し禁止
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にこのような例で傷ついている子どもがいないかどうか、十分に配慮した上で行う</li> <li>・自分の問題として受け止められるように配慮する</li> </ul> 振り返り項目：自分のこととして解決策を話し合うことができましたか			

## 「あなたならどうする？ 資料」

### (1) 資料を読んで考えましょう

#### <携帯メールのやりとりで >

>昨日の運動会、負けて残念！  
トホホ・・・・・・・・ ミホ

>ミホがバトンを落とさなければ勝てたからね、そう思っちゃうのは当然だよな。  
カナ

>私のせいなの！？ ミホ

>そんなこと言ってないわよ！  
私がミホを責めてるっていうの？ カナ

>もう、カナなんて嫌い！ ミホ

携帯メールのやりとりと、あるサッカー選手のブログの2つの例を読んで、感じたこと、考えたことを話し合しましょう。

ネット上のコミュニケーションには、どのような特徴があるでしょうか。



#### <あるサッカー選手のブログでは・・・>

今期をもちまして、引退を決めました。  
ファンの方々の思いに答えることができず本当にすみません。



- ・ 今まで何度も結城をもらいました。今度はこちらが応援する番です。第二の人生に幸福が訪れますように・・・。
- ・ これまでどこのチームに移籍しても、あなたを応援してきました。これからもその気持ちは変わりません。
- ・ 引退を決意することは、とても勇気のいることでしょう。いろいろ悩んで決めたことだと思うので、頑張れ！とだけ言います。ファイトだ！



## 「あなたならどうする？」 ワークシート

次の2つのメールをあなたが受け取ったらどのようなようにするか、それぞれ、下の□の中にあなたの考えを書きましょ

A:

友達のペットショップがつぶれ、生まれて間もないラブラドル犬30匹が処分されます。犬を救うためすぐに飼える人を探しています。お金はいりません。あなたがもし飼えなくても、友達5人にこのメール（手紙）を回してください。来週一杯がタイムリミットです。大至急お願いします。

連絡先<hanako@yokohama.jp>

横浜市中区港町 2012 番地

横浜花子

B:

女子中学生が昨年市内でひき逃げされました。犯人はまだみつかっていません。なんとかして犯人をみつけ女子生徒のうらみをはらきたいです。このことを24時間以内に10人にメール（手紙）で送り、協力を呼びかけてください。もしあなたがこのメールを送らなったら、犯人の関係者として〇組の関係者が調査に行きます。だれがメールを止めたかは追跡調査で分かります。

# 「あなたならどうする？」ふり返りシート

月 日 ( ) 氏名 ( )

1 友だちと協力して安心して活動できましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

2 ネット上のコミュニケーションの特徴を理解できましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

3 自分の意見をワークシートに書くことができましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

4 友だちの意見を参考にしながら、話し合いに参加できましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

5 チェーンメール（手紙）への対応の仕方がわかりましたか

4	3	2	1
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

6 今日の学習で感じたこと、分かったこと、気づいたことがあったら書きましょう

---

---

---

---

---

---

---

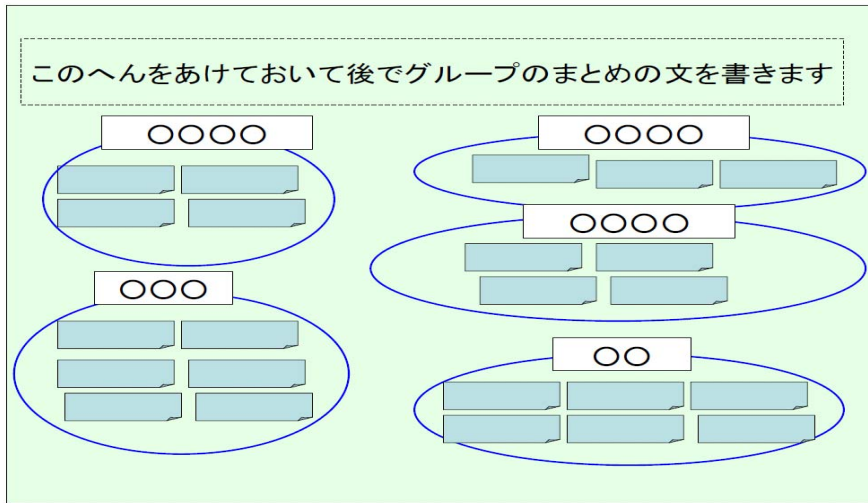
---

\* チェーンメールがどうしても不安なときは、下のアドレスに送ってもよいです。

<http://www.dekyo.or.jp/soudan/chain/index.html>

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>108 成功させよう体育祭</b> (ブレインストーミングから話し合う)			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策を考える ⑰感情や意見の違いを認めながら調整しようとする 「自分づくり」①自分の意見をもつ		<b>背 景</b>	群れ合い体験の不足から、問題や課題を話し合っ解決した経験が少ない	
<b>活動のねらい</b>	・ブレインストーミングの手法を発展させ、自分の考えをもち、集団の課題解決のための話し合いができる				
<b>対象学年</b>	小学校中学年以上 小グループ(5～6人)から		<b>実施時期</b>	体育祭等の計画の時期	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室等	<b>活動場面</b>	学活
<b>準備</b>	・画用紙や模造紙 ・フェルトペン ・付箋				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>	
<b>導入</b>	○活動のねらいを知る グループで協力して、楽しい体育祭にする方法を考えよう				
<b>主活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①グループで、話す順番と発表者を決める ②付箋に一人一人がアイデアを書く ③時間内に順番に付箋をはりながらたくさん意見を出す ③付箋の仲間分けして見出しをつける ④各グループで出た意見を発表し合う ⑤学級全体の取り組みとして優先順位を決めてまとめる ○約束を知る ・順番を守って話す(周りはだまって聞く) ・どんな意見も批判しない ・意見が思いつかないときは、パスという ・ユニークな意見ほど大歓迎 ○活動する ○まとめる ・実際に取り組むことにならなかった意見でも、一人一人が考えて取り組もうとしたことが大事であることをまとめる			・事前に「38 ナイスアイデア」を経験しておく ・グループは5～6人が適当 ・「付箋を書く」(3分程度)「貼りながらグループで発表」(5分程度)「仲間わけして見出しをつける」(15分程度)の三つについて、実態に応じて時間の指示をする ・いろいろな意見があることや人によって考えが違うことを押さえる	
<b>振り返り</b>	○振り返る ・振り返りカードに書く				
<b>配慮事項</b>	・少ししか意見を出せない児童が予想される場合、一つでも二つでも自分の考えを書いて発表することに価値があることを強調する				

グループごとのまとめの方法例



**「成功させよう体育祭」ふり返りシート**

年 組

名前 ( )

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

- 1 楽しく安心して活動できましたか。
 

4	3	2	1
┌──────────┐			
- 2 たくさんの意見を出せましたか。
 

4	3	2	1
┌──────────┐			
- 3 友だちや自分のよさについて感じる事ができましたか
 

4	3	2	1
┌──────────┐			
- 4 今日の活動で気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったらかきましよう。

---



---



---



---

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>109 合唱エール交換 (合唱コンクールに向けてやる気を高めよう)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ あい
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんなで考 える 「自分づくり」③自他のよさを見いだす	<b>背景</b>	クラスという集団で何かを成し遂 げるといふ社会経験不足から他人 と共同する力が未成熟		
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手のクラスへの思いやりと自分たちのクラスへの所属感を体感する</li> <li>クラス集団で協力しなければ得られない達成感を身につける</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小高・中1・中2・中3		<b>実施時期</b>	9月～10月 (合唱コンクールを目指し て)	
<b>所要時間</b>	10～15分	<b>活動場所</b>	教室、音楽室	<b>活動場面</b>	総合・特別活動
<b>準 備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キーボード</li> <li>椅子机による合唱の舞台設定</li> <li>ふり返しシート</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る ・いままでの合唱の練習をしてきたことをふり返る(事前学 習)		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちのクラスも練習に励んでいるが、他のクラスも努力しているということさをさりげなく伝える</li> <li>両クラス担任の事前の打ち合わせが大切</li> </ul>		③自他 のよさ を見い だす
他クラスと合唱を発表しあい、発表会に向けて励まし合おう					
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①相手のクラスに「おじゃましまーす」と入り、お互いに自 分のクラスの課題曲や自由曲を発表しあう ②発表が終わった後、相手クラスへの「評価とエール」を クラスの指揮者などの代表者が述べる  ○約束を知る ・歌を聴くときのマナーを守る ・相手のクラスのよいところを見つけて学ぶ  ○活動する				⑩問題 や課題 の解決 策をみ んなで 考える
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・クラスに戻って、今、感じたことをふり返しシートに書き、話 し合う		<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスに戻って担任がOKメッセージを発信する(自分たちの歌を真剣に聴いてくれたこと、よかったといってくれたことなど)</li> <li>同時に今後の課題も伝えてもよい</li> </ul>		パスO K  持ち出 し禁止
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任間どうしでの事前の打ち合わせを綿密に行っておく(流れ、評価の仕方等)</li> <li>歌を聴くときのルールとマナーを徹底しておく</li> <li>相手のクラスのいいところ達成できているところに注目できる姿勢を普段から話しておく</li> </ul>				



## 合唱エール交換 ～ふり返りをしよう～

氏名 ( )

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

選んで○をつけましょう

1 クラスの一員として楽しくできましたか。(番号に○をつける)

4 3 2 1  
| | | |  
-----  
できなかった あまりできなかった まあまあできた よくできた

2 クラスメイトのよいところを見つけることができましたか

4 3 2 1  
| | | |  
-----  
できなかった あまりできなかった まあまあできた よくできた

3 相手のクラスのよいところを見つけることができましたか

4 3 2 1  
| | | |  
-----  
できなかった あまりできなかった まあまあできた よくできた

5 参加した感想を具体的に書いてみましょう！

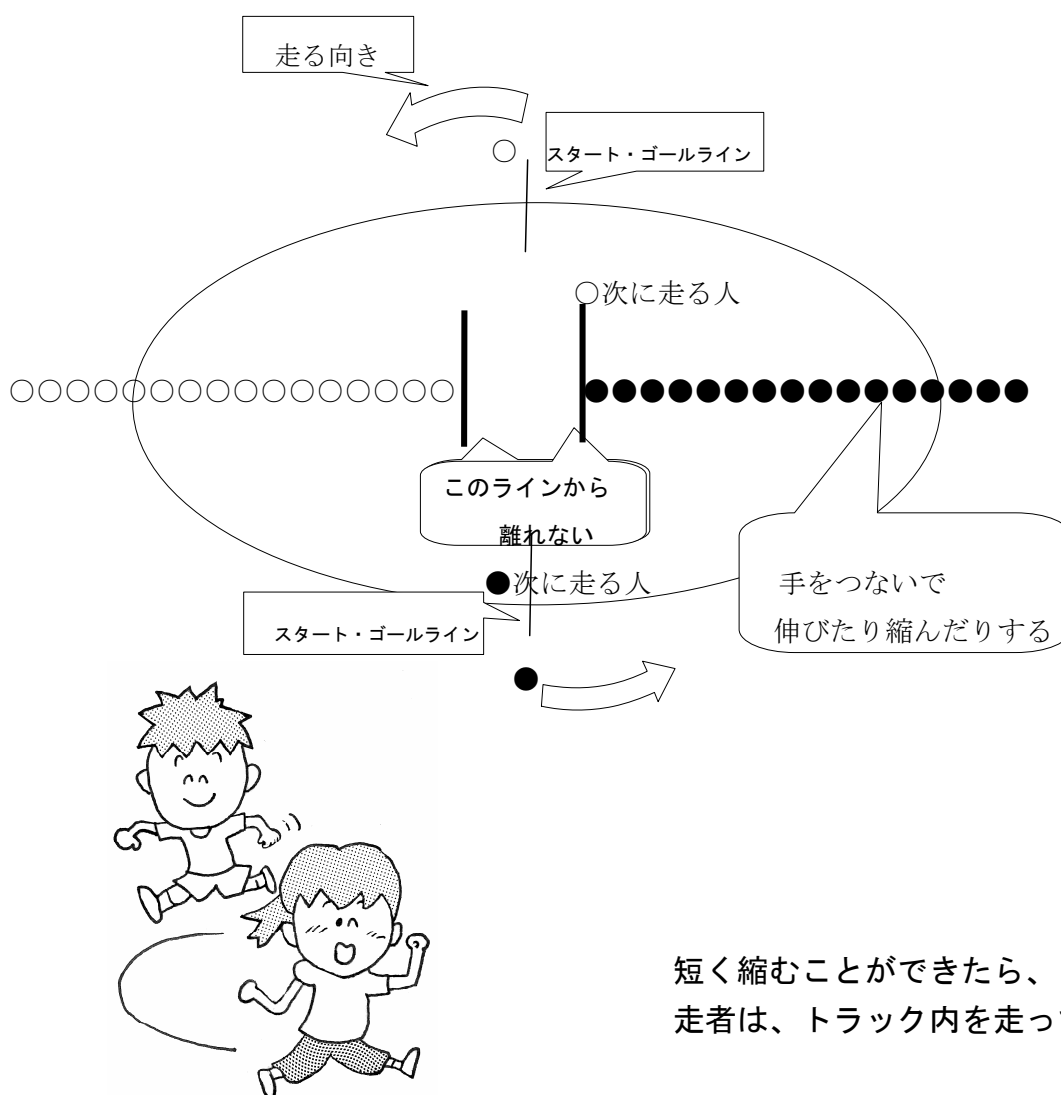
<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>110 魔法のじゅうたんレース</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑱問題の課題や解決策をみんな で考える 「仲間づくり」⑧仲間に加わる		<b>背 景</b>	1つの目的に向かって協力し、一体感 を感じられる経験が乏しい。	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効率よく進むための作戦をみんなで話し合い考える。</li> <li>・みんなで協力し、タイミングを合わせ活動する。</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高		<b>実施時期</b>	通年(協力しあう関係が生まれ 始めた頃)	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室・体育館	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準 備</b>	・新聞紙				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る  新聞紙のじゅうたんを気持ちを合わせて進めよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ・4～5人のグループを作り、各グループに新聞紙1枚を準備する ・グループの一人がアラジン役で新聞紙の上に乗る、アラジンがジャンプしている間に残りのメンバーが新聞紙をずらしゴールまで向かう ・速くアラジンを着かせたチームが勝ち ・アラジンが新聞紙の外に足を着いたら失格 ・グループで作戦を考え、練習する  ○約束を知る ・勝ち負けよりも、グループで気持ちを合わせることを大事にする ・失敗したことを責めない  ○活動する ・レースを何回か繰り返す(回数をはっきり示す) ・1レースが終わったら必ず作戦タイムをとる ・アラジン役は変えてもよいし、同じ人が続けて行ってもよい。		・新聞はすべりやすいので、教室で危険がないか調べておく。 ・1レースに新しい新聞を1枚渡すがレースの途中で新聞紙が切れてもそのまま使いゴールまで向かう。 ・新聞紙が切れてしまった場合は1番大きい紙を1枚を使ってレースを続ける。 ・新聞紙に乗る児童は必ずくつ、靴下をぬいで行う。 ・児童の実態に応じて距離を考える。		パス OK 安全の確認 ⑧ 仲間に加わる ⑱ 問題の課題や解決策をみんなで考える 暴力 NO (失敗を責めない)
<b>ふ り 返 り</b>	○ふり返る ・グループで話し合い、うまくいった作戦とうまくいかなかった作戦について発表する。				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倒れて怪我をしないよう、教室に危険がないか調べておく。</li> <li>・ふざけて怪我をする危険がある実態のときは、取り組まない</li> </ul>				



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>111 みんなで 一緒! きょうりょくりレー</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い	
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんな で考える。 「自分づくり」③自他のよさを見出す。	<b>背 景</b>	お互いに関わり合おうとする気持ちや 態度が希薄な子どもが多い			
<b>活動のねらい</b>	・共通の目標に向かって協力や団結することを通して、一人ひとりのクラス集団への所属意識を高める ・結果より、プロセスを大切にし、学級内の相互理解を深める					
<b>対象学年</b>	小中・小高		<b>実施時期</b>	通年(年度初め以外)		
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	校庭	<b>活動場面</b>	体育・特別活動	
<b>準 備</b>	・バトン ・ゼッケン ・スタート、ゴールライン ・ストップウォッチ					
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>	
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る みんなで、作戦を立てたり全員で動いたりして、きょうりょくりレーを楽しもう					
	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ・「みんなで一緒! きょうりょくりレーのやり方」を読み、やり方を知る  ○約束を知る ・伸びるときも縮むときも、手を離さない ・走り終わった人は、一番内側に付く(危険防止) ・勝敗だけにこだわらず、全員が全力で取り組めたことや、お互いを思いやることができたことを大切にする	・実態に応じてやり方を変更してもよい  ・記録を伸ばすための作戦を考えるように支援する  ・全員が心をつなげて動くことを意識させる  ・お互いを思いやったプレーや全力で取り組んだことについて「協力」として評価する  ・時間や実態に応じてレースは数回、行うとよい。その都度の話し合いを大切にする				
<b>主 活動</b>	○活動をする ①やり方や目的を確認する ②作戦を立てる ③第1回レース ④作戦を立てる ⑤第2回レース	<チームでの話し合い> ・みんなに声をかけるリーダーがいるといいね ・リーダーが『縮まれ!』と言ったら「おー!」ってみんなで言うのが楽しいよ ・走る順番も大事だよ ・教師は、全員が参加できるようにアイデアや作戦ができるように助言する	<話しあうときには…> ・時間設定は、始めに伝えておく。 ・円陣を組んで座り、チームごとに話し合う(必要に応じて作戦カード等使用) ・走順を公表し合う、オリジナルルールを作るなどの工夫を認める ・教師も話しあいに関わり、アドバイスやよい意見への賞賛を積極的にする		パスOK 暴力NO ⑩問題や課題の解決策をみんなで考える	
	○ふり返る ・ふり返りシートに感想を書く ・全員で感想交流をする  ○まとめる ・ふり返りシートを参考に、全力で取り組めたことや、友だちとの関わり、クラス全体で協力できたこと協力できたことなどを紹介し全体に広める				③自他の良さを見出す	
<b>配慮事項</b>	・参加出来ない児童については、タイムの測定や写真撮影記録係など役割を与え疎外感をもたないようにする 振り返り:どんな協力がありましたか 協力できたとき、どんな気持ちでしたか					

## 『みんなで一緒！ きょういよく「ルー」のやり方』

- ① 走る人以外は、全員手をつないでトラック内に並ぶ。
- ② 味方チームが走ってきたら、すばやく縮んで走るコースを短くしたり相手チームの時には、うんと伸びて大回りになるようにしたりする。
- ③ 自分が走り終わったら、トラックの一番内側に付く。（危険防止）
- ④ 練習後、走る順番を変えたり、細かい作戦を立てたりする。
- ⑤ 走る人数は、一番多いクラスにそろえる。
- ⑥ どうしても参加したくない人がいる場合、できる範囲での参加や応援、見学とする。
- ⑦ 伸びるときも縮むときも、手を離さないようにする。



タイトル (活動概要)	<b>112 じっくり考えよう(想像演習)</b>			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんな で考える 「自分づくり」③自他のよさを見出す	背景	問題が発生したときに、自分事としてと らえ解決することができない		
活動のねらい	・集団の中でトラブルが起きたとき、自分なりに問題に向き合い、集団としてのよりよい解 決の仕方を考える力を養う				
対象学年	小中・(小高・中)		実施時期	通年	
所要時間	45分	活動場所	教室	活動場面	国語・学級活動
準 備	・じっくり考えようワークシート				
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導 入 ↓ 主 活 動	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           みんなが納得するやり方で みんなの問題を解決しよう！         </div>				
主 活 動	○活動の流れ（やり方・内容）を知る				
	①課題文を読んで、何が問題かつかむ ②問題に対する感想や考えを個人でワークシート に書きこみ発表する ③問題に対する解決方法を、グループで考える (ワークシート活用) ④話し合った解決方法の長所と短所をあげて、発 表する ⑤クラス全体で感想を出し合ってまとめる		・何を問題とするかは、グループに 任せるが、 <u>解決のゴール*</u> はクラス 全体で共通理解しておく * クラスのボールの扱い方  ・ワークシートの進め方に従って話し 合うことでグループ全員が話し合い に参加できるようにする。		
	○約束を知る ・あくまで想像演習であり、特定の個人を責めたり、 非難したりすることのないようにする ・多角的な視点から考えること、自分だったらどうするか という視点に立って考えることを大切にする				③ 自他の よさを見 出す。
ふ り 返 り	○活動する ・課題文から「変だな、問題だな」と思った所を出し合い、 グループとして解決方法を話し合う		・クラス全体での話し合いでは、クラ スとして解決方法を決定するか、グ ループ毎の解決方法の発表でまと めるかの2通り考えられる。クラスと してまとめる場合は、グループの発 表後、全体で話しあう。		暴力NO パスOK
	○ふり返る ・振り返りシートに記入する ・自分事として考えられたか、みんな話し合っ解決 方法を決めたかについてふりかえる。 ・それぞれのグループの良さについても評価する。				⑩問題や 課題の解 決策をみ んなで考 える。
ふ り 返 り	○まとめる ・多くの視点からクラスとしての解決方法を考えたグルー プや個人について紹介し、全体に広める。				
	配慮事項	課題文に近い経験がある場合には、個人を責めることのないよう話し合いのルール を徹底する。			

## <じっくり考えようワークシート>

名前 ( )

<お話を読んで、クラスとしてどうしたらいいか話し合ってみよう>

帰りの会が始まると、5年生の先生が教室にやってきて言いました。

「昼休みに、ボールを使ってみんなで遊んだのに、片付けをしないで帰ってしまったようだね。もう、このクラスにはボールを貸すことはできないよ。ボールは先生が持っていくからね。」

これを聞いて、ただし君は、「みんなで謝りに行こう。」と言いました。さとし君は「そんなのおかしいよ。ぼくは、今日はドッジボールをしていないのに。やった人たちで責任取ってよ。」と言いました。他にも、何人かの人「使ってた人の問題でしょ。」「ボールを全員が使えなくなるのはおかしいよ。」「でもクラスのボールだよ。」などと言っています。

さて…

水曜日の昼休みは、クラス全員で遊ぶ日です。今日はドッジボールをすることになっていました。かぜをひいていたたり、けがをしていたりして教室に残ったのは、さとし君とみさきちゃん、なおこちゃんの3人でした。他にも、数人の方が図書室で本を読んでいたようです。

チャイムが鳴って、昼休みが終わりました。ちょうど、最後にとおる君が投げたボールは、誰にも当たらずに外野の方へ飛んでいきました。みんなは「チャイムだよ。」と走って昇降口に向かっていきました。ボールはそれっきり、校庭におきっぱなしになっていたようなのです。

<話し合いの仕方>

- 司会と発表する人を決める
- ワークシートの順番に話し合いをする。
- 司会の方は一人ずつ順番に意見を言ってもらおう。
- 聞いている人は、自分の考えと比べながら聞く。
- グループの意見をまとめて発表する。

パスOK!  
相手の意見を  
否定しない!

- ① お話を読んで、おかしいな、問題だな、と思った所はどこですか?  
自分の考えを書きましょう。

自分の考え

- ② 一人ずつ、順番に意見を言いましょう。そして、『グループとして話し合うこと』を決めましょう。

グループとして話し合うこと

- ③ その問題をどうやって解決するか話し合いましょう。そのときも、一人ずつ順番に意見を言いましょう。

決まったことは何ですか？ 解決方法の良いところや難しいところも発表しましょう。

決まったこと 良いことや難しいところなど





タイトル (活動概要)	113 みんなそろって サイン送りじゃんけん			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんな で考える ③自他のよさを見出す		背 景	関わり合う経験が少なく、一緒に活動 しようとする気持ちが育っていない	
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通の目標に向かって協力や団結することを通して、仲間と一緒に活動する楽しさやよさを味わう</li> <li>仲間で意見を出し合うことで、様々な考えがあることに気付く</li> </ul>				
対象学年	小低・小中		実施時期	通年（年度始め以外）	
所要時間	15分	活動場所	教室など	活動場面	特別活動
準 備					
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導 入	○活動のねらいを知る				
	グループでサインを送ってなかよしじゃんけんをしよう				
主 活 動	○活動の流れ（やり方・内容）を知る			<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの人数は5～6人ぐらいが望ましい</li> <li>サインについての例をいくつか提示する(例:手を握る回数、背中をたたく場所など)</li> <li>グループ全員がサインの出し方についてアイデアを出したり、それを認めたりできるよう声かけする</li> <li>話し合いや練習の時間をあらかじめ決めて提示する</li> <li>サインについては、サインをもらう相手がいやな気持ちにならない程度のものにするよう約束する</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①やり方を知る <ul style="list-style-type: none"> <li>チーム対抗戦で行う</li> <li>対戦チームで向かい合って並び、背中側でサインを仲間に送り、「せーの じゃんけんポン」でじゃんけんをして勝ち負けを決める</li> </ul> </li> <li>②並ぶ順番やサインの出し方を話し合い決める</li> <li>③グループで練習をする</li> <li>④対戦をする</li> </ul>				
ふ り 返 り	○約束を知る			<ul style="list-style-type: none"> <li>サインやそれを決めるプロセスを紹介してもよい</li> <li>話し合いによってグループの団結が強まったことを評価する</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで間違えて出した人がいたらじゃんけんで勝っても負け</li> <li>両グループとも間違えた人がいたら、「あいこ」でもう1回</li> <li>負けたり、サインを間違えたりしても責めない</li> <li>勝敗より力を合わせてできたことを大切にする</li> </ul>				
主 活 動	○活動する			<ul style="list-style-type: none"> <li>③自他のよさを見出す</li> </ul>	
	○ふり返る				
主 活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふり返りシートに感想を書く</li> <li>全員でふり返りを交流する</li> </ul>				
	○ふり返る				
配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>サインについて自分の意見がもてない子も、意見を聞くことで安心して参加できるように支援する</li> </ul>				



<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>114 なかよく楽しむ スペシャルじゃんけん城くずし</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんなで考える 「仲間づくり」⑧仲間に加わる		<b>背 景</b>	群れ合い体験の不足から自分たちでルールを工夫する力が不足している	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなるルールを話し合っ決めて決めることにより、協力して課題を解決する経験をする</li> <li>・自分たちで決めたルールにより、互いのかかわりが深まる楽しさを体験する</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中・小高		<b>実施時期</b>	4月5月 交流活動計画時	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室 ホール、体育館	<b>活動場面</b>	特別活動・交流集会
<b>準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後攻のチームが座るイス</li> <li>・得点を記録する得点板</li> <li>・ストップウォッチ</li> </ul>				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">         もっと仲良くなるためにスペシャルルールを決めてじゃんけん城くずしをやる       </div>				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ（やり方・内容）を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・このプログラムに取り組む前に集会などで「79 じゃんけん城くずし」を体験させておく</li> <li>・学級の中で仲良くするという目的だけでなく、他学級との交流や異学年間の交流を目的にして話し合うこともできる。その場合は、ルールの話し合いだけで一区切りとし、活動は別の時間に設定する</li> </ul>		⑩問題や課題解決策をみんなで考える  ⑧仲間に加わる  ・暴力NO ・パスOK
	①じゃんけん城くずしのやり方を確認する ②もっと仲良くなれるスペシャルルールを全員で話し合っ決めて				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         〈スペシャルルール例〉         <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子と女の子の両方と必ずジャンケンする</li> <li>・握手をしてからジャンケンするルールにしよう</li> <li>・「〇〇です。仲良くしてね」とあいさつしてからじゃんけんする</li> </ul> </div>				
	③スペシャルルールじゃんけん城くずしをやる ④振り返りをする				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり遊んだことのない子ども、あいさつしたり握手したりできたことについて振り返っている子を紹介する</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと仲良くなることを目標にスペシャルルールを決める</li> <li>・勝ち負けよりも、もっと仲良くなることを大事にする</li> </ul>				
	○活動する				
	○ふり返る				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペシャルルールでやってみたことについて振り返り、前より仲良くなるきっかけになったことについてまとめる</li> </ul>				
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝ち負けにこだわりが強い児童がいる場合には十分に配慮する</li> </ul>			

# 「スペシャルじゃんけん城くずし」

名前 ( )

もっと仲良くなれるスペシャルルール アイディア メモ

## ～活動をふりかえろう～

4 よくできた    3 まあまあできた    2 あまりできない    1 できなかった

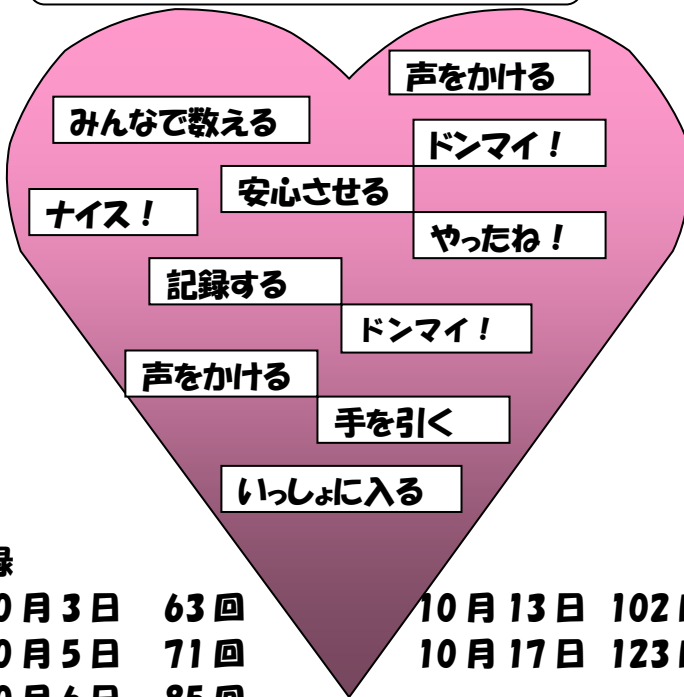
- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 1 自分からすすんで取り組みました       | 4-3-2-1 |
| 2 活動を楽しめました             | 4-3-2-1 |
| 3 協力してスペシャルルールの話し合いができた | 4-3-2-1 |
| 4 活動をして、前より仲良くなった       | 4-3-2-1 |

○ 「スペシャルじゃんけん城くずし」の感想を書こう

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>115 つながったね！みんなの心</b> (長縄跳び・解決策を話し合う)			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんな で考える ⑭あたたかい言葉をかける		<b>背景</b>	他人の気持ちを思いやる力が低 くなっているため、トラブルが 発生しやすい	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長縄跳びを長く続けるという共通の目標に向かって協力や団結することを通して、クラスの一人一人が学級づくりの主体であることを実感する</li> <li>・温かい言葉がけによって集団の凝集力が高まり、学級としての一体感をもつ</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中以上		<b>実施時期</b>	学級の団結力を高めたいとき、	
<b>所要時間</b>	30分	<b>活動場所</b>	体育館・運動場	<b>活動場面</b>	学校行事・体育(学年・学級)
<b>準備</b>	・長縄 ・言葉を書くための掲示用資料 ・ストップウォッチ				
	<b>学 習 ・ 活 動</b>		<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る(事前)				
	長縄跳びを楽しく長く続けるにはどうしたらよいか考えよう				
<b>主 活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①誰もが楽しく長縄跳びに挑戦できるように どんな言葉や態度が必要か、また、問題 となるかを出し合い、出た意見をハート形 の大きな模造紙に書く ②長縄跳びの練習をする ※8の字跳び、全員跳び等を発達段階に 応じて ※グループ毎の目標を決めて ③制限時間内に何回跳べたか数える ※少人数→大人数→学級全体で ④1回目の結果からさらに記録を出すために 作戦をたて、2回目、3回目を行う ○約束を知る ・活動中は常に温かい言葉をかける ○活動する ○振り返る		・結果ではなく過程が大切であることを説 明する ・どうすれば記録がのびるか意見を出し合 うように支援する ・個別支援級の子どもも参加できるように 配慮する ・回数を伸ばすことより協力や団結するプ ロセスが大切なことを繰り返し確認する ・グループや学級での記録更新を目指す ことを目的とし、勝敗にはこだわらないよ うに留意する ・しっとりとした場所、雰囲気、ひとり一 人が感想を書き、振り返る ・担任から「クラスとして努力したこと」を評 価する		⑩問題や課 題の解決策 をみんなで 考える  暴力NO  ⑭あたたか い言葉をか ける
<b>ふ り 返 り</b>					
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の中に温かい言葉の力がどのような成果をもたらすのかについて、子どもたちが実感できるようになるまで、短時間で継続して行っていくとよい。</li> <li>・振り返り項目:クラスの一人として参加できたか  クラスメイトのいいところを見つけることができたか</li> </ul>				

体育大会に向けて、楽しく上手な長縄跳びにしよう！  
6年3組

うれしい言葉や態度をふやそう



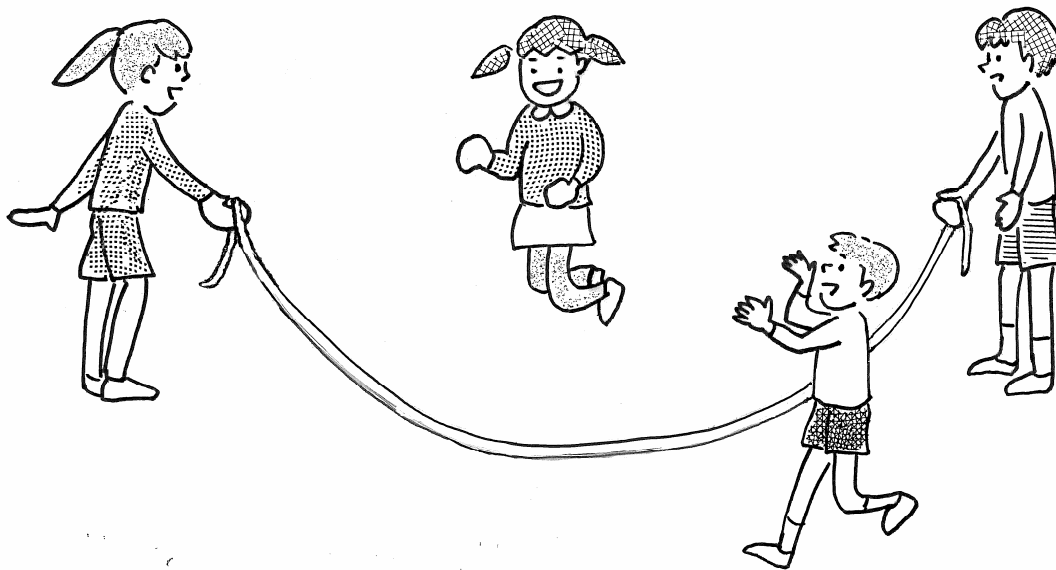
記録

10月3日	63回	10月13日	102回
10月5日	71回	10月17日	123回
10月6日	85回		
10月10日	79回		
10月12日	98回		

模造紙の中央にハート型の色模造紙を切って貼り、その中にみんなで考えた言葉や方法をカードに書いて貼っていく。

活動のたびに少しの時間のふり返しを行い、カードを増やしていったり、活動自体の方向性の確認を行ったりしていく。

連続して跳べた回数の記録は書いていくが、記録を上げることが目標ではなく、＜クラスの団結を高め、楽しい長縄跳びにすること＞が、大事な目標であることを常に意識させたい。





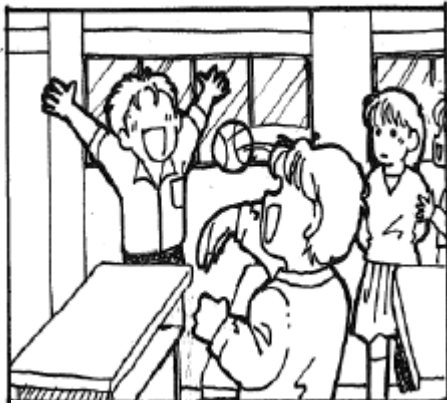


<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>116 なんて言うかな？(様々な考え方を聞いて考える)</b>			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩課題や問題の解決策をみんなで考える 「仲間づくり」⑩相手の気持ちを考えて謝る		<b>背景</b>	状況に応じた行動をとる力が乏しい子どもが増えている	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルの解決策を考える</li> <li>・正しい謝り方を身につける</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	小中～中2		<b>実施時期</b>	通年(社会規範を考えさせたいとき)	
<b>所要時間</b>	45分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	道徳・特別活動
<b>準備</b>	・ワークシート ・筆記用具				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る				
	いろいろな考え方を知り、トラブルの解決策を考えよう				
<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の目が行き届くよう、各グループの人数は4～6人程度とし、できるだけ全体を視野に入れながら活動させる</li> <li>・セリフから、よい・悪いを判断するのではなく、いろいろな考え方があることに気づく</li> <li>・Bさんの言う内容によって、Aさんや周りにいたCさんや先生の感じ方も変わること気づくようにする</li> </ul>	パス OK ⑩ 課題や問題の解決策をみんなで考える
	①ワークシートの吹き出しに感じたとおりにセリフを書く(個人) ②グループで「なんて言うか」話し合う <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いのセリフを確認する</li> <li>・グループで話し合ってBさんのセリフを書く</li> <li>・そのセリフにした理由を書く</li> </ul> ③グループで作ったセリフとその理由を発表する				
	○約束を知る				
<b>ふ り 返 り</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ全員の意見を最後まで聞く</li> <li>・素直な気持ちを受け止める</li> </ul>			暴力 NO (人を傷つける言い方をしない)	持ち出し禁止
	○活動する				
	○ふり返る				
<b>ま と め る</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返りシートに感じたことを書く</li> <li>・感想の中からいくつか全体に紹介する</li> </ul>			⑩相手の気持ちを考えて謝る	
	○まとめる				
<b>配慮事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例話は児童生徒が積極的に参加できるよう身近な話題に改編すると効果的</li> </ul> ふり返り項目:トラブルの解決策を考えることができましたか				

# なんて言うかな？ ワークシート

氏名 ( )

下の4コママンガをよく読んで、あなたがBさんなら、4コマ目にどう言うか、セリフを書いてください。人間にはいろいろな気持ちがあります。書いたセリフに正解や間違いはありません。自分がどう感じているか、感じた通りに書いてみましょう。



① AさんとBさんが、教室でボールを投げて遊んでいました。

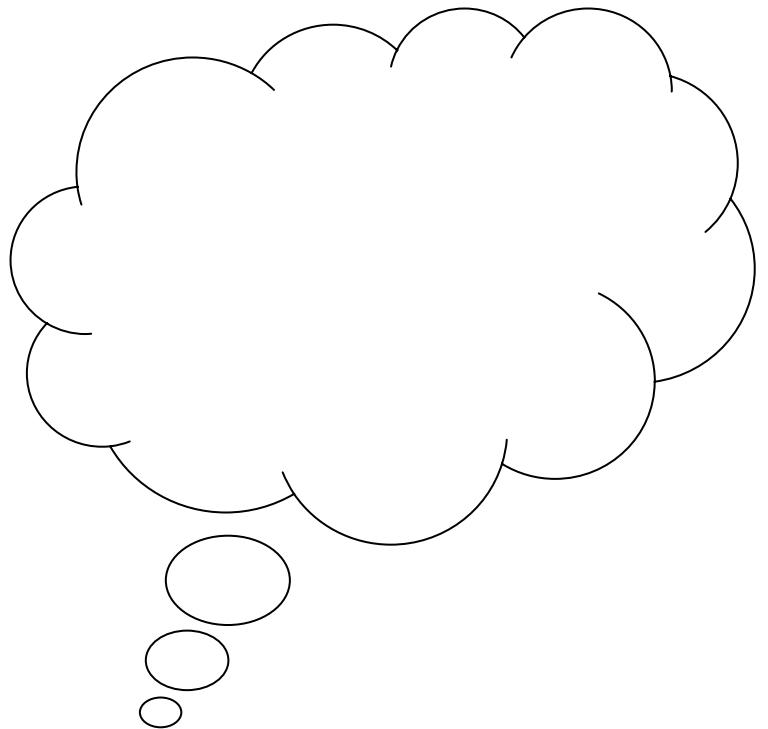


② Aさんが投げたボールがガラスに当たり、ガラスが割れました。



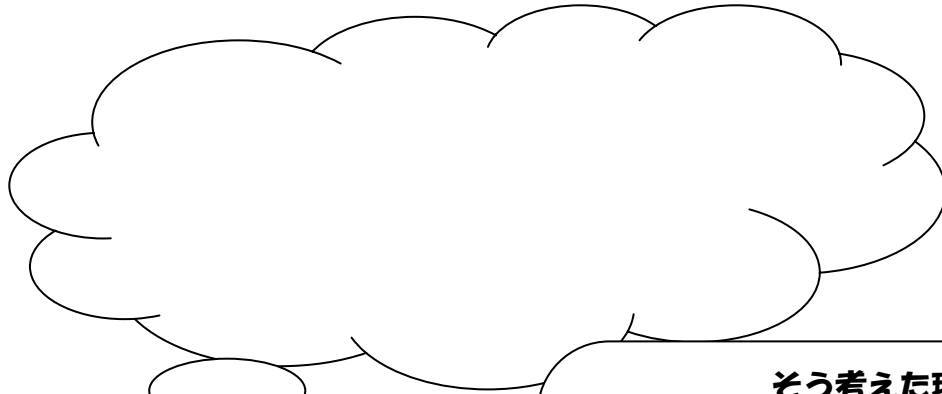
③ ガラスが割れるのを見ていたCさんが先生を呼びに行きました。

自分がBさんだったらどう考えるでしょうか



④ 先生はAさんとBさんに事情を聞いています。

★メンバーそれぞれが書いたセリフを参考にしながら、グループで相談し、Bさんのセリフ作りましょう。また、なぜそのセリフにしたかの理由も書きましょう。



そう考えた理由



**「なんていうかな？」 ふう返しシート**

月 日 ( ) 年 組 名前 ( )

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

1 友だちと協力して活動できましたか

4 3 2 1  
└───┬───┬───┬───┘

2 自分だったらどう言うか、考えを発言できましたか

4 3 2 1  
└───┬───┬───┬───┘

3 話し合いを通して、考えをまとめられましたか

4 3 2 1  
└───┬───┬───┬───┘

4 今日の活動で気がついたことや感じたこと、思ったこと、学んだことがあったら書きましょう。

.....

.....

.....

.....

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>117 どうしよう (論理的に考えてみんなで解決する)</b>			<b>基本 体験</b>	群れ合い
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんな で考える 「仲間づくり」⑯きちんと謝る		<b>背景</b>	自分の思いだけが優先し、感情的に なり、論理的に物事を考える力が希薄 な子がいる	
<b>活動のねらい</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感情的にならずに、事実を客観的に受け取り、論理的に解決する力を身につける</li> <li>解決方法をみんなで考え、客観性があることを確認し合う力を身につける</li> </ul>				
<b>対象学年</b>	中2・中3		<b>実施時期</b>	学級内の人間関係ができた頃	
<b>所要時間</b>	20分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動
<b>準備</b>	数学教科書 ノート				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>数学で学んだ論理的に物事を証明 する方法は、日常生活のトラブル解 決にも応用できることを確認し、ね らいを提示する</li> </ul>		
	論理的に物事を解決する方法を話し合おう				
<b>主 活動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>問題点「ガラスが割れてしまったこ と」</li> <li>解決すべきこと「けが人の確認」 「ガラスの片付け」「関係部署への謝 罪と弁済」</li> <li>具体的取り組みは、解決すべきこと に応じて各々考えていく</li> </ul>		暴力 NO パスOK 持ち出し 禁止  ⑩問題や 課題の解 決策をみ んなで考 える  ⑯きちん と謝る
	①解決方法を考える例を知る (例)「掃除の時間に相撲をとっていたら教室のドアに ぶつかりガラスが割れた」 ②論理的に解決方法を考える手順を確認する (ア)トラブルにおける問題点を明らかにする (イ)解決すべきことを客観的に考える (ウ)具体的取組を考える ③(ア)～(ウ)を一人一人がシートに書く ④グループシートにグループの考えをまとめる ⑤各グループがシートを示しながら説明する ⑥感想や意見を言う ⑦振り返りシートに書く				
<b>ふ り 返 り</b>	○約束を知る		<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着いた論理的に考えることが 解決につながることをまとめる</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの一人一人が考えを言う</li> <li>どんな考えも聞き合う</li> </ul>				
		○活動する			
		○ふり返る			
<b>配慮事項</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>解決方法を論理的に考える練習なので、実際にあったことを取り上げるのは避ける</li> </ul>			



タイトル (活動概要)	118 学級のテーマソングを作ろう			基本 体験	群れ合い
育てる力 関連スキル	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんなで考える ⑪互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする		背景	学級集団を大切にして、みんなで楽しもうとしない子どもが増えてきている	
活動のねらい	・学級のテーマソングをみんなでつくることを通して、学級への愛着や所属感を高める ・みんなで学級を盛り上げていこうとする気持ちをもつ				
対象学年	小低・小中・小高		実施時期	5月(学級目標設定後)	
所要時間	45分(話し合い活動) 原案は休み時間等で考える	活動場所	教室	活動場面	学級活動
準備	・歌集				
学 習 ・ 活 動			支援の観点・留意点等		ルールとねらい
導入	○活動のねらいを知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学級目標に合った○年○組だけのテーマソングをつくろう</div>				
主活動	○活動の流れ(やり方・内容)を知る ①実行委員を決める ②替え歌にするもとの曲を決める ③入れたい歌詞を実行委員がアンケート調査する ④実行委員が原案を作成する ⑤原案をもとに、歌詞について話し合う ・学級目標にあっているか ・みんなの希望が取り入れられているか ⑥歌ってみて確かめる ⑦朝の会で歌うなど、歌う時を決める  ○約束を知る ・学級の目標にあった歌詞を一人一人が考え、学級を盛りあげよう		・学級の実態によって、係で行うか実行委員を発足するかはちがう  ・学級目標に合ったものにしていくよう、助言する  ・作るだけではなく、日常的にみんなで歌うことで学級の雰囲気によりよくなるので、テーマソングが定着するように歌うコーナーを設定する		⑪互いの感情や意見の違いを認めながら調整しようとする  ⑩問題や課題の解決策をみんなで考える  パスOK
ふり返り	○活動する  ○ふり返る ・歌ってみて、どのような気持ちになったか、発表する				持ち出し禁止
配慮事項	・4月当初から、様々な歌にふれておくようにしておくことで、子どものテーマソング作りに対する意識を高める ・歌詞の内容を、学級目標を具体化したものにするすることで、学級への気持ちが高まっていく				

## テーマソングをつくろう アンケート

名前（ ）

替え歌にしたいもとの曲

テーマソングに入れたい歌詞

## テーマソングをつくろう ～活動をふりかえろう～

名前（ ）

4 よくできた 3 まあまあできた 2 あまりできない 1 できなかった

- |                               |         |
|-------------------------------|---------|
| 1 話合いに進んで参加しました               | 4-3-2-1 |
| 2 活動を楽しめました                   | 4-3-2-1 |
| 3 学級を盛り上げるために曲や歌詞を考えることができました | 4-3-2-1 |
| 4 テーマソングを進んで歌いました             | 4-3-2-1 |

○「テーマソングをつくろう」の感想を書こう

<b>タイトル</b> (活動概要)	<b>119 クラスをパワーアップやれば出来る!</b> (考えを整理する)			<b>基本 体験</b>	がまん
<b>育てる力 関連スキル</b>	「集団づくり」⑩問題や課題の解決策をみんな で考える ⑪互いの感情や意見の違いを認 めながら調整しようとする 「自分づくり」①自分の意見をもつ		<b>背 景</b>	群れ合い体験の不足から、集団で取 り組む力が弱い。	
<b>活動のねらい</b>	・目標を明確化・具体化・序列化し、合意形成を図ることで、グループやクラスの成員間に 一体感とやる気を起こす ・子どもの中にある課題意識を掘り起こし、今できることを明らかにして、学級集団の凝集 性を高める				
<b>対象学年</b>	小中 ～ 高校		<b>実施時期</b>	行事の前	
<b>所要時間</b>	45分～50分	<b>活動場所</b>	教室	<b>活動場面</b>	特別活動・総合
<b>準 備</b>	・付箋紙 ・ワークシート ・フェルトペン				
<b>学 習 ・ 活 動</b>			<b>支援の観点・留意点等</b>		<b>ルールとねらい</b>
<b>導 入</b>	○活動のねらいを知る		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> クラス課題や係り活動、当面の行事(学級目標、合唱コンクール、スポーツフェス ティバル等)を成功させるための方法を話し合おう </div>		①自分の意 見をもつ
	<b>主 活 動</b>	○活動の流れ(やり方・内容)を知る			
・目標達成のために、やらなければならないと考えてい ることを付箋紙に書く ・グループで、全員が書いた付箋紙を出し合う ・囲みの中で必要度の高い順に付箋紙を並べ替える ・小見出しに、重要度の高い順に番号をつける ・グループの画用紙に、皆にアピールするようなタイトル をつける ・各グループからの説明を聞く(全部のグループのワーク シートを黒板に貼りだす) ・質問や、意見を述べ合う(必要に応じて、クラス全員の 合意形成や、グループの分担のための話し合いをす る)					
○約束を知る					
<b>ふ り 返 り</b>	・互いが書いた付箋紙を否定しない。				
	○活動する ○ふり返る ・ふり返りシートを書く				
<b>配慮事項</b>	・各自の考えを温かく受け止める雰囲気を作れるように、始まる前にブレイク スターティング等を用いるとよい ・同じやり方の「1 自分をパワーアップ」を実施しておく、実施しやすい。				



クラスをパワーアップ! やればできる!

行動目録表

三大目標 1  
2  
3

分野別→ ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

必 1

要 2

度 3

↓ 4

5

具体的な計画案

目標1	目標2	目標3

ふり返りをしよう

☆今日の活動は、

4	よくできた	3	まあまあ	2	あまりできなかった	1	できなかった
---	-------	---	------	---	-----------	---	--------

1 楽しく活動できた 4 - 3 - 2 - 1

2 自分のやるべきことが分かった 4 - 3 - 2 - 1

3 目標が分かり自信をもつことができた 4 - 3 - 2 - 1

☆活動をして感じたことを書こう

## アイスフレーキング集

### じゃんけんゲームをしよう

育てたいスキル：⑧仲間に誘う

☆仲良くじゃんけんゲームをして、緊張感をほぐす

#### 後出しじゃんけん



○活動の流れ

- ・2人組になり、じゃんけんをして勝ち負けを決める
- ・勝った人が先に出す人となり、後の人は先に出した人に負けるじゃんけんを出す  
ジャンケン ポイ (先に出す人) ポイ (後に出す人) のリズムで行う
- ・やり方が分かったら、何回も続けて行う  
ジャンケン ポイ ポイ ジャンケン ポイ ポイ ジャンケン ポイ ポイ
- ・右手と左手を交互に使って行い、一通り終わったら交代する

※ 負けるジャンケン、勝つジャンケン、あいこになるジャンケン、たして5になるジャンケン (この場合、3本指が必要) 等の様々なバリエーションができる

#### あいこけん



○活動の流れ

- ・部屋の中を自由に歩きじゃんけんの相手を探す
- ・ジャンケン ポン で相手と同じ (あいこ) を3回出せたら「ナイスフレンド!」と言ってハイタッチをして別れる (3回あいこができるまで同じ人と続ける)
- ・時間内に何人の人とじゃんけんができたかを競う

※じゃんけんは、グー、チョキ、パーだけでなく、指1本から指5本までにしてもよい。また、じゃんけんの代わりに、ジェスチャーを用いても面白い

- 例) グー (頭を抱えて座る) チョキ (両手を頭の上で交叉して足を前後に開く)  
パー (両手を頭の上で開き、足も開く)

### Simon says (命令ゲーム)

育てたいスキル: ⑮ しっかり話をきく

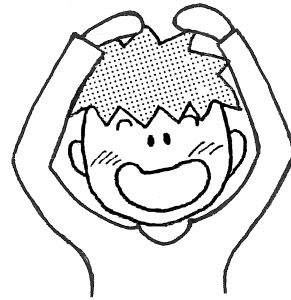
☆話をよく聞いて指示された行動をとるゲーム

○活動の内容

- ・教師が話の冒頭に「Simon says . . . .」とつけたら、手を指示された場所に置くが、「Simon says」がつかなかったら、命令に従わないことを説明する
- ・教師が、「Simon says ” On your head”  
「Simon says ” On your sholder”  
「Simon says ” On your knee” と矢次早に指示を出すが、途中で、Simon says をつけない指示をはさむ
- ・最初は全員が立って行い間違えたら座って行う
- ・最後まで指示を守った人が Winner!

※小学生英語のアクティビティ

として実施可能であるが、日本語で行う場合は、冒頭に「命令 . . . .」をつけた場合のみ指示に従うこととする



### バースデイ・チェーン

育てたいスキル: ⑧ 仲間に加わる

☆人と言葉を使わないでコミュニケーションを図ることで、進んで人とかかわる雰囲気ができあがる

○活動の内容

- ・起点を決め、メンバー全員が1月1日を始めとして誕生日順に輪になって並ぶ
- ・活動の間は言葉を発してはいけない
- ・言葉以外の方法はOK
- ・全員が並んだら、起点から順番に自分の誕生日を述べていく
- ・誕生日が同じだったり、続いていたり、意外な発見がある

※誕生日順以外には、電話番号順とか、面識のない間柄であれば、名前の50音順等、様々な順番を使うことができる

※並んだ順番を生かしてグループ分けをしたり、次のプログラム展開につなげたりするとよい

わらべうたあそび

**ちょっばー**

2人組で、または教師対子ども全員で、じゃんけん遊びで緊張をほぐす

♪ちょっばーちょっばー

(両手) ちょき ばー ちょき ばー

ちょーちょっばー

ちょき ちょき ばー

♪グーすけひらいて

ぐー ばー

ちょーちょっばー

ちょきちょきばー

おほんに

おはしに

左手パーを上に向けて、右手でちょき

♪ほたもち

両手グーで胸の前で回して

ほい!

じゃんけんをする

※足じゃんけんでやってもよい

**なべなべそこめけ**

♪なべなべ

向かい合ってつないだ手をゆらす

♪そこめけ

手をつないだまま、二人で外向きに

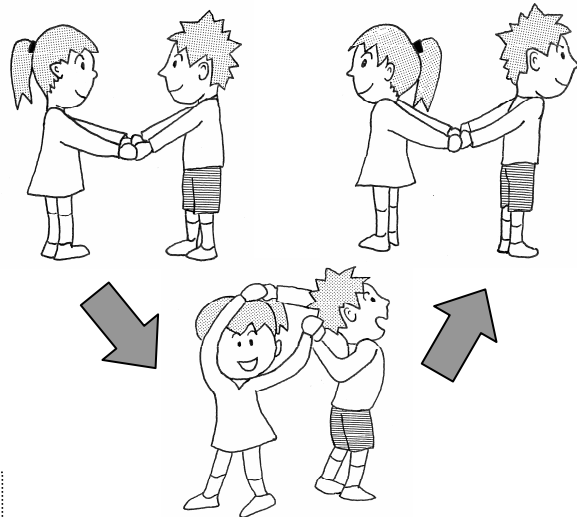
♪そこがめけたら

つないだ手をゆらす

♪かえりましょう

手をつないだまま元にもどる

※ 2人組→4人組→8人組→全員で



**おちゃらかじゃんけん**

歌に合わせてじゃんけんして、緊張をほぐす

♪セッセッセ～の

(両手をつないで、3回上下に振る) (両手をつないだまま交差させ、3回上下に振る)

♪ヨイヨイヨイ

♪おちゃらか、おちゃらか、おちゃらか

(右手で自分の左掌を、その後相手の左掌を叩くのを3回繰り返す) (じゃんけんをする)  
じゃんけんの勝敗によって、それぞれ次の動作をする

♪ホイッ!

♪おちゃらか勝ったよ (両手をあげてバンザイ)

♪おちゃらか負けたよ (両手を腰に当てうつむく)

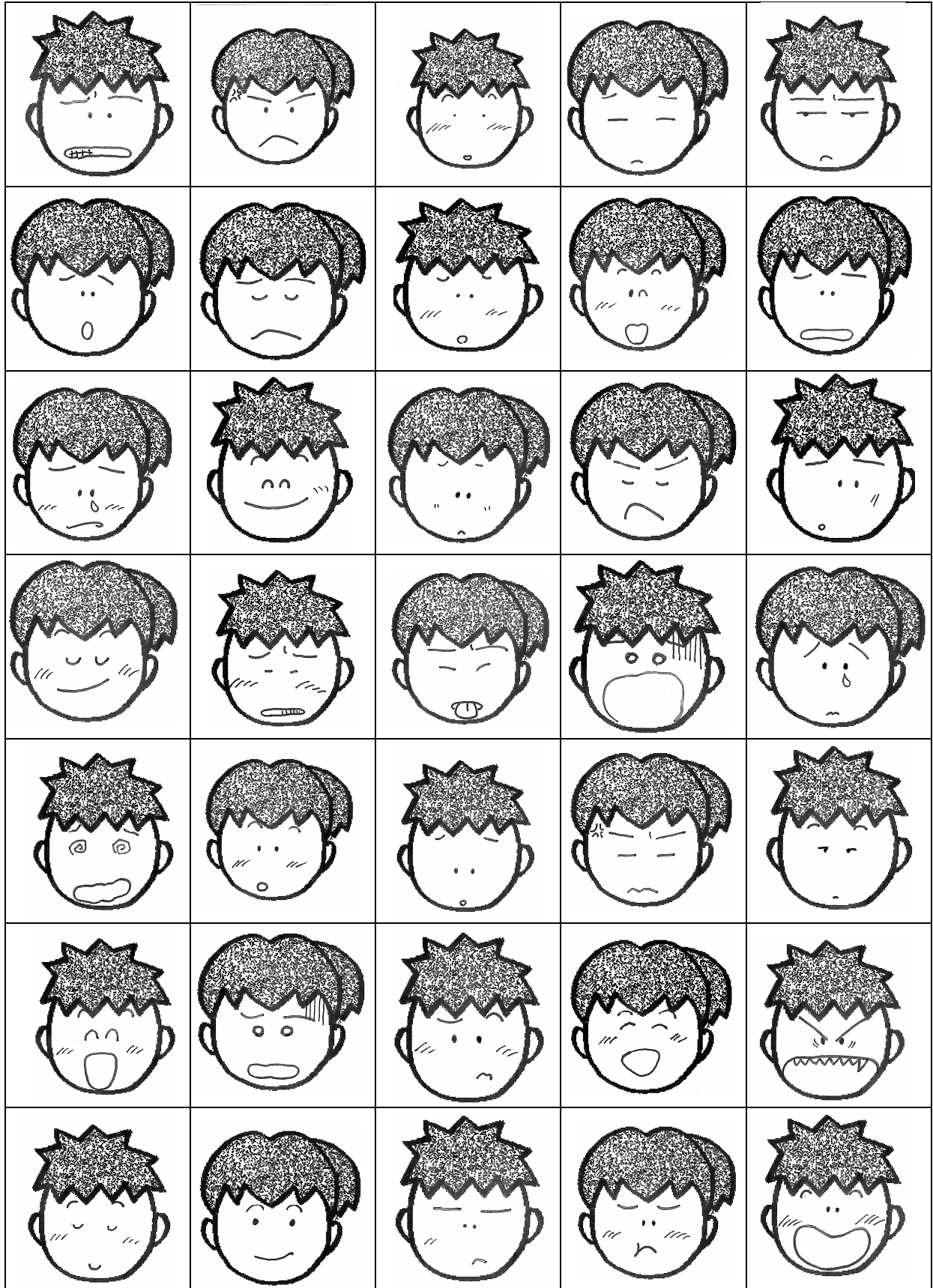
♪おちゃらかあいこで (両手を腰に当てて)

これを、テンポよく繰り返す

おちゃらかホイッ!

(じゃんけんする)

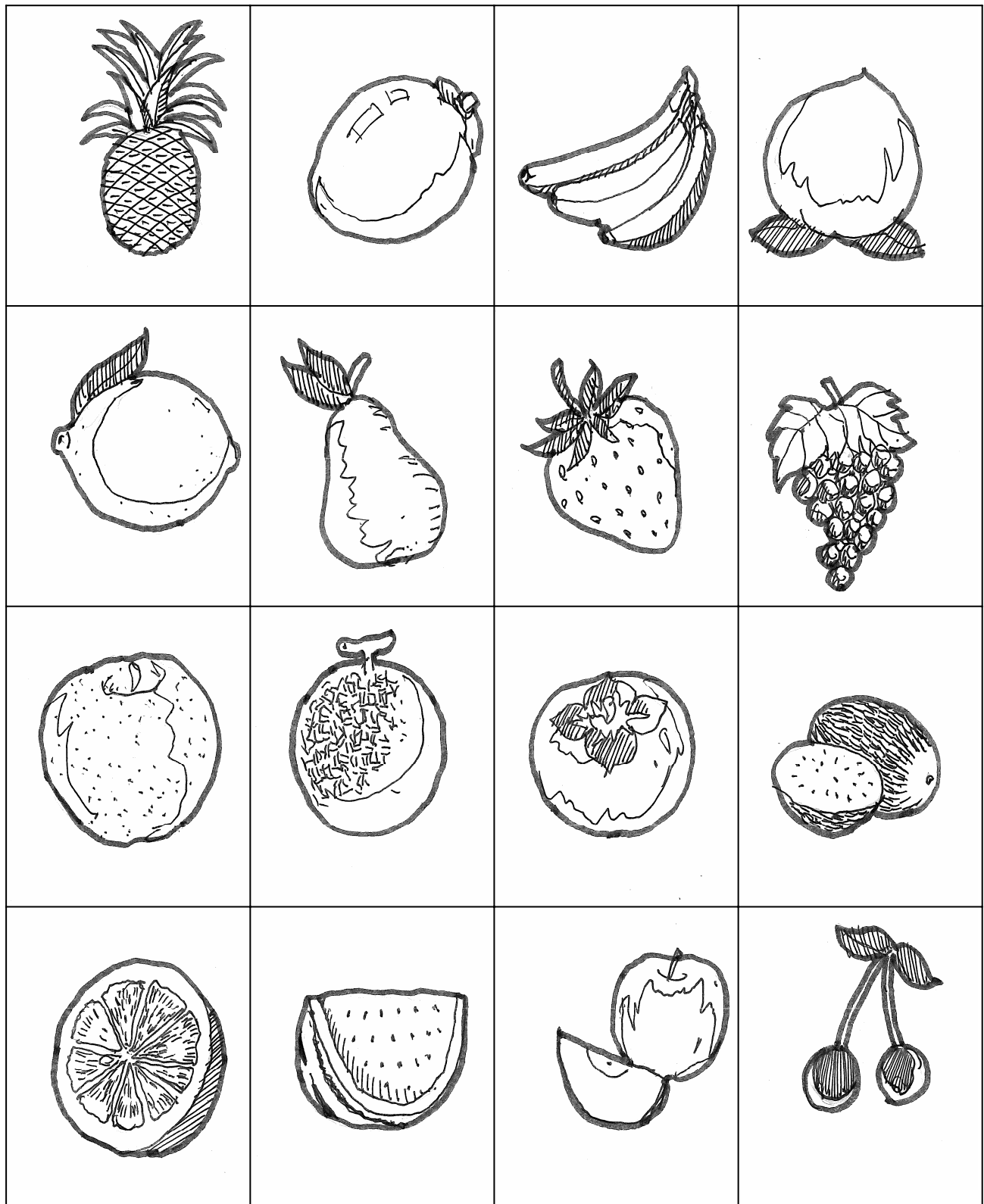
# 表情シート



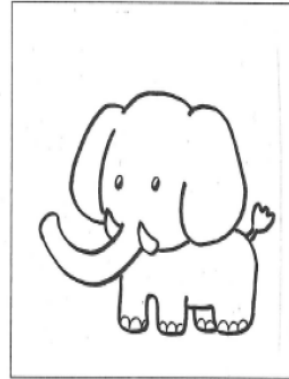
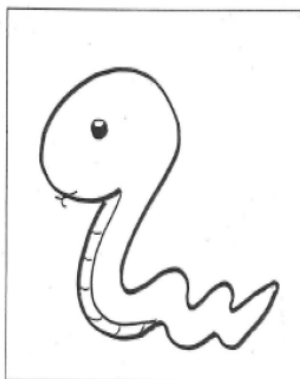
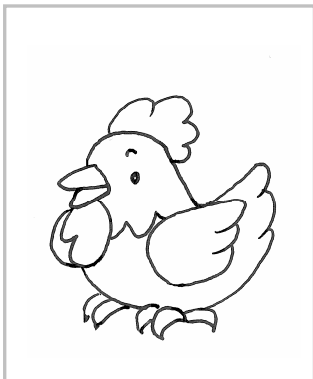
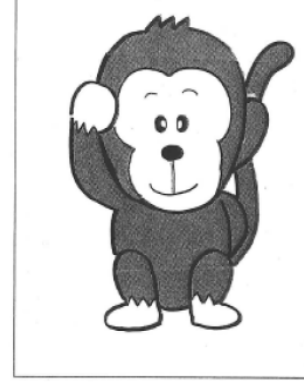
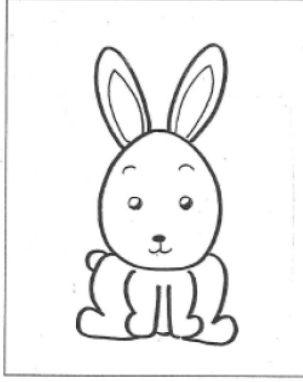
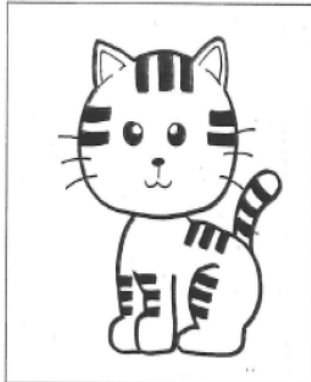
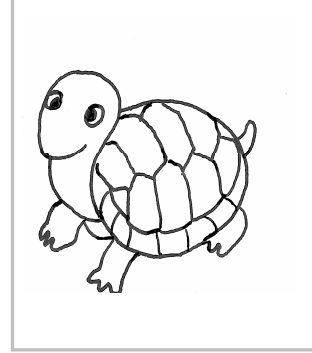
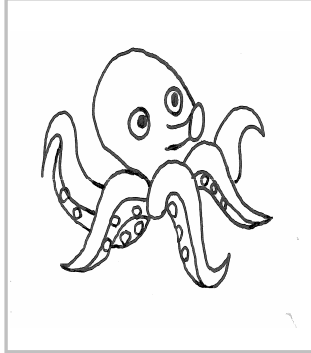
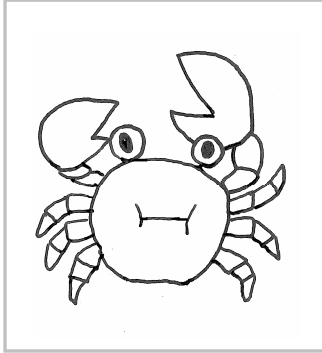
# 職業カード

<p>carpenter</p> 	<p>police officer</p> 	<p>soccer player</p> 	<p>kindergarten teacher</p> 
<p>astronaut</p> 	<p>staff of bank</p> 	<p>nurse</p> 	<p>farmer</p> 
<p>scientist</p> 	<p>golfer</p> 	<p>florist</p> 	<p>doctor</p> 
<p>baseball player</p> 	<p>pilot</p> 	<p>train driver</p> 	<p>teacher</p> 

# 果物カード



動物カード





「

# ふいかえいシート

月 日 ( )

年 組 なまえ

1. この授業は、楽しくできましたか。

よくできた

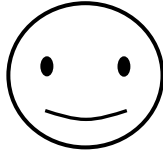
まあまあできた

あまりできなかった

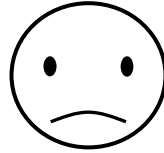
まったくできなかった



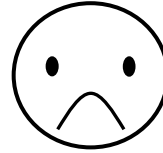
( )



( )



( )



( )

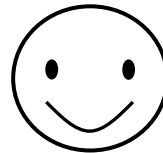
2. 気持ちよく活動や話ができましたか。

よくできた

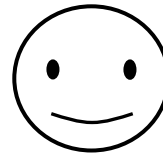
まあまあできた

あまりできなかった

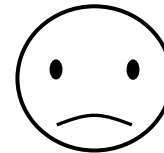
まったくできなかった



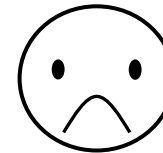
( )



( )



( )



( )

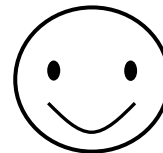
3. 友だちや自分のことではじめて気づいたことや分かったことがありましたか。

ぜんぜんなかった

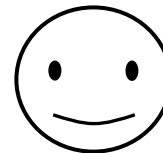
あまりなかった

まあまああった

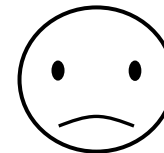
たくさんあった



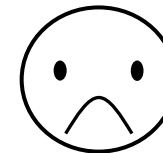
( )



( )



( )



( )

4. この授業をして、気づいたこと・感じたことを書きましょう。

# 「ふり返りシート」

年 組 名前 ( )

1 今日の活動は、楽しくできましたか。(番号に○をつける)

4	3	2	1
└───┬───┬───┬───┘			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

2 今日の活動は、男女関係なく協力してできましたか。

4	3	2	1
└───┬───┬───┬───┘			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

3 今日の活動では、  
ができましたか。

4	3	2	1
└───┬───┬───┬───┘			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

4 今日の活動では、  
ができましたか。

4	3	2	1
└───┬───┬───┬───┘			
よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

5 今日の活動で、気がついたことや感じたこと、学んだことがあったら書きましょう。

---

---

---

---

---

---

---

---

## 参考・引用文献

- 相川充・小林正幸編「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる小学校」(図書文化、1999年)  
相川充・佐藤正二編「実践ソーシャルスキル教育 中学校」(図書文化 2006年)  
犬塚文雄「教育カウンセリング」(福音社 2000年)  
犬塚文雄「社会性と個性を育てる毎日の生徒指導」(図書文化 2006年)  
伊藤博・河津雄介編「感性開発ゲーム」(明治図書 1982年)  
伊藤博「ニュー・カウンセリング」(誠心書房 1983年)  
遠藤辰雄・井上祥治・蘭千壽 「セルフ・エスティームの心理学—// 自己価値の探求」(ナカニシヤ出版 1992年)  
大阪府教育委員会「こどもエンパワメント支援指導事例集」(2005年)  
大竹直子「教室で保健室で相談室ですぐに使える!とじ込み式自己表現ワークシート」(図書文化、2005年)  
岡田弘ほか「エンカウンターで学校が変わる 小学校編」(図書文化 1996年)  
神奈川県教育委員会「豊かな人間関係プログラム」(2005年)  
神奈川県警察本部生活安全総務課「防犯のポイント」(県警本部ホームページ 2007年)  
神奈川県警察本部生活安全総務課「インターネットと掲示板での誹謗中傷事案対応マニュアル」(2006年)  
河村茂雄「グループ体験による タイプ別学級編成プログラム 小学校編」(図書文化、2001年)  
協創開発チーム(石毛 土井 由井 三上 鈴木 三澤)「ハートフル」2008年  
久保昌子他「健康教育イラストカット CD-ROM」「健康教育イラスト集」(東山書房、2007年)  
國分康孝・國分久子編「エンカウンターでイキイキわくわく保健学習 小学校」(図書文化 2004年)  
國分康孝・國分久子編「エンカウンターでイキイキわくわく保健学習 小学校」(図書文化 2007年)  
國分康孝(監修); 岡田弘(編集)「エンカウンターで学級が変わる(小学校編)」(図書文化、1996年)  
國分康孝監修「エンカウンターで学級が変わるショートエクササイズ集」(図書文化 2000年)  
國分康孝・國分久子編「構成的グループエンカウンター事典」(図書文化 2006年)  
國分康孝監修 押切久遠著「非行予防エクササイズ」(図書文化 2001年)  
小林芳文「ムーブメント教育・療法による発達支援ステップガイド MEPA-R 実践プログラム」(日本文化科学社 2006年)  
小宮信夫「犯罪はこの場で起こる」(光文社 2005年)  
埼玉県教育心理・教育相談研究会「社会性を育むためのスキル教育」(2005年)  
斎藤孝「子どもはなぜ切れるのか」(筑摩書房 1999年)  
桜井茂男・桜井登世子「児童用領域別効力感尺度作成の試み」(奈良教育大学教育研究所紀要 1991年)  
佐藤正二・相川充「実践ソーシャルスキル教育 小学校」(図書文化 2005年)  
小学校特別活動研究会編 教育技術MOOK「図解 みんなが楽しむ ゲーム・集会活動」(小学館、2007年)  
湘南グループ・アプローチ研究会「いじめ防止推進事業 Social Skill Education プログラムエクササイズ」(2006年)  
下山晴彦「認知行動療法ワーク」(神奈川県学校心理士会研修会資料 2006年)  
園田雅代、中釜洋子著「子どものためのアサーション(グループワーク)ー自分も相手も大切に学ぶ学級づくりー」(日本精神技術研究所 2000年)  
すがのたいぞう 「こころがものすごくラクになる考え方」(毎日新聞社 2003年)  
スタラード、P. 下山晴彦(監訳)「子どもと若者のための認知行動療法ワークブック」(金剛出版、2006年)  
高橋和子「からだー気づきの学びの人間学ー」(晃洋書房、2004年)  
楽しい授業編集委員会編「教室の定番ゲーム」(仮説社、1995年)  
楽しい授業編集委員会編 「教室の定番ゲーム2」(仮説社 2001年)  
戸ヶ崎泰子・小田美穂子・嶋田洋徳「児童用一般性セルフ・エフィカシー尺度改訂版の作成と信頼性、妥当性の検討」学会第26回大会発表論文集 2000年)  
日本造形教育研究会 「えのぐのぼうけん 図画工作3・4上」(開隆堂、2007年)  
福岡県教育センター「自尊感情を高める少人数授業の展開」(2004年)  
ポール・スタラード、下山晴彦(監訳)「子どもと若者のための認知行動療法ワークブック」(金剛出版、2006年)  
本田恵子「きれやすい子の理解と対応」(ほんの森出版、2002年)  
丸山正ほか、東京都レクリエーション連盟「小学校の室内ゲーム」(成美堂出版 1983年)  
皆川興栄「ライフスキルの基礎基本」(明治図書 2005年)  
皆川興栄「総合学習で学ぶライフスキルトレーニング」(明治図書 1999年)

M・M・サルト 宇野和美(訳) カルメン・オンドサバル+新田啓子(監修)「読書へのアニメーション75の作戦」(柏書房、2001年)  
松田文子・三宅幹子「大学生による学校現場でのピア・サポート訓練の取り組み—児童・生徒の自己効力感・自尊感情・社会性における効果—」(福山大学人間文化学部紀要 2006年)  
水谷拓也・大漁博子「児童・生徒の包括的社会的スキル尺度の作成—自分づくり及び仲間・集団づくりの視点から」  
(日本学校心理学会発表論文集 2008年)  
水谷拓也・岡田守弘「集団的社会的スキル訓練が児童および学校集団に及ぼす効果の検討」(横浜国大教育人間科学部紀要 2007年)  
村山正治・増井武士他「フォーカシングの理論と実際」(福村出版 1984年)  
諸富祥彦・尾高正造・土田雄一「『心のノート』とエンカウンターで進める道徳」(明治図書 2004年)  
諸富祥彦他「エンカウンターで学級づくりスタートダッシュ 小学校編」(図書文化 2001年)  
八並光俊・國分康孝編集「新生徒指導ガイド 開発・予防・解決的な教育モデルによる発達援助」(図書文化、2008年)  
大和市教育研究所「グループサポートプログラム」(2004年)  
横浜市教育委員会「防犯チェックシート」(2006年)  
横浜市教育委員会「子どもたちの豊かな成長を支える新たな児童・生徒指導を展望して」(2002年)  
横浜市教育委員会「児童・生徒指導上の諸問題緊急対策プロジェクト報告書」(2005年)  
横浜市教育委員会「自分らしく自分自身になれ～生きる力をはぐくむ心の健康教育プログラム」(2001年)  
横浜市教育委員会「小学校教育課程編成の指針 特別活動」(2001年)  
横浜市教育委員会「不登校の理解と指導のために」(2000年)  
「表情ポスター・カード」(クリエーションアカデミー、2003年)  
横浜市学校GWT研究会「協力すれば何かが変わる—続・学校グループワーク・トレーニング」(遊戯社 1994年)  
横浜国立大学大学院教育学研究科「教育臨床支援実習A」授業資料  
吉田新一郎「会議の技法」中央公論新社(2000年)  
柳原 光 「クリエイティブO. D. Vol II」プレスタイム(1994年)  
横浜市教育委員会「子どもの社会的スキル横浜プログラム」(2007年)  
横浜市教育委員会「子どもの社会的スキル横浜プログラム増補改訂版」(2009年)  
横浜市教育委員会「子どもの社会的スキル横浜プログラム 個から育てる集団づくり51」(2010年)

子どもの社会的スキル横浜プログラム  
指導プログラム集 三訂版

発行年月 平成24年3月  
監修 岡田守弘 犬塚文雄 芳川玲子  
編集・発行 横浜市教育委員会事務局